6. 陸上昆虫類等調査

6.　陸上昆虫類等調査

6.1　陸上昆虫類等調査結果の概要

(1)　確認種

今回とりまとめを行った陸上昆虫類等調査実施 19 河川（うち指定区間のみ：0 河川）で確認された陸上昆虫類等は、19 目 341 科 5,237 種でした。確認種数が最も多かった河川は、北海道地方の天塩川で 1,699 種、次いで関東地方の利根川本川で 1,472 種、関東地方の江戸川（指定区間含む）で 1,271 種でした。

(2)　重要種[注 1)]

今回とりまとめを行った 19 河川で確認された重要種は、環境省版レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類に指定されているヒヌマイトトンボ、シルビアシジミ、キイロホソゴミムシ等、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているタガメ、ギフチョウ、スナハラゴミムシ、トダセスジゲンゴロウ、ニッポンハナダカバチ等、10 目 55 科 116 種でした。

重要種の確認種数が最も多かった河川は、東北地方の高瀬川で 28 種、次いで関東地方の鬼怒川で 26 種、関東地方の利根川本川で 25 種でした。

注 1）重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

・「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
・「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省レッドリスト 2020：令和 2 年 3 月 27 日報道発表資料）

絶滅：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅：飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠＡ類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠＢ類：ⅠＡ類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足：評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(3)　国外外来種[注 2)]

1)　国外外来種の確認状況

今回とりまとめを行った 19 河川で確認された国外外来種は、9 目 44 科 82 種でした。国外外来種の確認種数が最も多かった河川は、関東地方の江戸川（指定区間含む）で 39 種、次いで関東地方の利根川本川で 27 種、中国地方の高津川で 23 種でした。

2)　特定外来生物等の確認状況

上記の国外外来種のうち、外来生物法が定める特定外来生物は、アカボシゴマダラ、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、セイヨウオオマルハナバチの 4 種、生態系被害防止外来種リスト掲載種として、重点対策外来種は、アカボシゴマダラの 1 種、その他の総合対策外来種は、クビアカツヤカミキリの 1 種、また、産業管理外来種は、セイヨウオオマルハナバチの 1 種でした。

注 2) 国外外来種の選定基準について

1) 外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動等を介して意図的・非意図的に導入された種をいいます。外来種のうち、日本国外から持ち込まれた種を「国外外来種」といい、日本国内の種であっても本来その生物が生息していない地域に、他の場所から持ち込まれた種は「国内外来種」といいます。本資料における国外外来種とは、おおむね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物すべてを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。

2) 特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(2005 年 6 月 1 日施行)』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定されています。

3) 生態系被害防止外来種リスト（我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト）とは、侵略性が高く、我が国の生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものを生態的特性及び我が国に導入される社会的状況も踏まえて選定した外来種のリストです。特定外来生物以外は外来生物法に基づく規制の対象にはなりませんが、今後の外来種対策の基礎的情報として、様々な主体へ適切な行動を呼びかけるものです。各主体における対策の検討・実施に資するよう、対策の方向性から以下のカテゴリに分類します。

(i)定着を予防する外来種（定着予防外来種）

定着予防外来種は、「国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種」として選定されています。以下の 2 つに細分化されています。

- 侵入予防外来種
  国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
- その他の定着予防外来種
  侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。

(ii)総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）

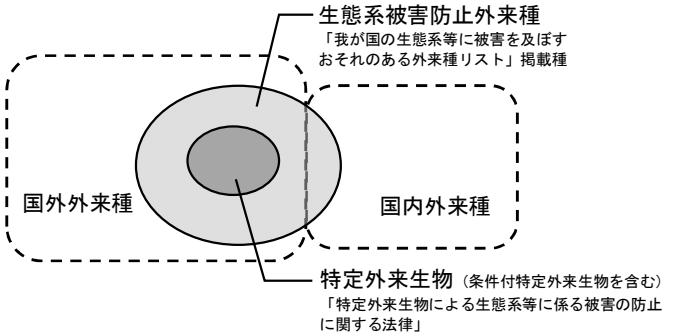
総合対策外来種は、「国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種」として選定されています。以下の 3 つに細分化されています。

- 緊急対策外来種
  「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準*1 として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
- 重点対策外来種
  「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準*1 として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
- その他の総合対策外来種

(iii)適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

産業管理外来種は、「産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種」として選定されています。

*1 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方
（被害の深刻度に関する基準）
①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす（対策の実効性、実行可能性）
⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る



（参考）国外外来種、生態系被害防止外来種、特定外来生物の関係

目別確認状況一覧（陸上昆虫類等）

綱和名	目和名	北海道				東北		関東																北陸						中部				中国				九州		5巡目（今回調査）合計
		天塩川		沙流川		高瀬川		（利根川水系）利根川		（利根川水系）常陸利根川		（利根川水系）中川・綾瀬川		（利根川水系）江戸川		（利根川水系）渡良瀬川		（利根川水系）鬼怒川		（利根川水系）小貝川		（利根川水系）烏川・神流川		荒川		手取川		梯川		豊川		矢作川		（斐伊川水系）神戸川		高津川		肝属川		
		4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	
クモ綱	クモ目	121	109	71	79	144	126	86	158	56	106	65	72	74	157	91	110	97	125	97	108	71	114	62	98	81	97	32	52	76	102	84	74	－	70	50	133	76	101	428
昆虫綱	カゲロウ目	12	7	6	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	7	2	5	2	2	2	4	3	2	3	6	0	2	3	2	4	0	－	4	3	5	4	12	24
	トンボ目	22	18	13	20	38	24	26	25	19	22	14	15	21	23	21	26	32	39	30	23	27	24	34	29	19	19	27	10	35	12	38	12	－	31	43	33	24	25	82
	ゴキブリ目	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	2	0	2	2	1	2	2	2	2	2	1	1	0	1	1	1	1	2	3	3	1	－	1	1	1	4	8	11
	カマキリ目	0	0	0	0	1	2	4	4	4	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	2	4	4	3	3	0	3	4	3	3	－	2	4	3	5	6	7
	ハサミムシ目	5	5	3	5	5	2	6	9	6	6	4	4	6	6	5	4	5	6	3	4	3	5	4	4	4	4	4	4	3	4	4	5	－	3	3	5	2	6	11
	カワゲラ目	5	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2	1	1	0	1	0	2	－	2	0	3	2	4	15
	バッタ目	21	28	16	27	30	25	60	54	33	46	33	38	50	51	48	43	49	46	45	41	40	42	46	55	53	52	44	37	47	47	53	46	－	40	47	51	54	54	113
	ナナフシ目	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3	1	2	1	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0	－	0	0	1	3	0	3
	カメムシ目	159	148	67	91	146	146	156	184	115	121	92	101	99	201	147	165	142	132	116	123	120	132	116	102	104	163	79	98	111	130	122	113	－	140	108	177	133	184	575
	ヘビトンボ目	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	－	0	1	0	1	1	4
	ラクダムシ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	0	0	0	0	0	1
	アミメカゲロウ目	6	3	2	2	0	5	0	4	1	1	0	1	0	2	4	6	3	1	1	1	5	4	1	2	4	0	0	0	1	2	1	1	－	2	0	0	4	3	14
	シリアゲムシ目	1	1	0	0	2	3	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	0	1	1	1	1	－	1	1	1	1	1	4
	トビケラ目	51	36	21	15	10	14	5	11	1	3	1	2	6	6	1	3	2	10	2	8	3	13	5	12	10	19	1	10	4	9	5	10	－	11	5	23	5	28	90
	チョウ目	603	487	327	136	183	367	249	205	134	115	87	117	143	184	123	69	136	138	149	169	131	100	140	196	233	111	58	45	74	69	66	56	－	61	247	114	288	137	1,060
	ハエ目	119	135	45	96	158	83	56	110	37	91	35	34	38	54	36	49	36	63	36	61	38	68	44	34	57	43	14	17	17	43	20	56	－	47	23	78	32	98	435
	コウチュウ目	471	569	230	337	444	362	613	586	434	425	220	259	342	456	551	352	431	333	414	301	342	352	311	417	266	312	93	158	225	429	235	288	－	250	267	425	255	439	1,883
	ハチ目	100	147	48	128	82	96	83	118	48	104	48	52	61	125	65	102	65	87	65	73	49	74	54	78	78	89	38	42	55	80	68	62	－	68	65	98	48	112	477
水系別確認種数		1,698	1,699	849	937	1,244	1,255	1,348	1,472	891	1,046	602	701	845	1,271	1,104	943	1,008	991	969	921	839	942	826	1,036	922	923	396	477	658	940	707	730	－	733	868	1,151	941	1,219	
5巡目(今回調査)地方別確認種数					2,063		1,255																2,857						1,554				1,204				1,404		1,219	5,237

注)各河川における４巡目調査の種数は、毎年公表されている「河川水辺の国勢調査結果の概要(河川版)(生物調査編)」(国土交通省河川局環境課)から引用した。

重要種一覧（陸上昆虫類等）

No.	目和名	科和名	種和名	文化財保護法	種の保存法	環境省版レッドリスト	北海道		東北	関東								北陸			中部		中国		九州	確認河川数
							天塩川	沙流川	高瀬川	（利根川水系）利根川	（利根川水系）常陸利根川	（利根川水系）中川・綾瀬川	（利根川水系）江戸川	（利根川水系）渡良瀬川	（利根川水系）鬼怒川	（利根川水系）小貝川	（利根川水系）烏川・神流川	荒川	手取川	梯川	登川	矢作川	（斐伊川水系）神戸川	高津川	肝属川	
1	クモ目	ジグモ科	ワスレナグモ			準絶滅危惧(NT)			●				●							●						3
2		トタテグモ科	キノボリトタテグモ			準絶滅危惧(NT)																		●	●	2
3			キシノウエトタテグモ			準絶滅危惧(NT)			●			●	●				●								●	5
4		コモリグモ科	イソコモリグモ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	●		●									●	●				●			5
5	トンボ目	イトトンボ科	ヒヌマイトトンボ			絶滅危惧IB類(EN)				●		●	●													3
6			キートンイトトンボ			準絶滅危惧(NT)												●					●			2
7		モノサシトンボ科	アンバイトンボ			準絶滅危惧(NT)																		●		1
8		カワトンボ科	アオハダトンボ			準絶滅危惧(NT)								●	●		●						●			4
9		ヤンマ科	冬アカヨシヤンマ			準絶滅危惧(NT)				●																1
10			アオヤンマ			準絶滅危惧(NT)			●		●		●													3
11			マダラヤンマ			準絶滅危惧(NT)		●	●																	2
12		サナエトンボ科	キイロサナエ			準絶滅危惧(NT)																			●	1
13			ナゴヤサナエ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)				●	●		●		●											4
14			タベサナエ			準絶滅危惧(NT)																	●	●		2
15		エゾトンボ科	キイロヤマトンボ			準絶滅危惧(NT)																	●			1
16			ハネビロエゾトンボ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)									●											1
17		トンボ科	オオキトンボ			絶滅危惧IB類(EN)			●																	1
18	カマキリ目	カマキリ科	ウスバカマキリ			情報不足(DD)			●									●	●							3
19	バッタ目	キリギリス科	イズササキリ			情報不足(DD)						●	●													2
20	カメムシ目	ヨコバイ科	スナヨコバイ			準絶滅危惧(NT)	●	●										●	●							4
21		ハナカメムシ科	クロアシブトハナカメムシ			準絶滅危惧(NT)				●			●													2
22		カスミカメムシ科	リンゴクロカスミカメ			準絶滅危惧(NT)														●						1
23		マキバサシガメ科	ツマグロマキバサシガメ			準絶滅危惧(NT)		●																		1
24		ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ			準絶滅危惧(NT)								●	●				●			●				4
25		カメムシ科	ヒラタトガリカメムシ			準絶滅危惧(NT)																		●		1
26		アメンボ科	エサキアメンボ			準絶滅危惧(NT)				●	●															2
27			ハバアメンボ			準絶滅危惧(NT)			●																	1
28		カタビロアメンボ科	オヨギカタビロアメンボ			準絶滅危惧(NT)																		●		1
29		コオイムシ科	コオイムシ			準絶滅危惧(NT)			●						●								●			3
30			タガメ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)									●											1
31	トビケラ目	アシエダトビケラ科	ビワアシエダトビケラ			準絶滅危惧(NT)																	●			1
32	チョウ目	スカシバガ科	アシナガモモブトスカシバ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)				●	●															2
33		ボクトウガ科	ハイイロボクトウ			準絶滅危惧(NT)			●	●	●	●						●								5
34		セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ			準絶滅危惧(NT)			●	●	●		●		●		●							●		7
35			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種			準絶滅危惧(NT)			●																	1
36		シジミチョウ科	カバイロシジミ北海道北東部亜種			準絶滅危惧(NT)	●																			1
37			ゴマシジミ北海道・東北亜種			絶滅危惧IB類(EN)		●																		1
38			シルビアシジミ			絶滅危惧IB類(EN)																	●	●	●	3
39		タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	●	●	●																	3
40			ヒョウモンチョウ東北以北亜種			準絶滅危惧(NT)			●																	1
41			キマダラモドキ			絶滅危惧(NT)		●	●																	2
42		アゲハチョウ科	ギフチョウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)												●								1
43		シロチョウ科	ツマグロキチョウ			絶滅危惧IB類(EN)									●	●										2
44			ヒメシロチョウ北海道・本州亜種			絶滅危惧IB類(EN)		●	●																	2
45		ヤママユガ科	オナガミズアオ本土亜種			準絶滅危惧(NT)	●																			1
46		スズメガ科	ヒメスズメ			準絶滅危惧(NT)	●																			1
47		ヒトリガ科	ヤネホソバ			準絶滅危惧(NT)				●																1
48		ドクガ科	スゲドクガ			準絶滅危惧(NT)				●					●	●										3
49		ヤガ科	クビグロケンモン			準絶滅危惧(NT)				●																1
50			コシロシタバ			準絶滅危惧(NT)									●	●										2
51			ヌマベウスキヨトウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)						●														1
52			カギモンハナオイアツバ			準絶滅危惧(NT)																		●	●	2
53			キシタアツバ			準絶滅危惧(NT)										●	●		●							3
54			ギンモンアカヨトウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)					●						●									2
55			イチモジヒメヨトウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)				●		●	●													3
56			クシロモクメヨトウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	●	●																		2
57	ハエ目	クサアブ科	ネグロクサアブ			情報不足(DD)		●																		1
58	コウチュウ目	オサムシ科	セアカオサムシ			準絶滅危惧(NT)		●		●								●								3
59			キバネキバナガミズギワゴミムシ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)																			●	1
60			スナハラゴミムシ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)				●																1
61			キイロホソゴミムシ			絶滅危惧IB類(EN)							●													1
62			コハンミョウモドキ			絶滅危惧(EN)				●						●										2
63			チビアオゴミムシ			絶滅危惧IB類(EN)				●			●													2
64			タナカツヤハネゴミムシ			情報不足(DD)					●														●	2
65			チョウセンゴモクムシ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)						●														1
66			ハガクビナガゴミムシ			情報不足(DD)				●	●				●											3
67			エチゴトックリゴミムシ			準絶滅危惧(NT)					●															1
68			オオトックリゴミムシ			準絶滅危惧(NT)				●					●	●										3
69			イグチケブカゴミムシ			準絶滅危惧(NT)				●	●						●									3
70			オオヒョウタンゴミムシ			準絶滅危惧(NT)																	●			1
71			クビナガヨツボシゴミムシ			情報不足(DD)				●																1
72		ハンミョウ科	アイヌハンミョウ			準絶滅危惧(NT)		●							●									●		3
73		ゲンゴロウ科	トダセスジゲンゴロウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)										●										1
74			クロゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)									●								●	●		3
75			コガタノゲンゴロウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)																			●	1
76			マルガタゲンゴロウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)			●						●											2
77			シマゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)																	●		●	2
78			アンピンチビゲンゴロウ			情報不足(DD)																		●		1
79			コマルケシゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)					●															1
80			ケシゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)			●																●	2
81			アラメケシゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)			●																	1
82			キベリクロヒメゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)	●		●																	2
83			キボシツブゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)	●																			1
84			キベリマメゲンゴロウ			準絶滅危惧(NT)			●						●	●	●				●	●		●		7
85		ミズスマシ科	オオミズスマシ			準絶滅危惧(NT)	●	●							●											3
86			コオナガミズスマシ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)								●	●		●	●				●			●	6
87			エゾコオナガミズスマシ			準絶滅危惧(NT)	●																			1
88		コガシラミズムシ科	クロホシコガシラミズムシ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)			●																	1
89			クビボソコガシラミズムシ			情報不足(DD)									●			●	●					●		4
90		コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)																			●	1
91		ガムシ科	マルヒラタガムシ			準絶滅危惧(NT)					●															1
92			スジヒラタガムシ			準絶滅危惧(NT)																		●		1
93			コガムシ			情報不足(DD)			●	●	●		●	●	●	●		●	●	●			●	●		12
94			ガムシ			準絶滅危惧(NT)			●						●									●		3
95		シデムシ科	ヤマトモンシデムシ			準絶滅危惧(NT)					●		●		●	●							●			5
96		ハネカクシ科	オオツノハネカクシ			情報不足(DD)					●															1
97		ハムシ科	オオルリハムシ			準絶滅危惧(NT)			●	●	●															3
98	ハチ目	コンボウハバチ科	ホシアシブトハバチ			情報不足(DD)									●											1
99		セイボウ科	オオセイボウ			情報不足(DD)				●							●									2
100		アリ科	ケブカツヤオオアリ			情報不足(DD)													●							1
101			ツノアカヤマアリ			情報不足(DD)	●																			1
102			エゾアカヤマアリ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)			●																	1
103			テラニシクサアリ			準絶滅危惧(NT)	●	●	●																	3
104		スズメバチ科	ニッポンホオナガスズメバチ			情報不足(DD)		●																		1
105			ヤマトシナガバチ			情報不足(DD)					●								●	●	●	●	●	●		7
106			モンスズメバチ	●		情報不足(DD)				●	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●		12
107		クモバチ科	フタモンクモバチ			準絶滅危惧(NT)									●		●									2
108			アオスジクモバチ			情報不足(DD)					●		●						●					●		4
109		ギングチバチ科	アカオビケラトリバチ			準絶滅危惧(NT)											●		●							2
110		ドロバチモドキ科	ヤマトスナハキバチ本土亜種			情報不足(DD)		●		●					●							●	●			5
111			ニッポンハナダカバチ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)			●																	1
112			キアシハナダカバチモドキ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)																●	●			2
113		フシダカバチ科	マエダテツチスガリ			準絶滅危惧(NT)	●	●																		2
114		ミツバチ科	クロマルハナバチ			準絶滅危惧(NT)																	●			1
115		ハキリバチ科	クズハキリバチ			情報不足(DD)												●								1
116			キバラハキリバチ			準絶滅危惧(NT)											●		●							2
						水系別確認種数	15	16	28	25	20	8	15	5	26	11	13	11	12	4	2	7	18	19	12	－

凡　例）
文化財保護法
　国指定特別天然記念物,天然記念物
種の保存法「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」
　国内希少野生動植物種
環境省版レッドリスト
・　「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」
　（環境省レッドリスト2020：令和2年3月27日報道発表資料）
　絶滅　　：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
　野生絶滅　　：飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
　絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種
　絶滅危惧IA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
　絶滅危惧IB類：IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
　絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種
　準絶滅危惧　：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
　情報不足　　：評価するだけの情報が不足している種
　地域個体群　：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

外来種一覧（陸上昆虫類等）

No.	目和名	科和名	種和名	※1 特定外来生物及び生態系被害防止外来種リスト掲載種	北海道		東北	関東								北陸			中部		中国		九州	確認河川数	発見（侵入）年
					天塩川	沙流川	高瀬川	（利根川水系）利根川	（利根川水系）常陸利根川	（利根川水系）中川・綾瀬川	（利根川水系）江戸川	（利根川水系）渡良瀬川	（利根川水系）鬼怒川	（利根川水系）小貝川	（利根川水系）烏川・神流川	荒川	手取川	梯川	豊川	矢作川	（斐伊川水系）神戸川	高津川	肝属川		
1	クモ目	コウレイグモ科	オダカコウレイグモ																				●	1	－
2	ゴキブリ目	ゴキブリ科	クロゴキブリ								●													1	－
3		チャバネゴキブリ科	フタホシモリゴキブリ																				●	1	2000年
4	ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	スジハサミムシモドキ					●			●		●		●									4	1998年
5	バッタ目	マツムシ科	アオマツムシ					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		14	1898年
6		ヒバリモドキ科	クスグモスズ					●			●	●		●	●	●		●	●					8	
7	カメムシ目	ビワハゴロモ科	シタベニハゴロモ														●							1	2009年
8		マルウンカ科	ヒロズクサビウンカ								●													1	2010年
9		ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ																●	●				2	2017年
10		グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16	2000年
11			ハクソカズラグンバイ					●				●										●		3	1996年
12		カスミカメムシ科	クスベニヒラタカスミカメ								●								●					2	2015年
13		サザカメムシ科	ツマベニヒメナザカメムシ					●	●				●	●	●		●			●				7	2018年
14	チョウ目	セセリチョウ科	カラフトセセリ		●																			1	－
15		タテハチョウ科	アカボシゴマダラ	特定/総合対策(重点)				●	●	●	●	●	●	●	●				●					9	1998年
16		ツトガ科	シバツトガ					●	●	●	●		●	●	●	●	●	●				●		11	1964年
17		ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ				●	●			●		●	●	●				●					7	1945年
18	ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ				●	●	●	●	●		●							●		●	●	9	1950年
19		ハナアブ科	スイセンハナアブ							●	●				●									3	1953年
20	コウチュウ目	オサムシ科	コルリアトキリゴミムシ		●	●	●	●	●	●	●		●	●			●	●		●			●	13	1989年
21		カツオブシムシ科	ヒメカツオブシムシ　※2								●													1	－
22			フイリカツオブシムシ						●															1	－
23			ハラジロカツオブシムシ　※2						●															1	－
24		シバンムシ科	ジンサンシバンムシ　※2																				●	1	－
25		ナガシンクイムシ科	コナナガシンクイ　※2																				●	1	－
26		カッコウムシ科	アカアシホシカムシ						●															1	1957-60年
27		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ						●		●									●	●			4	1985年
28			センクチビルテントウ					●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	13	1989年
29			クモガタテントウ							●	●								●	●				4	1984年
30			ハラアカロテントウ							●														1	1987年
31			ムネハラデカクロテントウ								●	●												2	
32			ベダリアテントウ									●												1	1911年
33		キスイムシ科	ウスバキスイ																			●		1	－
34		水スイムシ科	トビイロデオネスイ					●			●							●					●	4	－
35		ケシキスイ科	クリイロデオキスイ　※2					●			●				●	●	●	●		●	●			8	1957-60年
36			ウスチャデオキスイ																			●		1	－
37		ホソヒラタムシ科	ホホビロホソヒラタムシ					●														●		2	－
38			フタトゲホソヒラタムシ				●																	1	－
39		アリモドキ科	アトグロホソアリモドキ					●																1	－
40		コキノコムシ科	チャイロコキノコムシ　※2								●											●		2	－
41		カミキリモドキ科	ツマグロカミキリモドキ														●							1	－
42		ゴミムシダマシ科	ガイマイゴミムシダマシ　※2								●												●	2	1957-60年
43			ワタオビブトゴミムシダマシ　※2								●													1	1957-60年
44			コクヌストモドキ　※2																●					1	－
45			ヒラタコクヌストモドキ　※2																				●	1	1953年
46		カミキリムシ科	ツヤハダゴマダラカミキリ	特定																●				1	不明
47			クビアカツヤカミキリ	特定/総合対策(その他)								●												1	2012年
48			デツイロヒメカミキリ						●															1	－
49			ハラアカコブカミキリ																			●		1	1951年?
50			ウミーカミキリ								●				●				●		●	●	●	6	19世紀
51			キボシカミキリ　※3					●		●		●	●	●	●	●			●		●	●		10	－
52		ハムシ科	イタチハギマメゾウムシ					●							●	●								3	－
53			ミヤコグサマメゾウムシ		●	●	●									●	●							5	－
54			アズキマメゾウムシ　※2										●				●	●				●		4	江戸時代?
55			タバコノミハムシ							●	●													2	2011年
56			ブタクサハムシ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	16	1996年
57		ヒゲナガゾウムシ科	ワタミヒゲナガゾウムシ　※2									●							●	●		●	●	5	1956年
58		ゾウムシ科	オオダイコンサルゾウムシ																			●		1	不明
59			オオタコゾウムシ				●	●			●		●	●					●		●	●		8	1978年
60			ツメクサタコゾウムシ		●	●	●	●		●	●			●							●			8	1943年
61			アルファルファタコゾウムシ					●	●	●	●	●	●	●	●				●		●	●	●	12	1982年
62			ヤサイゾウムシ					●	●		●	●		●	●						●	●	●	9	1942年
63			キンケクチブトゾウムシ			●																		1	1980年
64			フラーバラゾウムシ								●													1	－
65			サビチビコフキゾウムシ		●																			1	1986年
66			ケチビコフキゾウムシ		●	●	●	●		●	●									●				7	1954年
67			ベッチチビコフキゾウムシ		●																			1	1970年
68			ツメクサガネコバンゾウムシ		●	●		●		●	●				●	●								7	1993年
69		オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ								●	●	●	●							●		●	6	1979年
70		イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ				●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●		●	14	1976年
71			アカウキクサゾウムシ						●															1	1987年
72	ハチ目	アリ科	イエヒメアリ								●													1	－
73			ケブカアメイロアリ																				●	1	－
74			ルリアリ				●		●	●	●						●			●		●	●	8	－
75			アワテコヌカアリ								●													1	－
76		クモバチ科	ツマアカクモバチ																			●		1	－
77		セナガアナバチ科	サトセナガアナバチ							●														1	－
78		アナバチ科	アメリカジガバチ									●	●						●	●	●			5	1945年
79		ミツバチ科	セイヨウミツバチ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	18	1876年
80			セイヨウオオマルハナバチ	特定/総合対策(産業管理)	●	●																		2	1991年
81			タイワンタケクマバチ																●	●	●			3	2007年
82		ハキリバチ科	イマイツツハナバチ																			●		1	1970年代
				水系別確認種数	10	9	12	27	20	21	39	18	19	18	19	12	14	9	18	19	17	23	21		－
				地域別確認種数	12		13	58								21			28		34		21		－

注1）発見(侵入)年は、「日本の帰化生物(平成5年，保育社)」などを参照した。
※1 特定外来生物及び生態系被害防止外来種リスト掲載種
「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下「特定外来生物法」）」指定種
特定：「特定外来生物法」における特定外来生物
未判定：「特定外来生物法」における未判定外来生物
「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（以下「生態系被害防止外来種リスト」）」掲載種」
定着予防（侵入予防）：国内に未侵入・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種。
定着予防（その他）：侵入の情報はあるが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種。
総合対策（緊急）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、根絶的に防除が必要な外来種。
総合対策（重点）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種。
総合対策（その他）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種。
産業管理：産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。
※2 貯穀害虫：貯蔵食物を加害する昆虫類の総称。
※3 キボシカミキリは東日本型が外来種とされ、西日本型は在来種か外来種か明らかではないとされている。

6.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

ここでは、河川の自然度や健全度をみる目的で、河畔林に特徴的な昆虫類 4 種を用いて自然河畔林の発達・分布状況の把握を試みました。また、チョウを用いた環境指数により河川の自然度やハビタット機能を評価しました。

【河畔林に特徴的な種の確認状況】 （陸上昆虫類等調査）

- **ゴマダラチョウを 12 河川、コムラサキを 18 河川、ミドリシジミを 2 河川で確認**

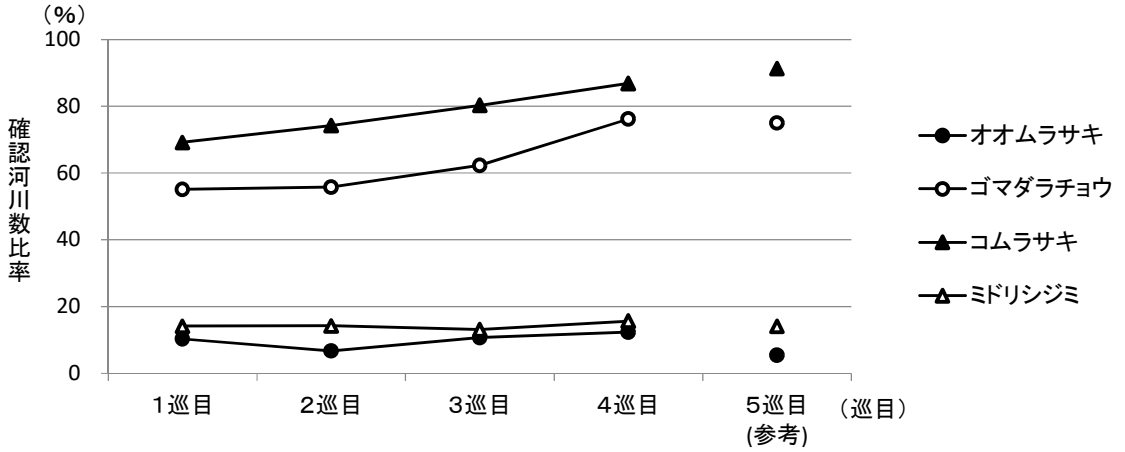
河畔林によくみられるオオムラサキ、ゴマダラチョウ、コムラサキ、ミドリシジミの確認状況を整理しました。

今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）では、いずれの種も大きな変動は認められませんでした。

（資料掲載：6-8～6-9 ページ、6-108～6-109 ページ）

１～５巡目調査の確認河川数の比較

種類 （食草）	１巡目調査 （78 河川）	２巡目調査 （120 河川）	３巡目調査 （122 河川）	４巡目調査 （122 河川）	５巡目調査 （92 河川）
オオムラサキ （エノキ類）	8 河川 〔10.3〕	8 河川 〔6.7〕	13 河川 〔10.7〕	15 河川 〔12.3〕	5 河川 〔5.4〕
ゴマダラチョウ （エノキ類）	43 河川 〔55.1〕	67 河川 〔55.8〕	76 河川 〔62.3〕	93 河川 〔76.2〕	69 河川 〔75.0〕
コムラサキ （ヤナギ類）	54 河川 〔69.2〕	89 河川 〔74.2〕	98 河川 〔80.3〕	106 河川 〔86.9〕	84 河川 〔91.3〕
ミドリシジミ （ハンノキ類）	11 河川 〔14.1〕	17 河川 〔14.2〕	16 河川 〔13.1〕	19 河川 〔15.6〕	13 河川 〔14.1〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

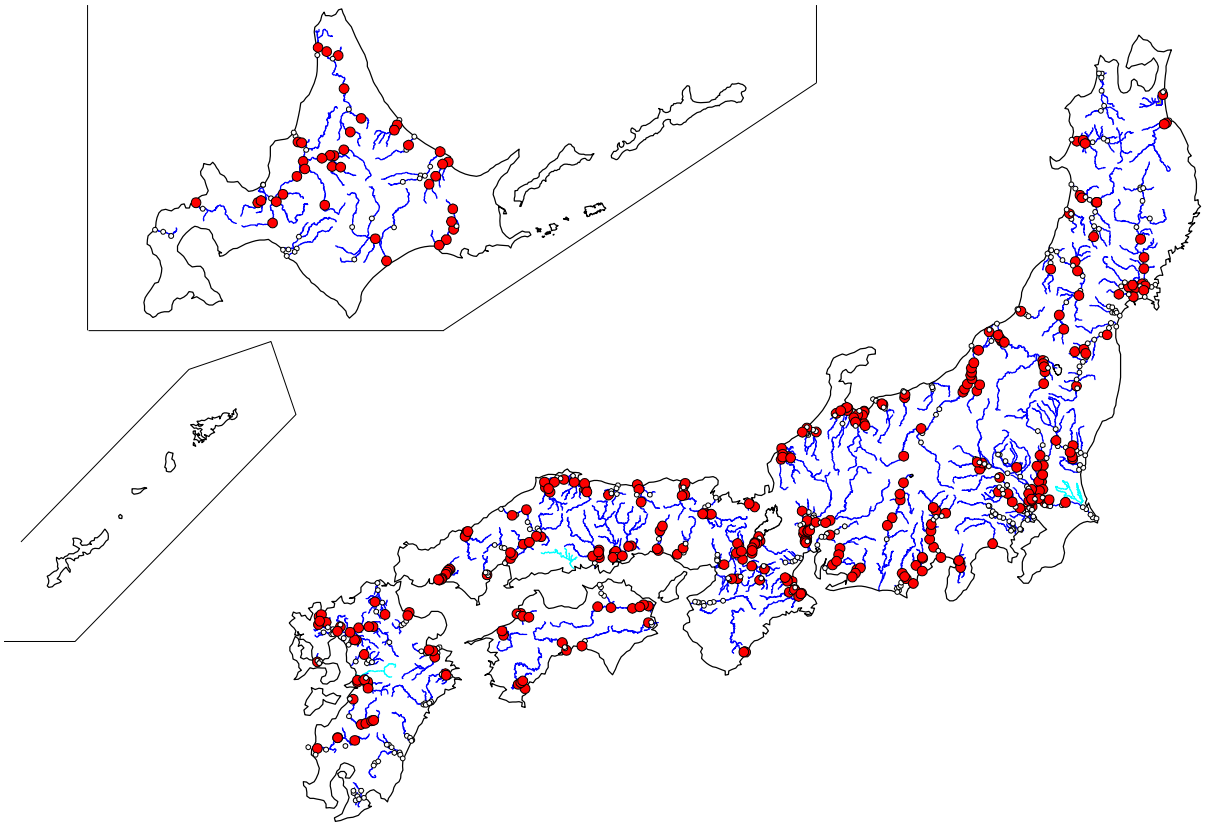
河畔林（エノキ群落やヤナギ群落、ハンノキ群落など）に特徴的な 4 種の昆虫類の確認状況から、河畔林の発達・分布状況の把握を試みました。

１～４巡目調査全体の確認河川数の割合は、オオムラサキとミドリシジミにおいては１巡目から比較的低い値で、ほぼ横ばいに推移しているのに対し、ゴマダラチョウとコムラサキにおいては巡目ごとに増加傾向が認められました。

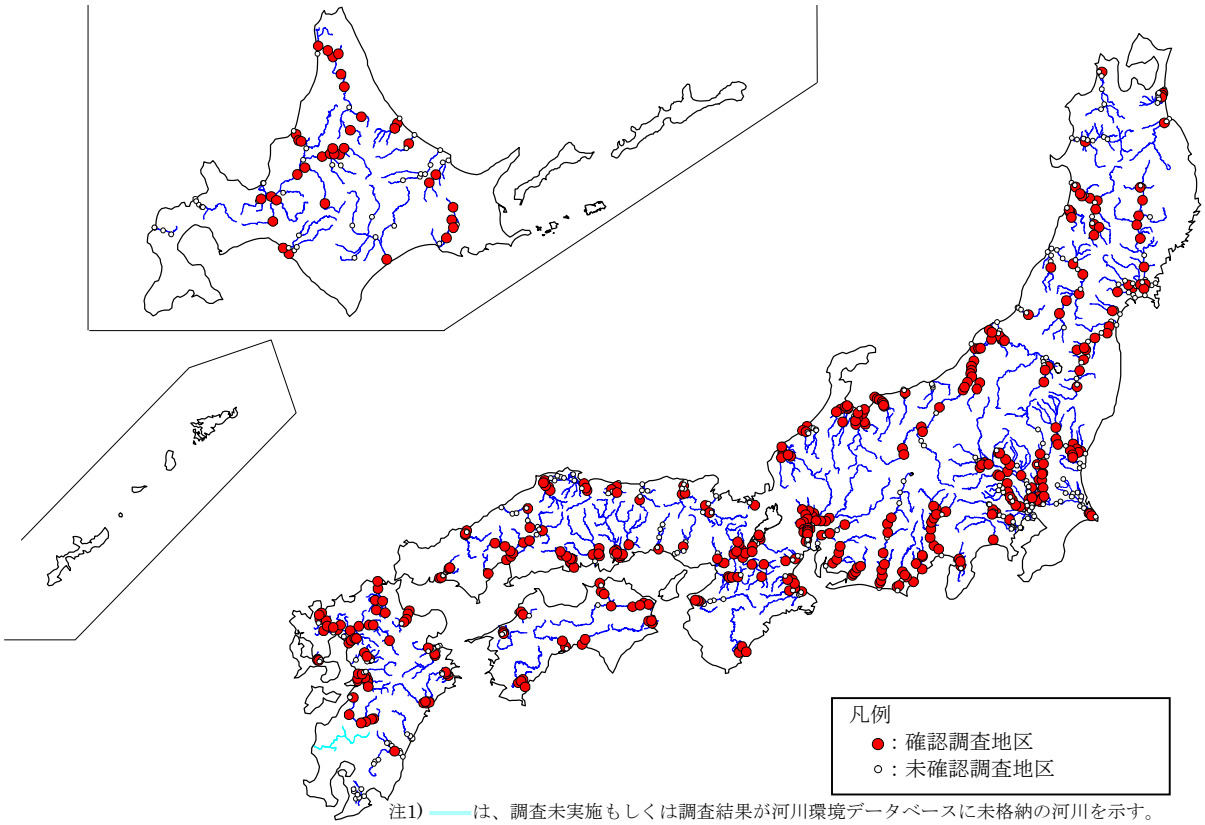
今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、オオムラサキはいずれの河川でも確認されませんでした。ゴマダラチョウは４巡目調査までに記録のある 15 河川のうち 12 河川で確認されました。コムラサキは 18 河川で確認され、このうち関東地方の常陸利根川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。ミドリシジミは 2 河川で確認され、このうち北海道地方の沙流川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

注）オオムラサキ、ミドリシジミの画像は、過年度報告書から転用した。

２巡目調査（平成 8～12 年度）



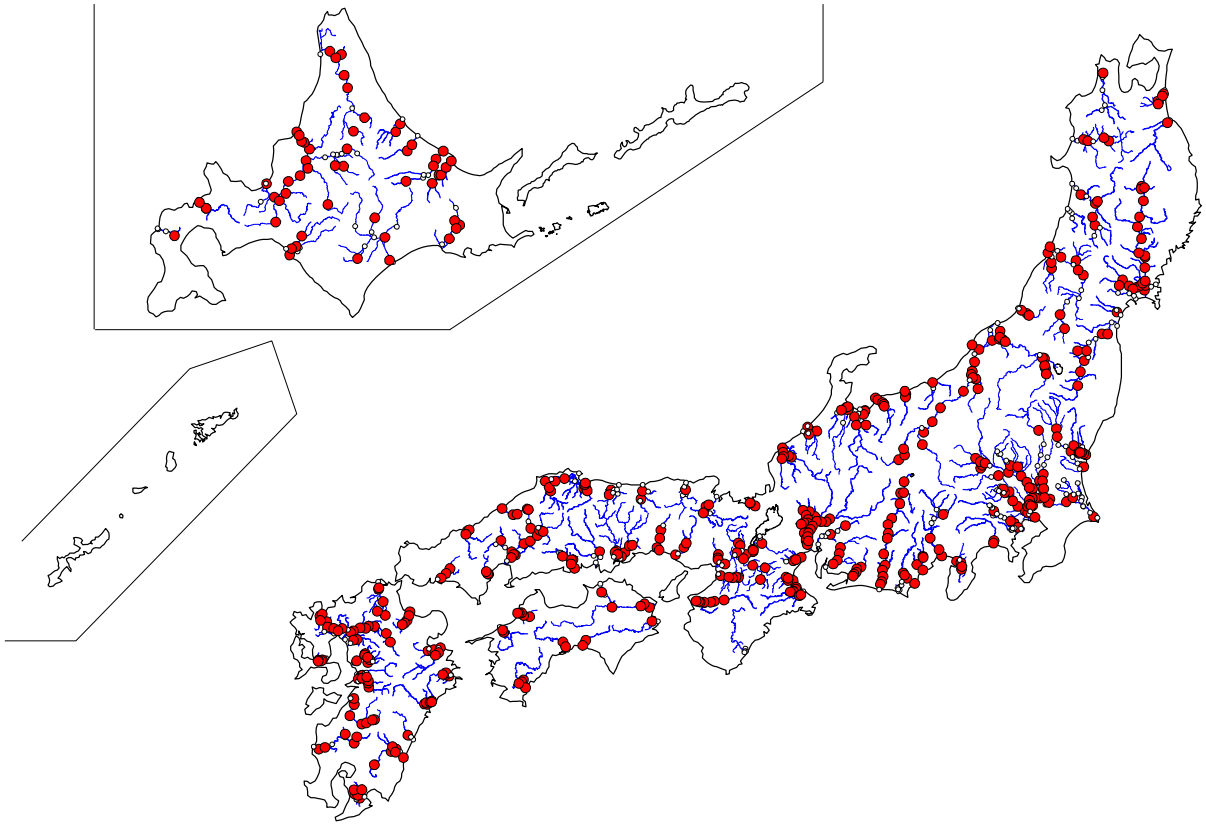
３巡目調査（平成 13～17 年度）



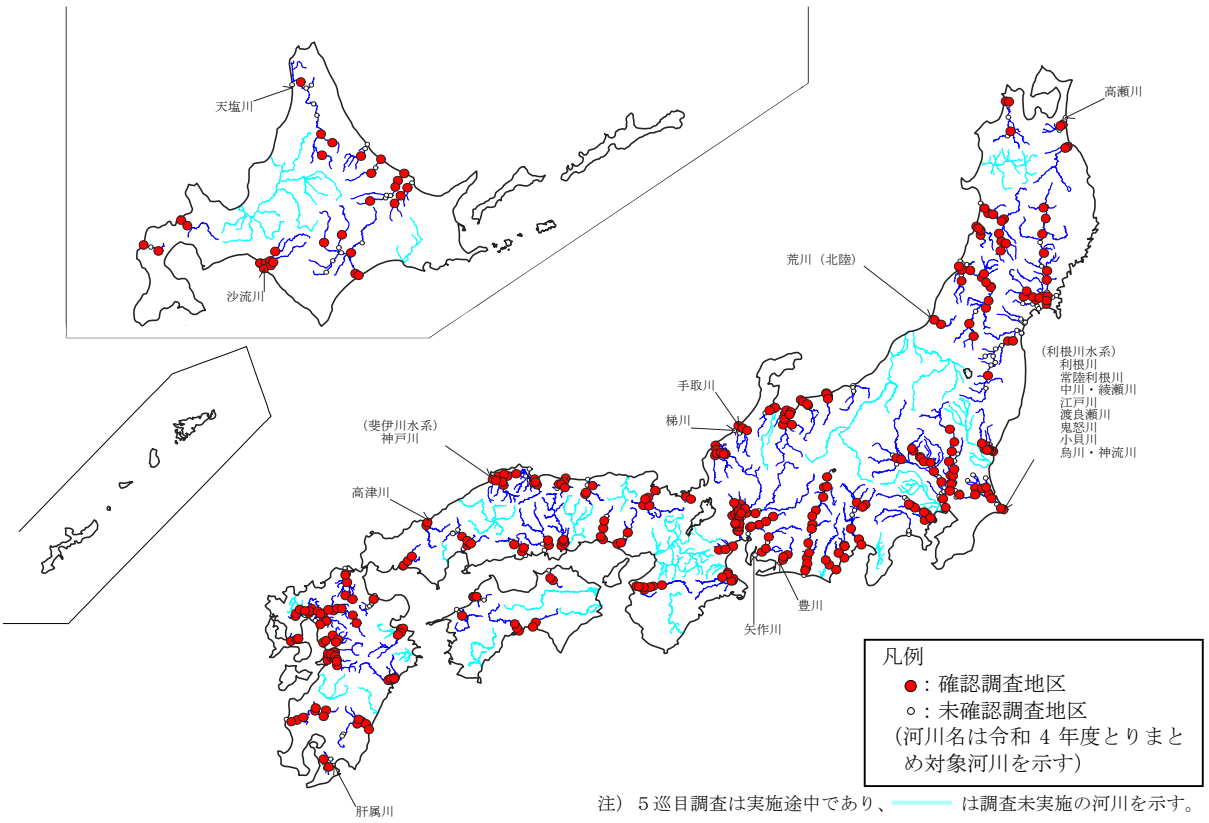
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

河畔林に特徴的な種の確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



５巡目調査（平成 28～令和４年度）



注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

河畔林に特徴的な種の確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

【チョウ類を用いた環境指数】 （陸上昆虫類等調査）

- **いずれの河川も、大部分の地区で寡自然または中自然の環境指数を示す**

チョウ類を用いた環境指数(EI)により、河川敷の自然度を評価しました。

今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）では、いずれの地区も寡自然または中自然を示しました。

（資料掲載：6-14～6-15 ページ）

ここでは、調査地区別に年間を通して確認されたチョウ類を用いて環境指数(EI)を算出し、整理しました。この環境指数は、その数値が大きいほどチョウ類にとっての環境が多様で、良好な状態にあることを示します。

今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）を環境指数からみると、いずれの地区も寡自然または中自然を示しました。このうち、環境指数が４～５巡目にかけて上昇した地区が多かった河川として関東地方の渡良瀬川（7 地区中 5 地区）があげられました。一方、４～５巡目にかけて低下した地区が多かった河川として東北地方の高瀬川（7 地区中 4 地区）があげられました。

陸上昆虫類等調査は、調査時の雨量や気温などの要素にも左右されるため、環境指数の変動を一概に市街地化などの環境変化に結びつけて論じることはできませんが、一定の期間で調査を実施し、データを蓄積することで、より実態に近い評価ができるようになります。

「環境指数(EI)」
チョウ類を用いた環境指数(EI)とは、チョウを環境指標生物として用い、それぞれの種を多自然種、準自然種、都市(農村)種に分け、それぞれ順に 3、2、1 の指数を与え、各調査地でみられたチョウの指数の和を用いて環境を評価するものです。チョウ類が環境指標生物として用いられる理由は、それぞれの種の生活史及びその生態がよく判明しており、環境との結びつきや地域ごとの分布が正確に把握されているという点にあります。

チョウの指数と区分

指数	区分	区分の説明	代表的な種
3	多自然種	人類の営力とは無関係に生息している種	ミドリシジミ、ヒメシジミ、ミスジチョウ、ミヤマカラスアゲハ等
2	準自然種	1と3の中間的な種	コムラサキ、ジャコウアゲハ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ等
1	都市(農村)種	人類の営力の元で生息している種	ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ等

環境指数 (EI)＝$\sum^{n} xi$　ただし n :調査で確認したチョウの総種数　xi :i番目の種の指数

環境指数 (EI)	環境評価	具体的な環境
0～9	貧自然	都市中央部
10～39	寡自然	住宅地･公園緑地
40～69	中自然	農村･人里
70～99	中～多自然	やや良好な林や草原
100～149	多自然	良好な林や草原
150～	富自然	極めて良好な林や草原

(日本環境動物昆虫学会編, 1998)を一部変更

写真－４巡目調査時と比較して、環境指数が上昇した地区が多かった河川渡良瀬川のうち、チョウ指数が最も増加した調査地区（54km）における環境

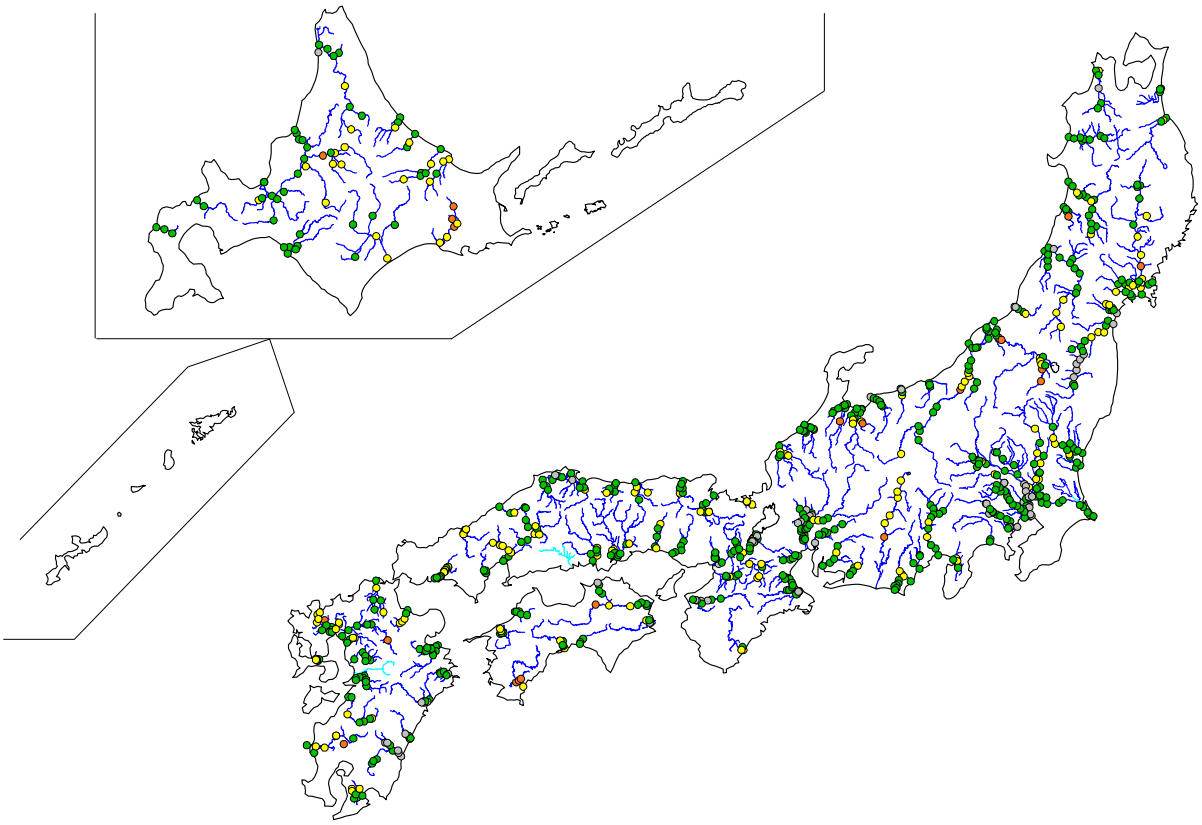
（背後に山間地が連なり、樹林、高茎草地、低茎草地、河原など多様な環境が存在する）

河川別環境指数(EI)の集計結果（令和４年度調査 対象河川:19 河川）

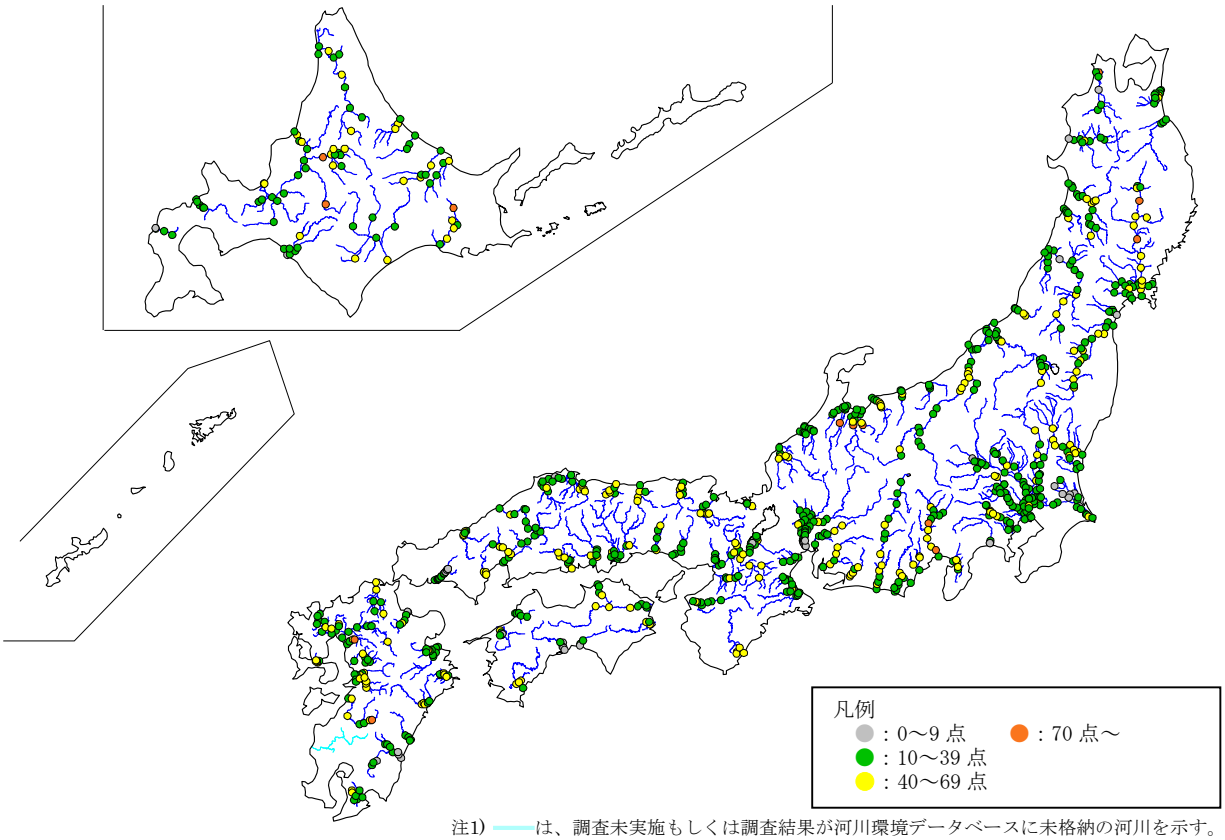
地方	河川名	巡目	環境指数(EI) 0～9	10～39	40～69	70～99	100～	調査地区数
北海道	天塩川	1						－
		2	1	6	2			9
		3		7	3			10
		4		6	3			9
		5		4	5			9
	沙流川	1						－
		2		3				3
		3	1	3				4
		4		2	1			3
		5			3			3
東北	高瀬川	1		3				3
		2		3				3
		3	1	7	2			10
		4		2	4	1		7
		5		5	2			7
関東	利根川	1	1	12	1			14
		2		15	2			17
		3		16	2			18
		4	1	11	1			13
		5		8	3			11
	常陸利根川	1						－
		2						－
		3	6	3				9
		4		10				10
		5		8	3			11
	中川・綾瀬川	1	8					8
		2	2	6				8
		3	1	7				8
		4	1	5				6
		5		6				6
	江戸川	1	5	6				11
		2	10					10
		3		10	1			11
		4		8				8
		5		8				8
	渡良瀬川	1						－
		2	1	3				4
		3		5	1			6
		4		6	1			7
		5		1	6			7
	鬼怒川	1						－
		2		3	3			6
		3		4	3			7
		4		4	1	1		6
		5		2	4			6
	小貝川	1	1	4	2			7
		2		6	2			8
		3		8				8
		4		2	4			6
		5		2	4			6

地方	河川名	巡目	環境指数(EI) 0～9	10～39	40～69	70～99	100～	調査地区数
	烏川・神流川	1		6	1			7
		2		6	1			7
		3	1	6				7
		4		2	3			5
		5		3	2			5
北陸	荒川	1	3	3				6
		2	2	2	1			5
		3		3	2			5
		4		3	2			5
		5		4	1			5
	手取川	1	1	4	1			6
		2		5	1			6
		3		6				6
		4		4	1			5
		5		4	1			5
	梯川	1						－
		2		4				4
		3		4				4
		4		3				3
		5		3				3
中部	豊川	1		4	1			5
		2		4	1			5
		3		1	4			5
		4		3	2			5
		5		3	2			5
	矢作川	1		5				5
		2		4	1			5
		3		2	3			5
		4		3	2			5
		5		3	2			5
中国	神戸川	1						－
		2						－
		3						－
		4						－
		5		1	1			2
	高津川	1	2	2		1		5
		2			4	1		5
		3		2	3			5
		4			3			3
		5		1	2			3
九州	肝属川	1		4	2			6
		2		4	3			7
		3		5	2			7
		4		2	3	2		7
		5		3	4			7

２巡目調査（平成 8～12 年度）



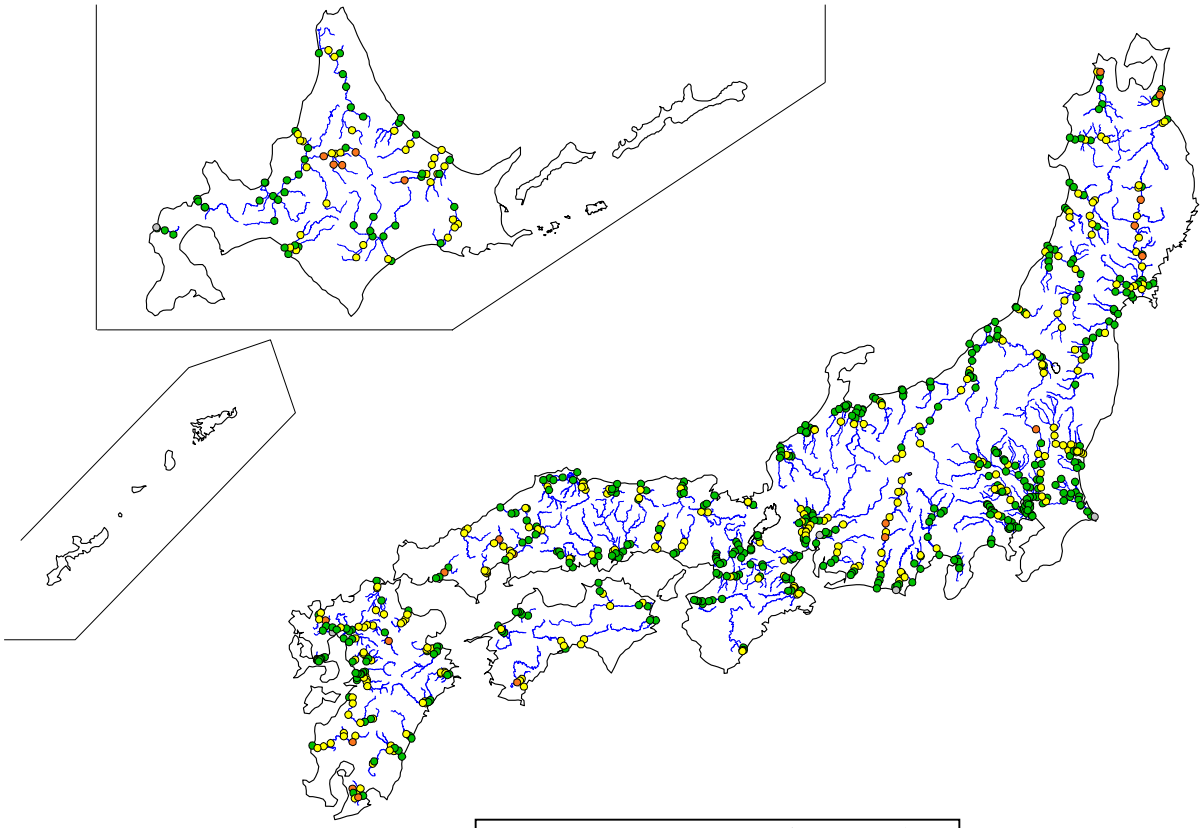
３巡目調査（平成 13～17 年度）



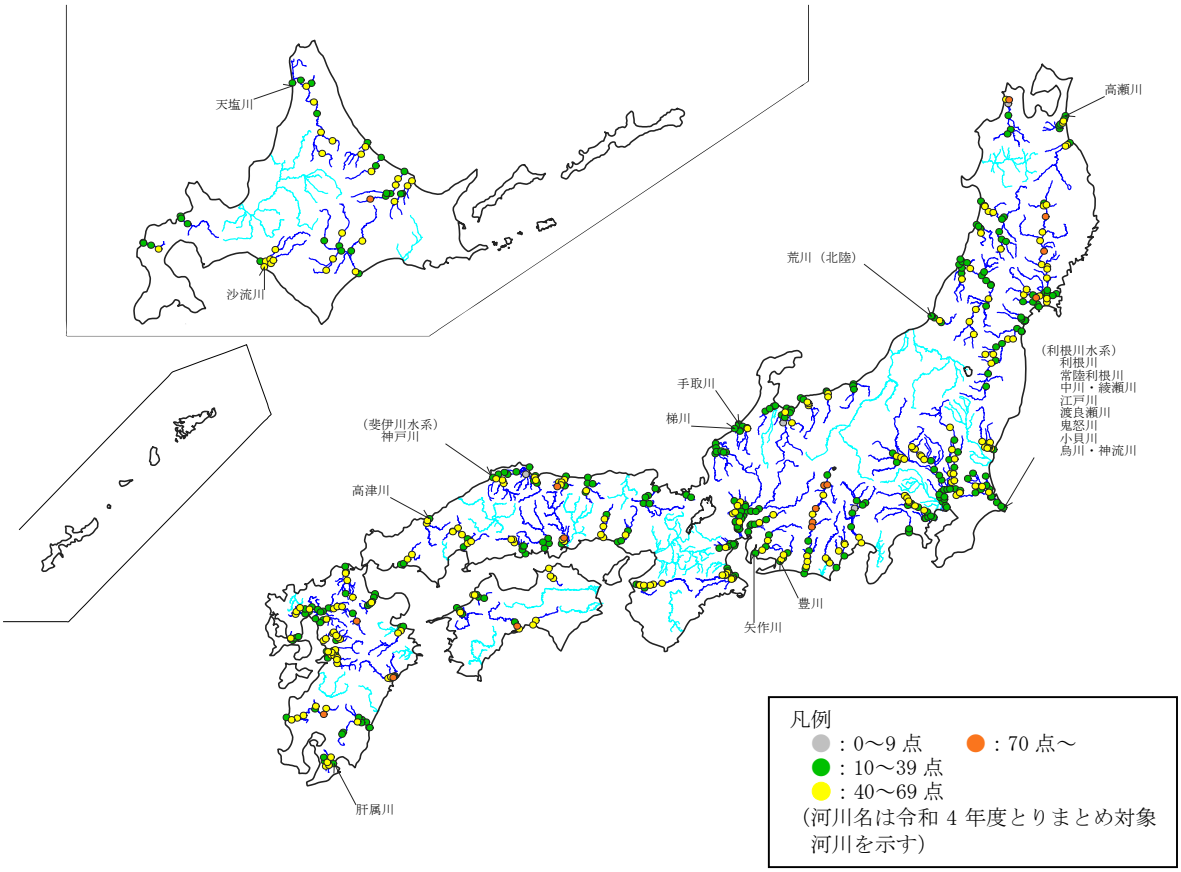
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

チョウ類を用いた環境指数(EI)による自然度（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



５巡目調査（平成 28～令和４年度）



注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

チョウ類を用いた環境指数(EI)による自然度（４巡目調査、５巡目調査）

6.3 生物多様性

ここでは、生物多様性の攪乱状況をみる目的で、国外外来種の確認状況を整理しました。

【生物多様性の攪乱①：国外外来種の分布状況（特定外来生物・生態系被害防止外来種リスト掲載種）ハイイロゴケグモ、セアカゴケグモ、アカボシゴマダラ、ホソオチョウ、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、フェモラータオオモモブトハムシ、アルゼンチンアリ、セイヨウオオマルハナバチの確認状況】

（陸上昆虫類等調査）

- **アカボシゴマダラ、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、セイヨウオオマルハナバチを確認**

特定外来生物または生態系被害防止外来種であるハイイロゴケグモ、セアカゴケグモ、アカボシゴマダラ、ホソオチョウ、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、フェモラータオオモモブトハムシ、アルゼンチンアリ、セイヨウオオマルハナバチの確認状況を整理しました。

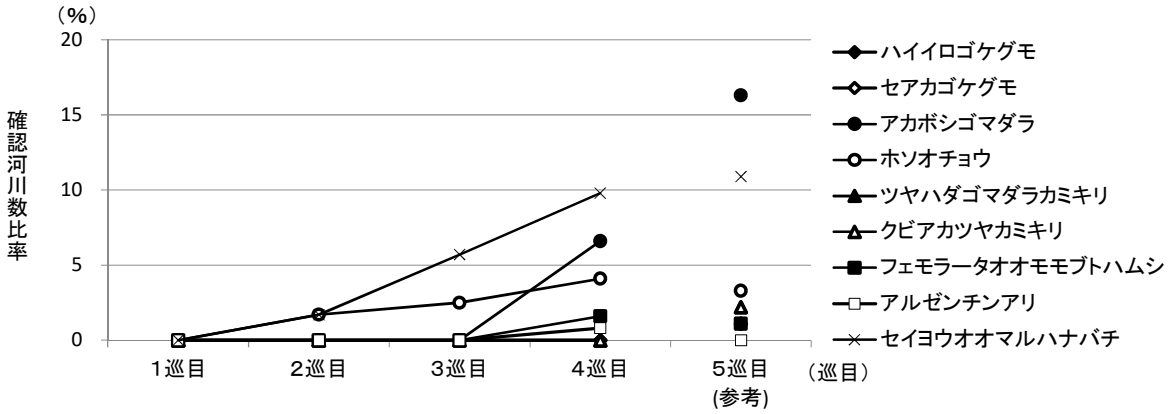
今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、アカボシゴマダラが関東地方の利根川本川、常陸利根川、中川・綾瀬川、江戸川、渡良瀬川、鬼怒川、小貝川、烏川・神流川、中部地方の豊川の 9 河川で、ツヤハダゴマダラカミキリが中部地方の矢作川の 1 河川で、クビアカツヤカミキリが関東地方の渡良瀬川の 1 河川で、セイヨウオオマルハナバチが北海道地方の天塩川、沙流川の 2 河川で確認されました。

（資料掲載：6-24～6-41 ページ、6-108～6-111 ページ）

注）セイヨウオオマルハナバチ以外の画像は、過年度報告書から転用した。

１～５巡目調査の確認河川数の比較

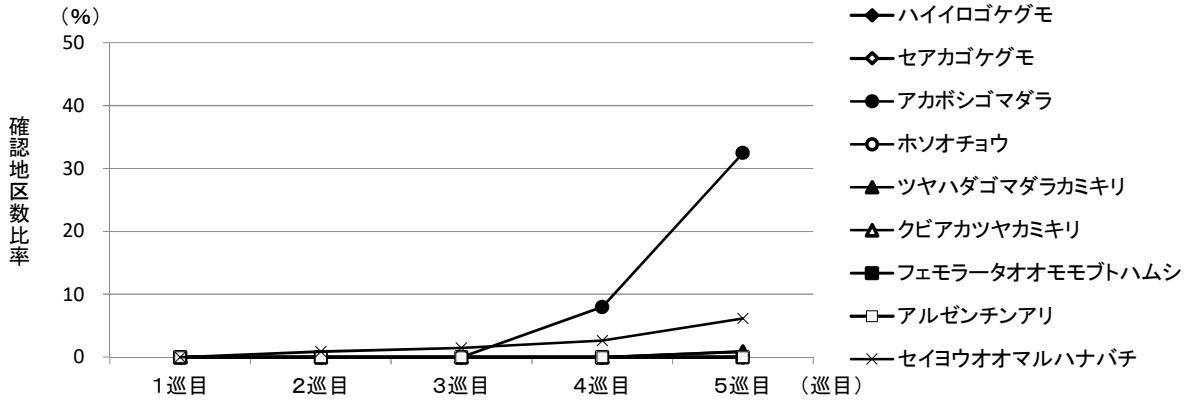
種類	１巡目調査 (78 河川)	２巡目調査 (120 河川)	３巡目調査 (122 河川)	４巡目調査 (122 河川)	５巡目調査 (92 河川)
ハイイロゴケグモ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔1.1〕
セアカゴケグモ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔1.1〕
アカボシゴマダラ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	8 河川 〔6.6〕	15 河川 〔16.3〕
ホソオチョウ	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔1.7〕	3 河川 〔2.5〕	5 河川 〔4.1〕	3 河川 〔3.3〕
ツヤハダゴマダラカミキリ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔2.2〕
クビアカツヤカミキリ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔2.2〕
フェモラータオオモモブトハムシ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔1.6〕	1 河川 〔1.1〕
アルゼンチンアリ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔0.8〕	0 河川 〔0.0〕
セイヨウオオマルハナバチ	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔1.7〕	7 河川 〔5.7〕	12 河川 〔9.8〕	10 河川 〔10.9〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

令和４年度調査河川（19 河川）を対象とした確認河川数・地区数の比較

種 類	１巡目調査 (12 河川・ 83 地区)	２巡目調査 (17 河川・ 112 地区)	３巡目調査 (18 河川・ 137 地区)	４巡目調査 (18 河川・ 113 地区)	５巡目調査 (19 河川・ 114 地区)
ハイイロゴケグモ	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕
セアカゴケグモ	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕
アカボシゴマダラ	0 河川	0 河川	0 河川	4 河川	9 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	9 地区 〔8〕	37 地区 〔32.5〕
ホソオチョウ	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕
ツヤハダゴマダラカミキリ	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川	1 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	1 地区 〔0.9〕
クビアカツヤカミキリ	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.9〕
フェモラータオオモモブトハムシ	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕
アルゼンチンアリ	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川	0 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕
セイヨウオオマルハナバチ	0 河川	1 河川	1 河川	2 河川	2 河川
	0 地区 〔0.0〕	1 地区 〔0.9〕	2 地区 〔1.5〕	3 地区 〔2.7〕	7 地区 〔6.1〕



※ 確認河川数・地区数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数・地区数を示す。
※ 〔〕内は確認地区数の分析対象地区数に対する％を示す。

ここでは、外来生物法により特定外来生物に指定される種及び生態系被害防止外来種リストに選定される種の確認状況を整理しました。これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたこれらに該当する種は、ハイイロゴケグモ、セアカゴケグモ、アルゼンチンアリ、セイヨウオオマルハナバチ、アカボシゴマダラ、ホソオチョウ、クビアカツヤカミキリ、フェモラータオオモモブトハムシの 8 種です。確認年の早い種では、2 巡目調査から確認されており、徐々にではありますが、確認河川数が増加する傾向がみられます。

ハイイロゴケグモは、中央・南アメリカから熱帯アフリカを中心に世界の熱帯に分布し、日本国内では、1995 年に東京から沖縄に至る 6 都道府県で局地的に発見されています[注 1,2)]。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成 29 年度に調査した中部地方の鈴鹿川のみで、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）からは確認されませんでした。分布拡大については報告されていませんが、毒性が強く被害が出る恐れもあることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

セアカゴケグモは、オセアニアを中心に広く分布しており、日本国内では、1995 年の大阪での発見以降、群馬県から沖縄に至る 10 府県で局地的に発生が認められています[注 1,2)]。ハイイロゴケグモ同様、河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成 29 年度に調査した中部地方の鈴鹿川のみで、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）からは確認されませんでした。本種もハイイロゴケグモと同様、今後もその動向に注目していく必要があります。

アカボシゴマダラは、特定外来生物及び生態系被害防止外来種リストで総合対策（重点）に指定されている中国南部原産の外来種です。国内への侵入は人為的な放蝶行為によるものと考えられており、在来種のオオムラサキやゴマダラチョウと食草のエノキをめぐる競合が懸念されています[注 2,3,4)]。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）のうち、関東地方の利根川本川、常陸利根川、中川・綾瀬川、江戸川、渡良瀬川、鬼怒川、小貝川、烏川・神流川、中部地方の豊川の 9 河川において確認されました。このうち常陸利根川、鬼怒川、小貝川、豊川の 4 河川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。本種は、在来種への悪影響が懸念されていることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

ホソオチョウは、東アジアの大陸部原産で、1978 年に東京都で初めて確認されて以降、関東地方一帯、中部地方の岐阜県、近畿地方、岡山県、山口県、九州地方の福岡県などから報告されています。本種と同じくウマノスズクサ類を食草とする、在来種のジャコウアゲハとの生態的な競合が懸念され、生態系被害防止外来種リストで総合対策（重点）に指定されています[注 1,2,3,4,5)]。河川水辺の国勢調査においては、２巡目調査から確認され、確認河川数に若干の増加傾向がみられます。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）からは確認されませんでしたが、ウマノスズクサ類は河川敷にもよく生育していることから、河川敷を通じて分布を拡大する可能性があるため、今後もその動向に注目していく必要があります。

ツヤハダゴマダラカミキリは、中国、朝鮮半島に分布するコウチュウ目カミキリムシ科に属する昆虫で、日本国内では 2002 年に神奈川県で初めて確認され、その後東北地方から中国地方にかけて発生が確認されています[注 6)]。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、中部地方の矢作川の 1 地区から合計 2 個体が確認されました。本種はさまざまな樹種を食害し、原産国である中国では植林した木の 40%が被害を受けており、侵入先のニューヨーク、シカゴ、オーストラリアでも被害報告があることから[注 6)]、今後の状況を注目していく必要があります。

クビアカツヤカミキリは、中国、ベトナム、朝鮮半島等を原産とする甲虫類です。成虫はモモ・ウメ・スモモ・サクラの樹皮の隙間に産卵し、孵化した幼虫は樹皮下に入り、内樹皮・形成層を食害し、さらに、蛹室を深部の心材に作るため、侵入された樹木は枝が枯れ、進行すると枯死することが知られています。国内では 2012 年に愛知県、2013 年に関東地方に拡大し、2015 年には大阪府、徳島県でも発生が報告されています。本種は、その被害の深刻さから、特定外来生物及び生態系被害防止外来種リストで総合対策（その他）に指定されています[注 3,47)]。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、関東地方の渡良瀬川の 1 地区から合計 3 個体が確認されました。すでに各地から多数の被害報告が発表されていることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

フェモラータオオモモブトハムシは、南アジアから中国南部が原産の甲虫類です。国内では 2006 年に三重県松阪市内で初めて野外確認され、2008 年頃には三重県で定着したとされています。その数年前からペットショップ等で販売されていた飼育個体が野生化したものと考えられており、生態系被害防止外来種リストでは総合対策（その他）に指定されました[注 4,8)]。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）からは確認されませんでしたが、本種はマメ科のクズを主な食草としているため、河川敷を通じて分布拡大する可能性があり、今後もその動向に注目していく必要があります。

アルゼンチンアリは、南米原産で、1993 年に広島で初めて確認され、2010 年までには、神戸、大阪、岐阜、愛知、神奈川、東京など飛び地状に分布を拡大しています。外来生物法で特定外来生物に選定されているほか、生態系被害防止外来種リストで総合対策（緊急）に指定されました。国際自然保護連合により世界の侵略的外来種ワースト 100 にも挙げられ、競争力が強いため、在来のアリ類が駆逐されその生息数が減少したり、雑食性であることから、果実や新芽を摂食といった農作物への加害も報告されています[注 1,2,3,4)]。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成 25 年度に調査した近畿地方の大和川のみで、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）からは確認されませんでしたが、河川における分布拡大も懸念されることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

セイヨウオオマルハナバチは、ヨーロッパ原産で、温室栽培植物の受粉を目的として輸入した個体が逃げ、野生化したとされています。1991 年に静岡農業試験場で試験導入されたのち、輸入が本格化しましたが、1996 年春に北海道地方で本種の女王による野外越冬が初めて確認され、自然巣も発見されました。2009 年までに 27 都道府県で目撃されており、在来種のマルハナバチ類と餌や営巣場所をめぐる競合や、頻繁な盗蜜行動による野生植物の種子生産の阻害などにより、生態系に被害を及ぼすおそれがあることから、特定外来生物及び産業管理に指定されています[注 1,2,3,4,5)]。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、北海道地方の天塩川、沙流川の 2 河川で、4 巡目調査から継続して確認されました。本種は、北海道地方での分布の侵入・拡大傾向に加え、関東地方、中部地方、九州地方でも単発的な確認があることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

注 1) 出典：日本生態学会，2002．外来種ハンドブック．地人書館.

注 2) 出典：梅谷献二編，2012．原色図鑑 外来害虫と移入天敵．全国農村教育協会.

注 3) 出典：環境省．外来生物法.[https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/index.html]（最終閲覧日：2023 年 11 月 24 日).

注 4) 出典:環境省．生態系被害防止外来種リスト.[https://www.env.go.jp/press/100775.html]（最終閲覧日：2023 年 11 月 24 日).

注 5) 出典：鷲谷いづみ・森本信生，1993．日本の帰化生物．保育社.

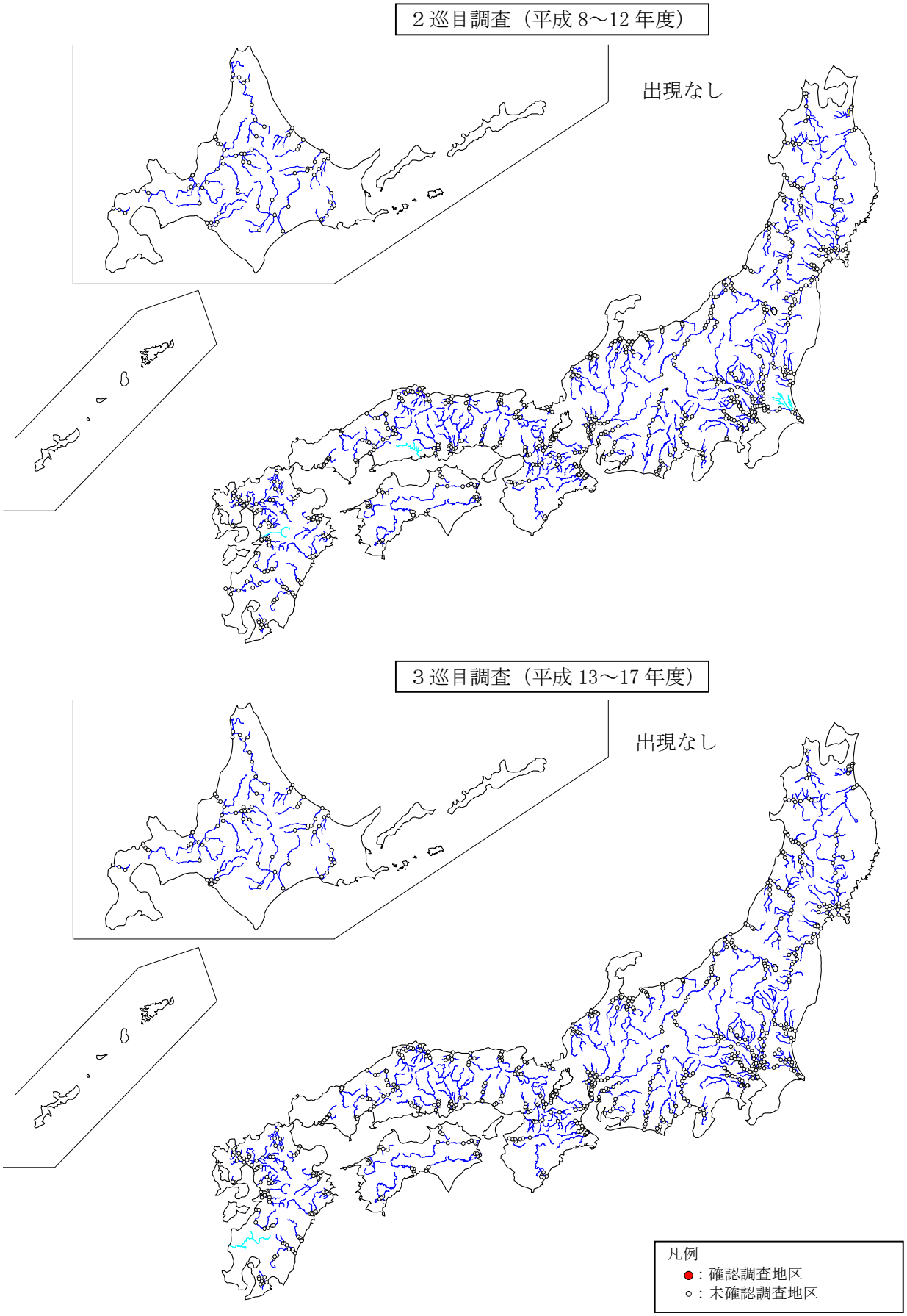
注 6) 出典： 国立環境研究所 webサイト「侵入生物データベース　ツヤハダゴマダラカミキリ」[https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60310.html]（最終閲覧日：2023 年 11 月 24 日).

注 7) 出典：神吉正雄，2019．クビアカツヤカミキリの発生とその推移．きべりはむし，42(2):25-31.

注 8) 出典：秋田勝己ほか，2011．三重県に定着したフェモラータオオモモブトハムシ．月刊むし，(485):36-41.

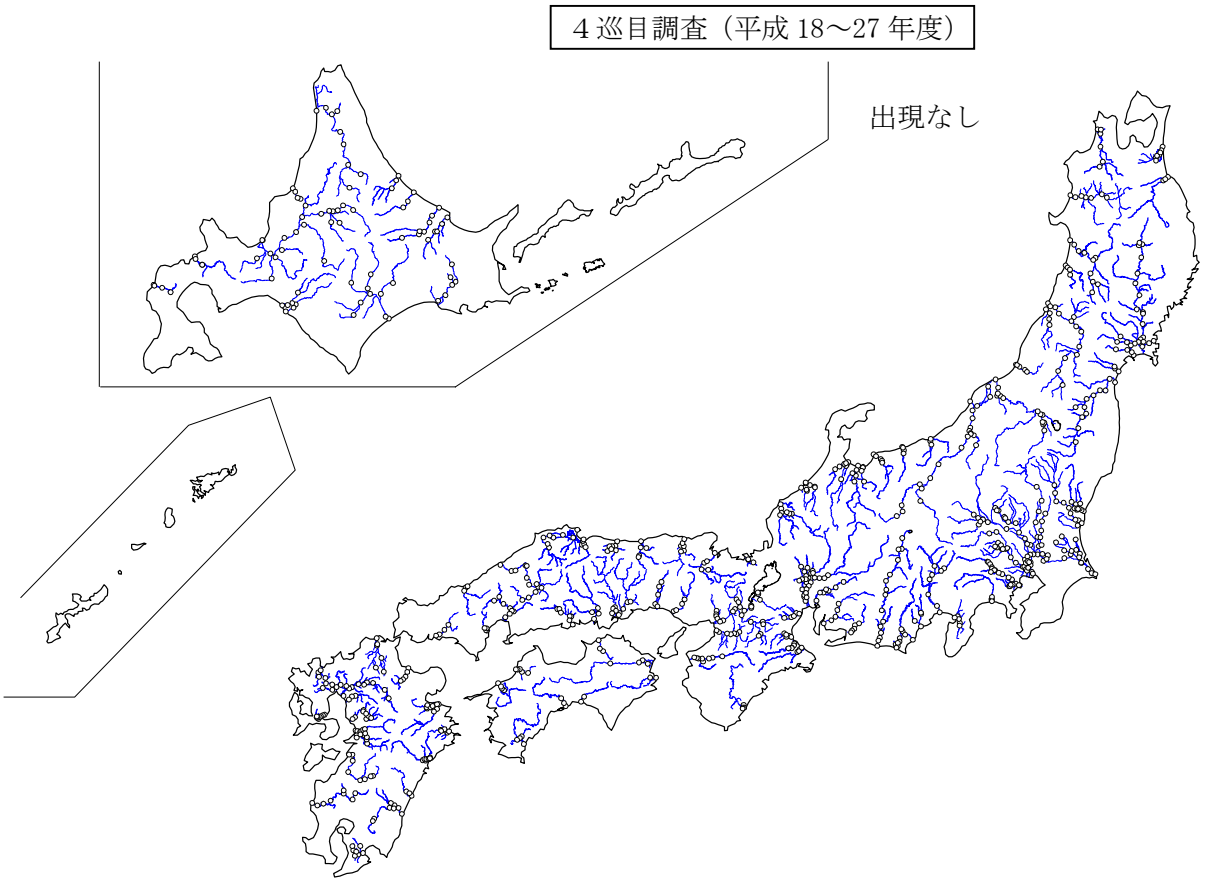
※　特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（2005 年 6 月 1 日施行)』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官等も含まれる)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定されています（指定された外来生物と在来種が交雑した生物も含む)。

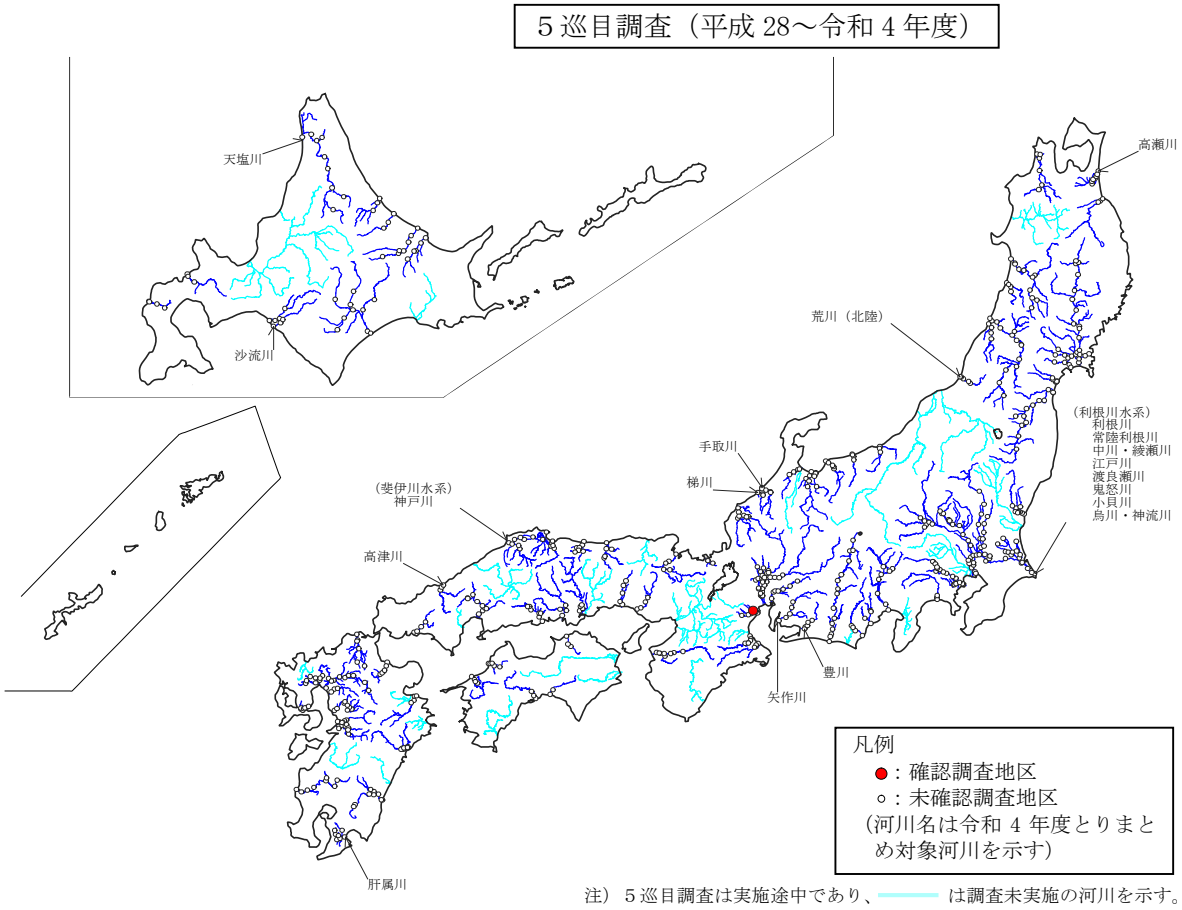
※　生態系被害防止外来種リスト（我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト）とは、我が国の生物多様性を保全するため、さまざまな主体の参画のもとで外来種対策の一層の進展を図ることを目的とし、環境省及び農林水産省が「生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがある生物」を生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種リストです。リスト中には特定外来生物法で指定された生物も含まれています。また、魚類、植物、哺乳類、両生類、爬虫類、陸上昆虫類においては、国内外来種も一部選定されています。



注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ハイイロゴケグモの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

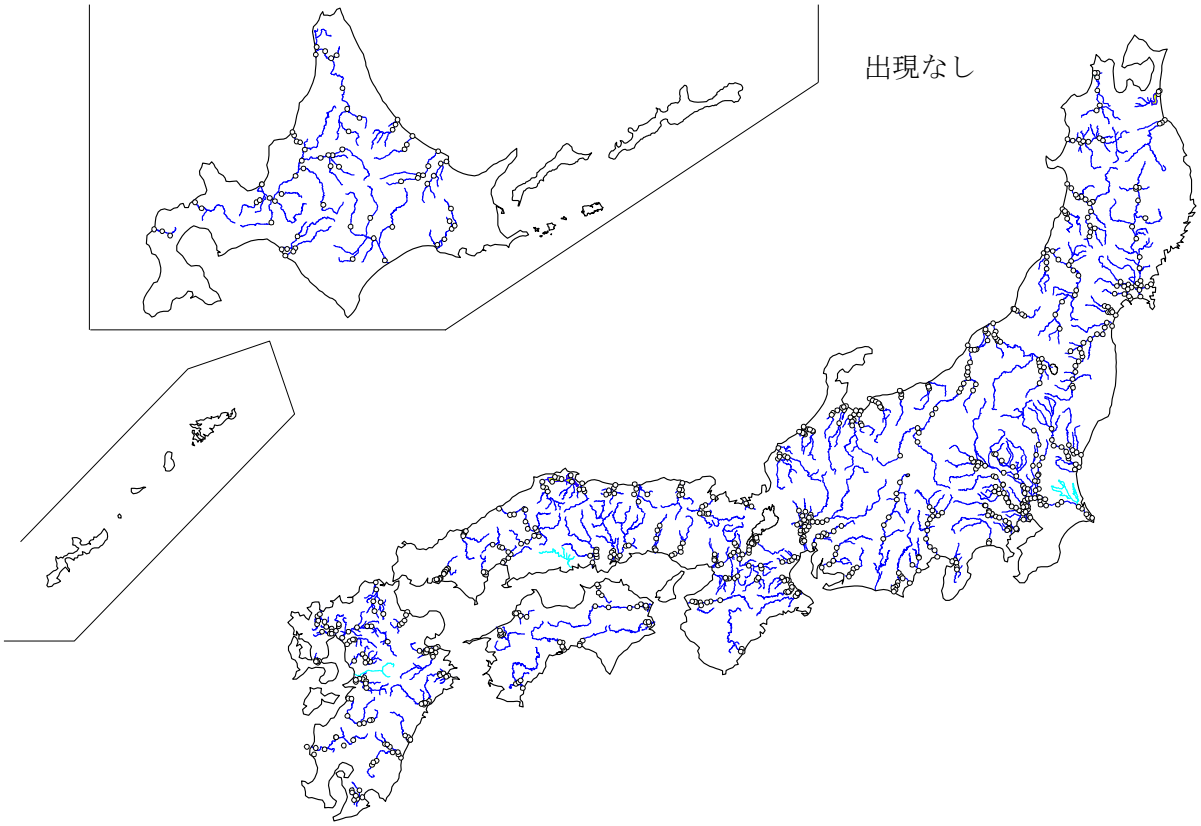




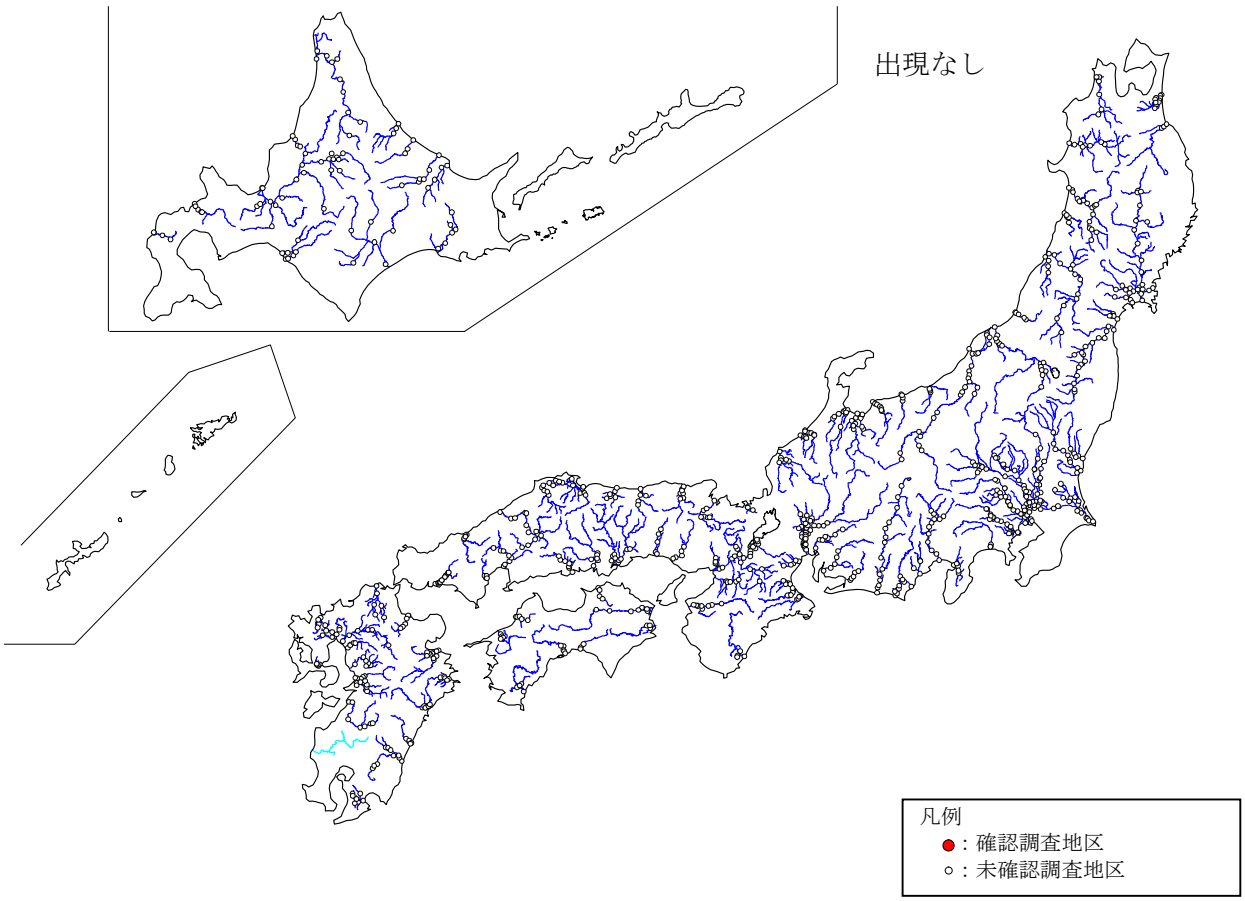
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ハイイロゴケグモの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）

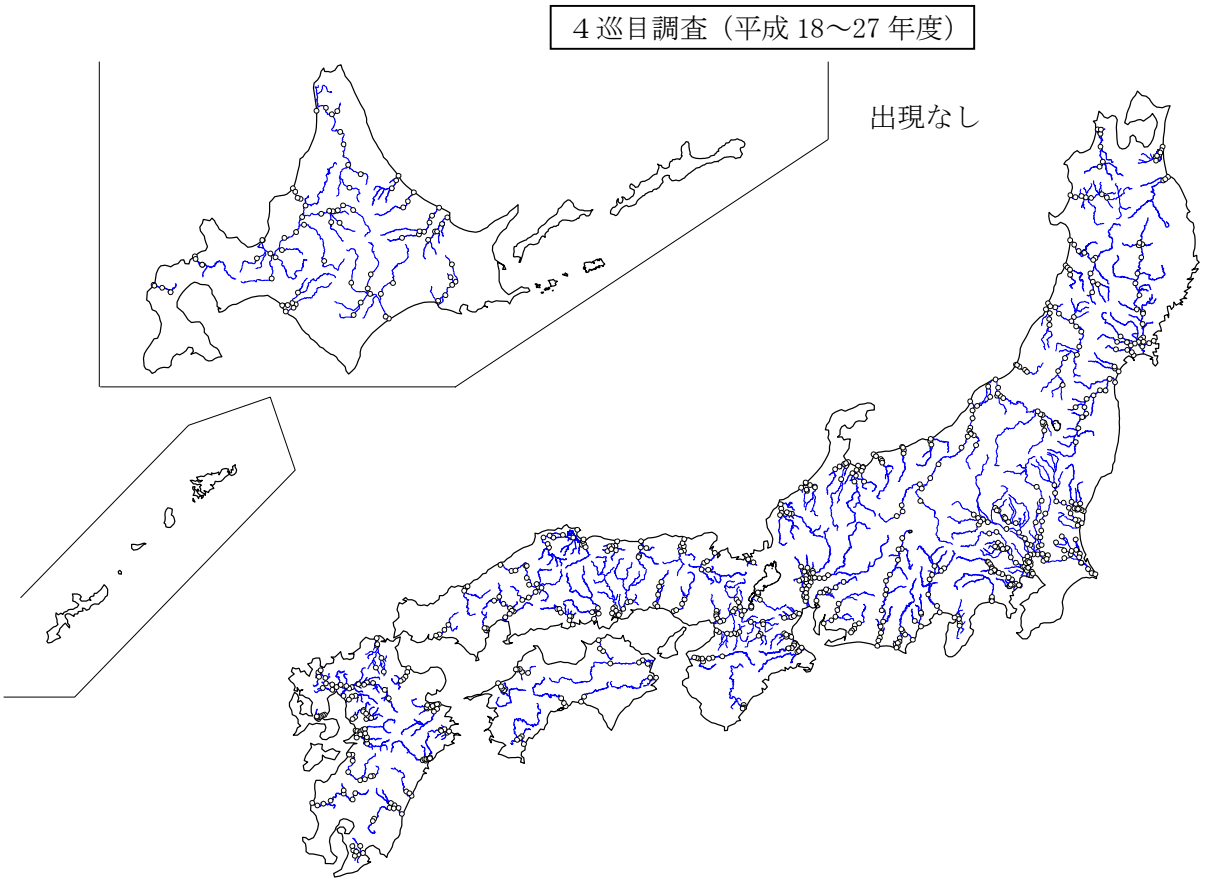


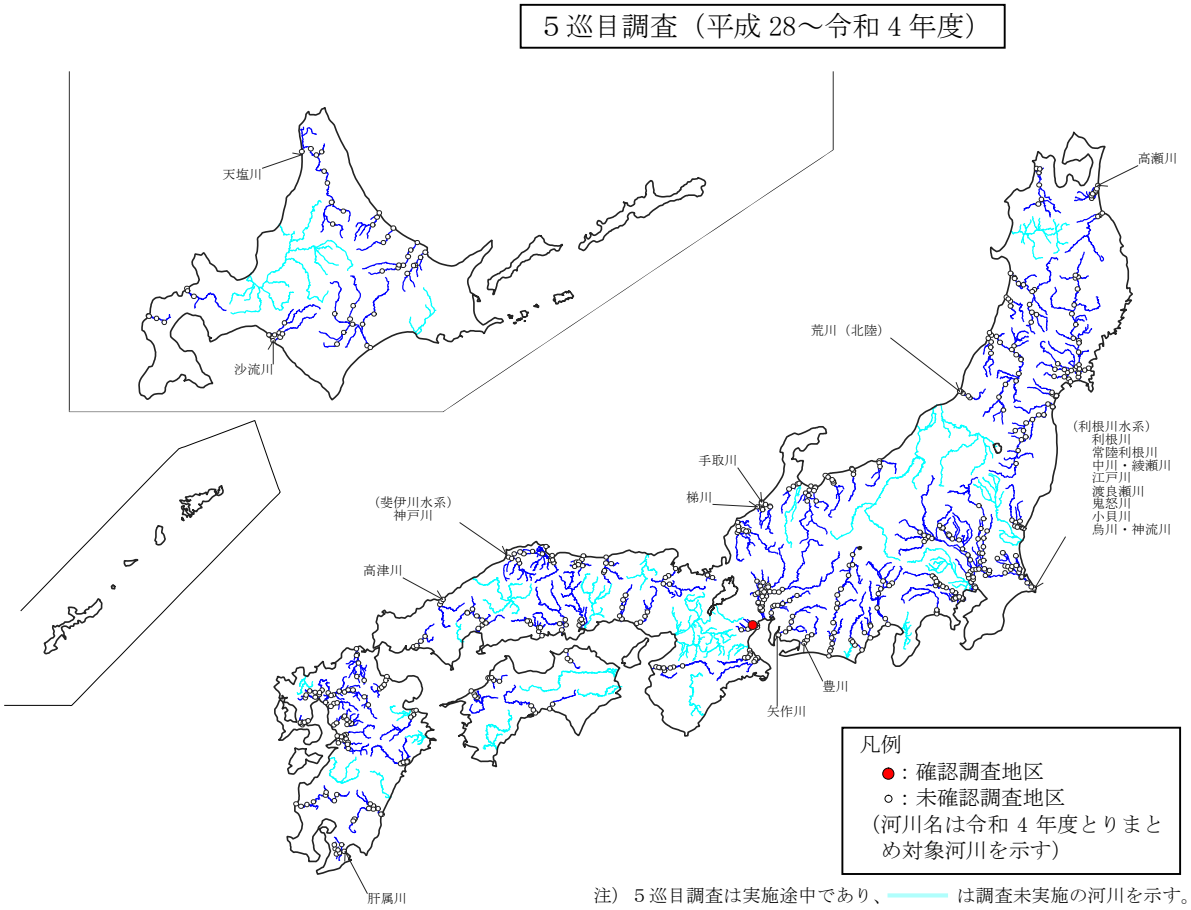
３巡目調査（平成 13～17 年度）



注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

セアカゴケグモの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

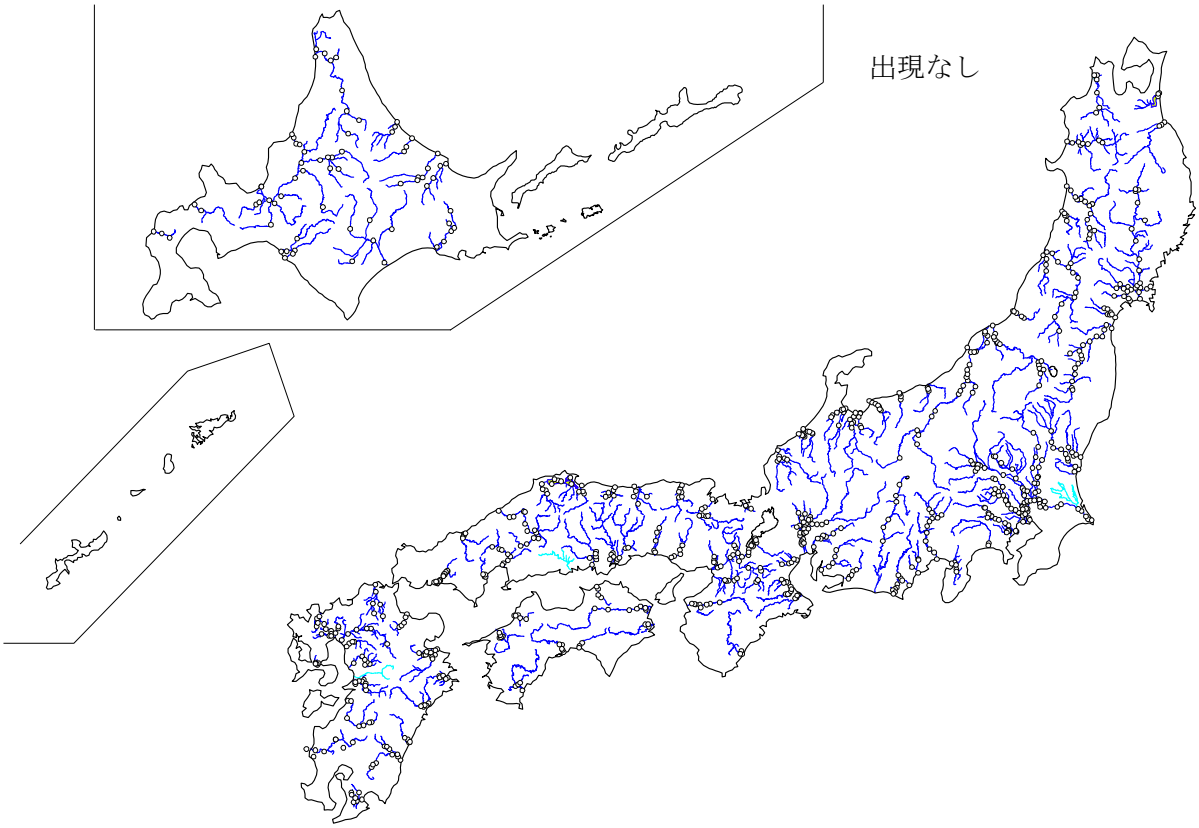




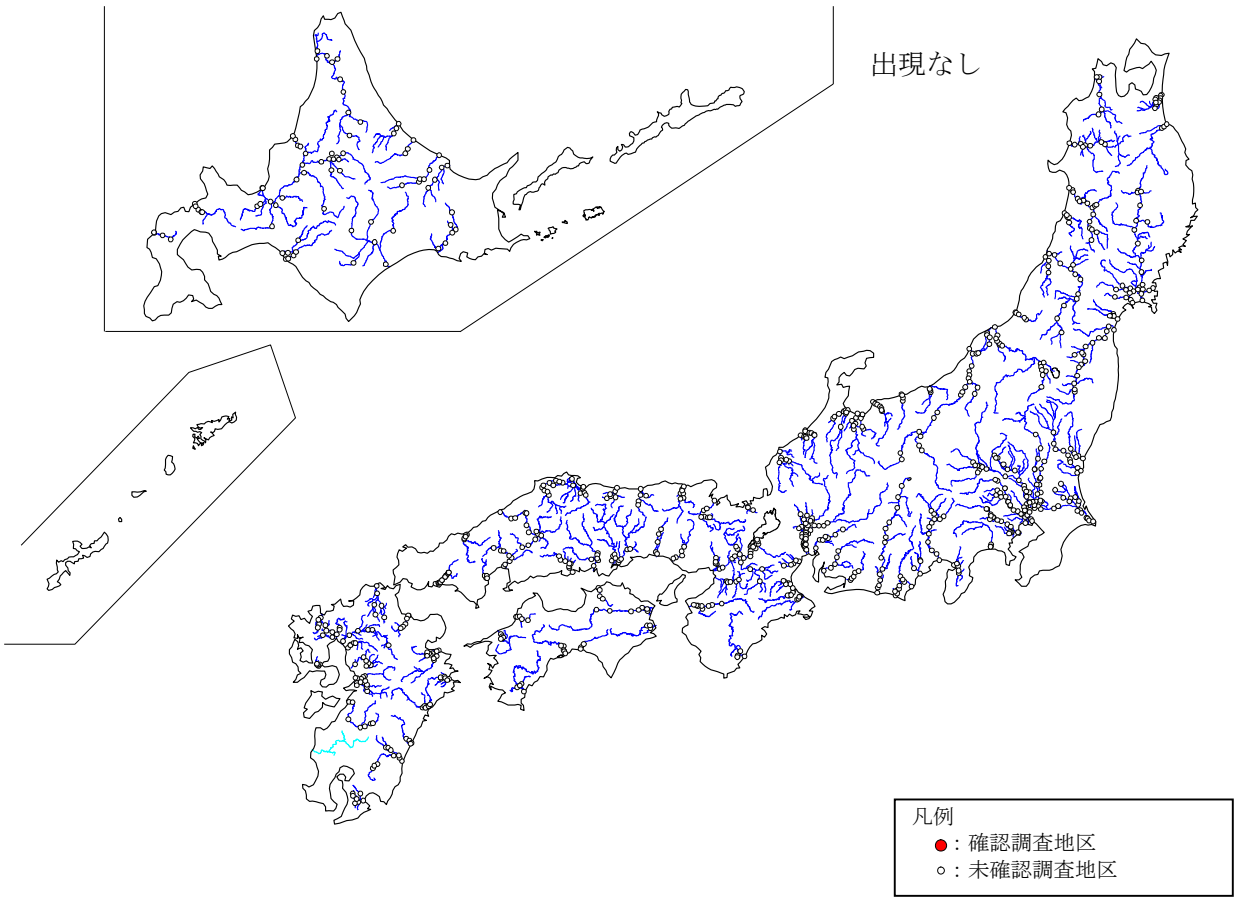
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

セアカゴケグモの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



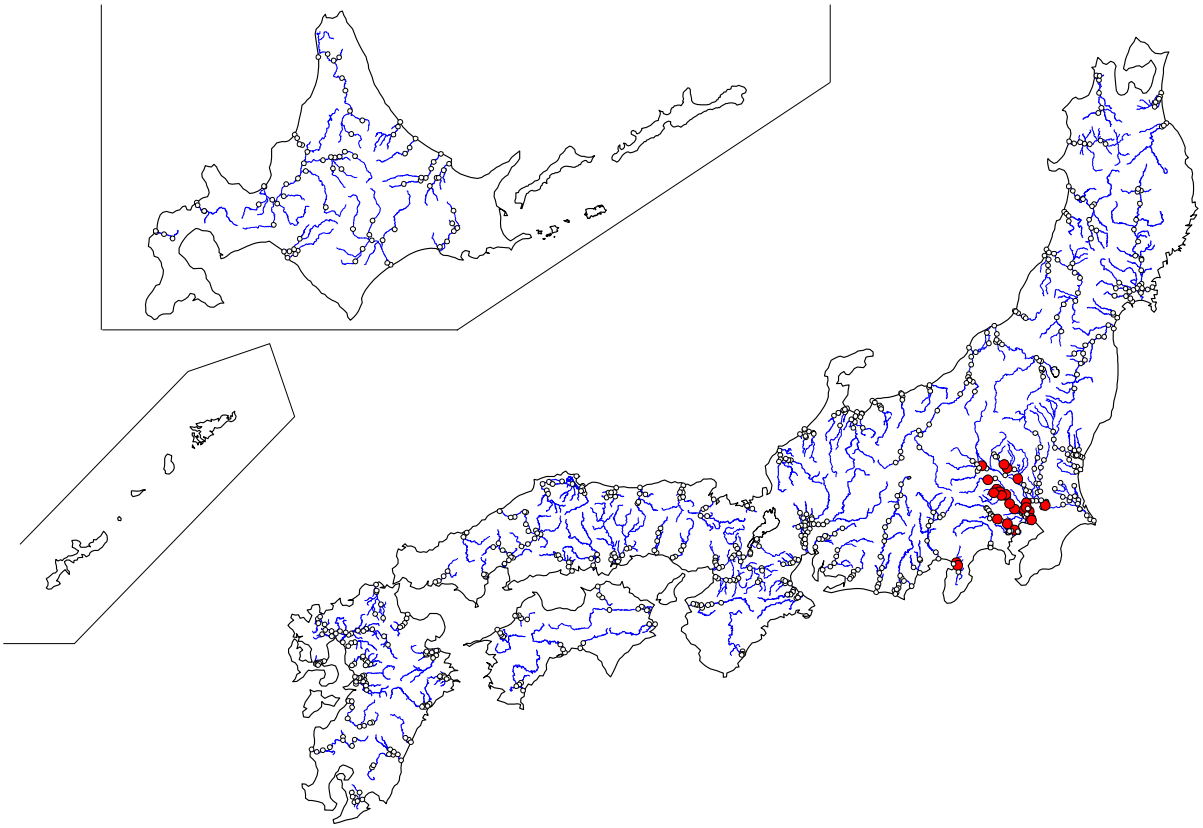
３巡目調査（平成 13～17 年度）



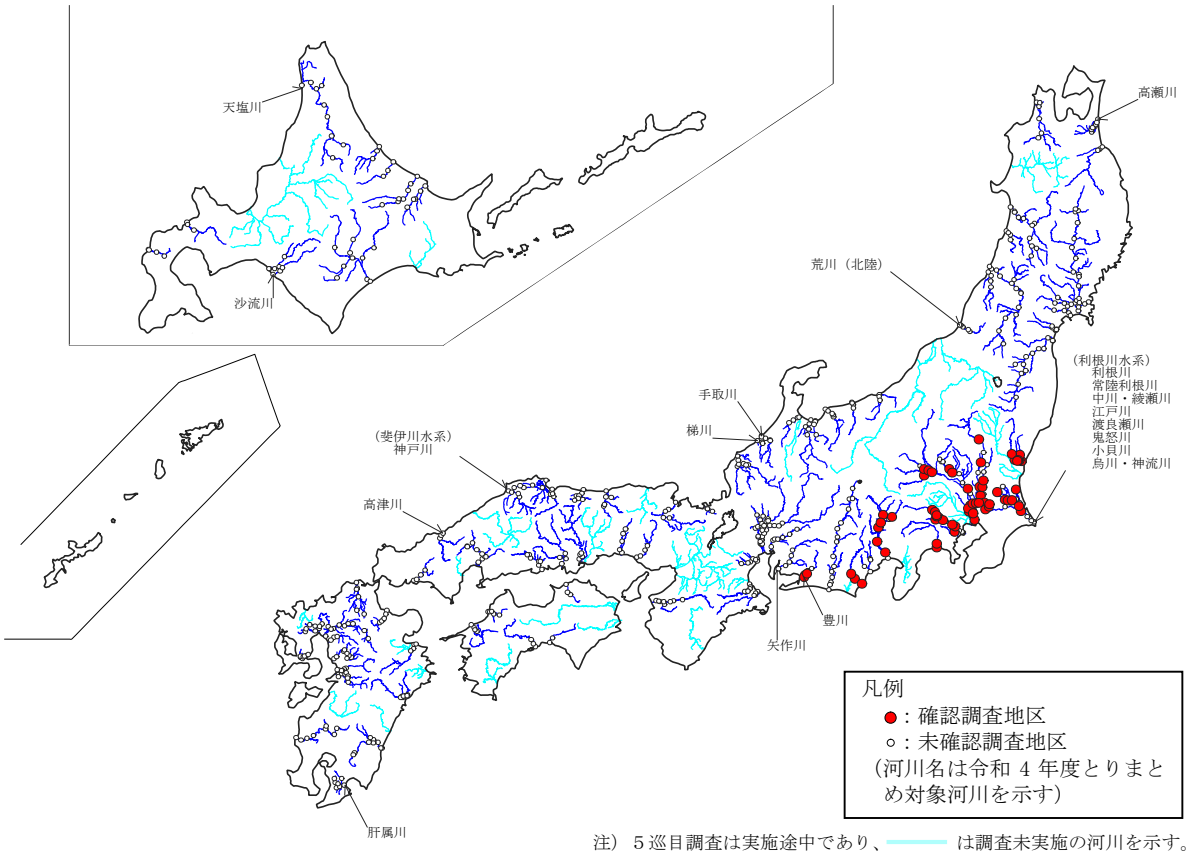
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アカボシゴマダラの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



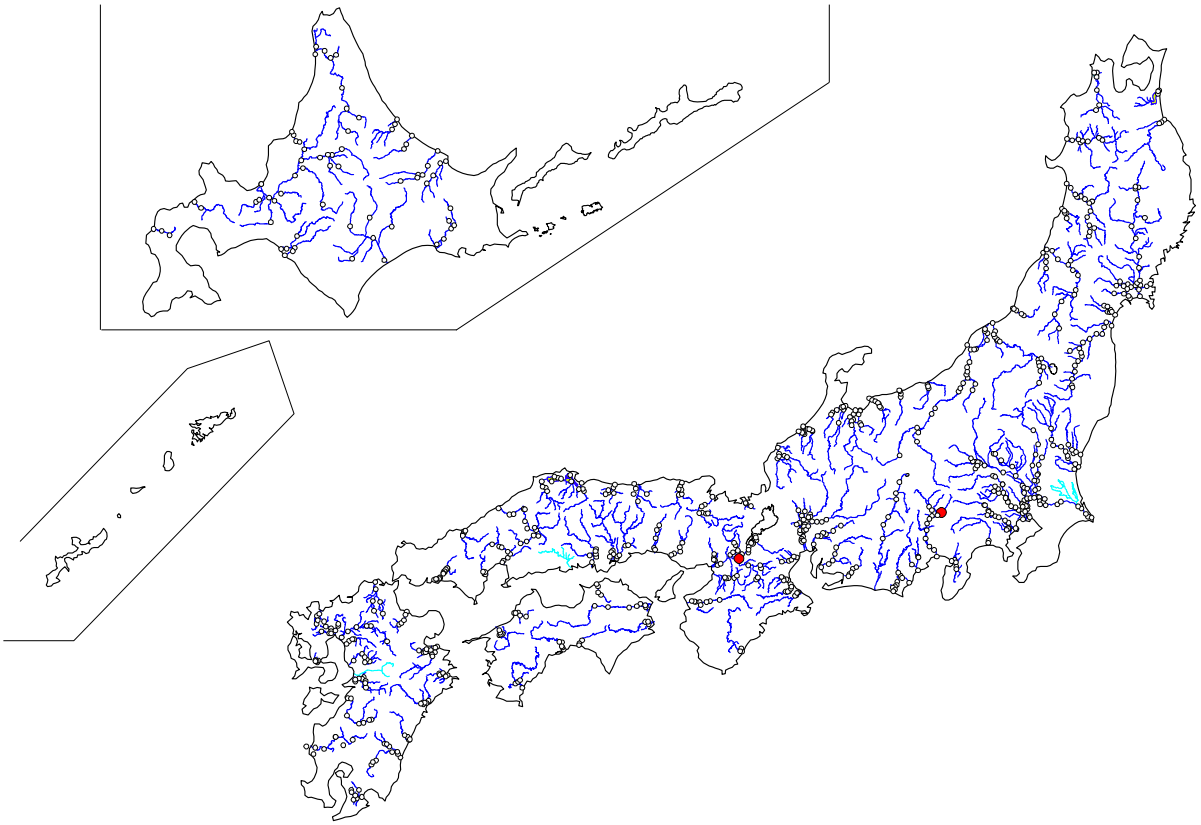
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



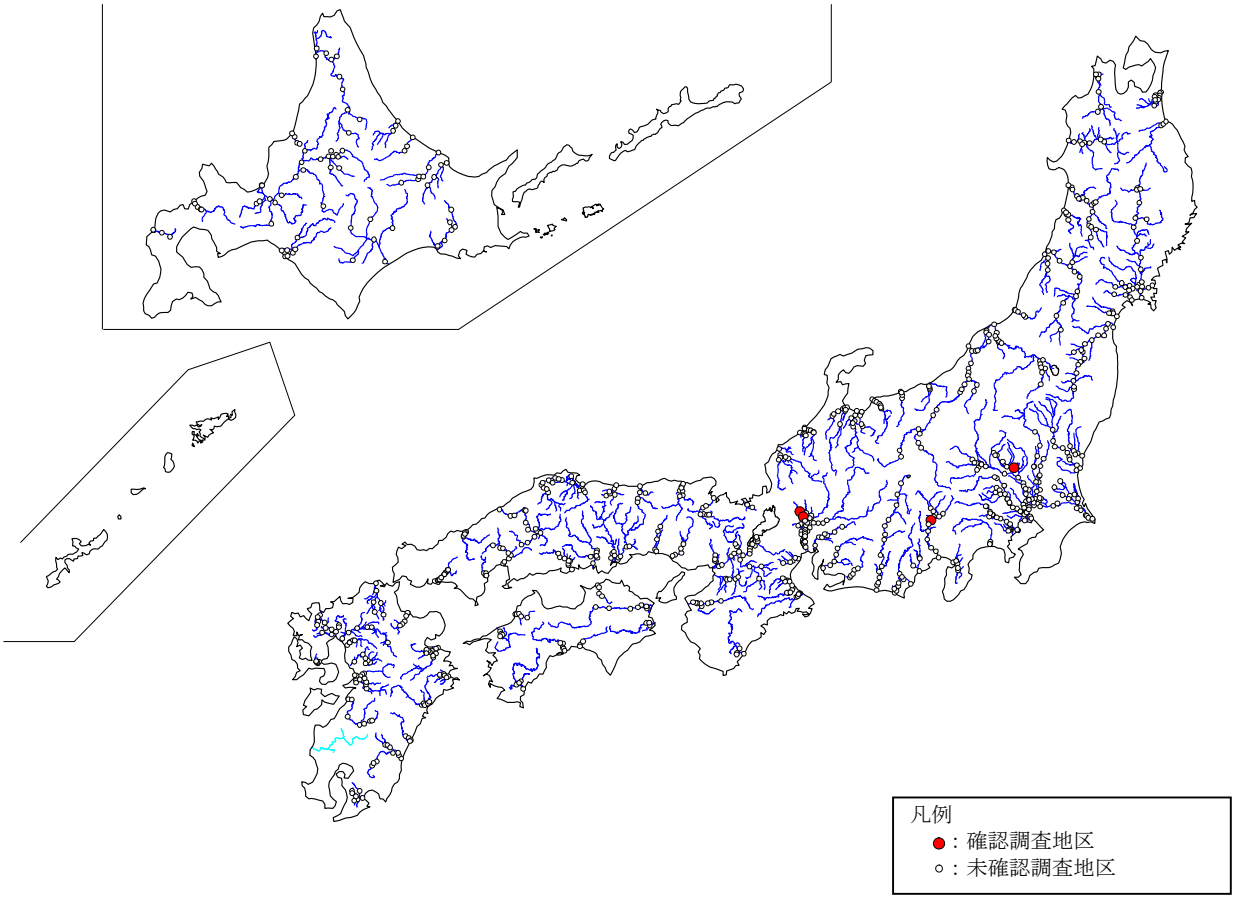
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

アカボシゴマダラの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



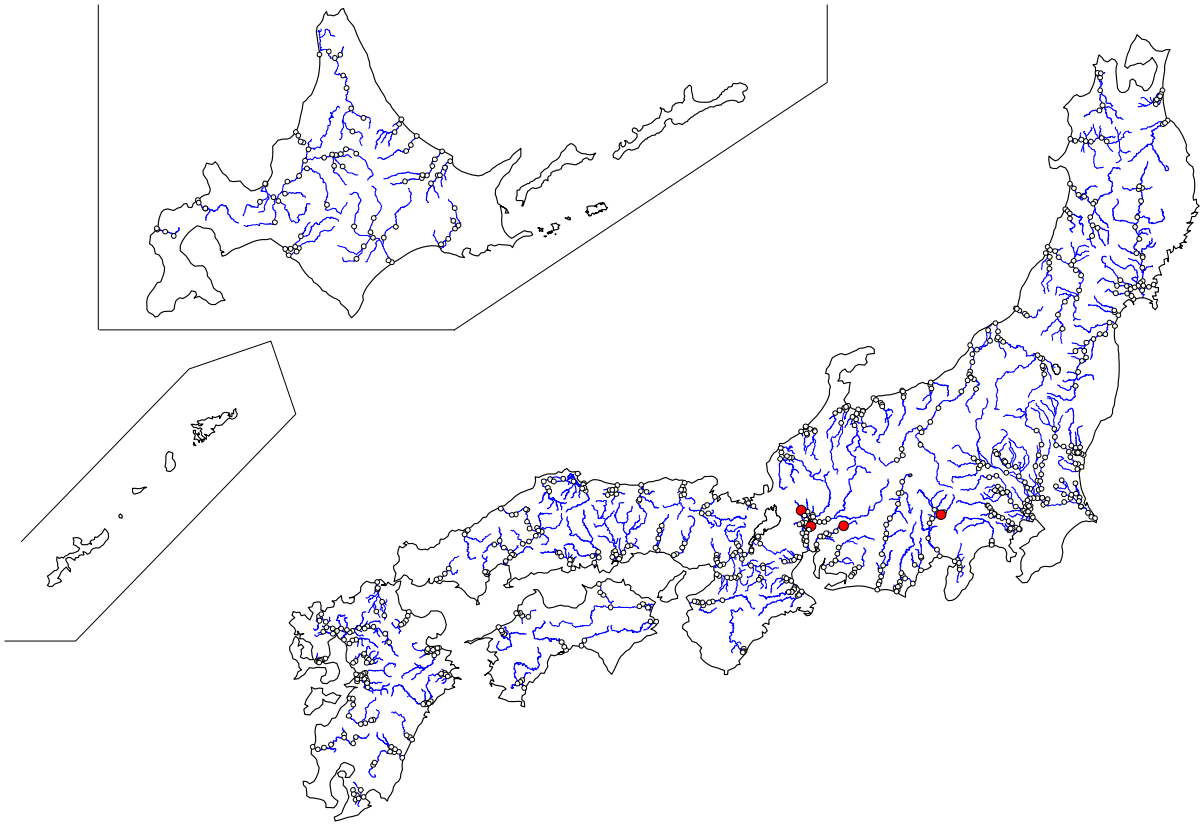
３巡目調査（平成 13～17 年度）



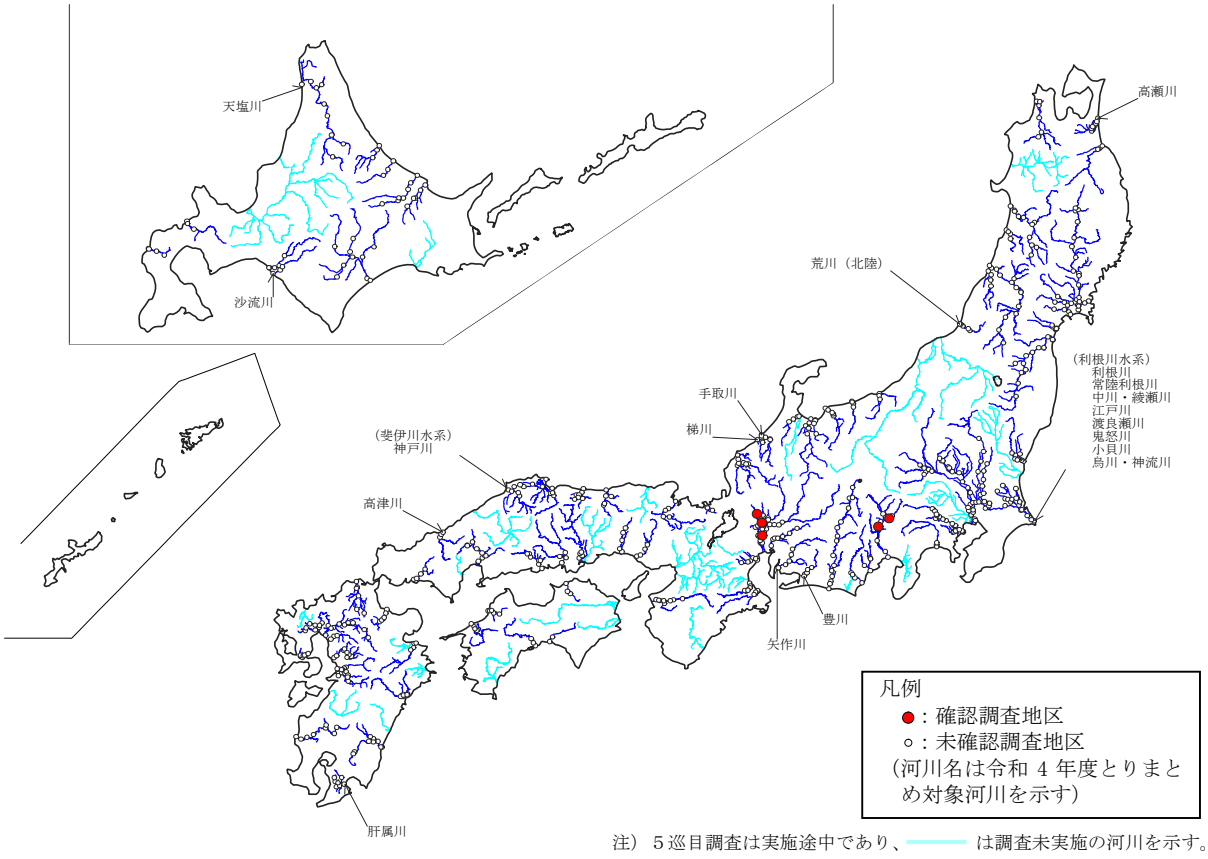
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ホソオチョウの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



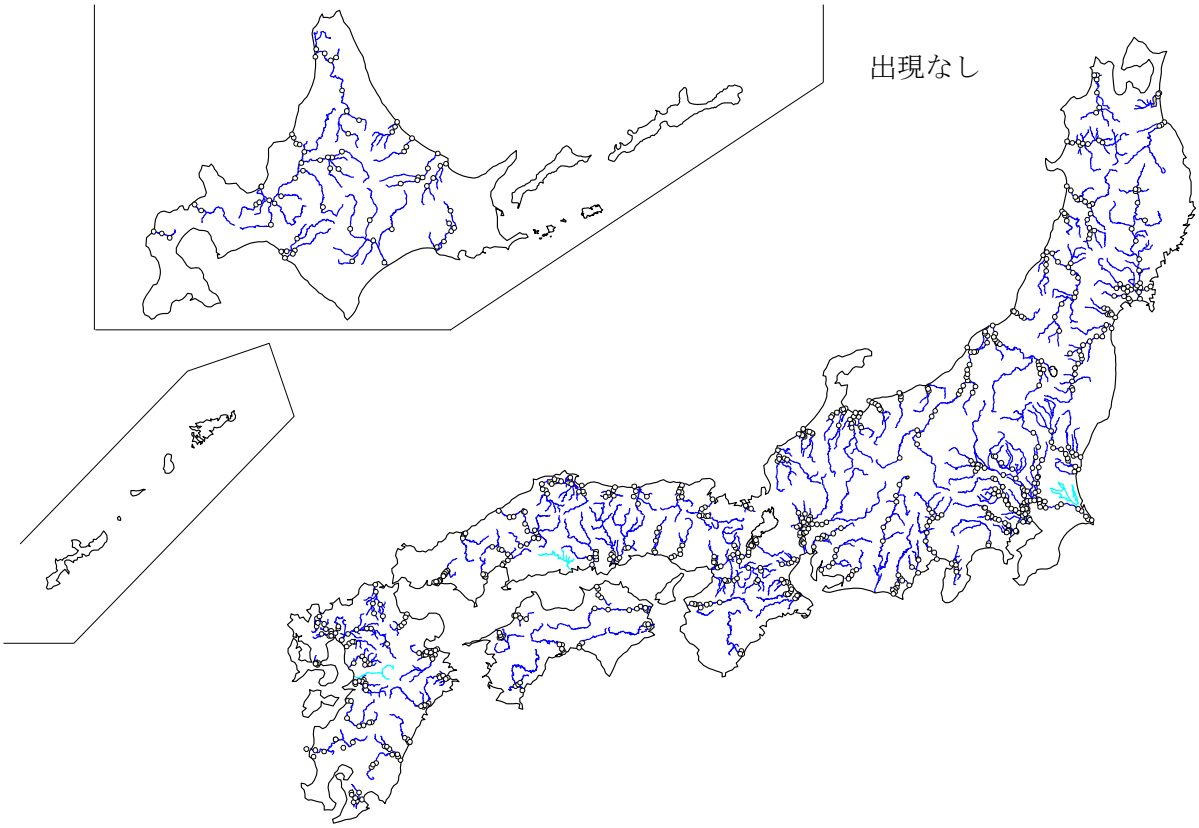
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



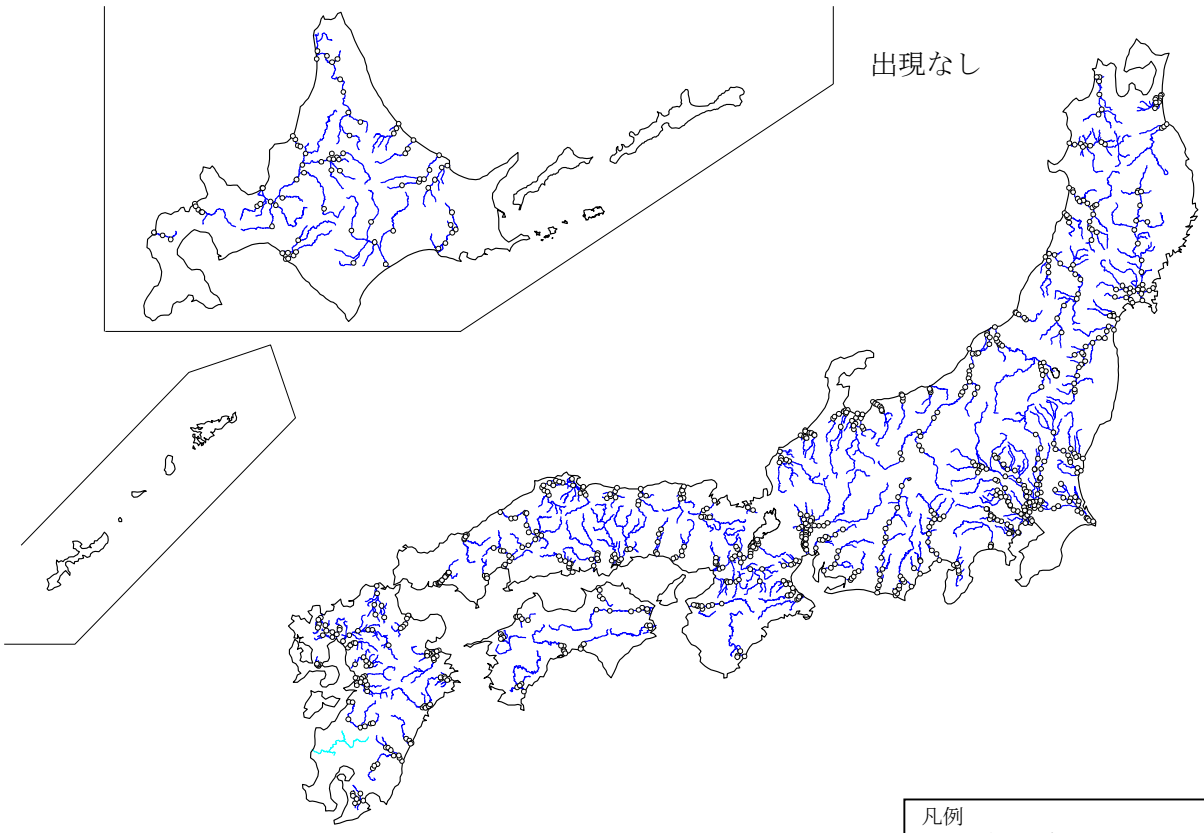
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ホソオチョウの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



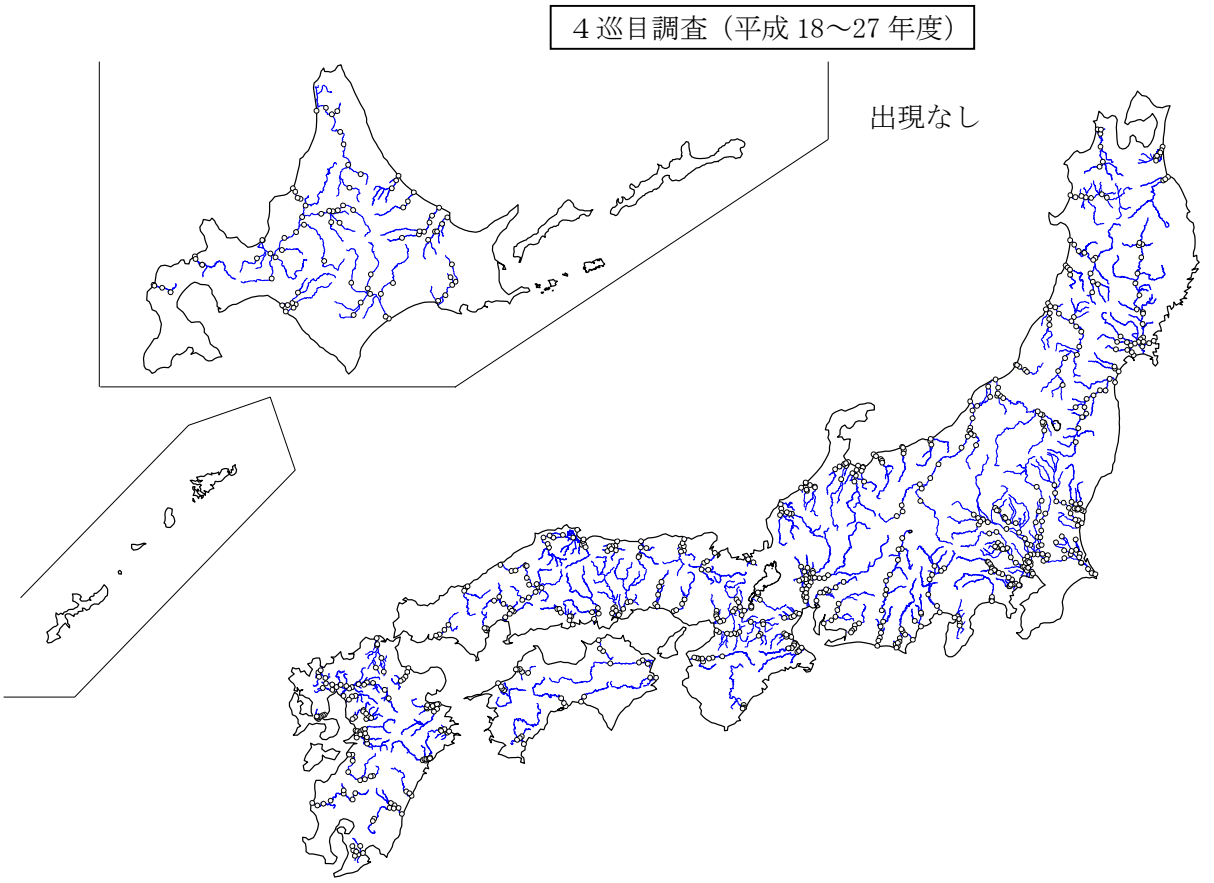
３巡目調査（平成 13～17 年度）

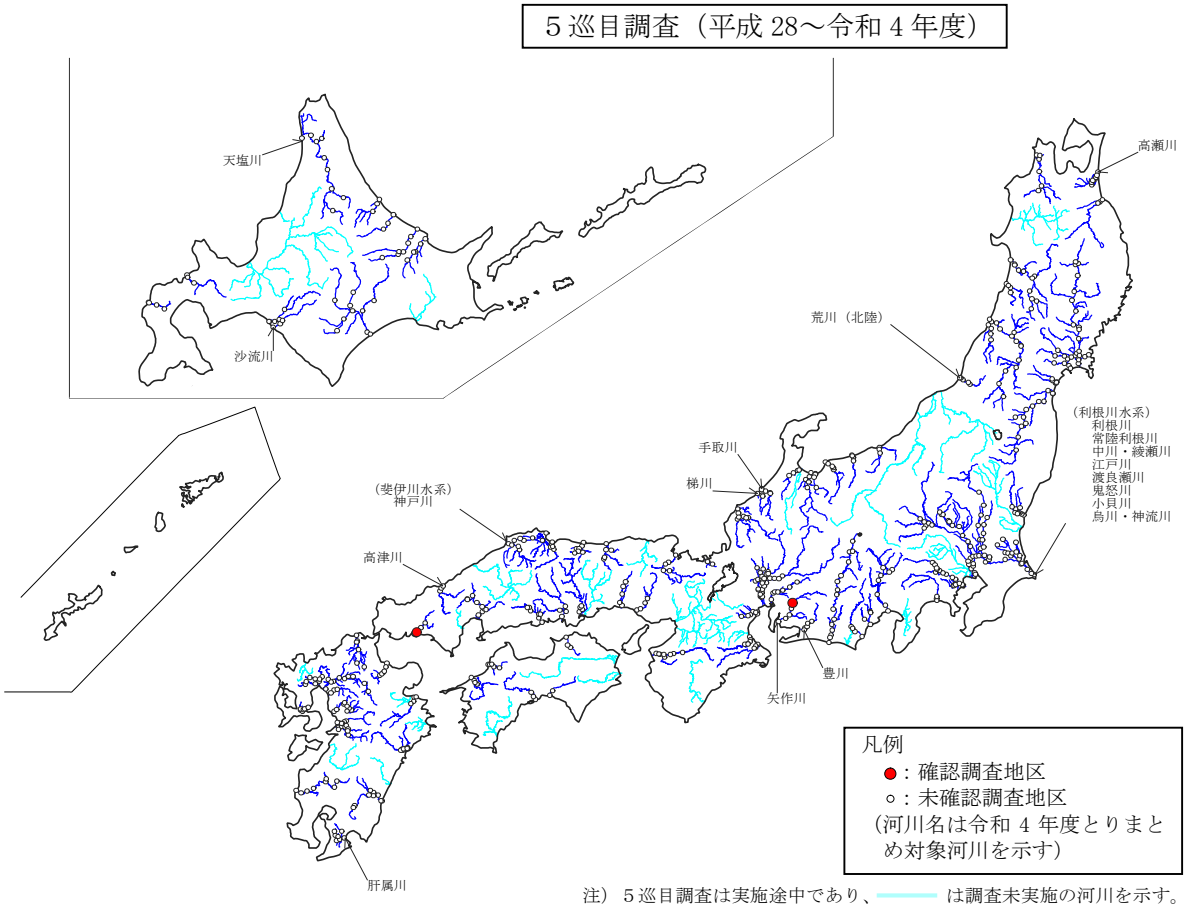


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

注5) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注6) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ツヤハダゴマダラカミキリの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

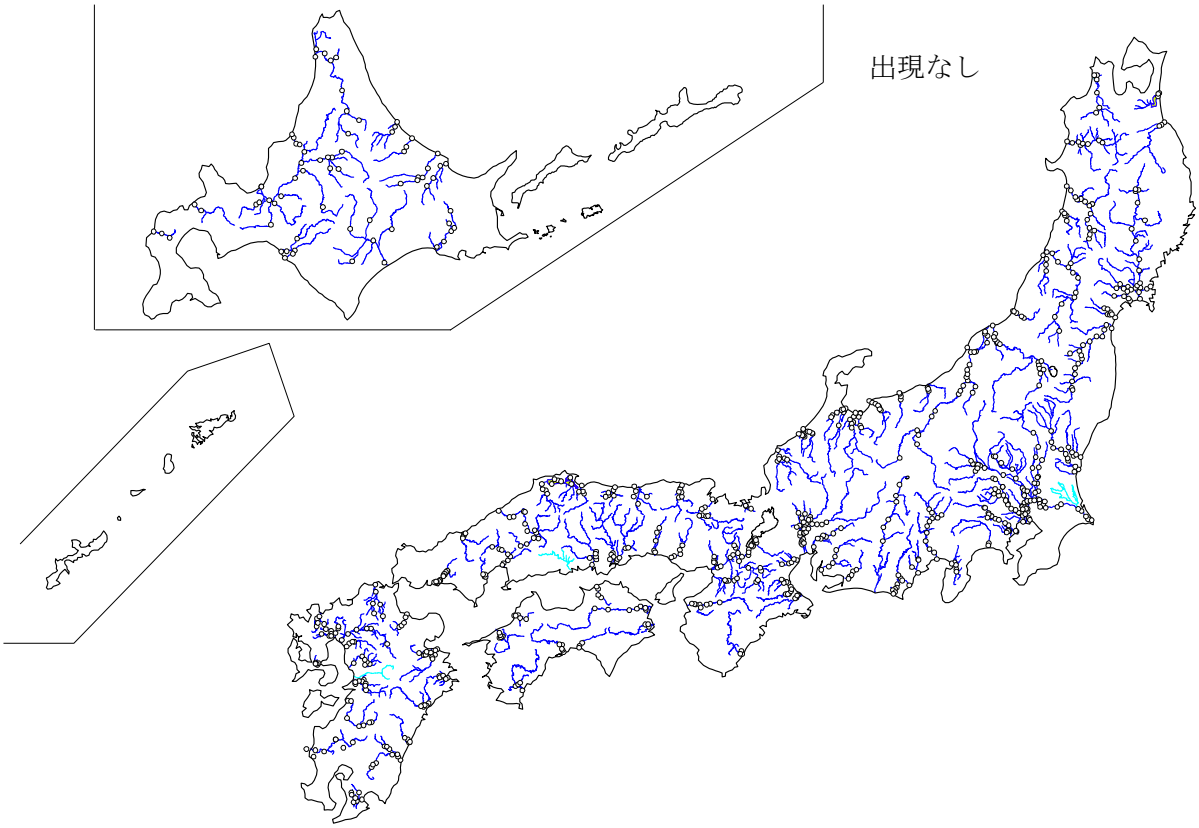




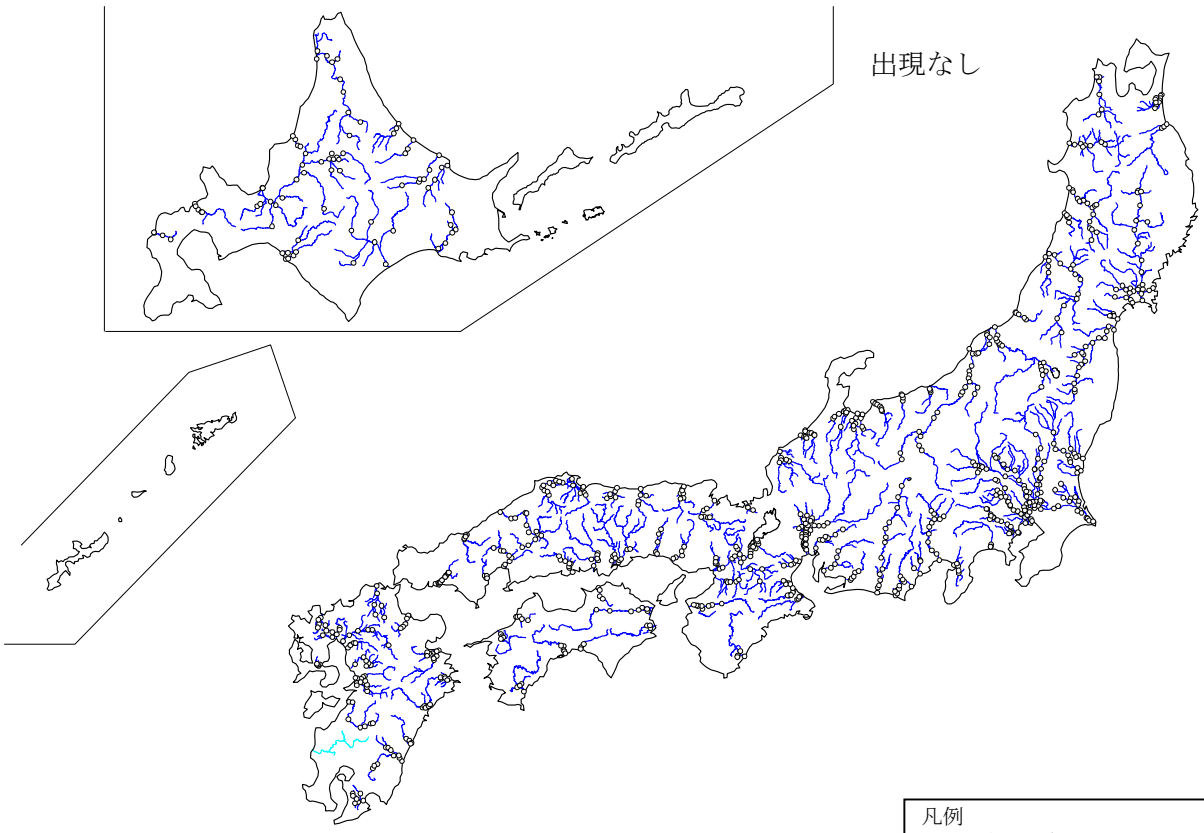
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ツヤハダゴマダラカミキリの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

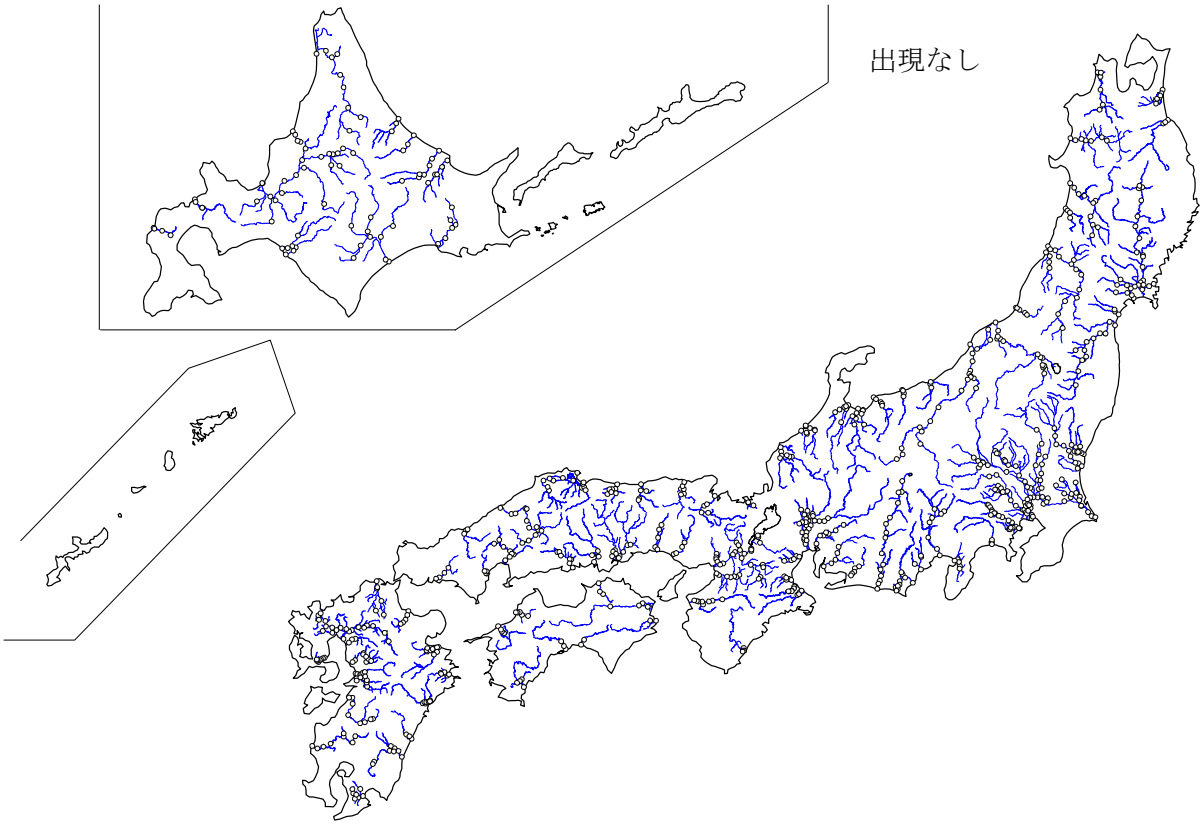


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

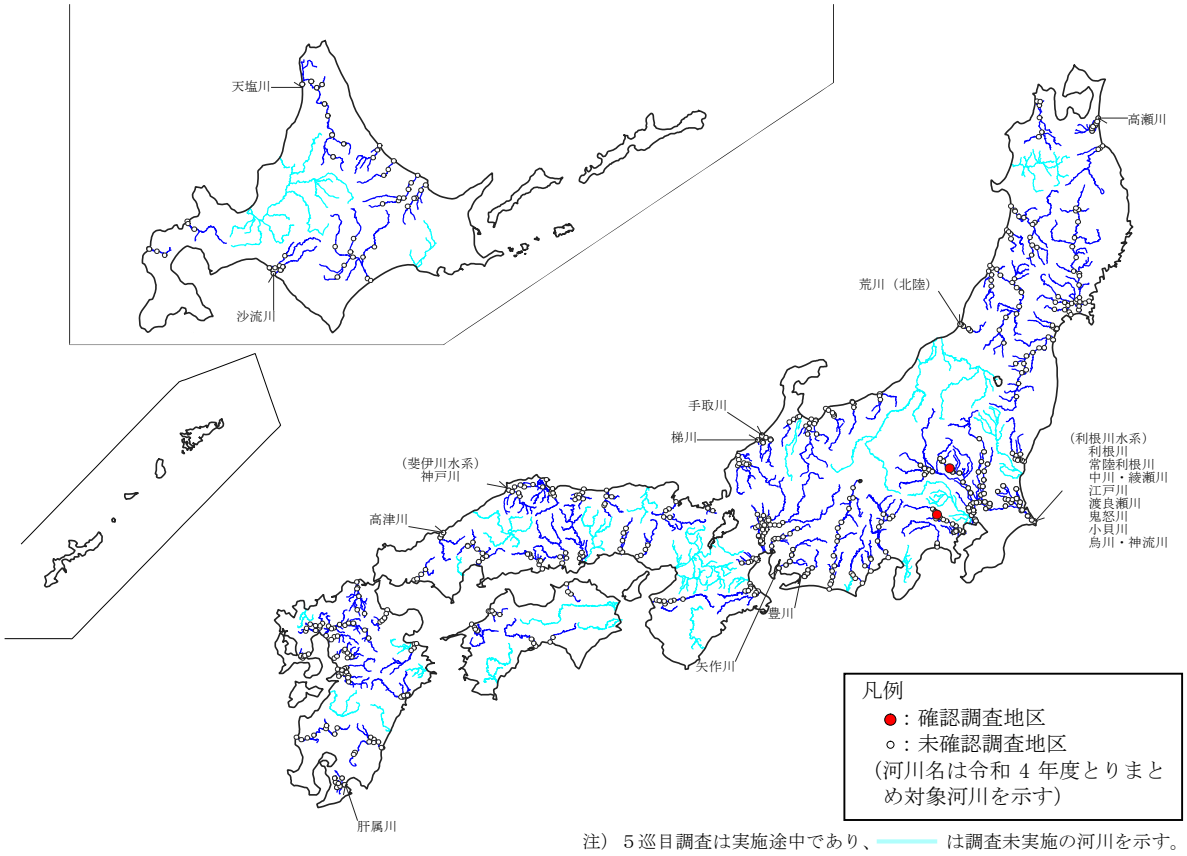
注9) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注10) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

クビアカツヤカミキリの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



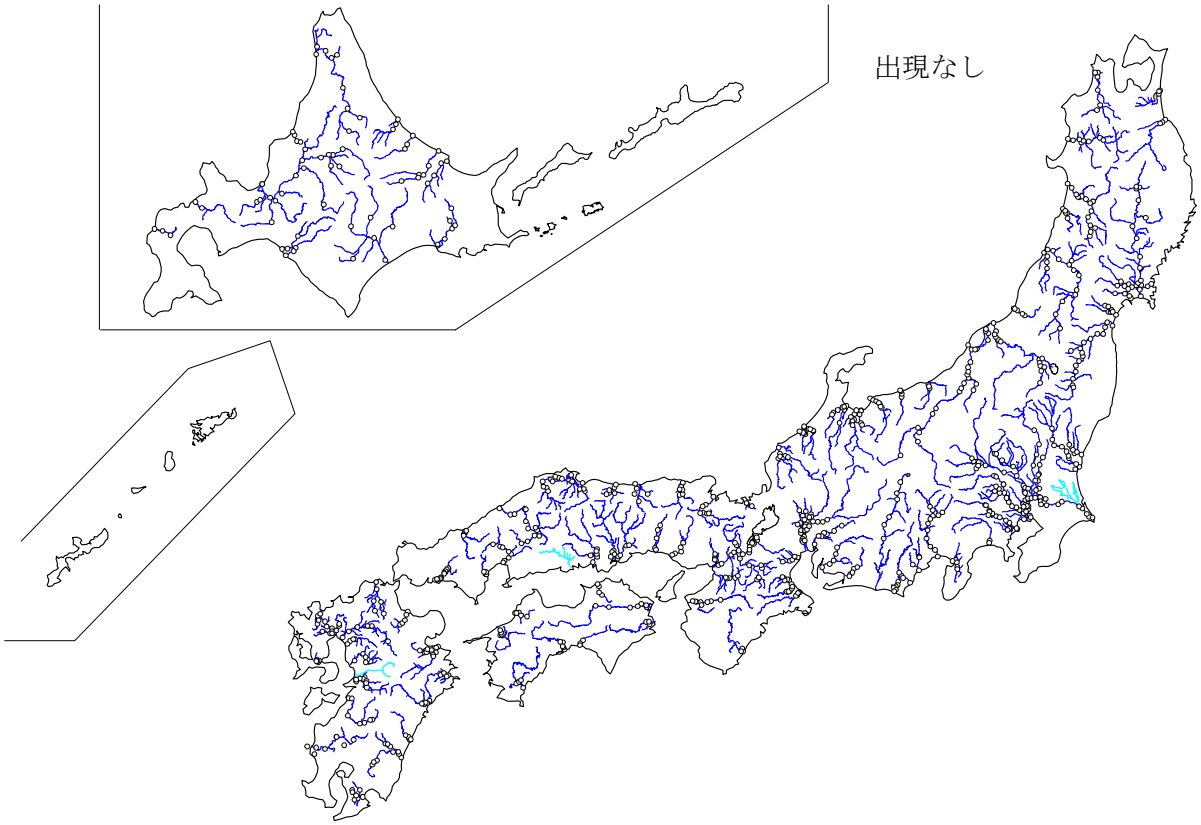
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



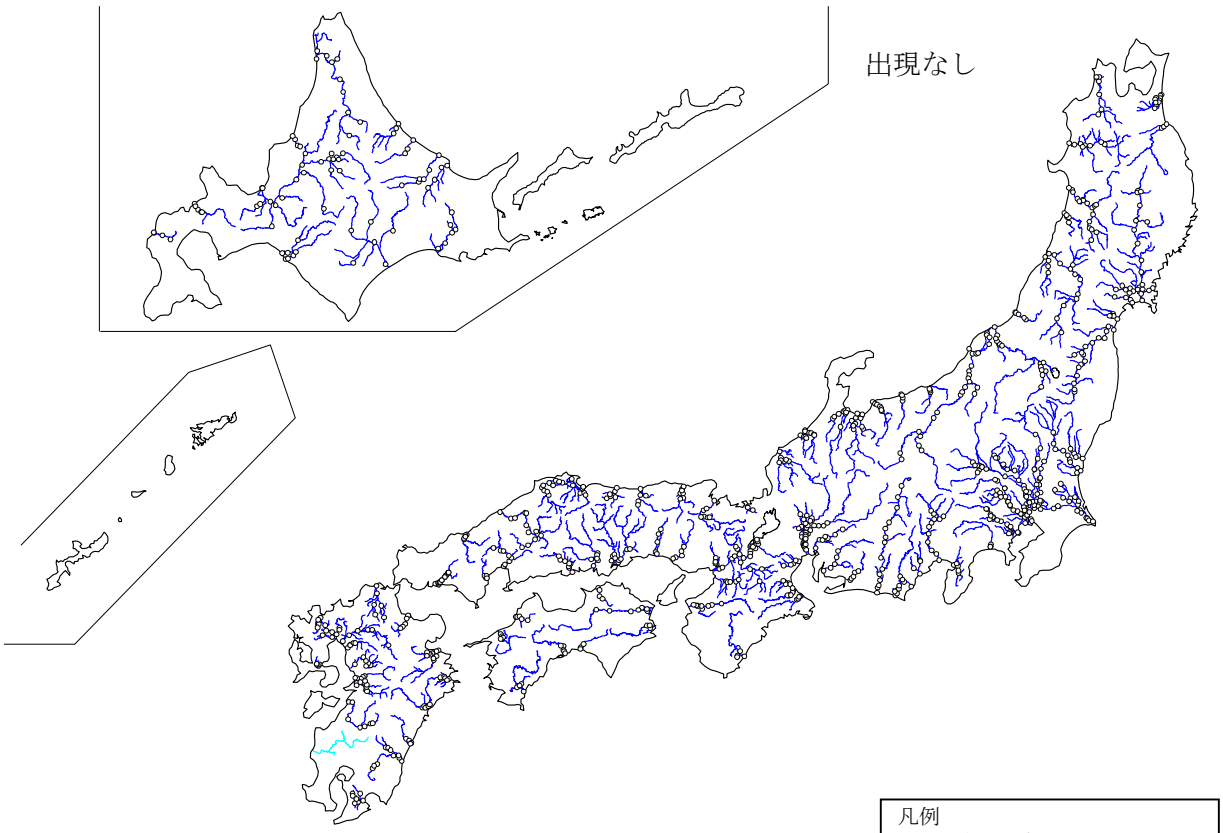
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

クビアカツヤカミキリの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



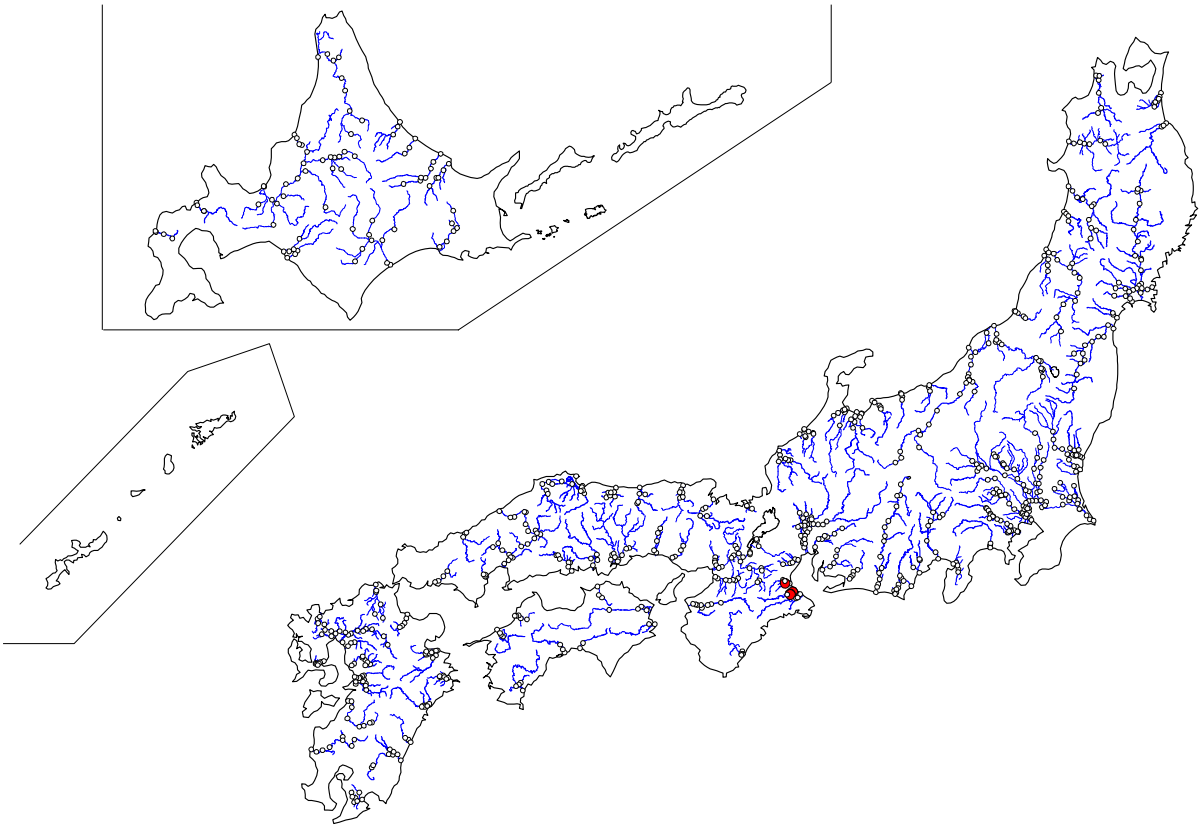
３巡目調査（平成 13～17 年度）



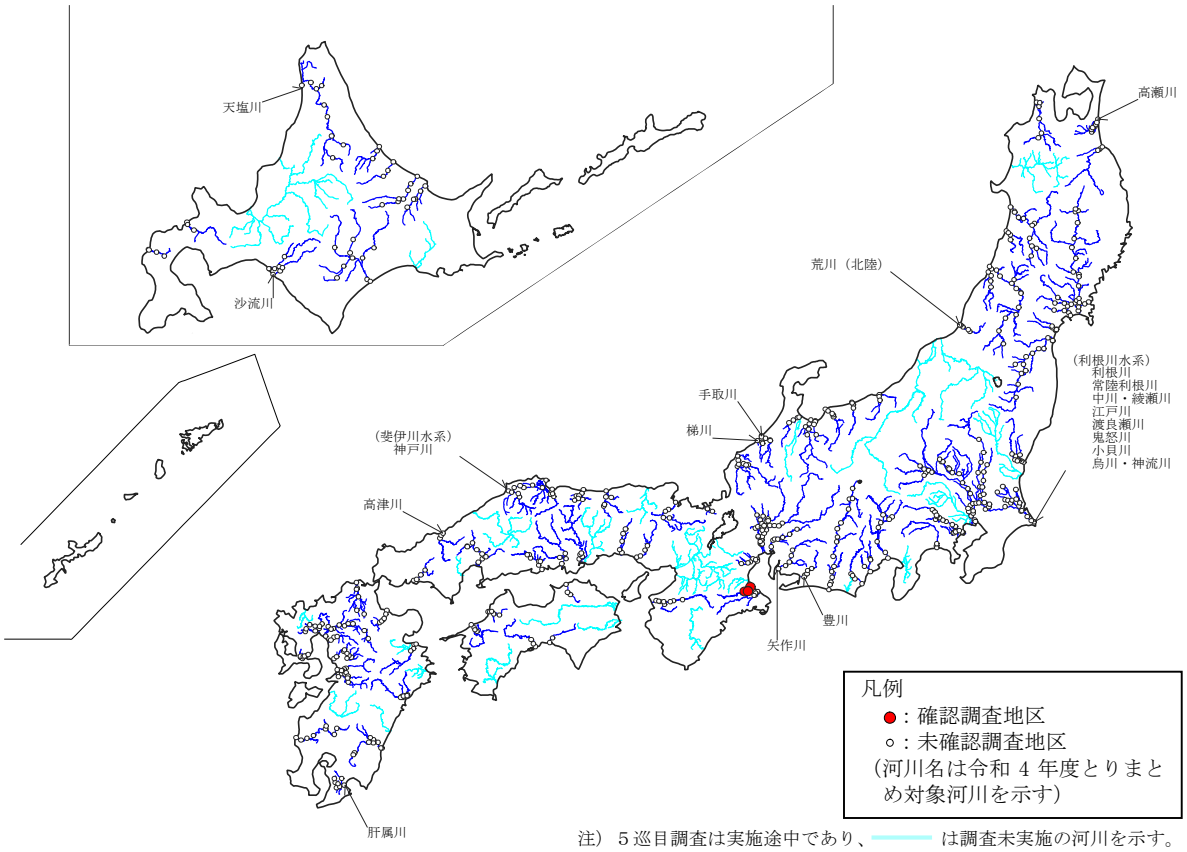
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

フェモラータオオモモブトハムシの確認された調査地区
（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



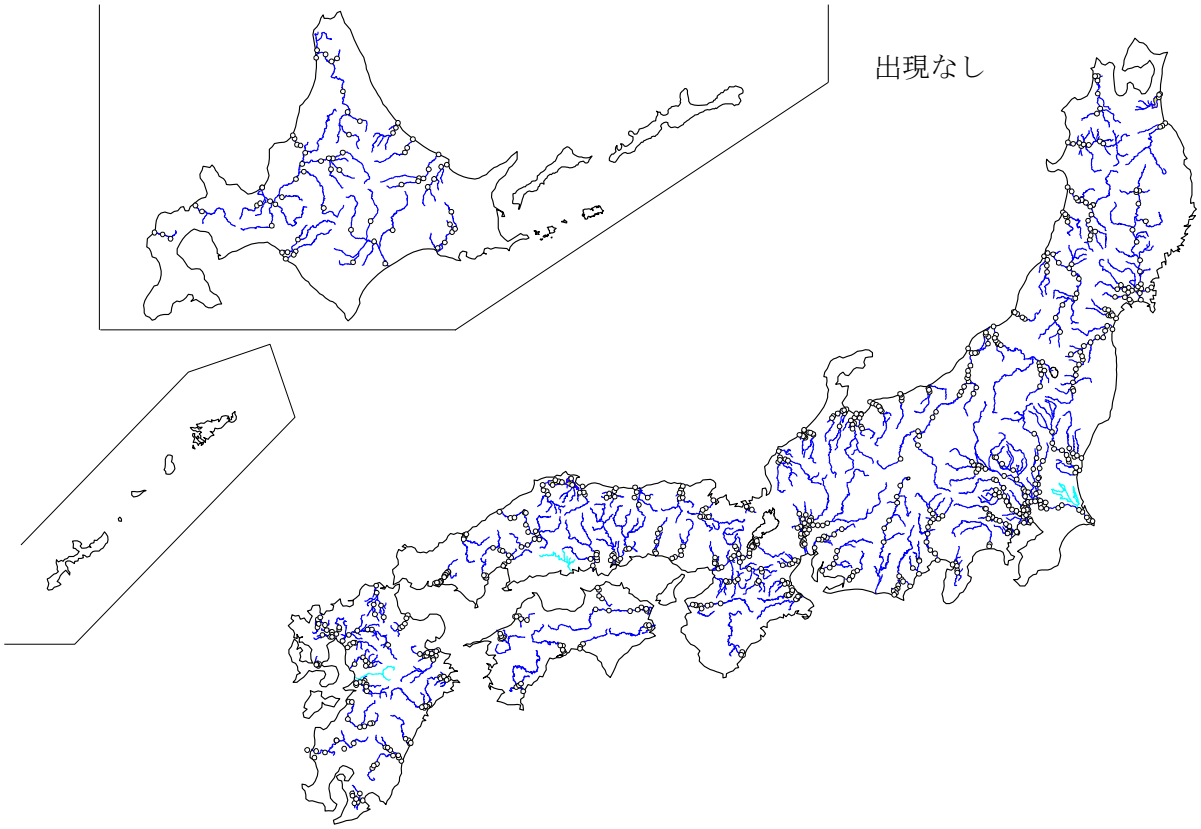
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



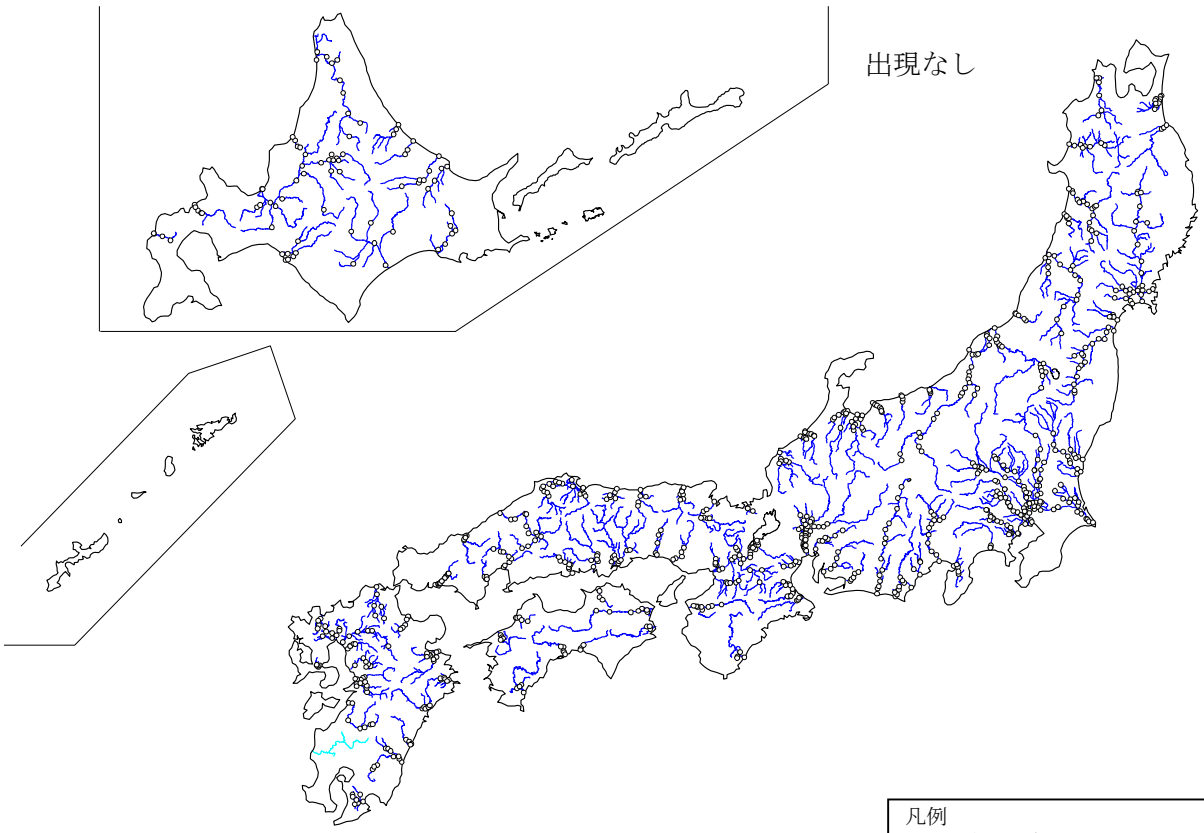
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

フェモラータオオモモブトハムシの確認された調査地区
（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

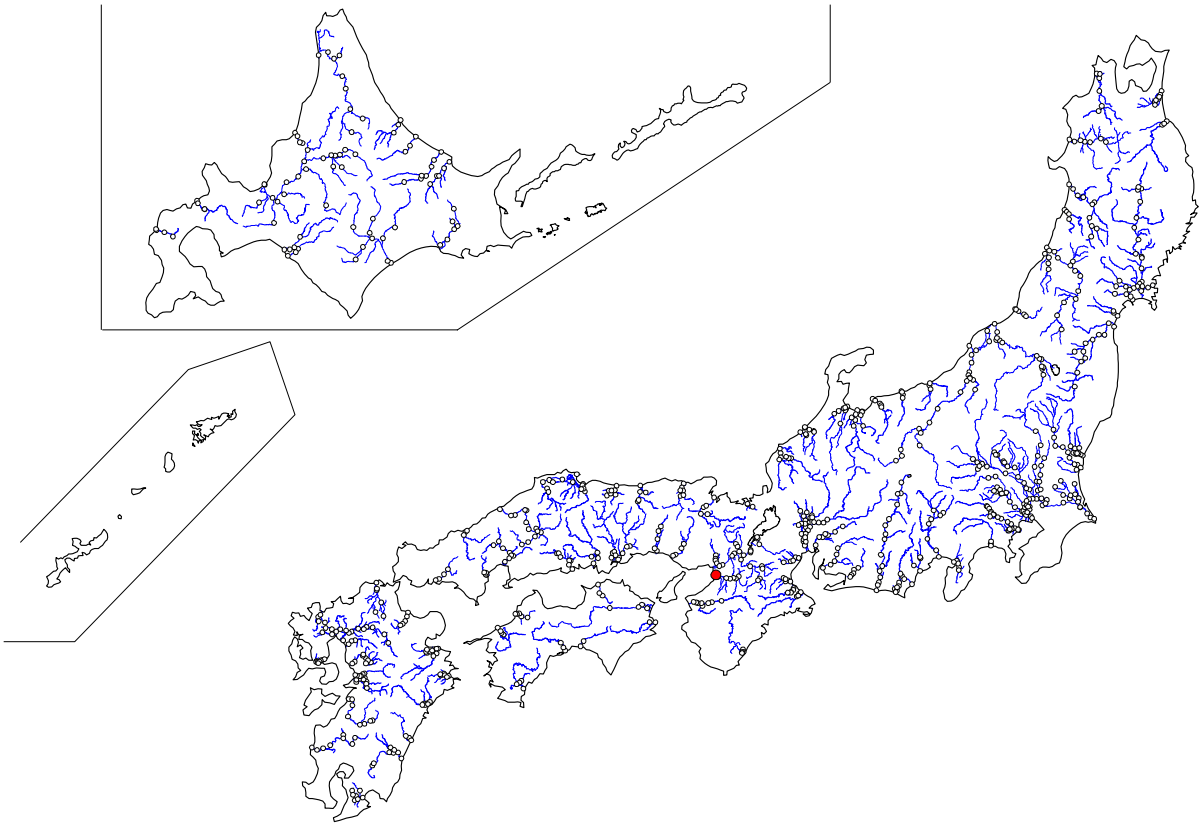


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

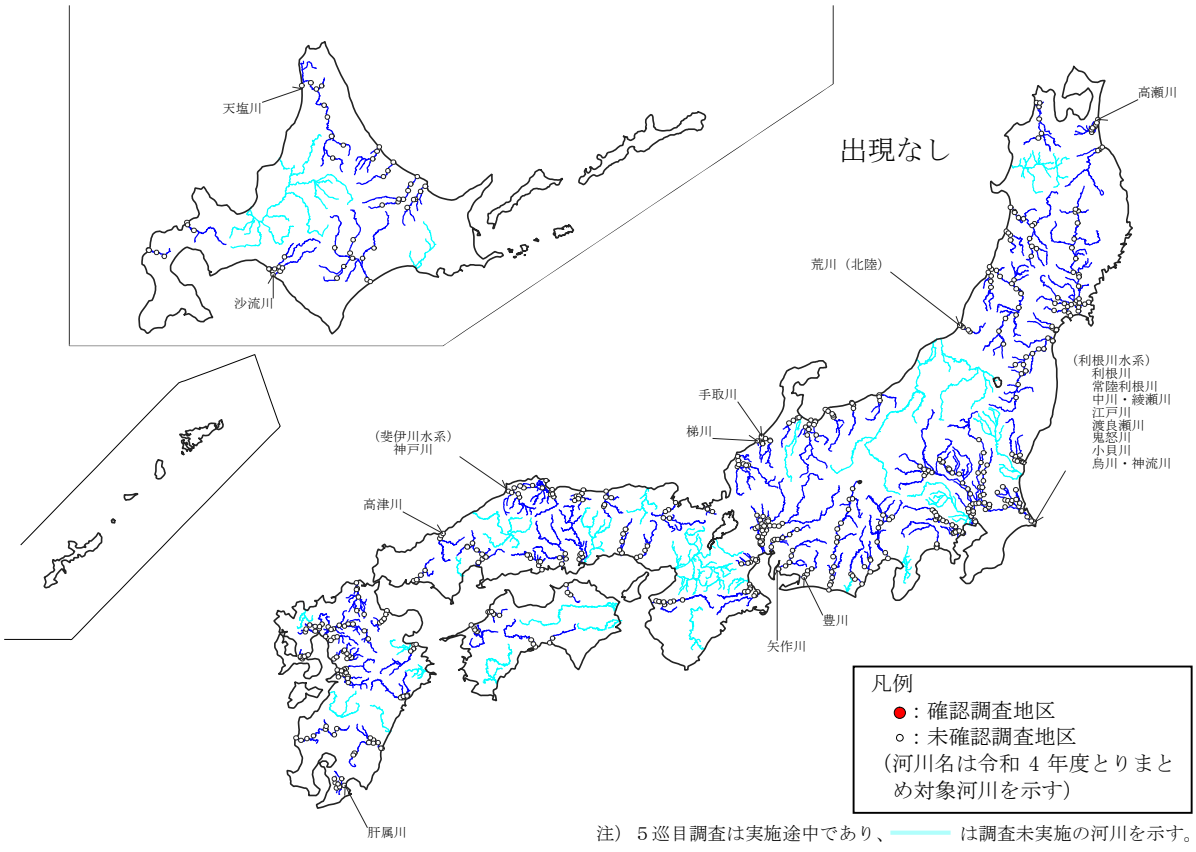
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アルゼンチンアリの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



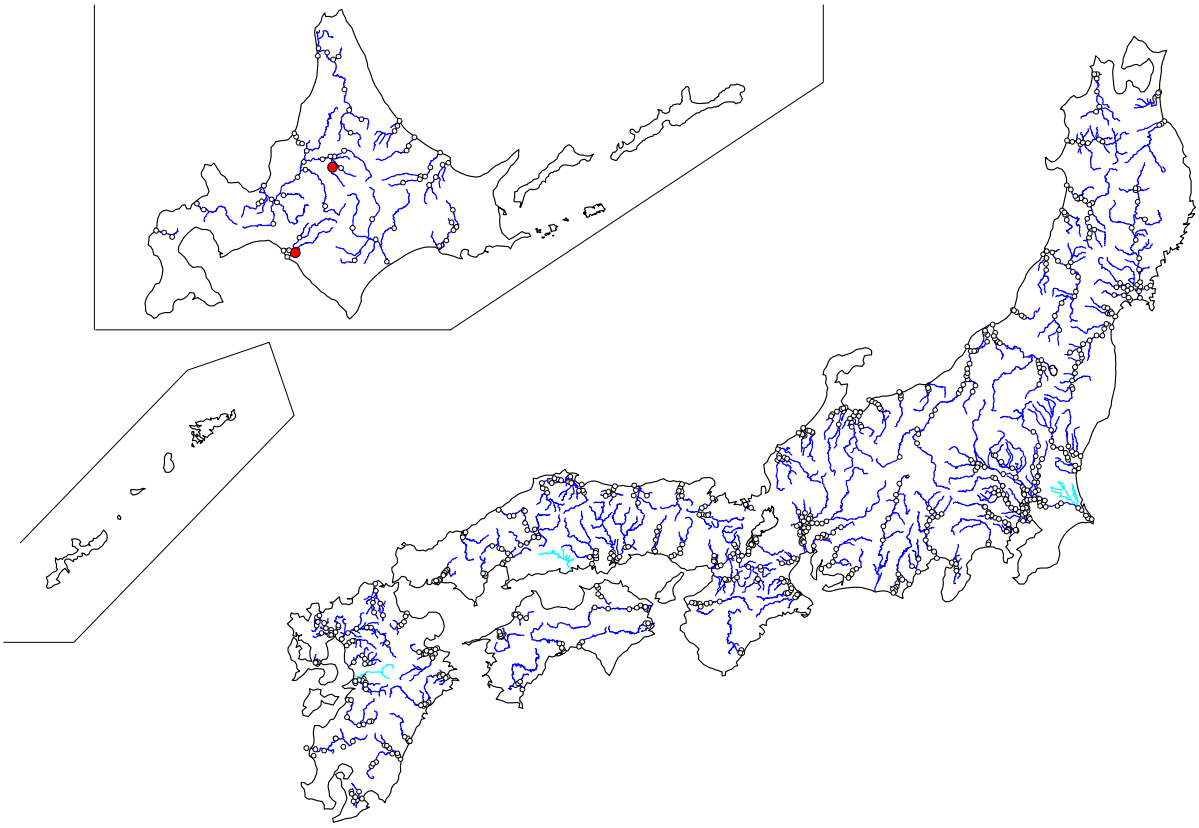
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



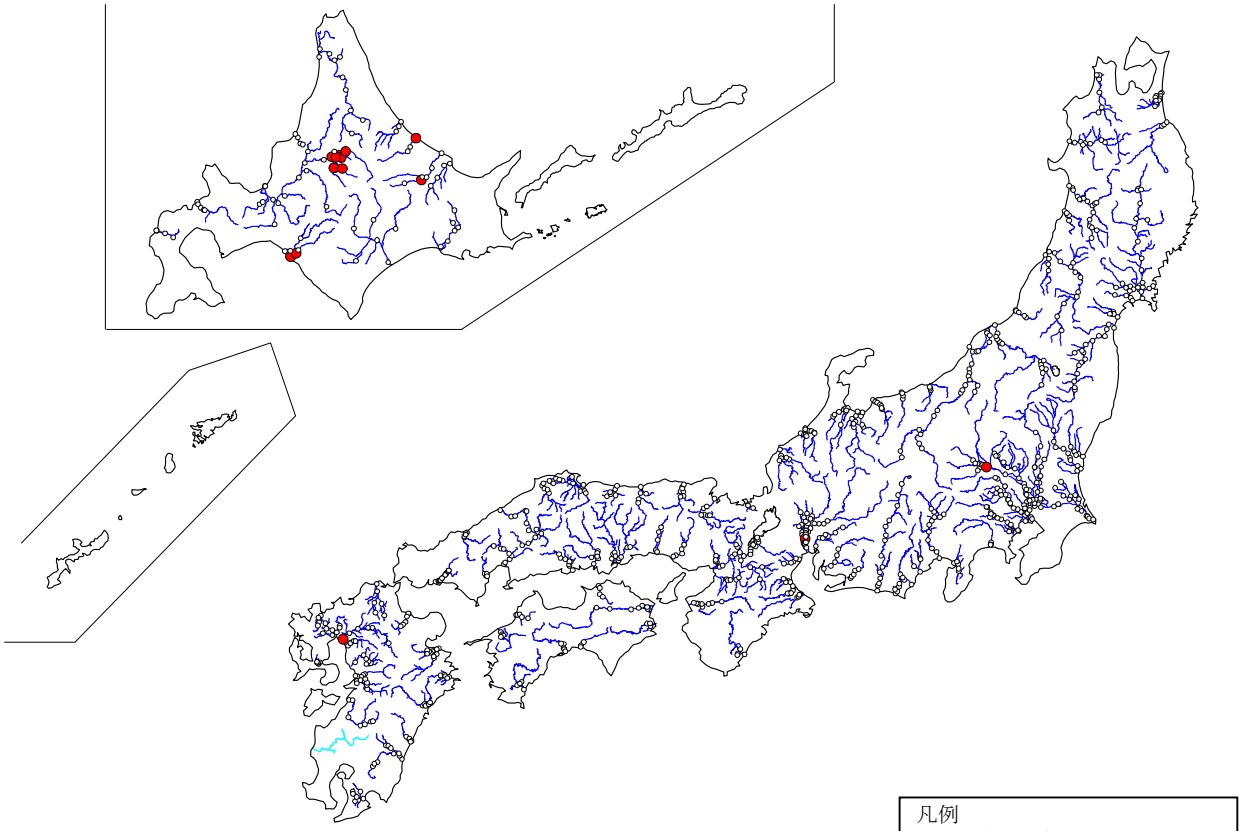
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

アルゼンチンアリの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



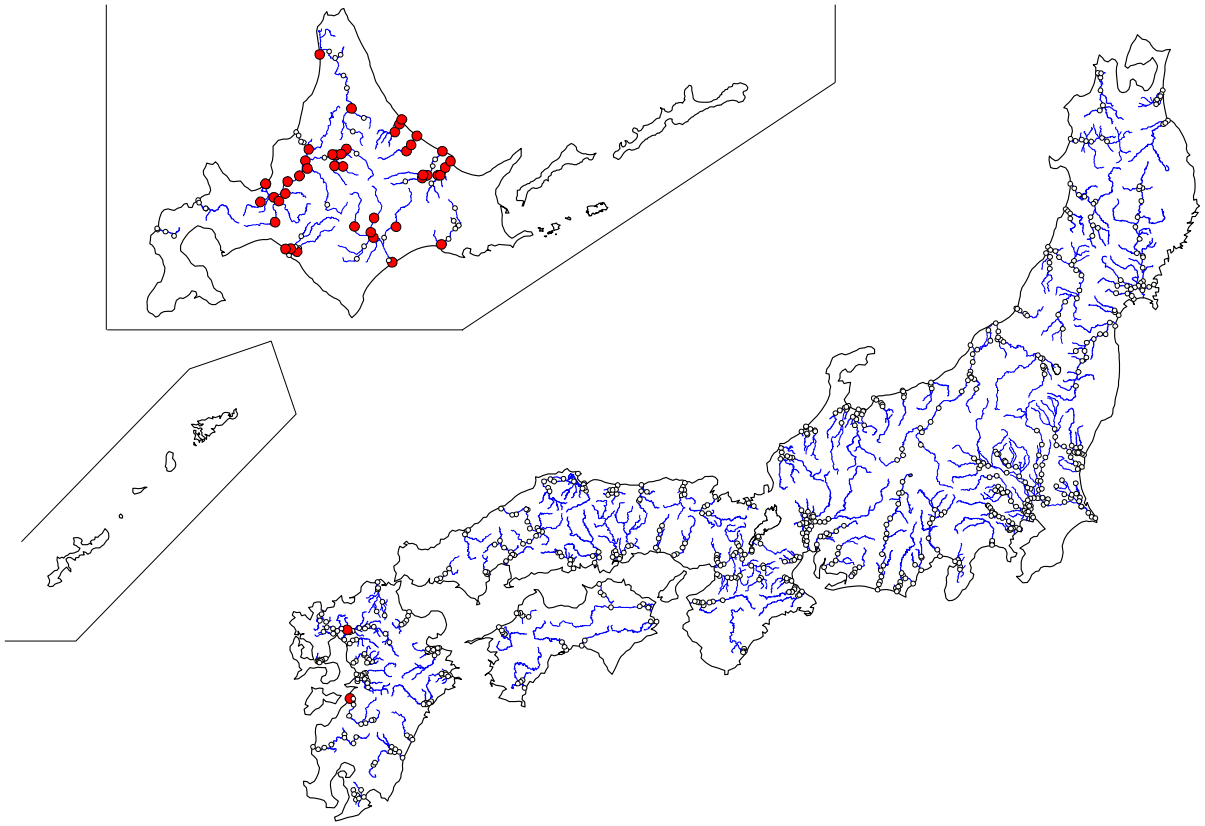
３巡目調査（平成 13～17 年度）



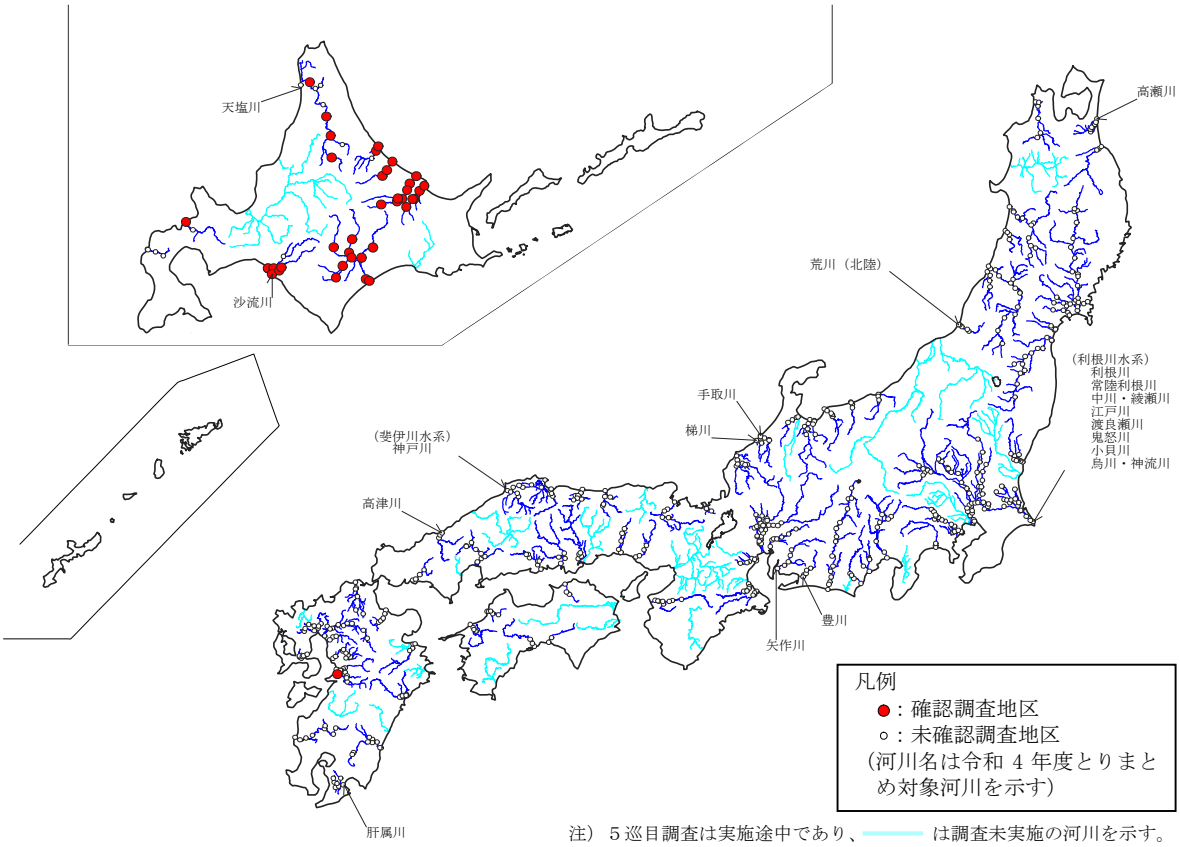
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

セイヨウオオマルハナバチの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



５巡目調査（平成 28～令和４年度）



注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

セイヨウオオマルハナバチの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

【生物多様性の攪乱②：国外外来種の分布状況（その他の国外外来種）　アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチの確認状況】

（陸上昆虫類等調査）

- **アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチを複数の河川での河川水辺の国勢調査で初確認**

河川環境と関わりの深い国外外来種、アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチの 10 種を取り上げました。

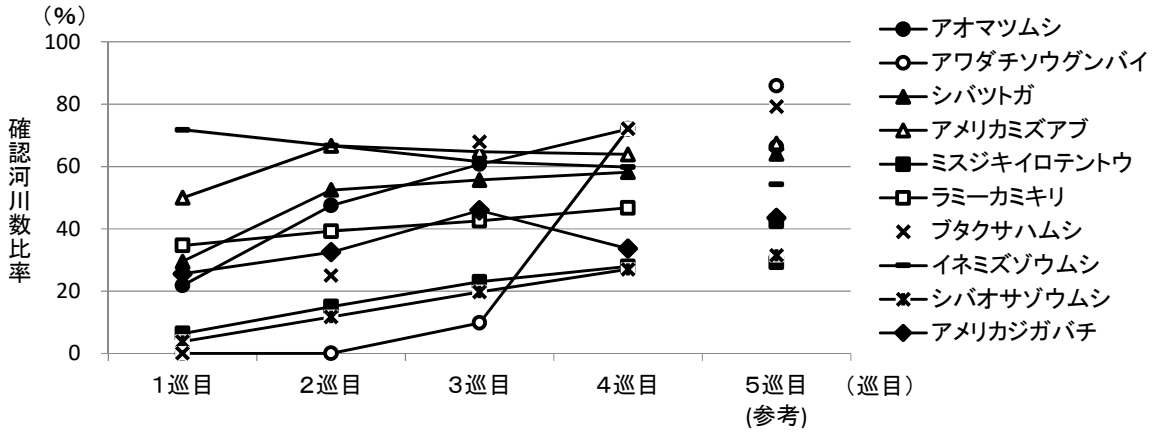
今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）のうち、アオマツムシは関東地方の中川・綾瀬川での、アワダチソウグンバイは北陸地方の荒川、梯川、中部地方の矢作川での、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリは関東地方の江戸川での、ブタクサハムシは北海道地方の沙流川、九州地方の肝属川での、シバオサゾウムシは関東地方の渡良瀬川、小貝川、九州地方の肝属川での、アメリカジガバチは関東地方の鬼怒川での河川水辺の国勢調査では、それぞれ初めての確認となります。

（資料掲載：6-48～6-67 ページ、6-110～6-113 ページ）

注）ミスジキイロテントウ、イネミズゾウムシ以外の画像は、過年度報告書から転用した。

１～５巡目調査の確認河川数の比較

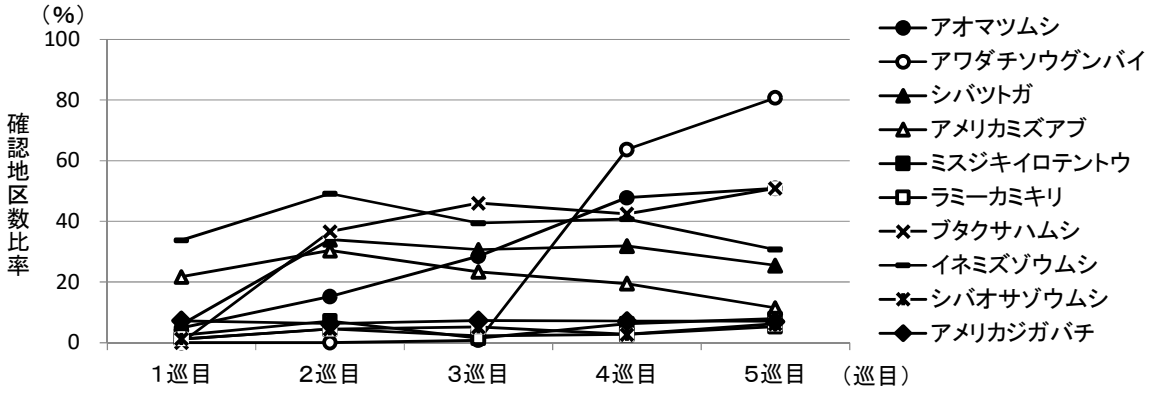
種類	１巡目調査 (78 河川)	２巡目調査 (120 河川)	３巡目調査 (122 河川)	４巡目調査 (122 河川)	５巡目調査 (92 河川)
アオマツムシ	17 河川 〔21.8〕	57 河川 〔47.5〕	74 河川 〔60.7〕	88 河川 〔72.1〕	61 河川 〔66.3〕
アワダチソウグンバイ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	12 河川 〔9.8〕	88 河川 〔72.1〕	79 河川 〔85.9〕
シバツトガ	23 河川 〔29.5〕	63 河川 〔52.5〕	68 河川 〔55.7〕	71 河川 〔58.2〕	59 河川 〔64.1〕
アメリカミズアブ	39 河川 〔50.0〕	80 河川 〔66.7〕	79 河川 〔64.8〕	78 河川 〔63.9〕	62 河川 〔67.4〕
ミスジキイロテントウ	5 河川 〔6.4〕	18 河川 〔15.0〕	28 河川 〔23.0〕	34 河川 〔27.9〕	27 河川 〔29.3〕
ラミーカミキリ	27 河川 〔34.6〕	47 河川 〔39.2〕	52 河川 〔42.6〕	57 河川 〔46.7〕	39 河川 〔42.4〕
ブタクサハムシ	0 河川 〔0.0〕	30 河川 〔25.0〕	83 河川 〔68.0〕	88 河川 〔72.1〕	73 河川 〔79.3〕
イネミズゾウムシ	56 河川 〔71.8〕	80 河川 〔66.7〕	75 河川 〔61.5〕	73 河川 〔59.8〕	50 河川 〔54.3〕
シバオサゾウムシ	3 河川 〔3.8〕	14 河川 〔11.7〕	24 河川 〔19.7〕	33 河川 〔27.0〕	29 河川 〔31.5〕
アメリカジガバチ	20 河川 〔25.6〕	39 河川 〔32.5〕	56 河川 〔45.9〕	41 河川 〔33.6〕	40 河川 〔43.5〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

令和４年度調査河川（19 河川）を対象とした確認河川数・地区数の比較

種 類	１巡目調査 (12 河川・ 83 地区)	２巡目調査 (17 河川・ 112 地区)	３巡目調査 (18 河川・ 137 地区)	４巡目調査 (18 河川・ 113 地区)	５巡目調査 (19 河川・ 114 地区)
アオマツムシ	3 河川	7 河川	9 河川	13 河川	14 河川
	4 地区 〔4.8〕	17 地区 〔15.2〕	39 地区 〔28.5〕	54 地区 〔47.8〕	58 地区 〔50.9〕
アワダチソウグンバイ	0 河川	0 河川	1 河川	11 河川	16 河川
	0 地区 〔0.0〕	0 地区 〔0.0〕	1 地区 〔0.7〕	72 地区 〔63.7〕	92 地区 〔80.7〕
シバツトガ	3 河川	10 河川	8 河川	11 河川	11 河川
	5 地区 〔6.0〕	38 地区 〔33.9〕	42 地区 〔30.7〕	36 地区 〔31.9〕	29 地区 〔25.4〕
アメリカミズアブ	6 河川	12 河川	12 河川	10 河川	9 河川
	18 地区 〔21.7〕	34 地区 〔30.4〕	32 地区 〔23.4〕	22 地区 〔19.5〕	13 地区 〔11.4〕
ミスジキイロテントウ	1 河川	3 河川	2 河川	3 河川	4 河川
	1 地区 〔1.2〕	5 地区 〔4.5〕	3 地区 〔2.2〕	3 地区 〔2.7〕	6 地区 〔5.3〕
ラミーカミキリ	2 河川	3 河川	2 河川	5 河川	6 河川
	2 地区 〔2.4〕	8 地区 〔7.1〕	2 地区 〔1.5〕	7 地区 〔6.2〕	9 地区 〔7.9〕
ブタクサハムシ	0 河川	8 河川	12 河川	10 河川	16 河川
	0 地区 〔0.0〕	41 地区 〔36.6〕	63 地区 〔46.0〕	48 地区 〔42.5〕	58 地区 〔50.9〕
イネミズゾウムシ	11 河川	13 河川	11 河川	16 河川	14 河川
	28 地区 〔33.7〕	55 地区 〔49.1〕	54 地区 〔39.4〕	46 地区 〔40.7〕	35 地区 〔30.7〕
シバオサゾウムシ	1 河川	3 河川	3 河川	3 河川	6 河川
	1 地区 〔1.2〕	5 地区 〔4.5〕	7 地区 〔5.1〕	3 地区 〔2.7〕	7 地区 〔6.1〕
アメリカジガバチ	3 河川	5 河川	7 河川	6 河川	5 河川
	6 地区 〔7.2〕	7 地区 〔6.3〕	10 地区 〔7.3〕	8 地区 〔7.1〕	8 地区 〔7.0〕



※ 確認河川数・地区数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ () 内は分析対象河川数・地区数を示す。
※ 〔〕内は確認地区数の分析対象地区数に対する％を示す。

ここでは、国外外来種のうち、移入時期がほぼ把握されており、なおかつ河川環境との関わりが深い10種を選んで、その分布状況を整理しました。

アオマツムシは、中国南部原産で、1898年に東京で発見されて以来、現在では日本各地に広がっています[注1,2,3)]。河川水辺の国勢調査では、全国的に確認割合は４巡目調査まで増加傾向を示しましたが、５巡目調査では減少傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、14河川で確認され、このうち関東地方の中川・綾瀬川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

アワダチソウグンバイは、北米原産で、2000年に兵庫県で発見されて以来、現在では東北地方南部以南の日本各地に広がっています。セイタカアワダチソウ、オオオナモミ、ブタクサなどの帰化植物に寄生するほか、キク、ヒマワリなどキク科の園芸植物やサツマイモなどを加害することもあります[注3)]。河川水辺の国勢調査では、３巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合が大幅に増加しており、５巡目調査でも増加傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、16河川で確認され、このうち北陸地方の荒川、梯川、中部地方の矢作川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

シバツトガは、アメリカ大陸原産で、1968年に兵庫県で初めて被害が確認されました。その後の追跡調査で1964年に輸入したシバに付着して侵入した可能性が高いと推定されています。本種は幼虫がシバ類を加害するため、各地のゴルフ場や庭園などで急速に分布を広げました[注1,2,3)]。河川水辺の国勢調査では、全国的に２巡目調査以降の確認割合はほぼ横ばいでしたが、５巡目調査に入ってからは増加傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある11河川から確認されています。

アメリカミズアブは、北米などの原産で、1950年頃東京で初めて発見されて以降、夏から秋にかけてみられ、便所や畜舎、ゴミ溜めなどで発生します[注1,2,4)]。河川水辺の国勢調査では、全国的に２～４巡目調査において確認割合は減少傾向にありましたが、５巡目調査に入ってからは増加傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある9河川から確認されました。

ミスジキイロテントウは、東南アジア原産で、国内では1985年に沖縄本島で発見されて以降、大阪府や和歌山県、愛知県で確認されたほか、2001年には四国地方の香川県での発生が確認されました。植物に随伴して持ち込まれたと考えられる種です[注1,2,3,5)]。河川水辺の国勢調査では、１巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合は増加傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、4河川で確認され、このうち関東地方の江戸川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

ラミーカミキリは、中国原産で、明治初期に大陸から輸入された麻植物に随伴して持ち込まれたものと考えられており、ラミーやカラムシ、ムクゲなどを食草とします[注1,2,3)]。河川水辺の国勢調査では、１巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合は増加傾向にありましたが、５巡目調査に入ってからは減少傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、6 河川で確認され、このうち関東地方の江戸川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

ブタクサハムシは、北米原産で、1996年に千葉県で発見されて以降、ほぼ全国で確認されています。国外外来種であるブタクサやオオブタクサなどを食草としています[注2,3,6)]。河川水辺の国勢調査では、１巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合は増加傾向にあり、５巡目調査でも増加傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）におい

て、16 河川で確認され、このうち北海道地方の沙流川、九州地方の肝属川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

イネミズゾウムシは、北米原産で、1976 年に愛知県で発見されて以降、1986 年頃には日本全国に分布が広がったものとされています。イネの害虫として知られていますが、イネ以外にもイネ科やカヤツリグサ科の植物を食草としています[注 1,2,3)]。河川水辺の国勢調査では、全国的に１～４巡目調査まで減少傾向にあり、５巡目調査でも減少傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある 13 河川に加え、令和 4 年度から調査を開始した神戸川から確認されました。

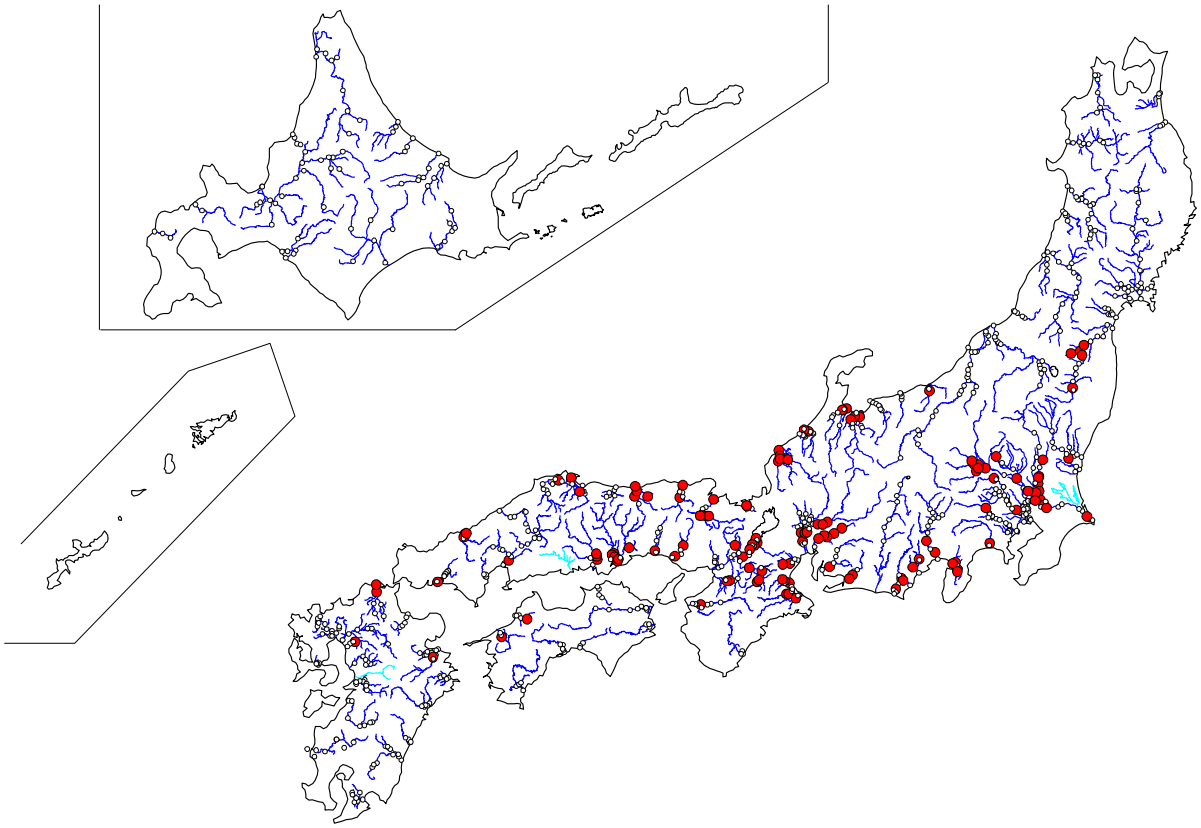
シバオサゾウムシは、北米原産で、シバの害虫として知られ、ゴルフ場などを介して各地に広がっています[注 1,2,3)]。河川水辺の国勢調査では、全国的に１～４巡目調査まで増加傾向にあり、５巡目調査でも増加傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、6 河川で確認され、このうち関東地方の渡良瀬川、小貝川、九州地方の肝属川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

アメリカジガバチは、北米原産で、1945 年におそらく米軍物資に伴って巣が運び込まれ、1946 年に東京で成虫が発見されました。東京とは別に大阪にも侵入した可能性があります。湿った泥をひも状に延ばしながら筒状の巣を造り、コガネグモ科やカニグモ科などのクモ類を狩ります[注 1,2,7)]。河川水辺の国勢調査では、全国的に１～３巡目調査にかけての増加傾向が４巡目調査ではやや減少傾向に転じましたが、５巡目調査に入って再び増加傾向にあると考えられます。今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、5 河川で確認され、このうち関東地方の鬼怒川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

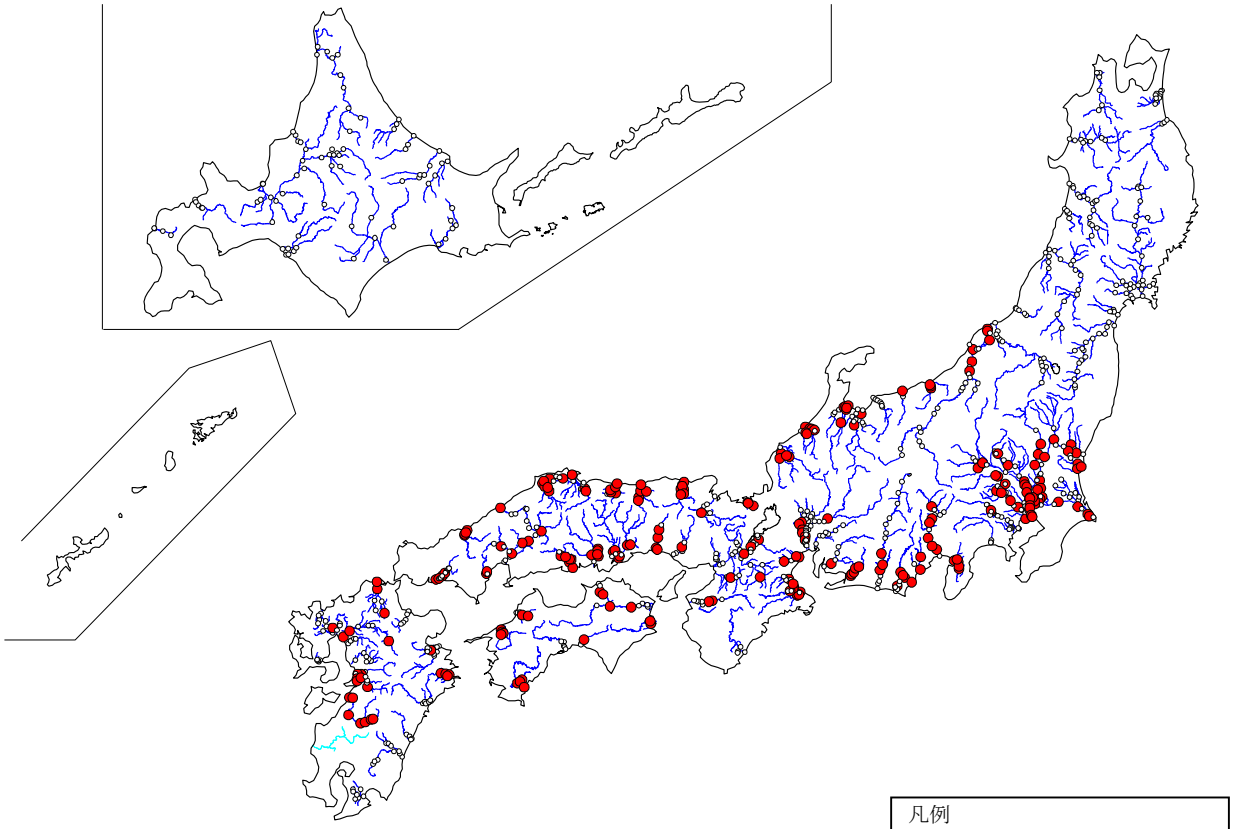
陸上昆虫類等調査は調査時期、気候等など調査実施状況により確認種に差が生じるため、調査を継続することでより実態に近い昆虫相の把握が可能となるといえます。

注 1）出典：鷲谷いづみ・森本信生，1993. 日本の帰化生物．保育社.
注 2）出典：日本生態学会，2002．外来種ハンドブック．地人書館.
注 3）出典：梅谷献二編，2012．原色図鑑 外来害虫と移入天敵．全国農村教育協会.
注 4）出典：加納六郎・篠永哲，1997．日本の有害節足動物．東海大学出版会.
注 5）出典：日本環境動物昆虫学会編，，2009．テントウムシの調べ方．文教出版.
注 6）出典：大野正男，1997．ブタクサハムシ(新称)日本に侵入．昆虫と自然，32(11)：35.
注 7）出典:大野正男、1990．日本の帰化昆虫(1) アメリカジガバチ. 日本の生物、4(3)：53-58.

２巡目調査（平成 8～12 年度）



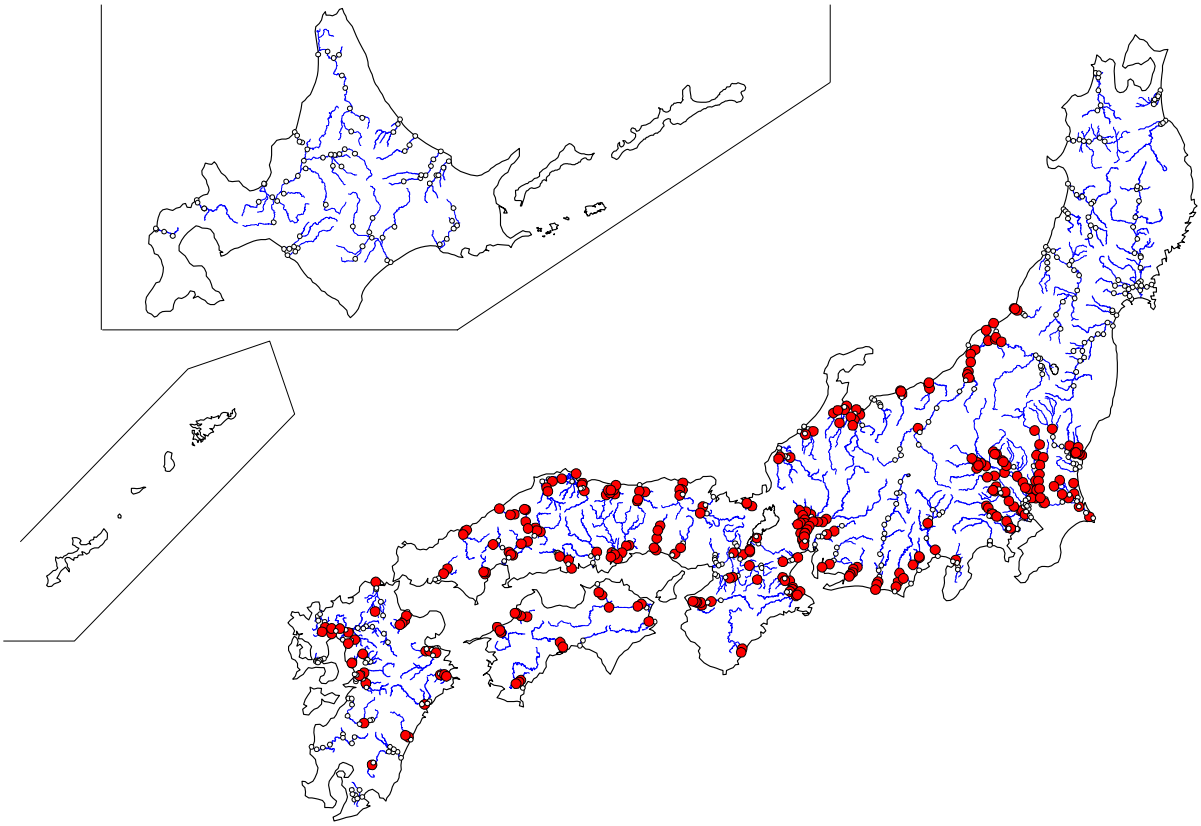
３巡目調査（平成 13～17 年度）



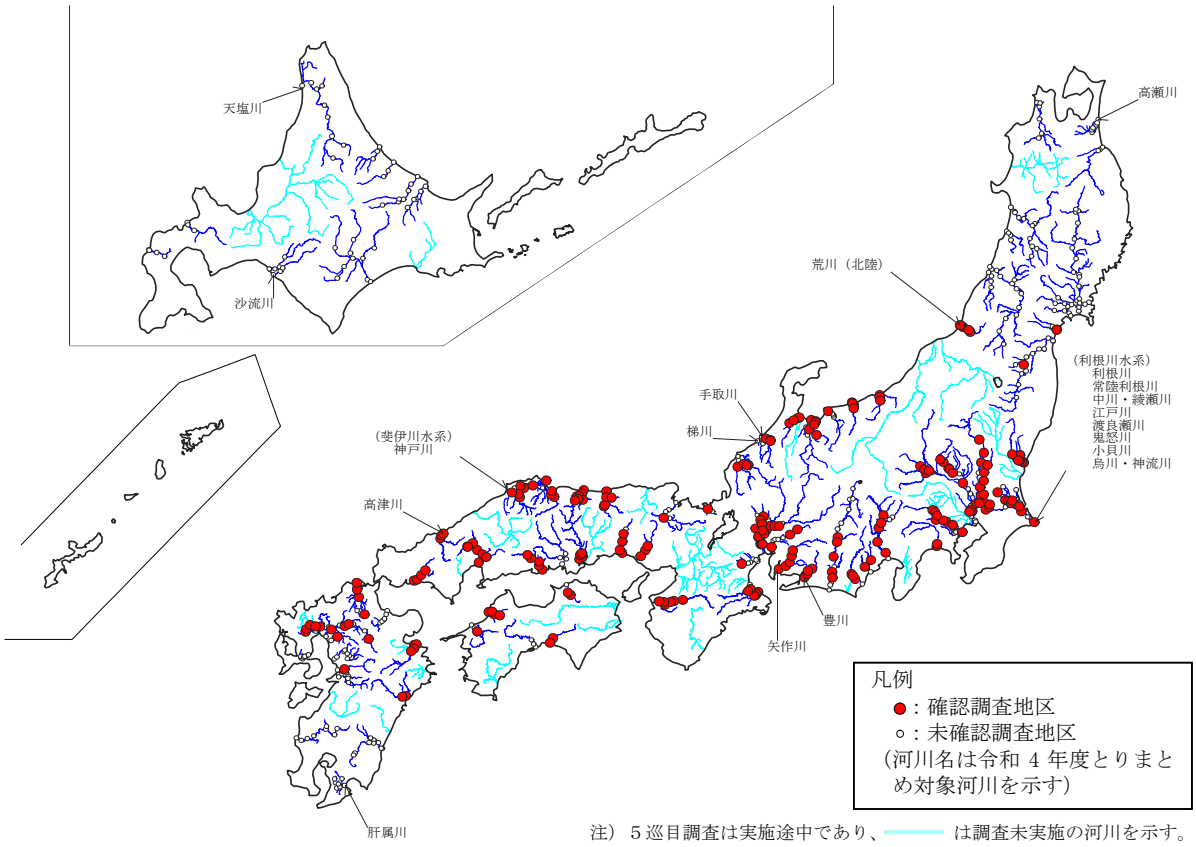
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アオマツムシの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



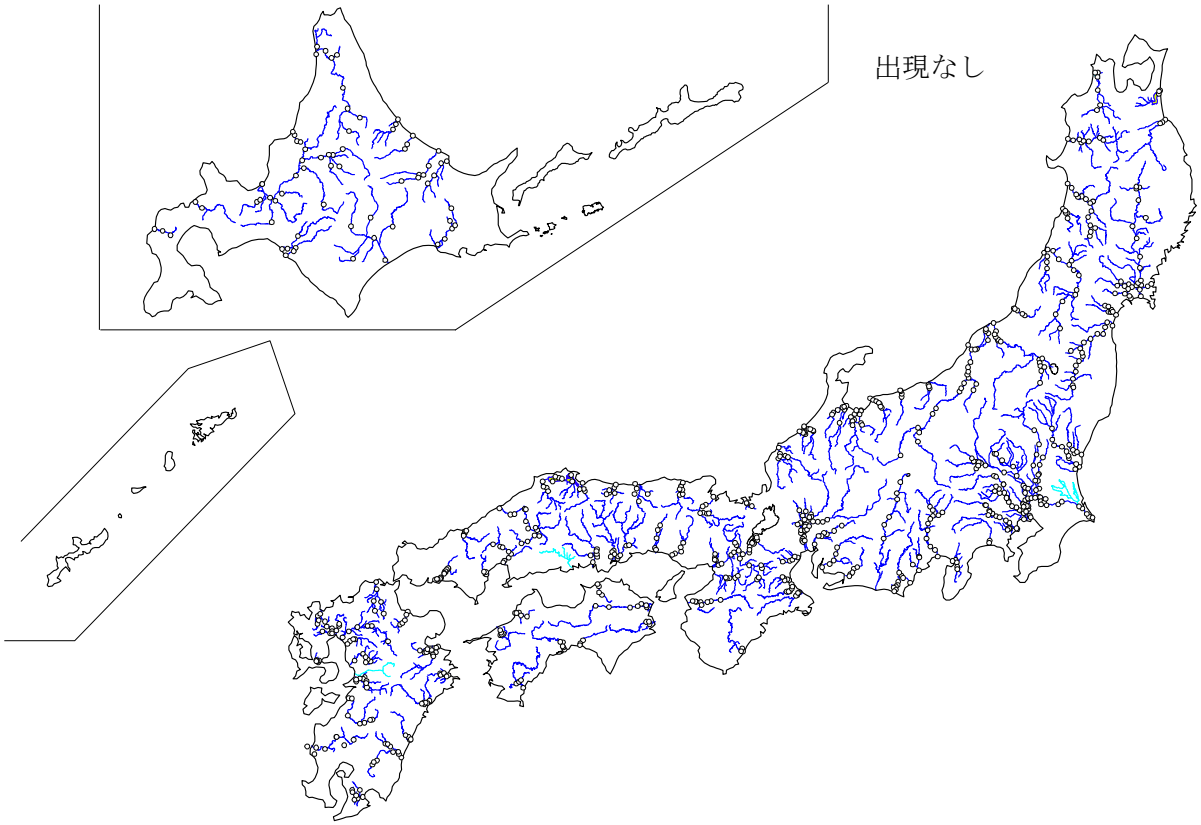
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



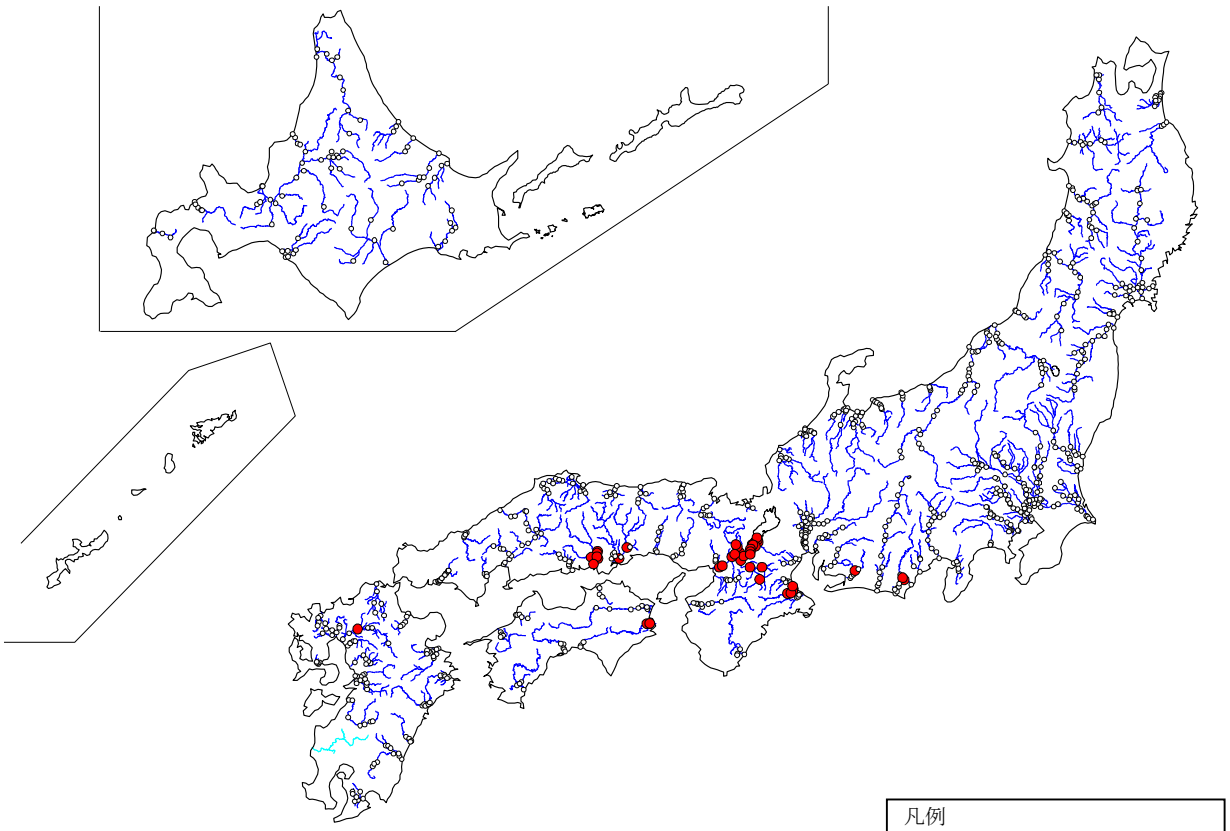
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

アオマツムシの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

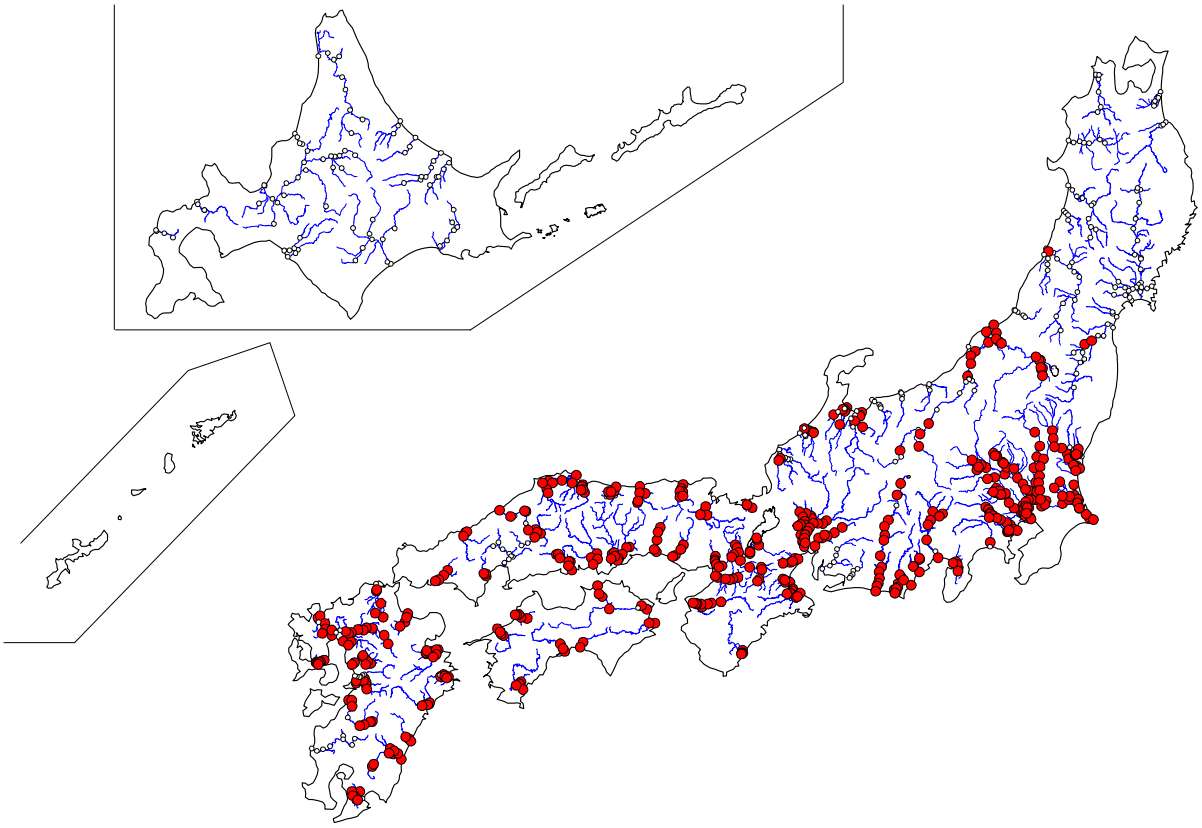


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

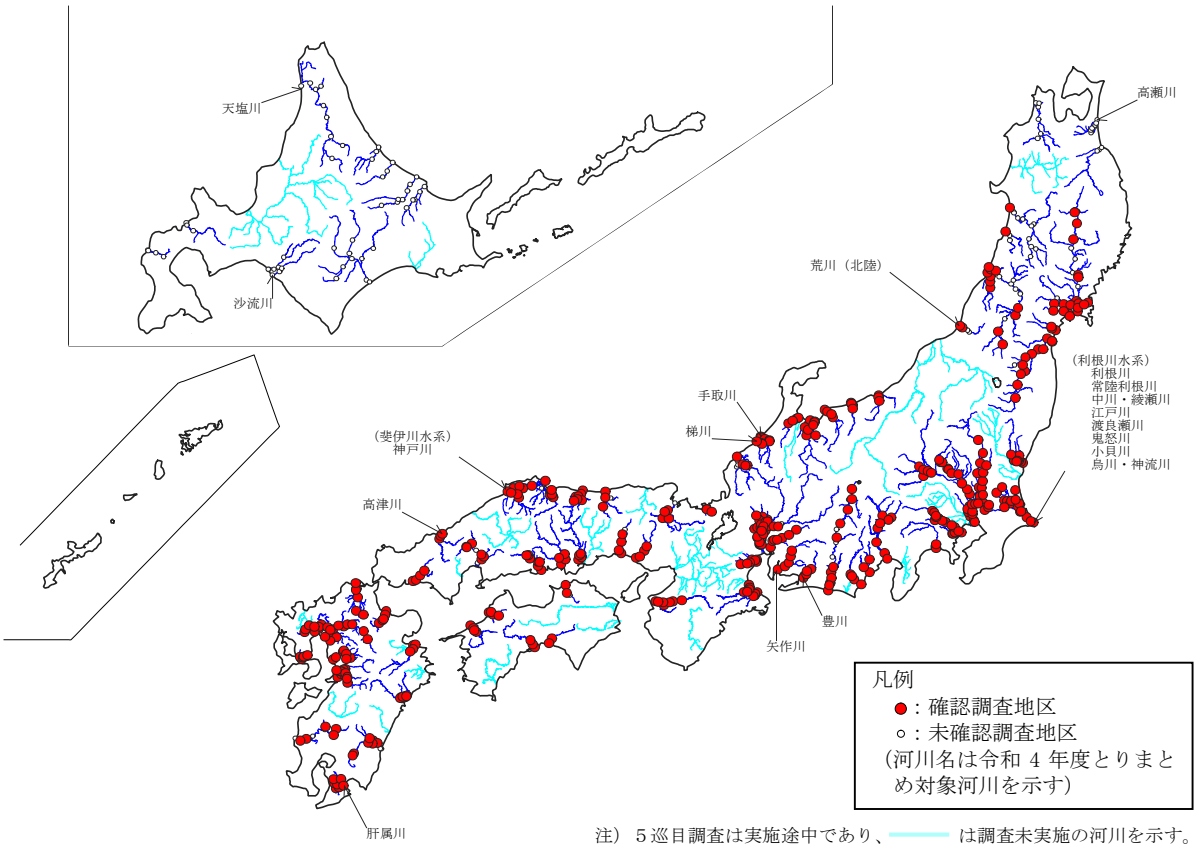
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アワダチソウグンバイの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



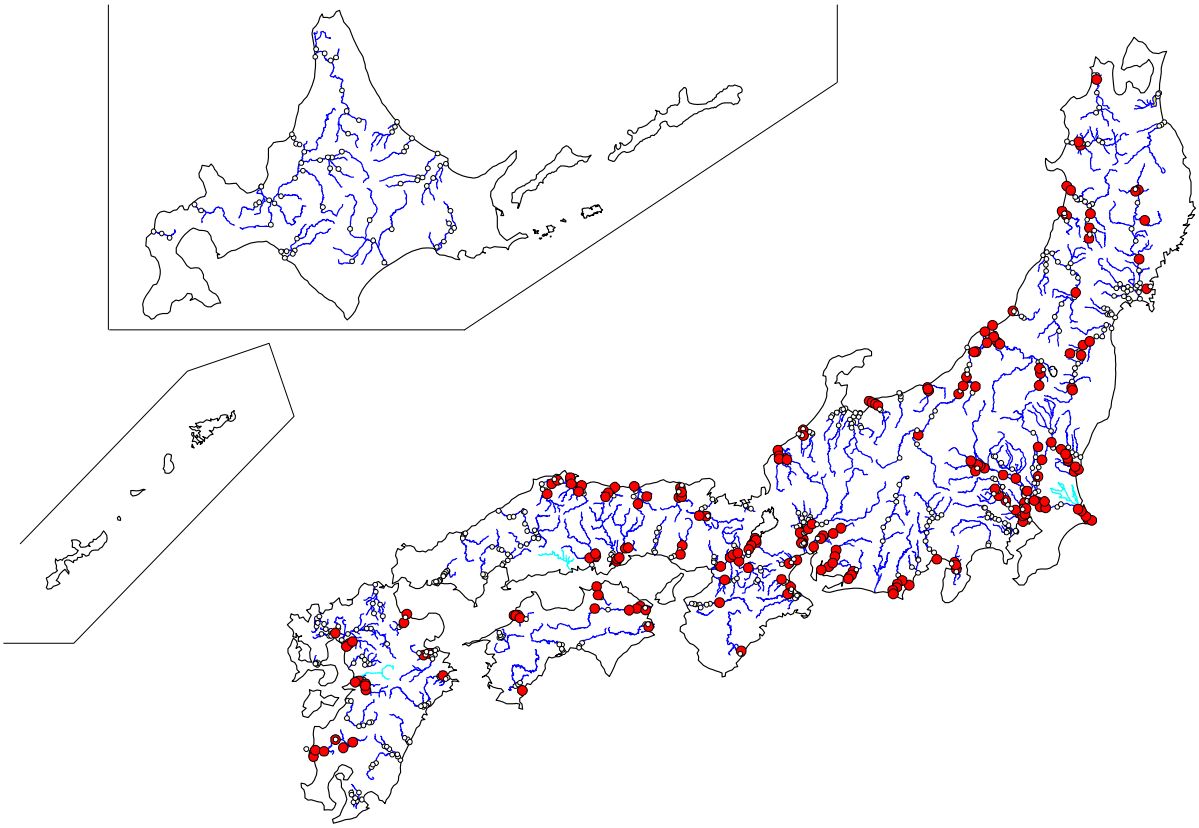
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



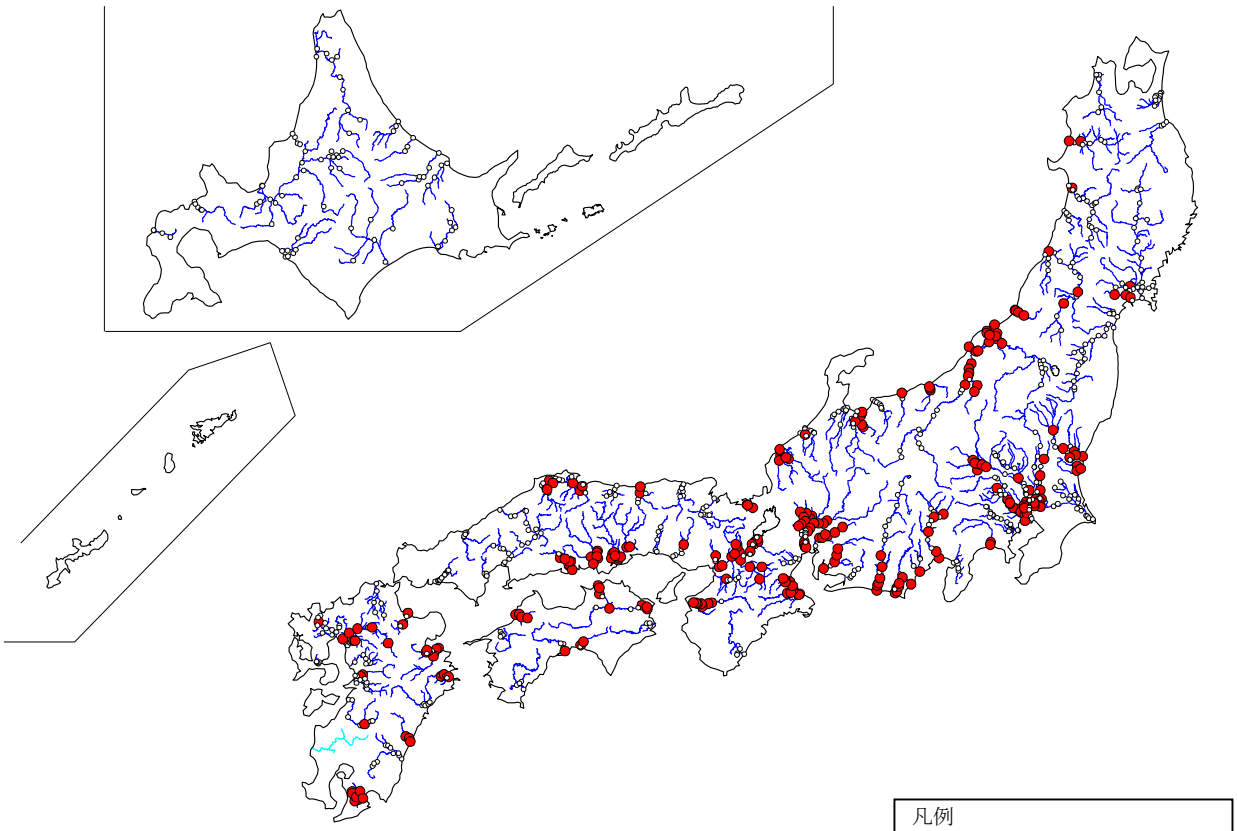
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

アワダチソウグンバイの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



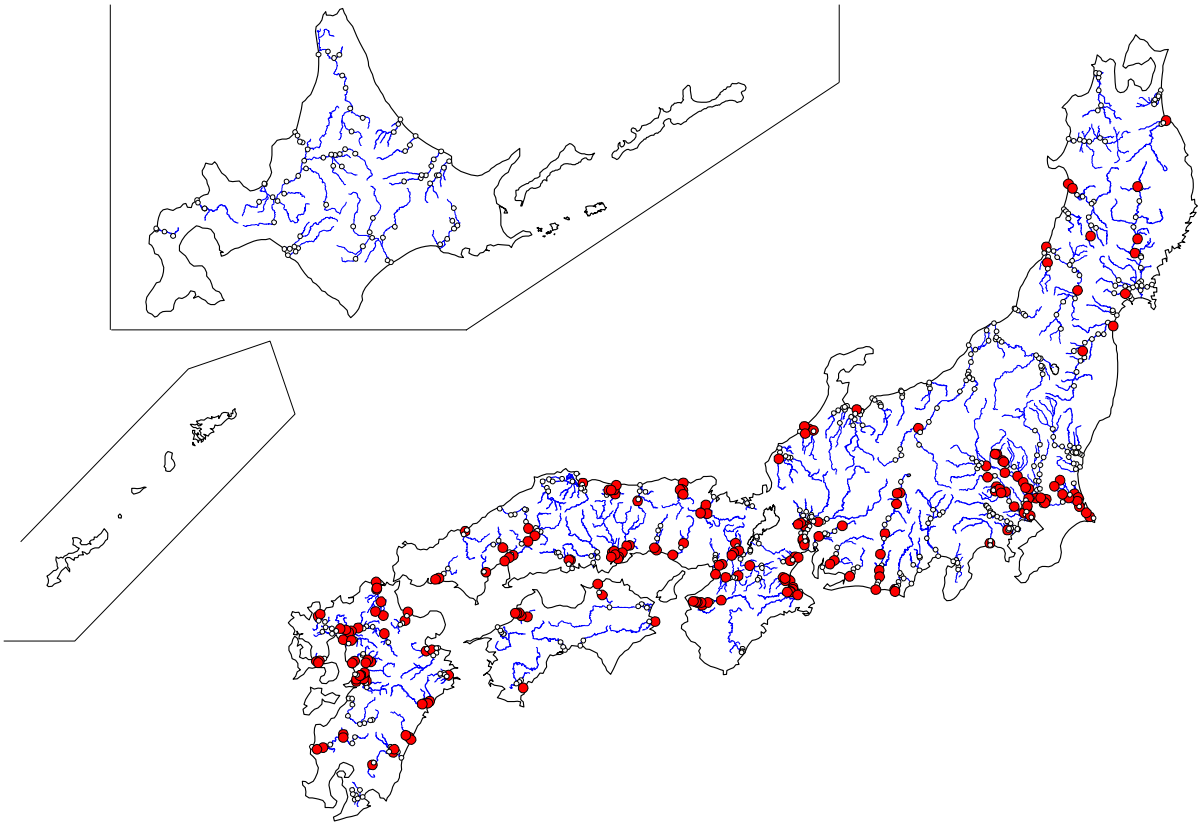
３巡目調査（平成 13～17 年度）



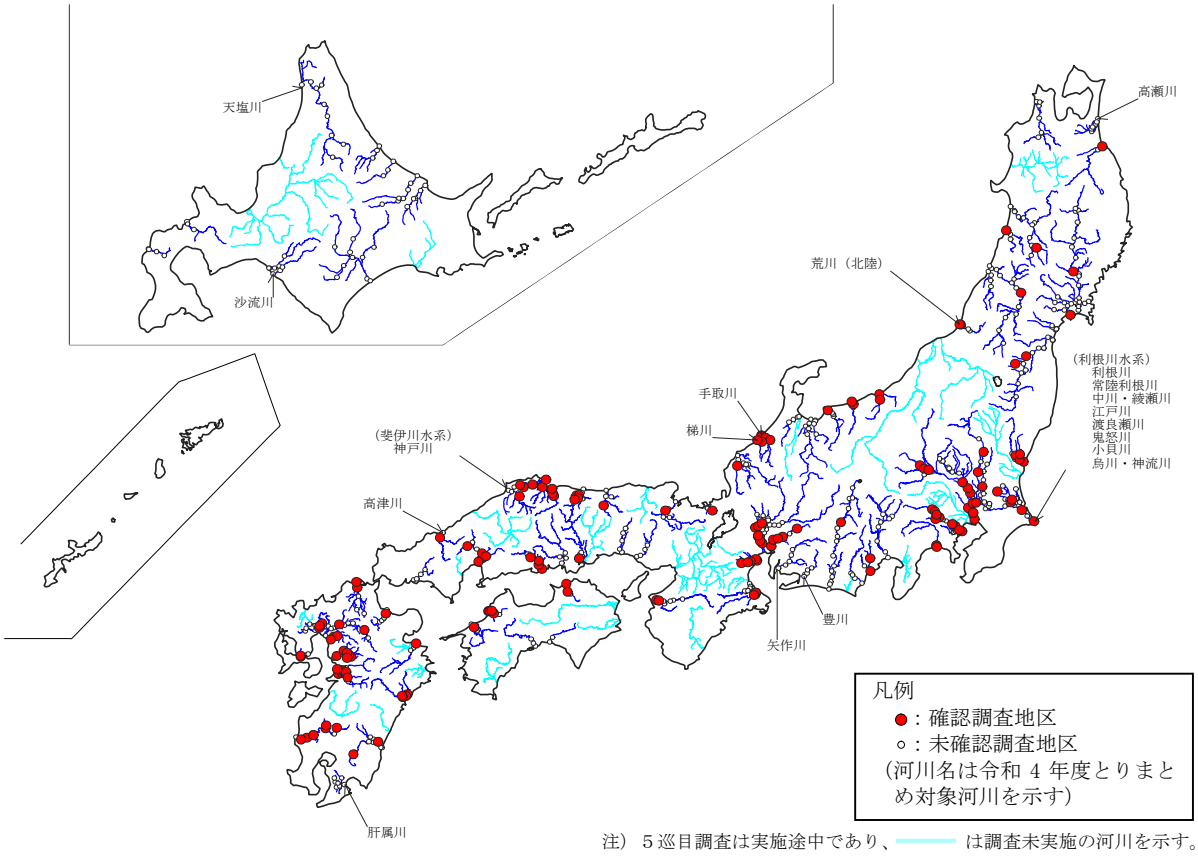
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

シバツトガの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



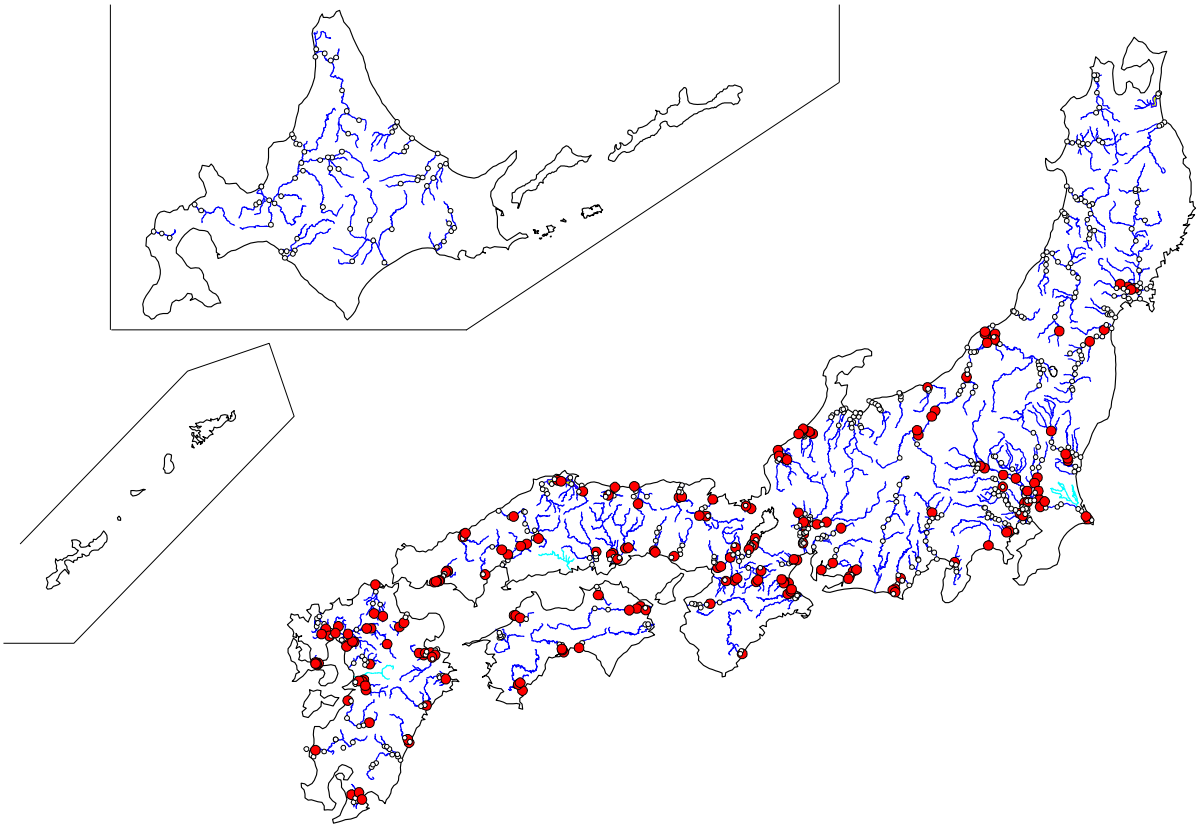
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



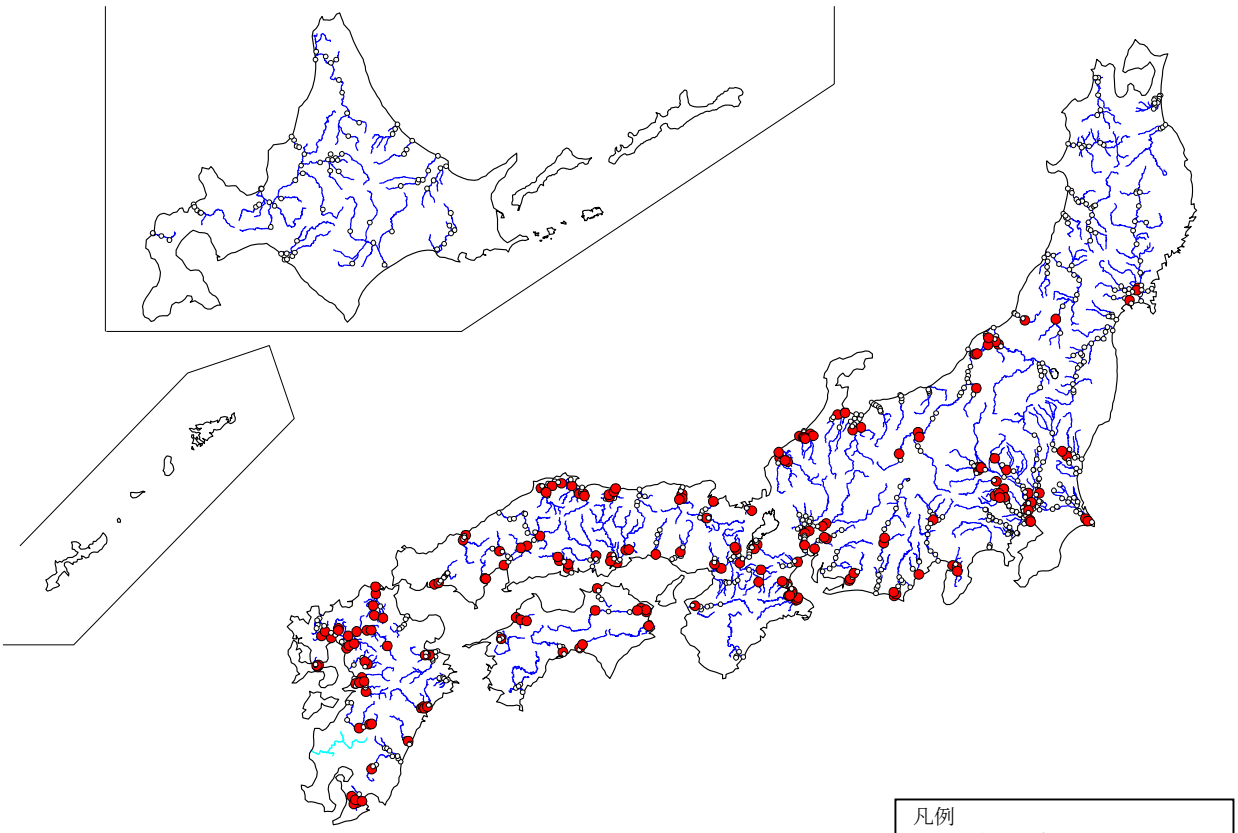
注）５巡目調査は実施途中であり、―――― は調査未実施の河川を示す。

シバツトガの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



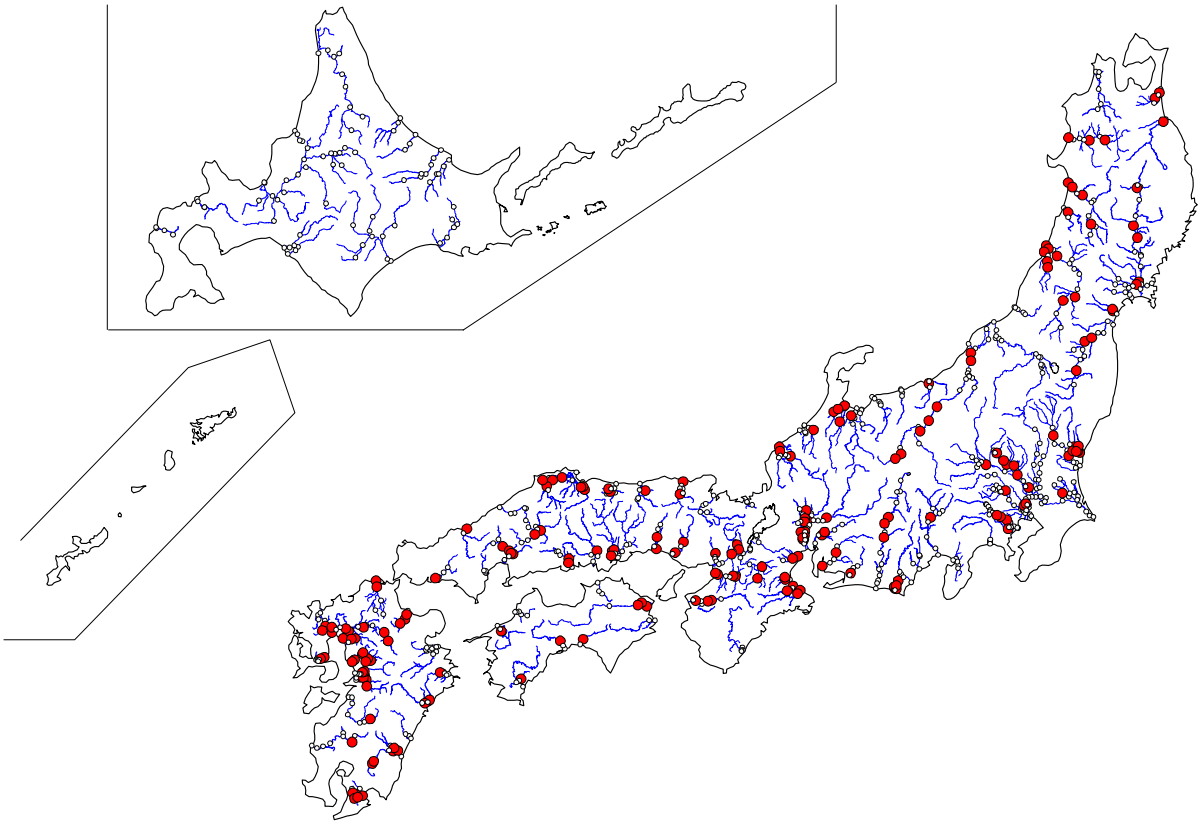
３巡目調査（平成 13～17 年度）



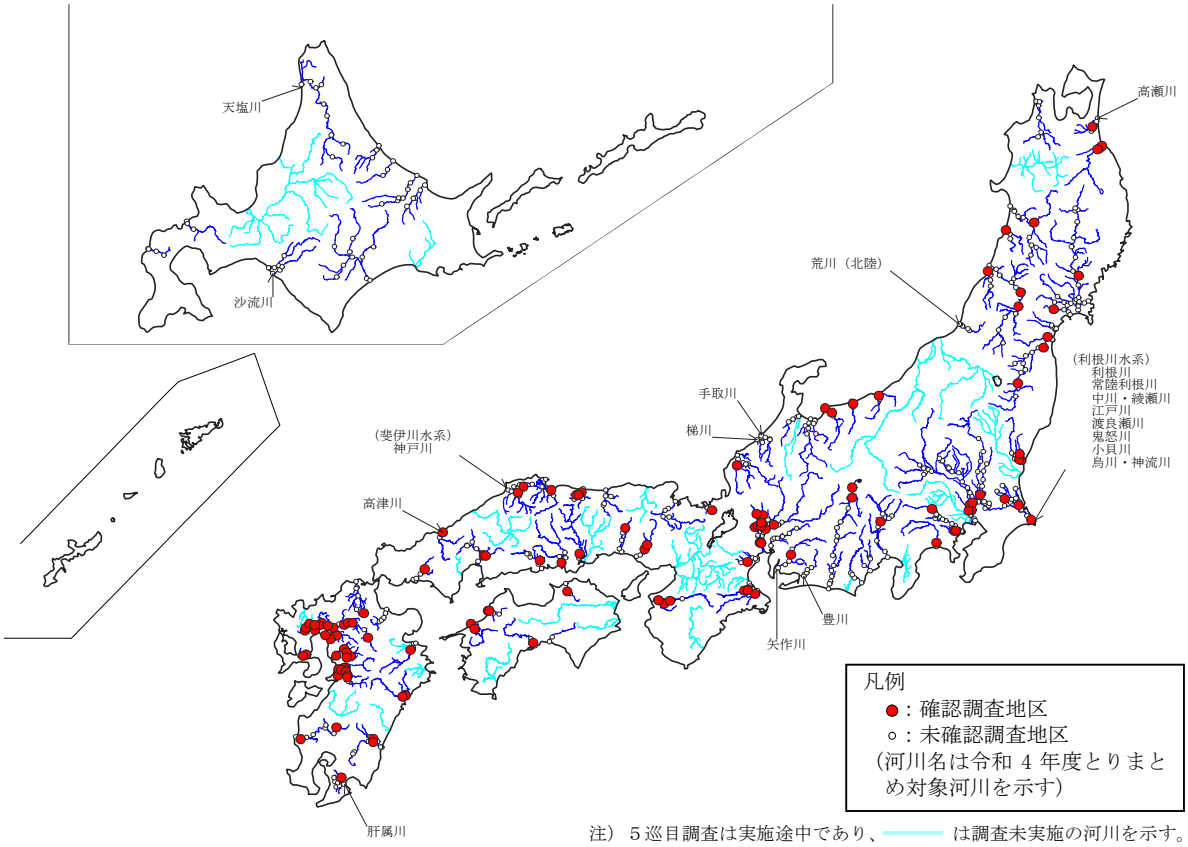
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アメリカミズアブの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



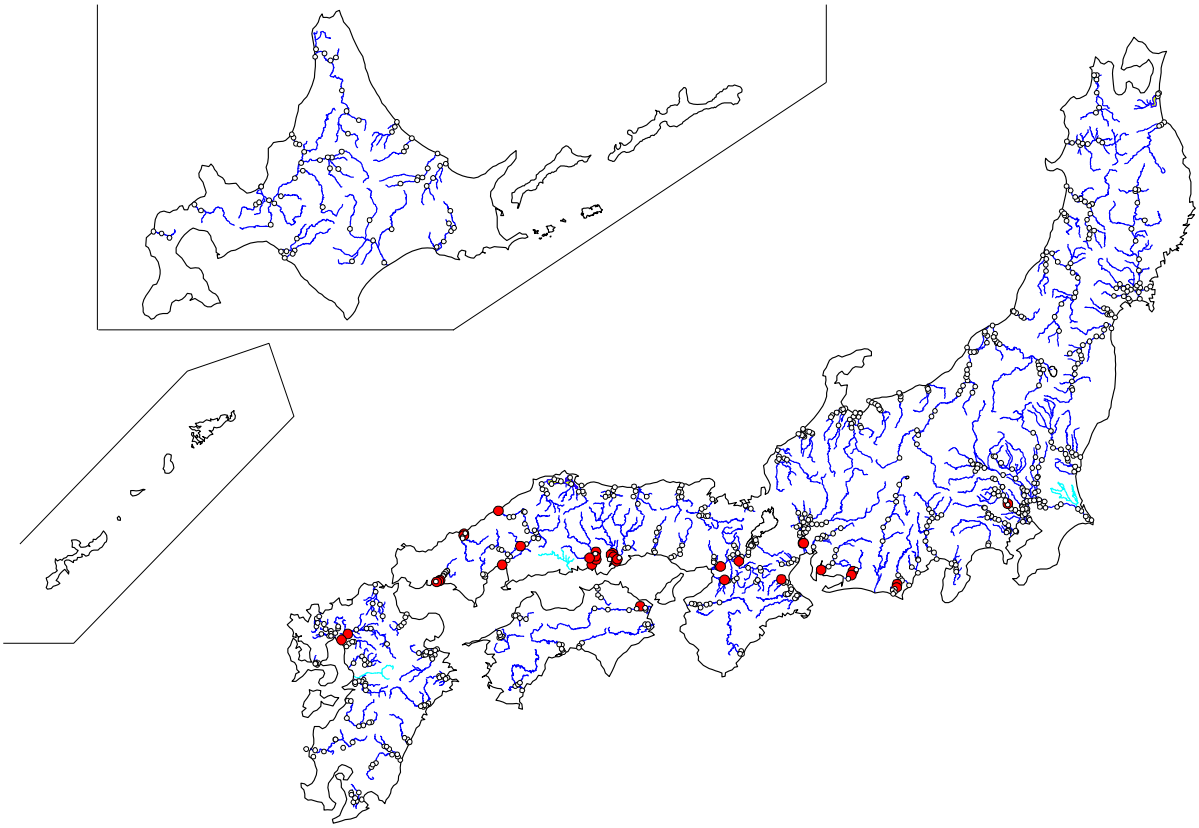
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



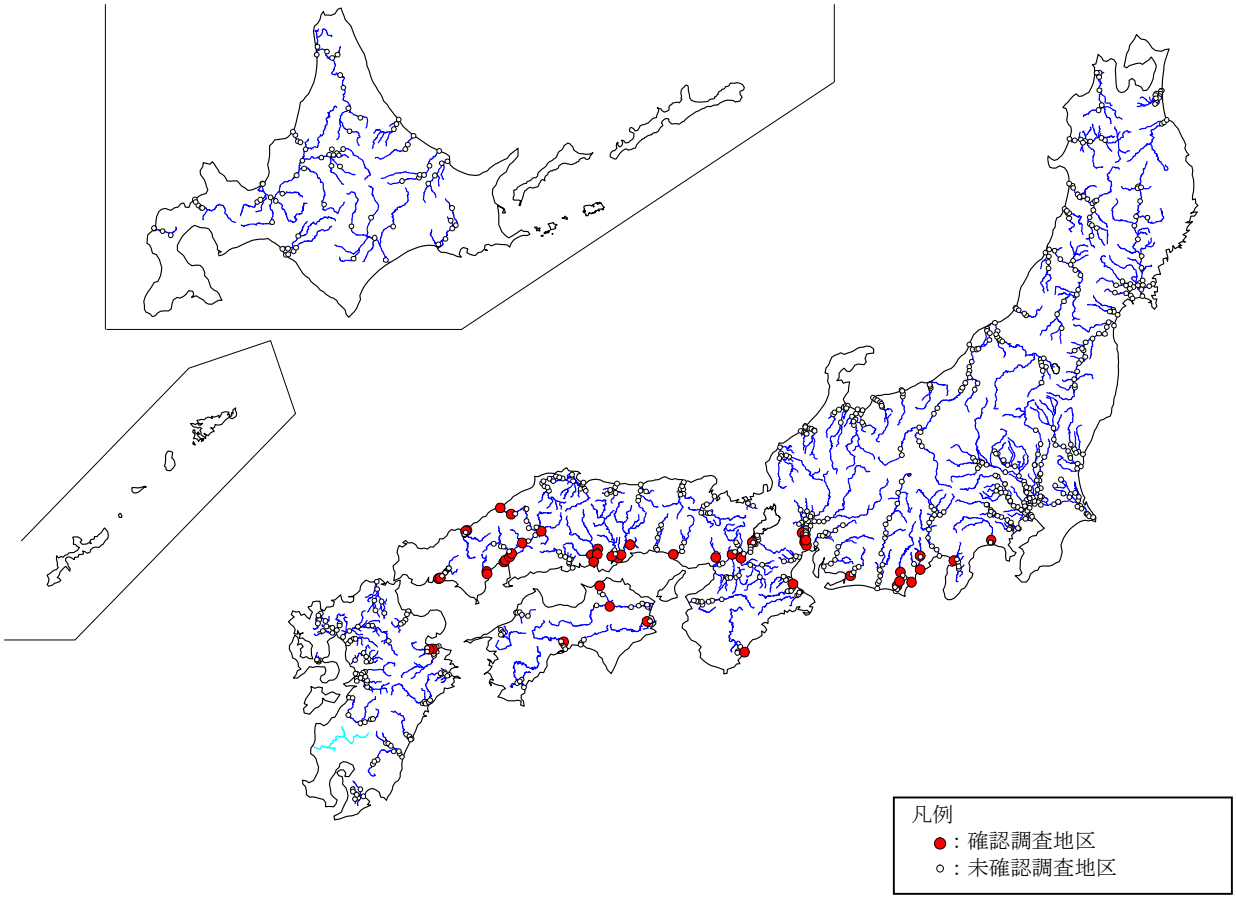
注）５巡目調査は実施途中であり、―――― は調査未実施の河川を示す。

アメリカミズアブの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



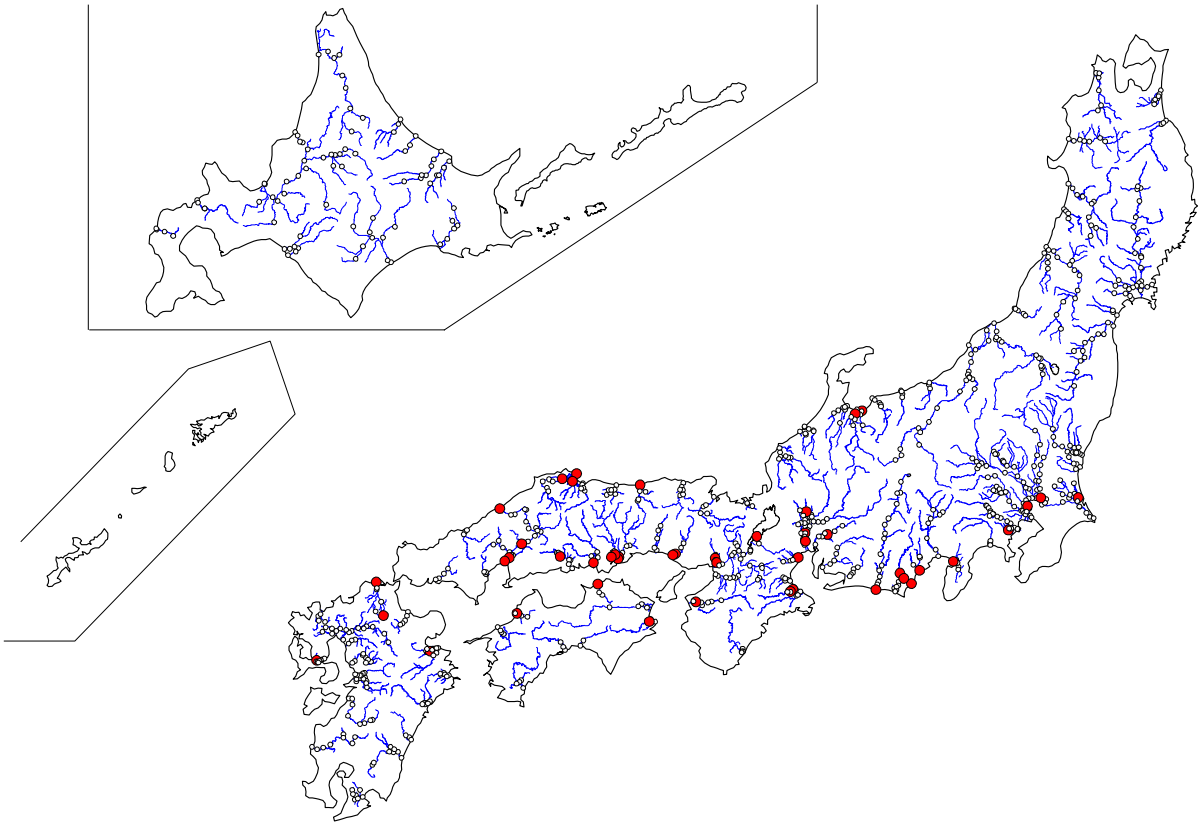
３巡目調査（平成 13～17 年度）



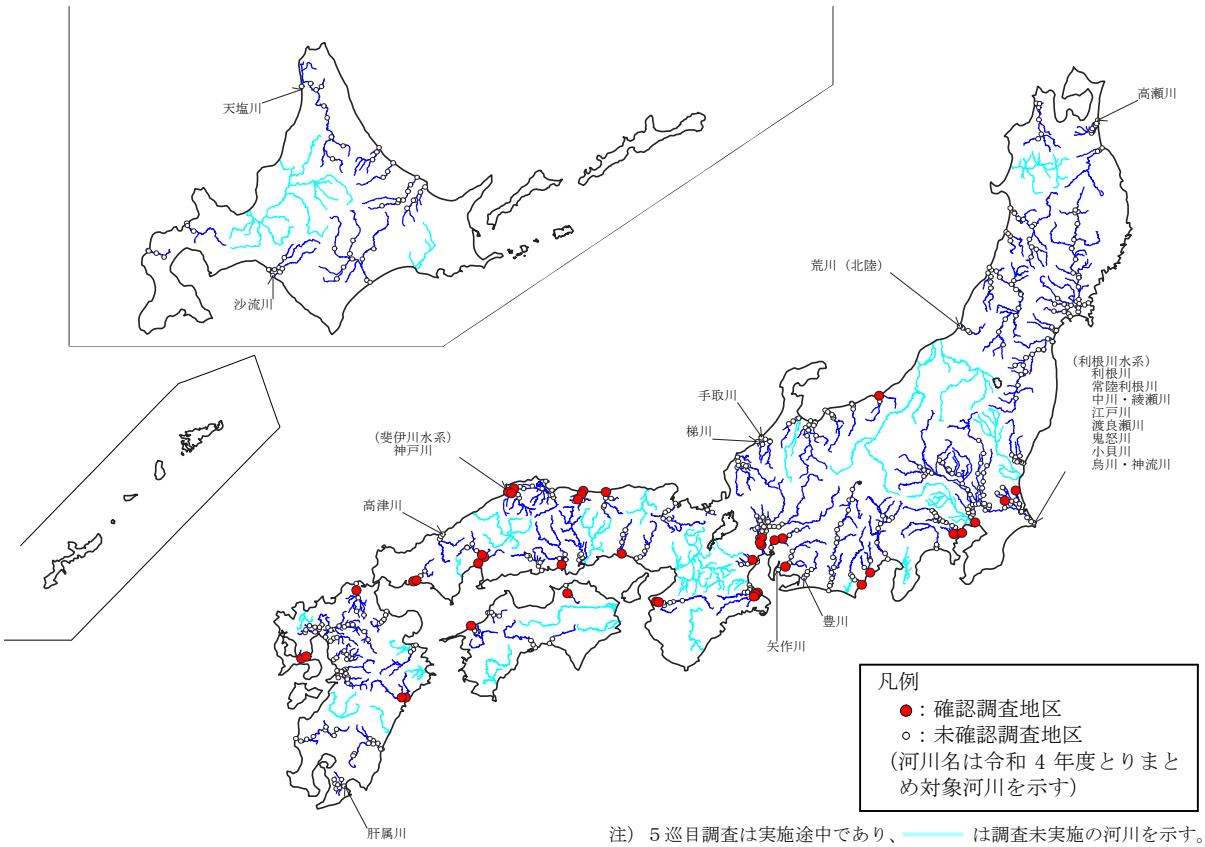
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ミスジキイロテントウの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



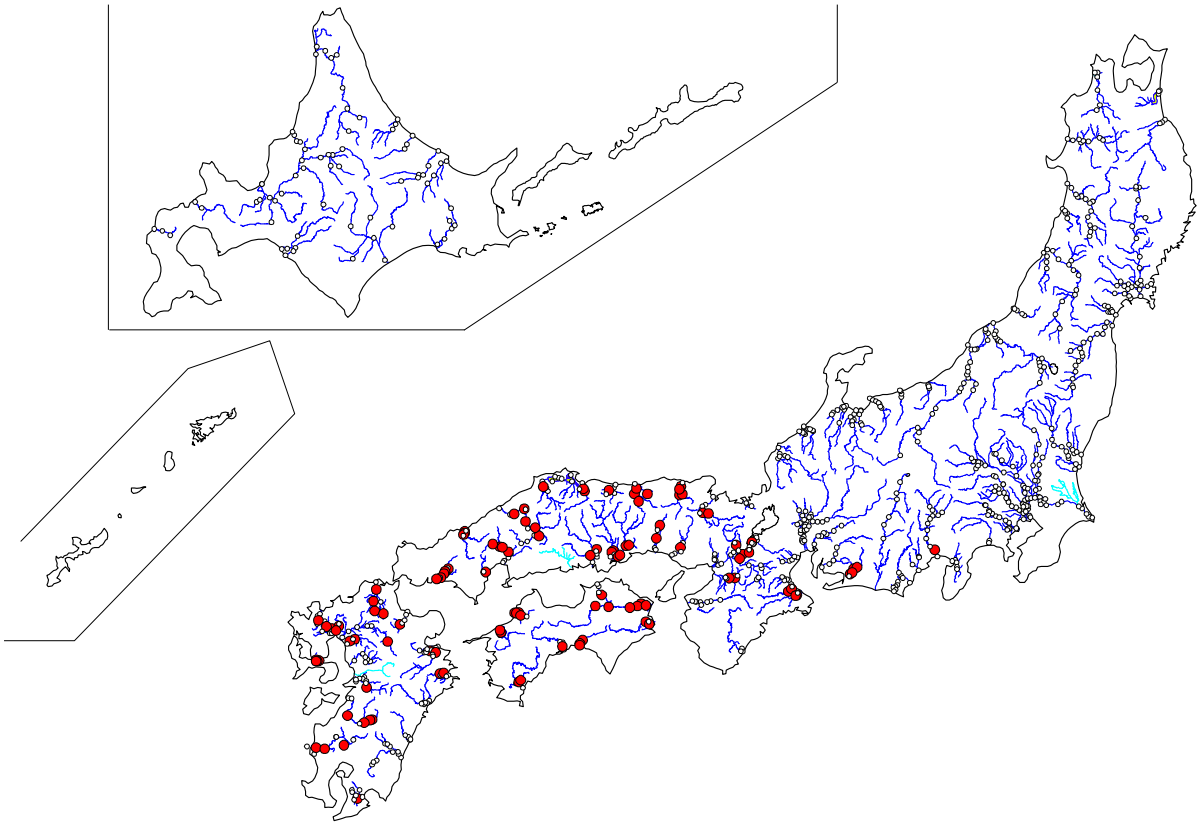
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



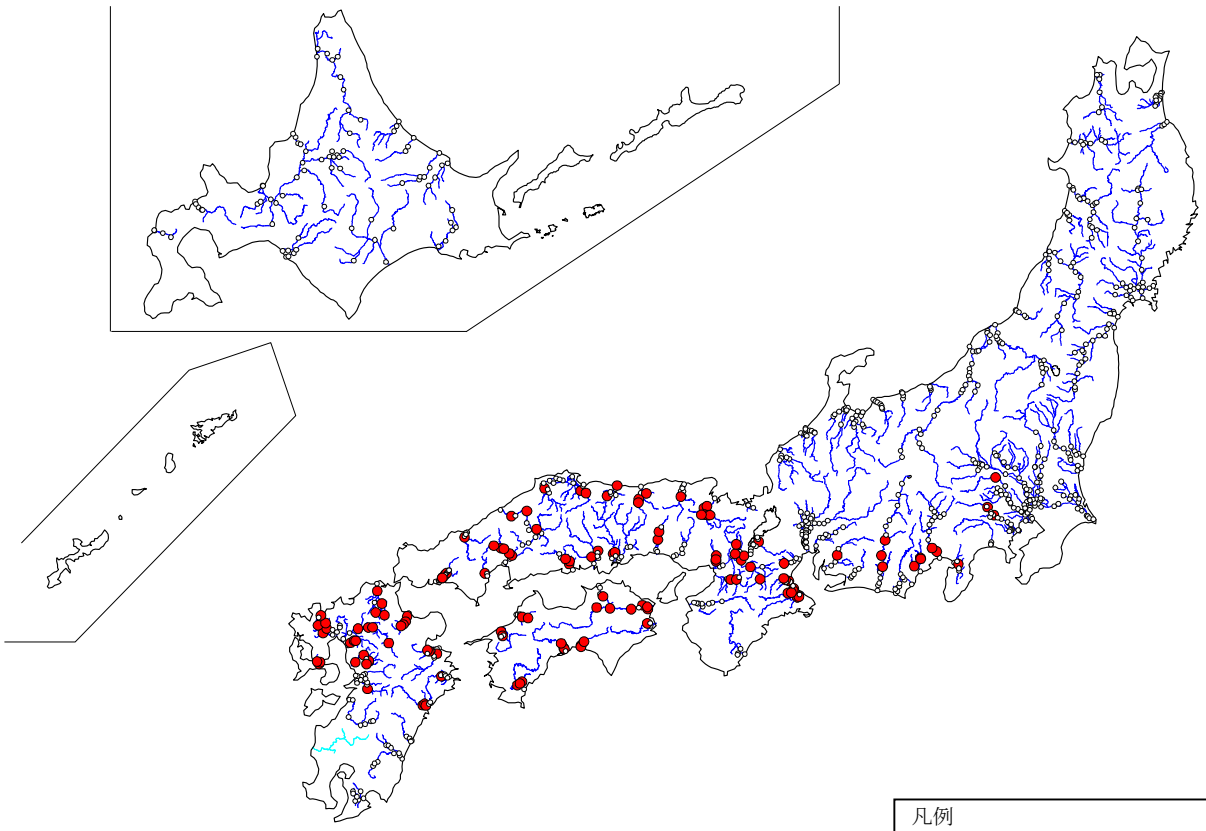
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ミスジキイロテントウの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

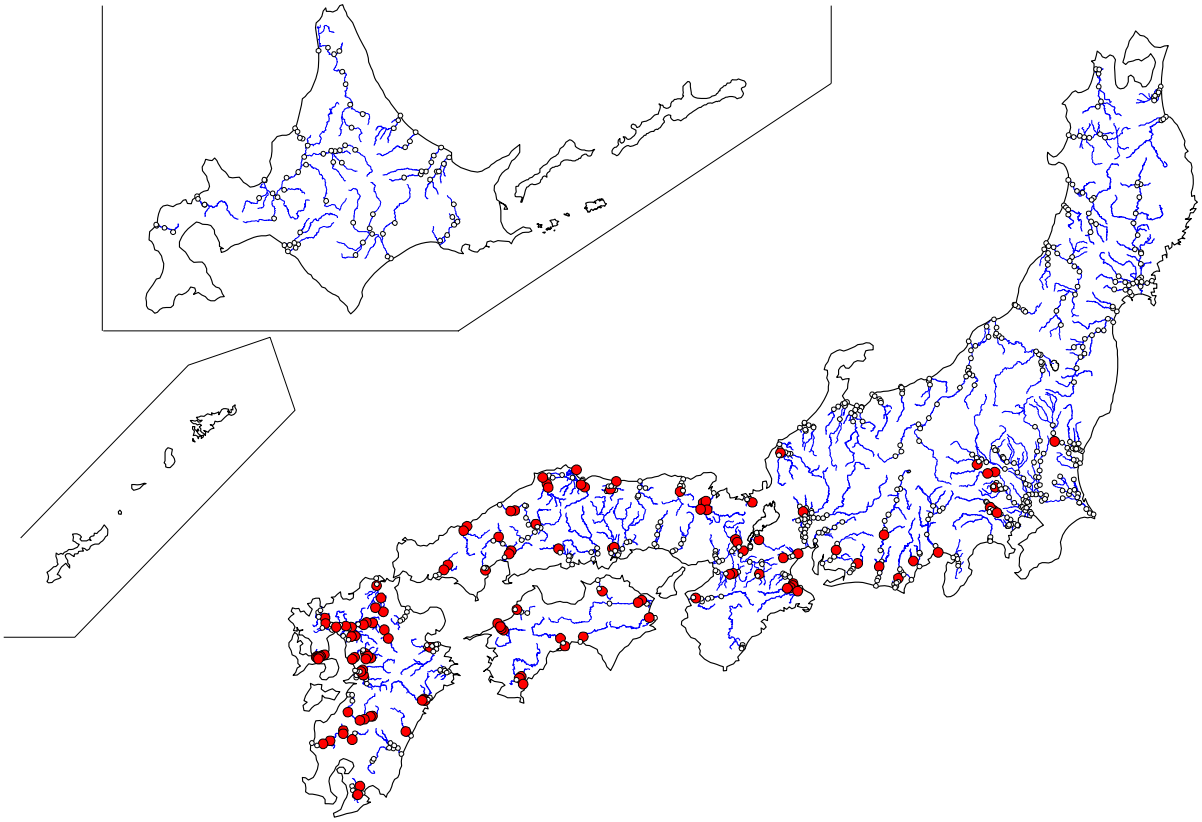


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

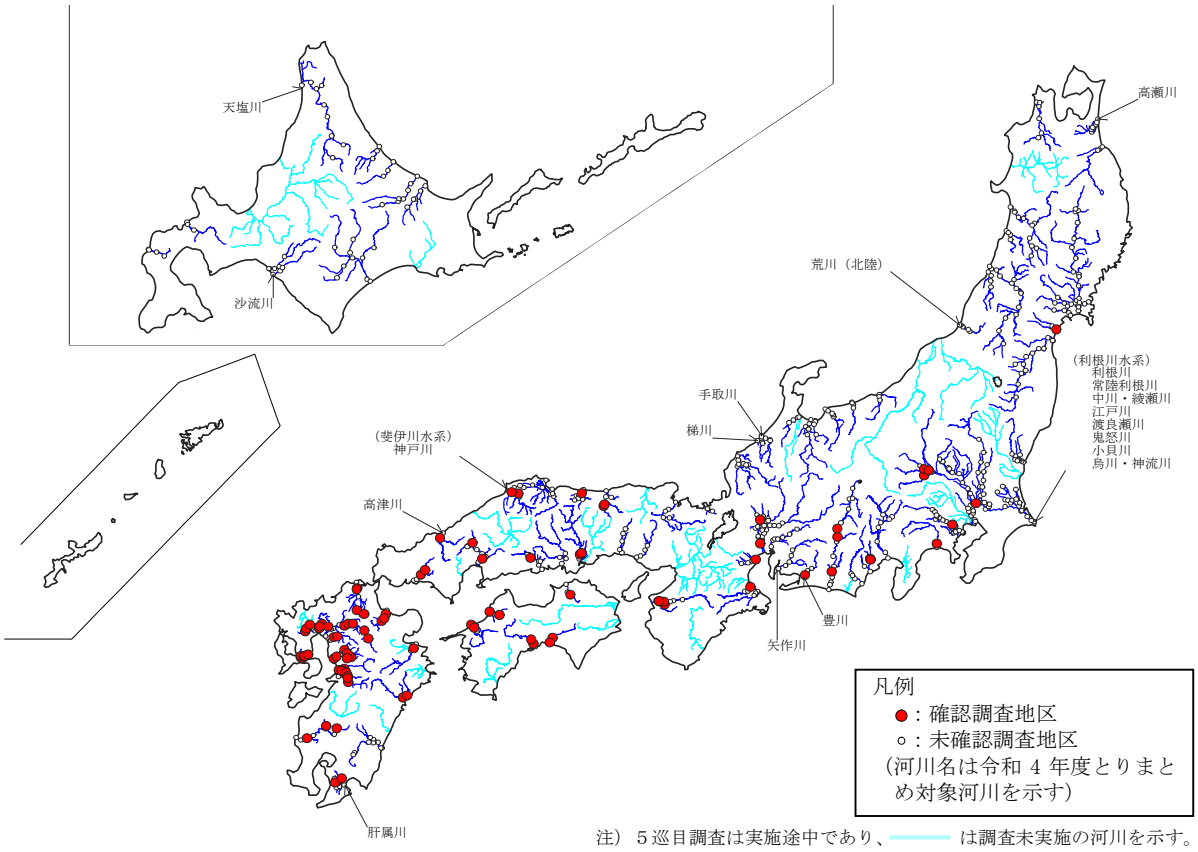
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ラミーカミキリの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



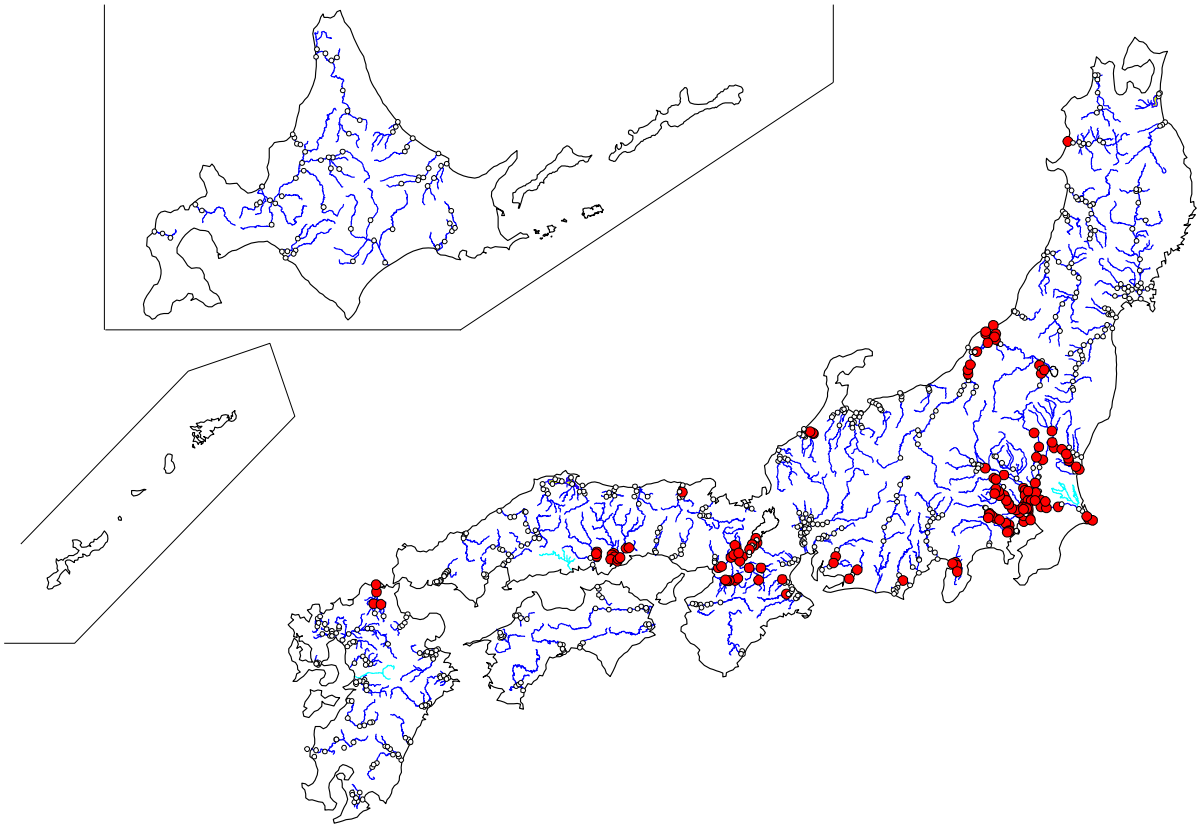
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



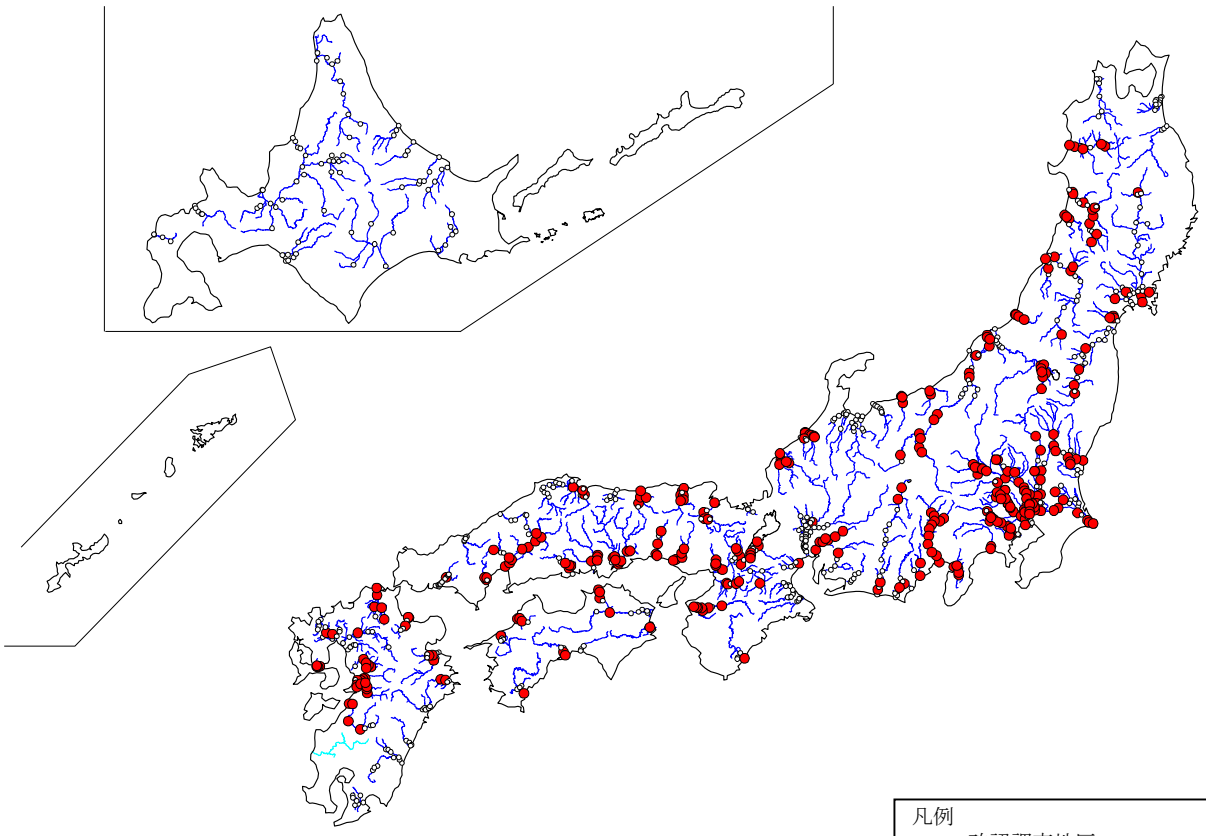
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ラミーカミキリの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

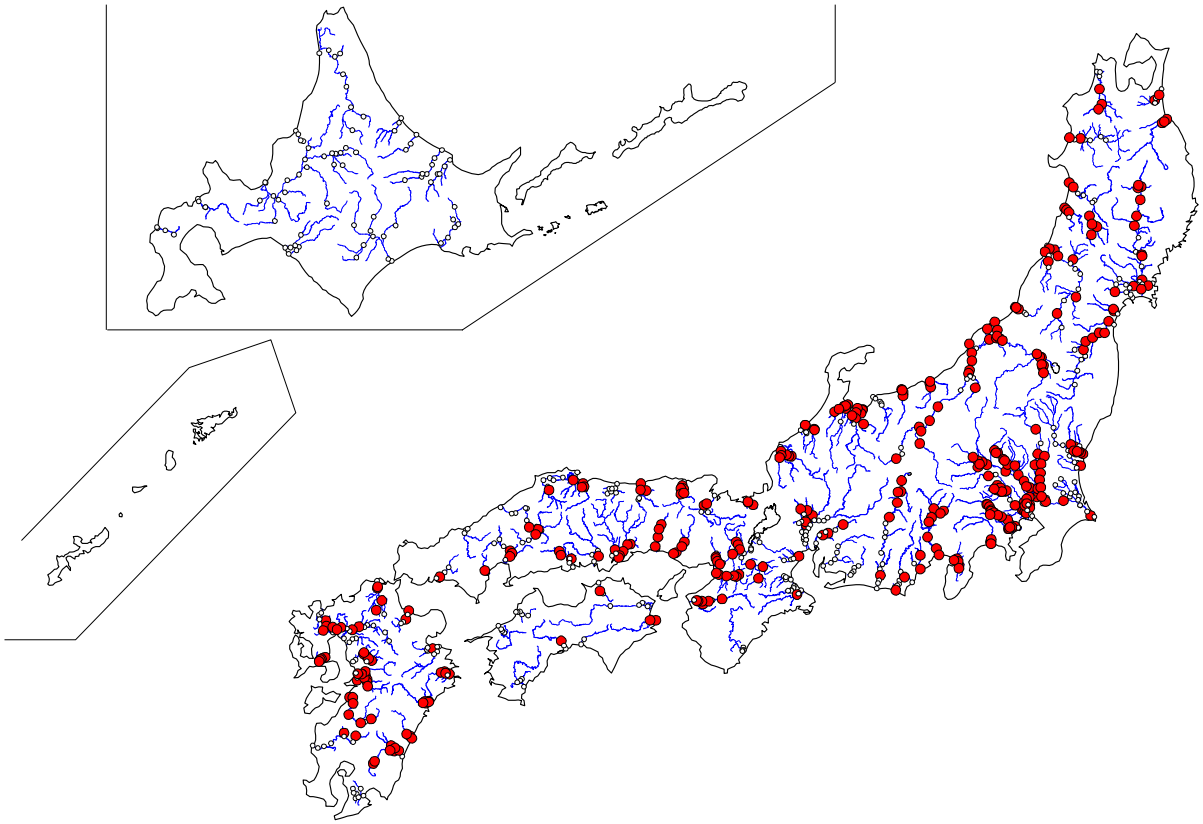


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

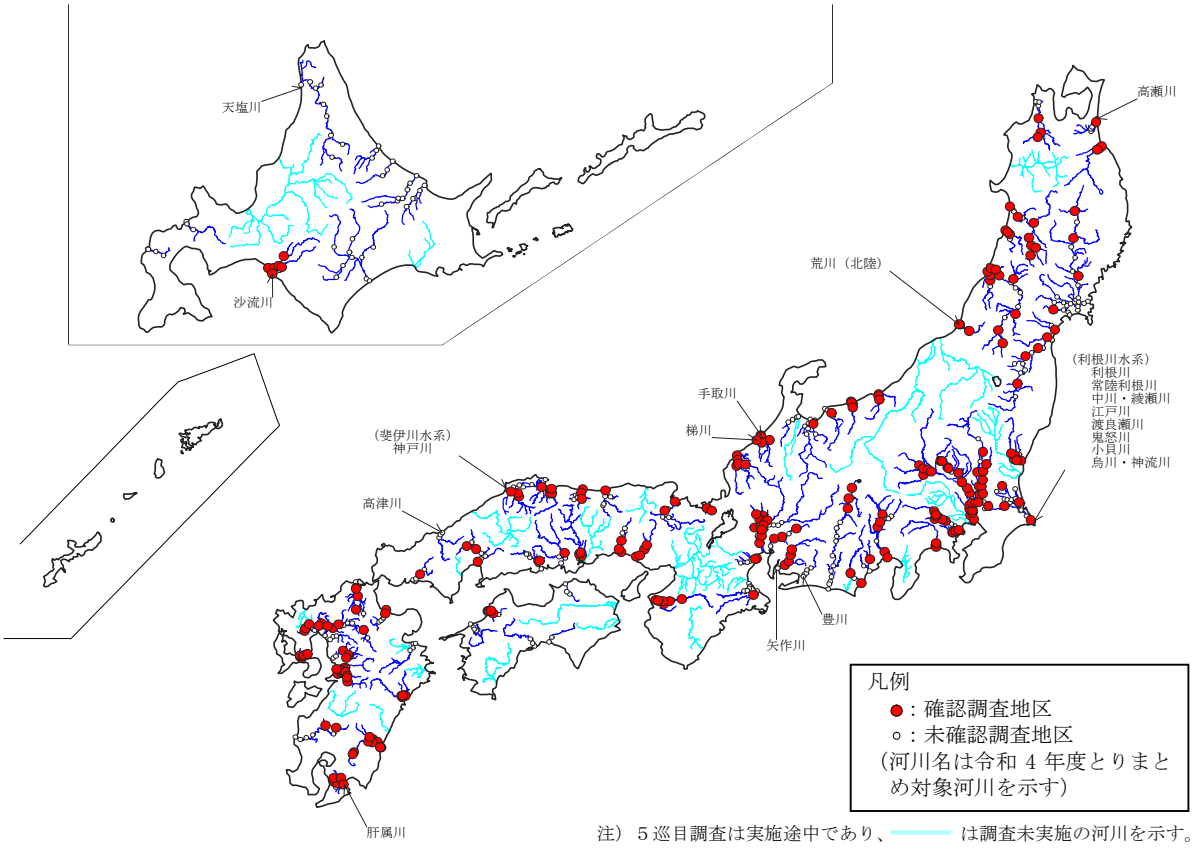
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ブタクサハムシの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



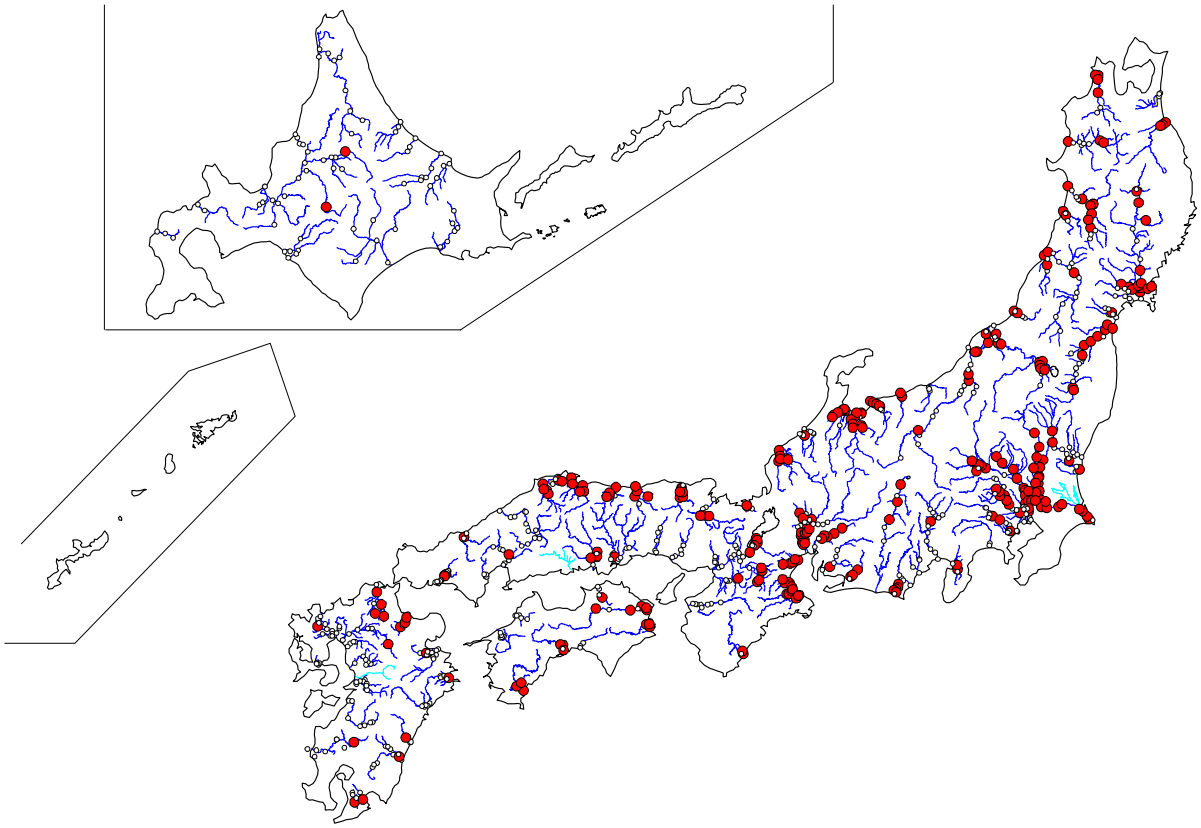
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



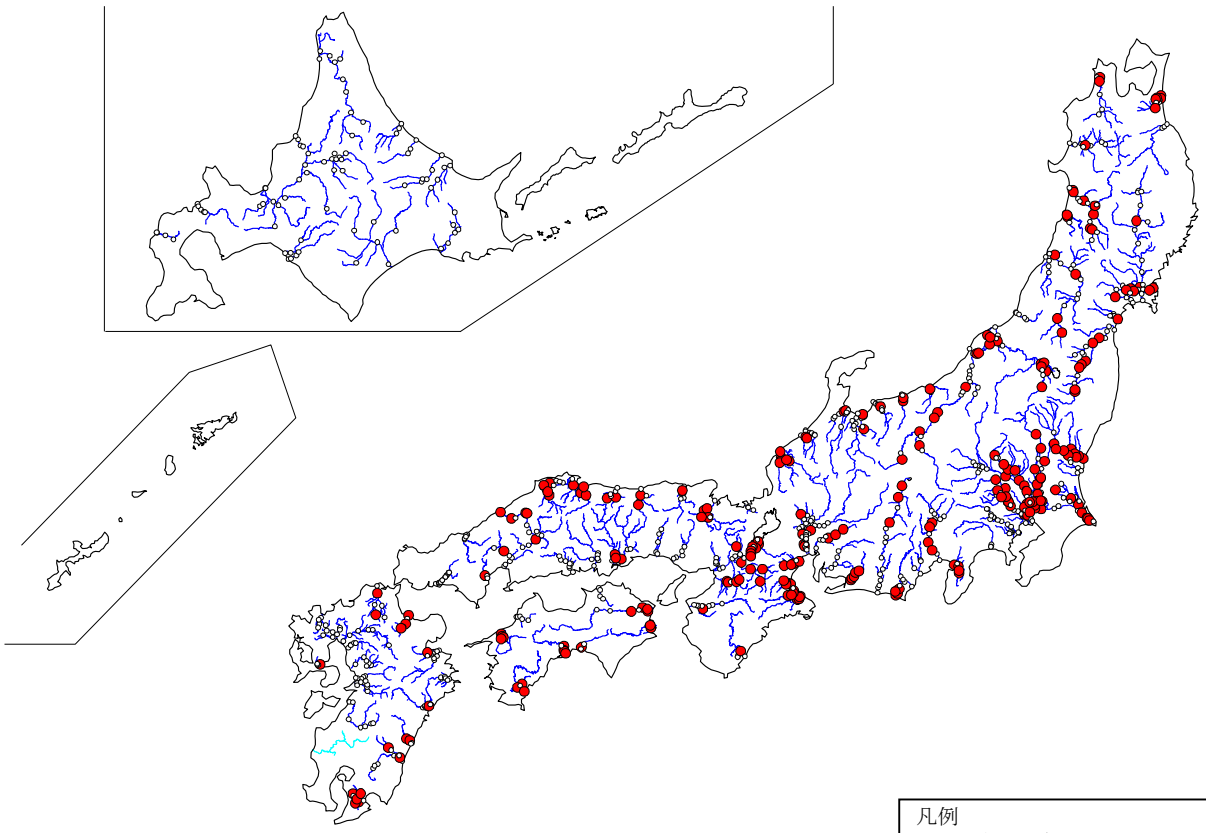
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ブタクサハムシの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

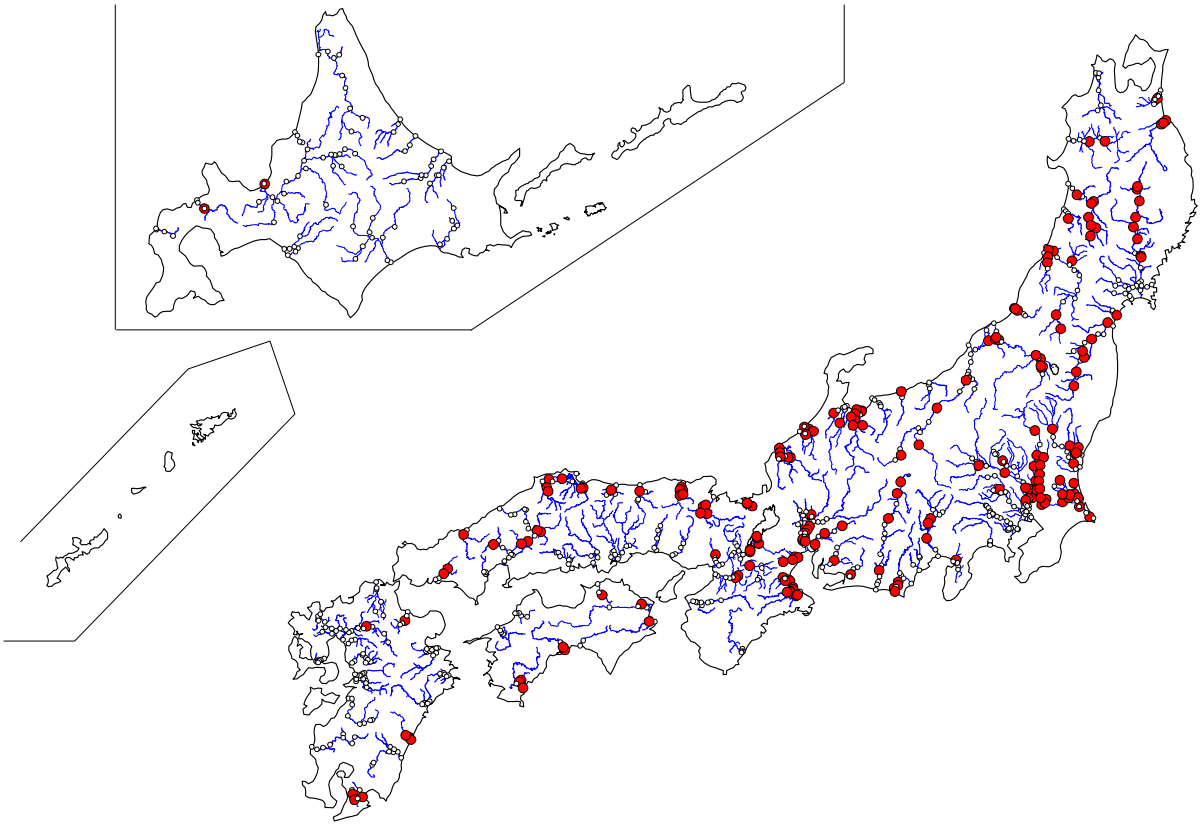


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

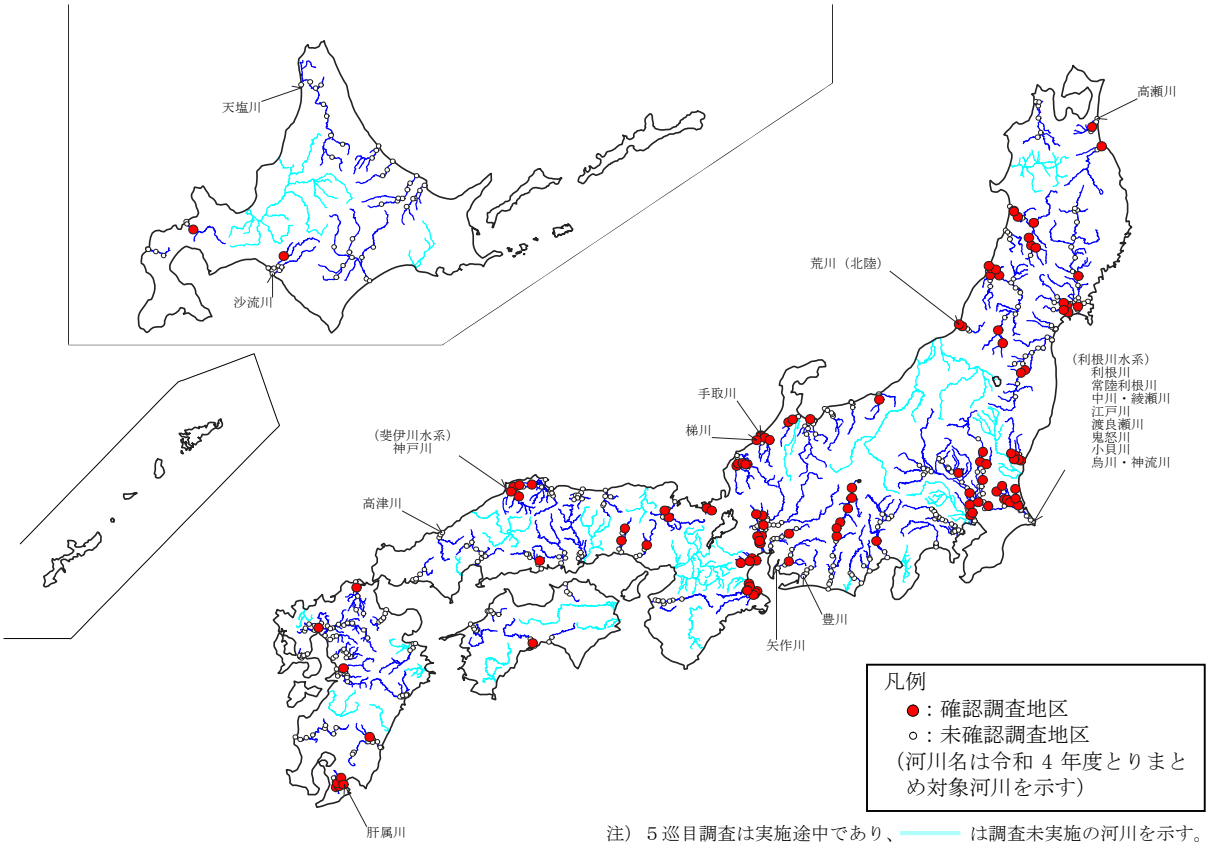
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

イネミズゾウムシの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



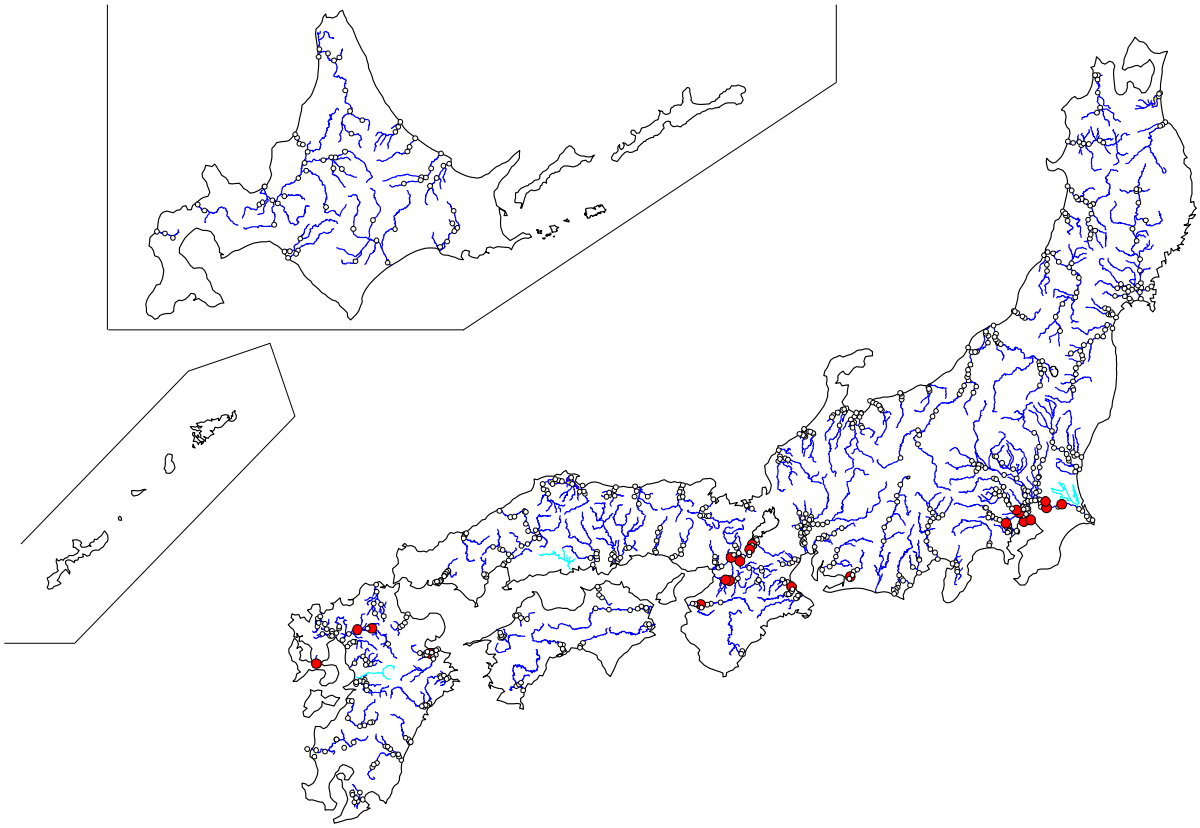
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



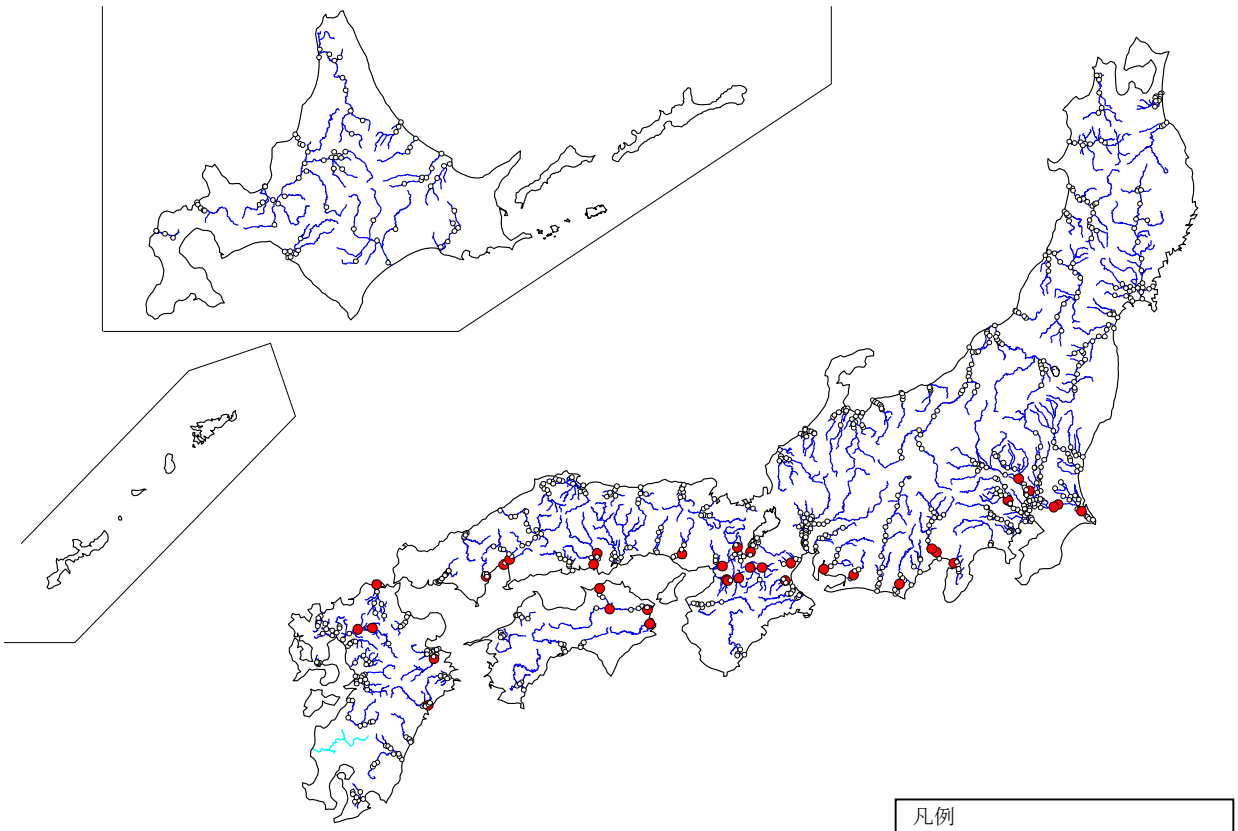
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

イネミズゾウムシの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



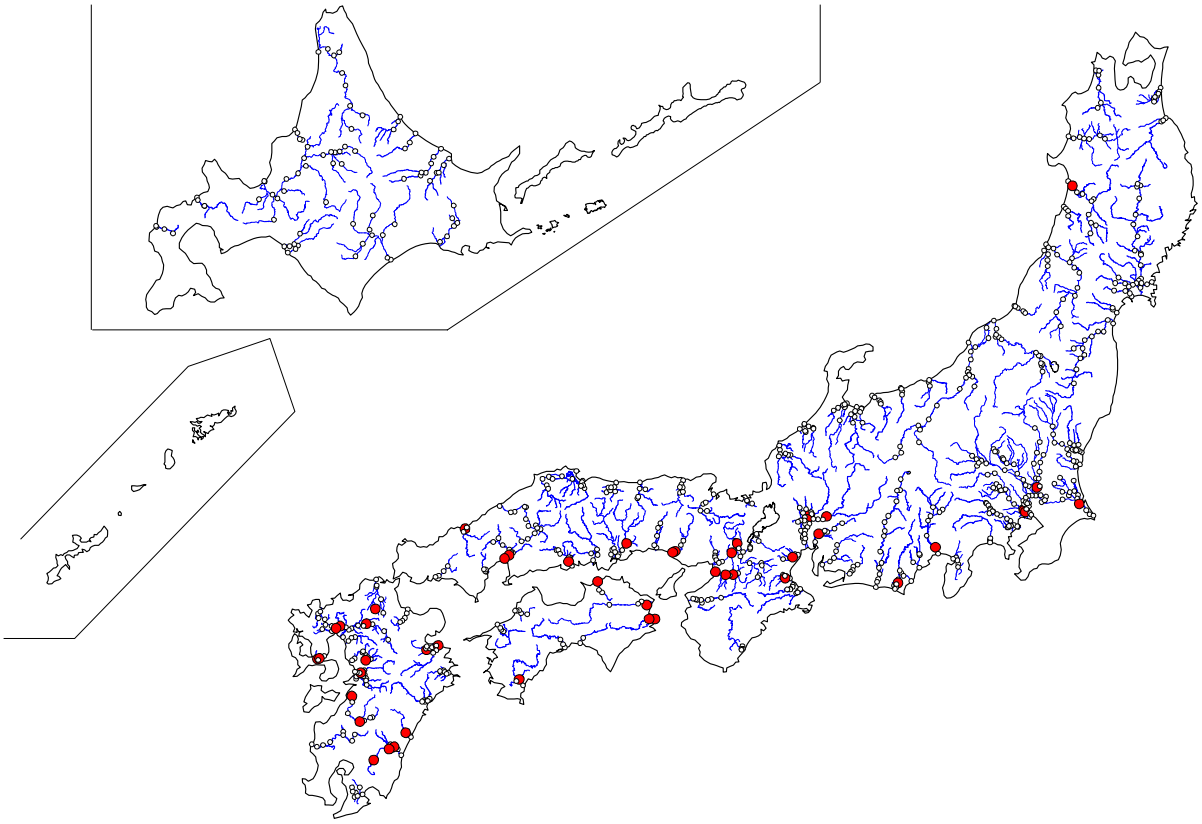
３巡目調査（平成 13～17 年度）



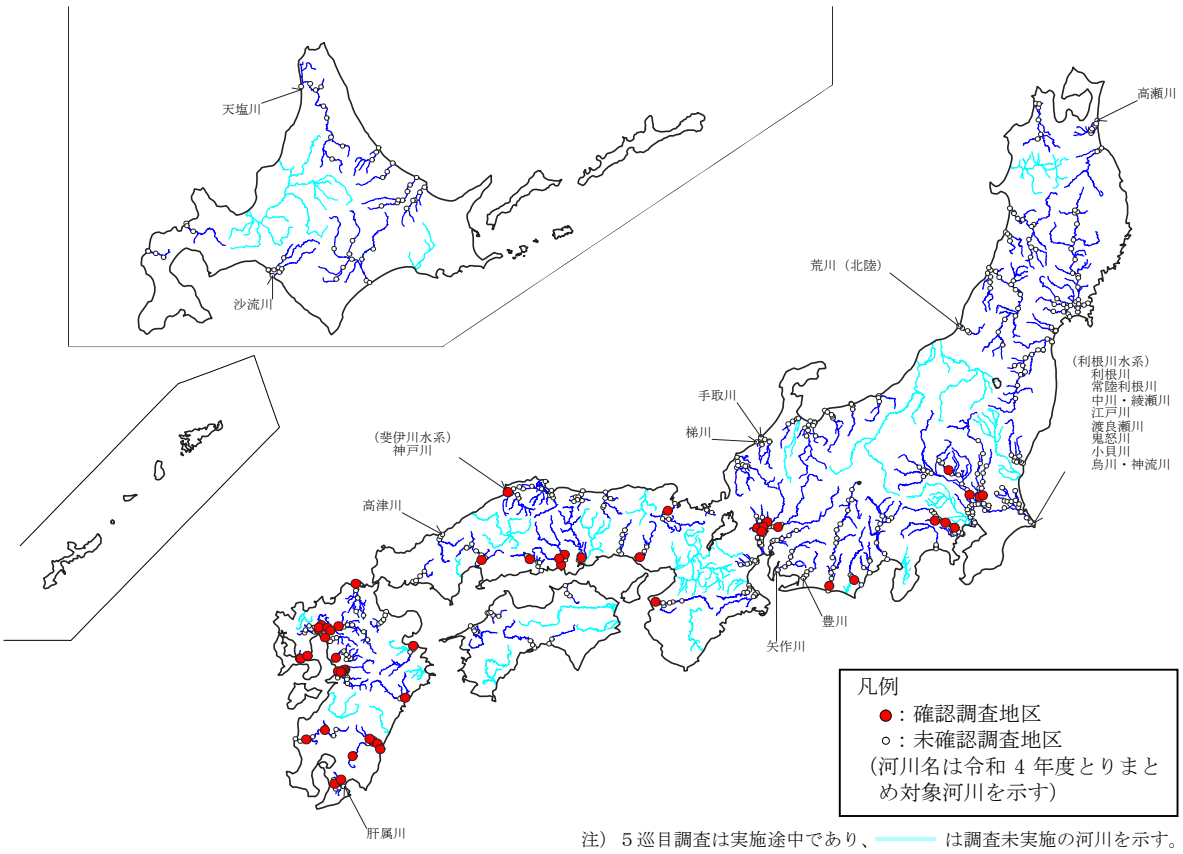
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

シバオサゾウムシの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



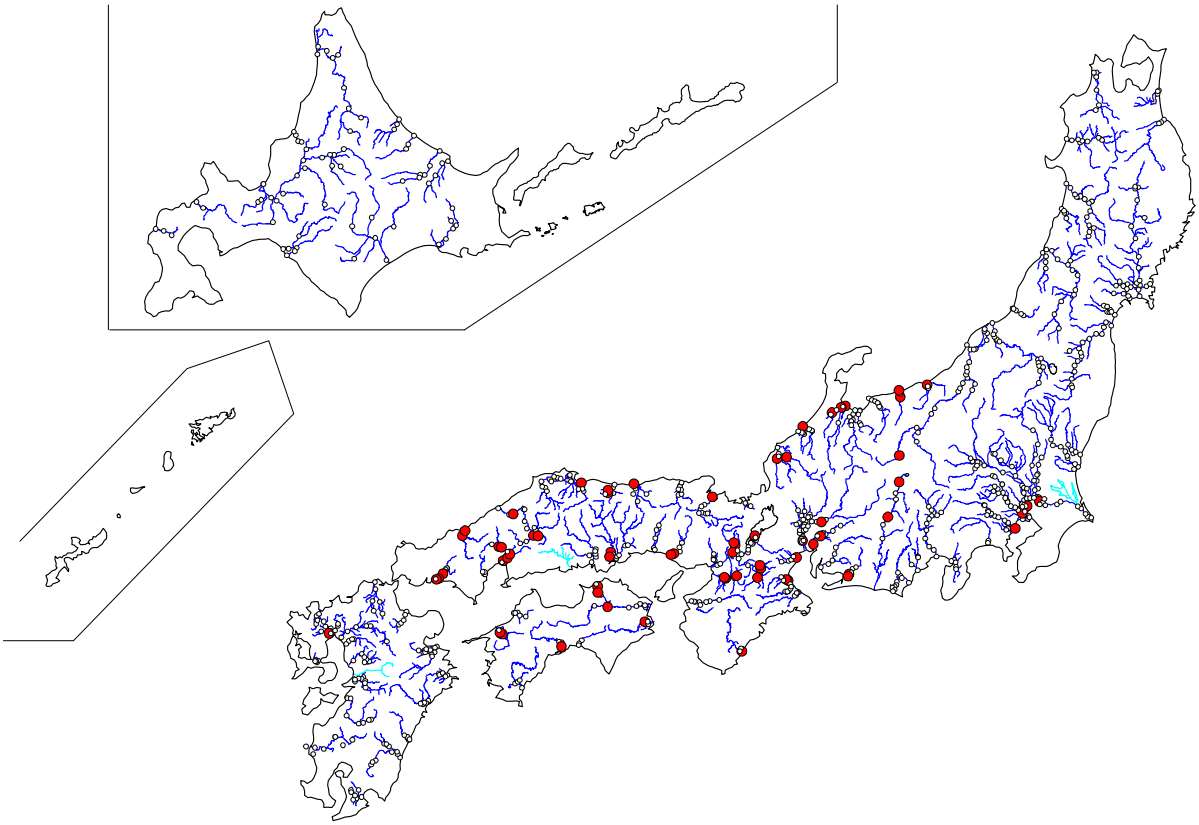
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



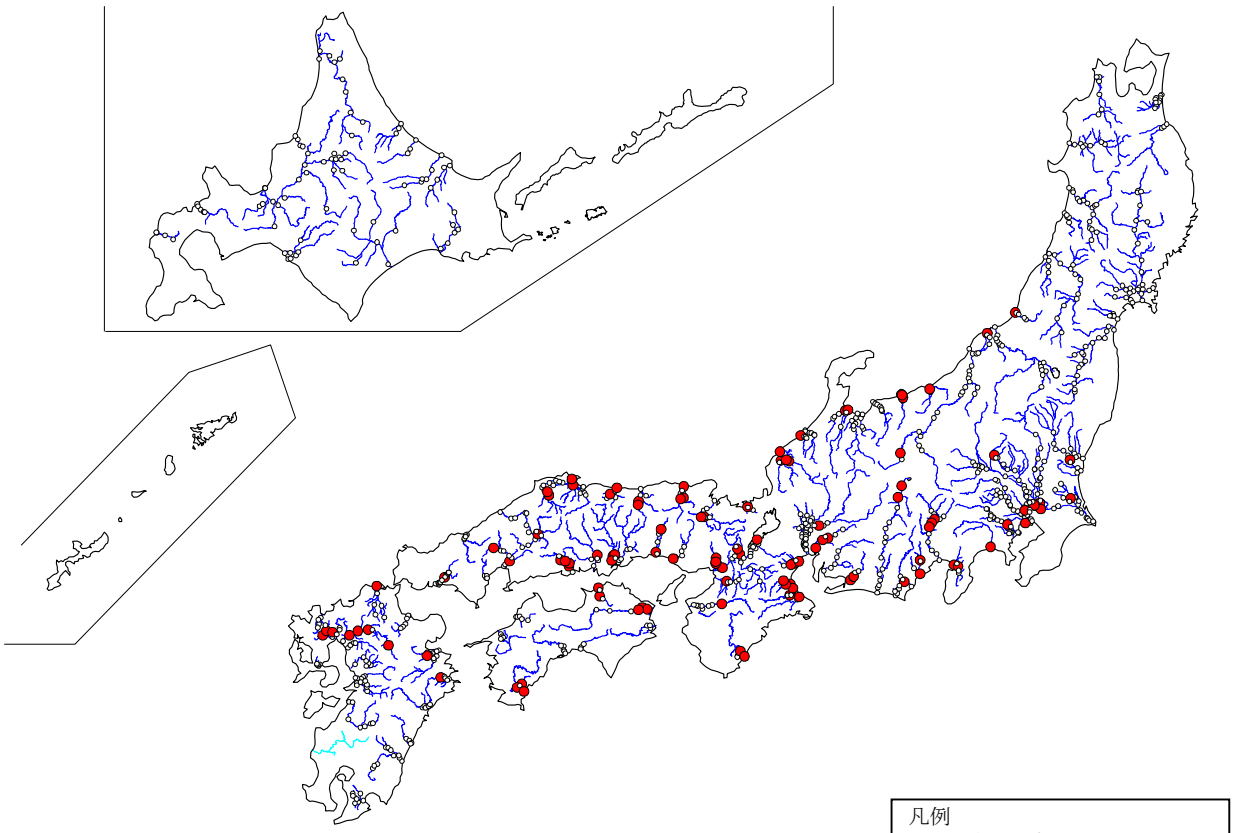
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

シバオサゾウムシの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



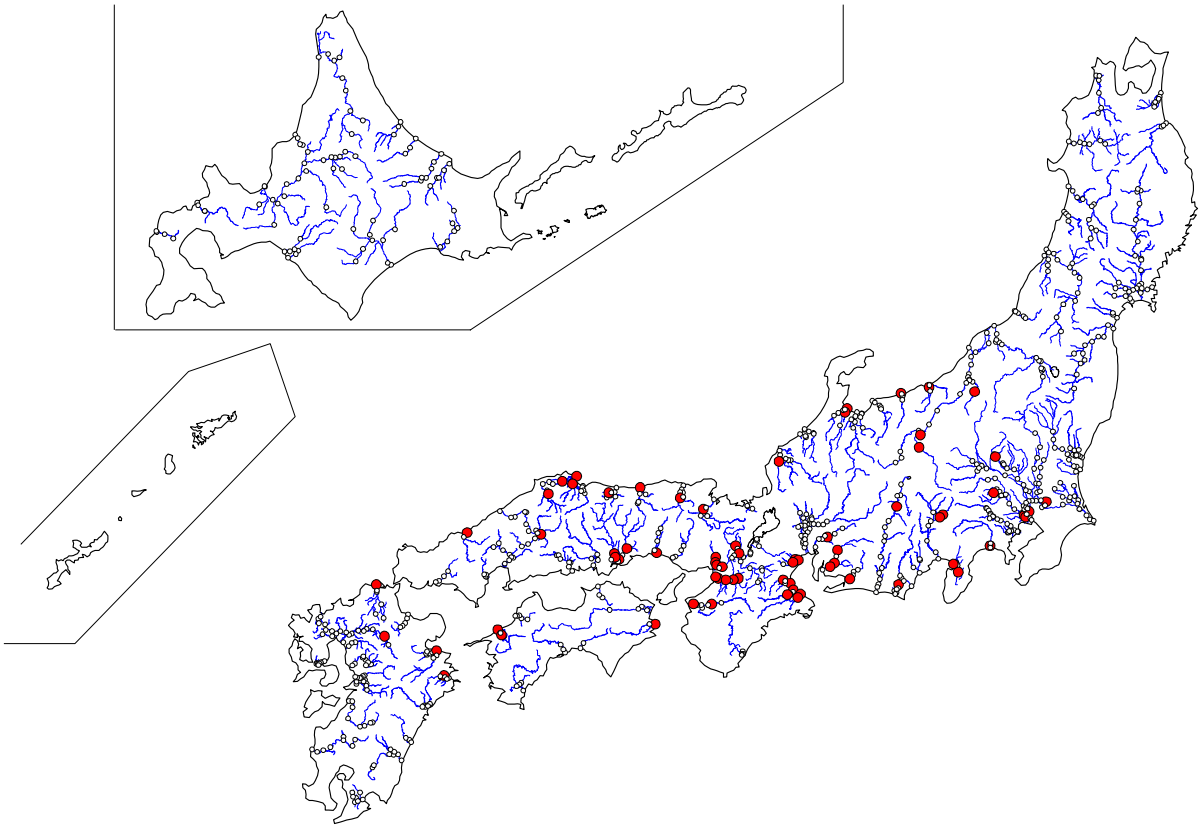
３巡目調査（平成 13～17 年度）



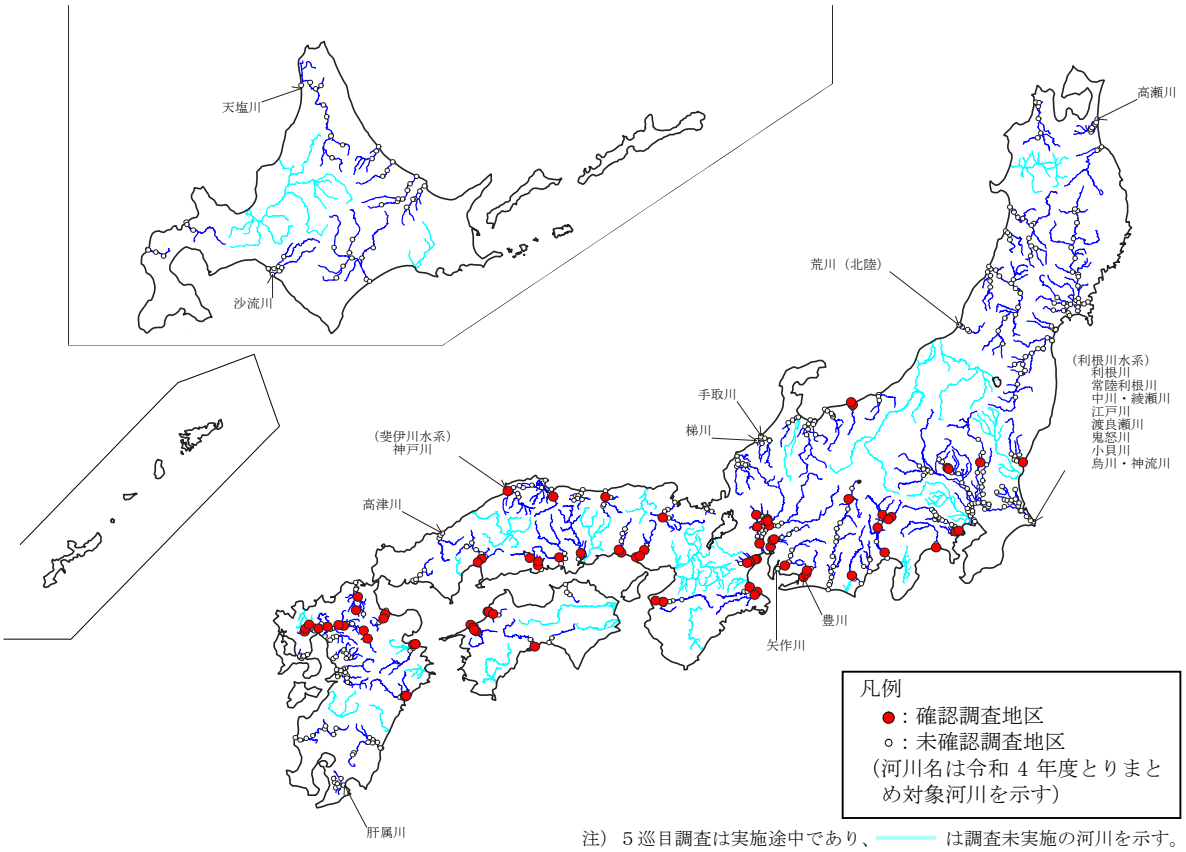
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アメリカジガバチの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



５巡目調査（平成 28～令和４年度）



注）５巡目調査は実施途中であり、―――― は調査未実施の河川を示す。

アメリカジガバチの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

【生物多様性の攪乱③：河川水辺の国勢調査５巡目で初確認となるその他の国外外来種のうち、特に注目すべき種の分布状況　ムネアカハラビロカマキリ、シタベニハゴロモ、チュウゴクアミガサハゴロモ、クスベニヒラタカスミカメ、ムシャクロツバメシジミ、ムネアカオオクロテントウの確認状況】

(陸上昆虫類等調査)

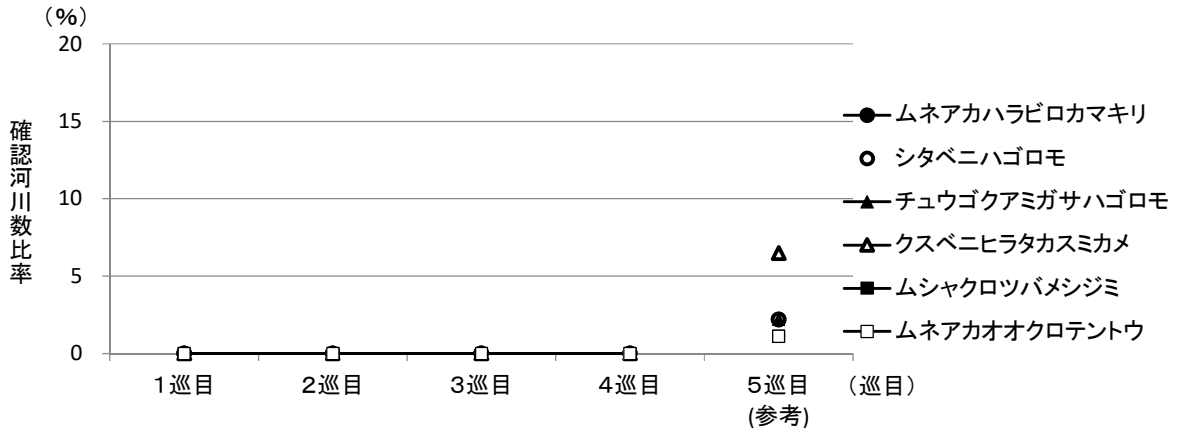
- **シタベニハゴロモ、チュウゴクアミガサハゴロモ、クスベニヒラタカスミカメを確認**

  シタベニハゴロモは北陸地方の手取川での、チュウゴクアミガサハゴロモは中部地方の矢作川、豊川での、クスベニヒラタカスミカメは中部地方の豊川での河川水辺の国勢調査では、それぞれ初めての確認となります。

  (資料掲載：6-73～75 ページ、6-112～6-113 ページ)

１～５巡目調査の確認河川数の比較

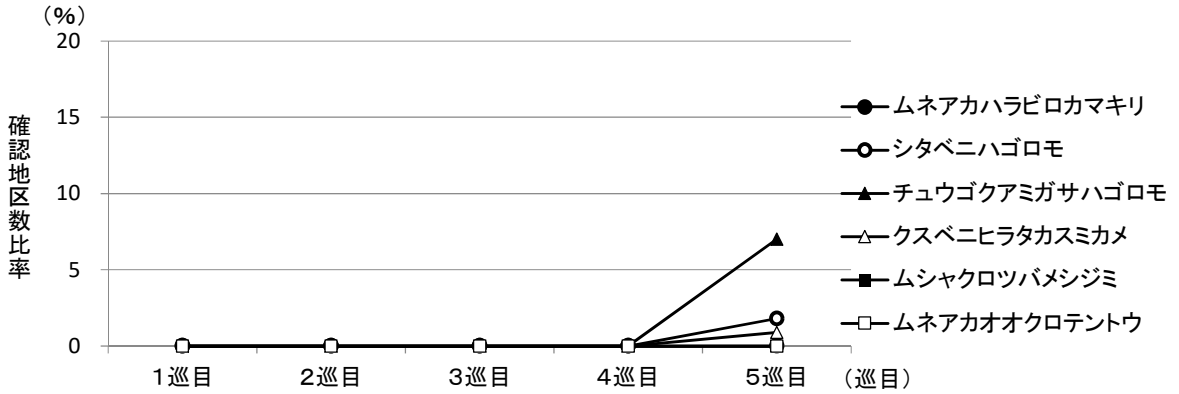
種 類	１巡目調査 (78 河川)	２巡目調査 (120 河川)	３巡目調査 (122 河川)	４巡目調査 (122 河川)	５巡目調査 (92 河川)
ムネアカハラビロカマキリ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔2.2〕
シタベニハゴロモ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔2.2〕
チュウゴクアミガサハゴロモ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔2.2〕
クスベニヒラタカスミカメ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	6 河川 〔6.5〕
ムシャクロツバメシジミ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔1.1〕
ムネアカオオクロテントウ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔1.1〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

令和４年度調査河川（19 河川）を対象とした確認河川数・地区数の比較

種 類	１巡目調査 (12 河川・ 83 地区)	２巡目調査 (17 河川・ 112 地区)	３巡目調査 (18 河川・ 137 地区)	４巡目調査 (18 河川・ 113 地区)	５巡目調査 (19 河川・ 114 地区)
ムネアカハラビロカマキリ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕
シタベニハゴロモ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	1 河川 2 地区 〔1.8〕
チュウゴクアミガサハゴロモ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	2 河川 8 地区 〔7.0〕
クスベニヒラタカスミカメ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	1 河川 1 地区 〔0.9〕
ムシャクロツバメシジミ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕
ムネアカオオクロテントウ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕



※ 確認河川数・地区数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数・地区数を示す。
※ 〔〕内は確認地区数の分析対象地区数に対する％を示す。

ムネアカハラビロカマキリは、カマキリ目カマキリ科に属する昆虫で、中国大陸から移入された可能性が高いと考えられていますが、原産地、侵入経路、侵入時期などは現時点では不明とされています。日本国内での記録は2000年代に入ってからで、福井県を皮切りに、以降関東・新潟から九州までの各地で発見や定着の確認が続いています[注1,2,3)]。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成29年度に調査した中部地方の庄内川、令和2年度に調査した球種地方の筑後川の2河川のみで、今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）では確認されませんでした。本種は、在来の近縁種であるハラビロカマキリに対して顕著な侵略性がある事例が報告されており[注1,3)]、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

シタベニハゴロモは、中国、台湾、ベトナム、インドなどに分布するカメムシ目ビワハゴロモ科に属する昆虫で、これまでに日本の他、韓国、アメリカへの移入が報告されています。日本国内では、戦前に数例の記録があるもののいずれも遇産と考えられていましたが、2009年の石川県での発見を機に、その後福井県、大阪府、岡山県でもまとまって確認され、定着・分布拡大が報告されています[注4)]。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成30年度に調査した近畿地方の九頭竜川のみで、今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、北陸地方の手取川の2地区から合計10個体が確認されました。本種は、様々な樹木の汁を吸い、海外では桃やブドウなど農産物への食害も報告されています。日本での被害報告はまだありませんが[注5)]、個体数増加や分布拡大とともに被害が出る可能性もあり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

チュウゴクアミガサハゴロモは、カメムシ目ハゴロモ科に属する中国原産の昆虫で、これまでに日本の他、韓国、ヨーロッパ各地への侵入が報告されています[注6)]。日本国内では、2017年に大阪府で採集されたのが最初で、すでに関東地方から九州地方にかけて分布が拡大しています[注7,8)]。河川水辺の国勢調査における確認は、今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）のうち、中部地方の矢作川と豊川が初めてとなります。日本国内における作物への被害報告等はまだ出ていないものの、リンゴやブルーベリー、タラノキ、ウルシ類、クリなどの様々な果樹や街路樹を加害し、その宿主植物は200種以上に及ぶことから、これまでの分布拡大の勢いも踏まえると、有用植物へ被害が出る可能性もあり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。[注8)]

クスベニヒラタカスミカメは、中国に分布するカメムシ目カスミカメムシ科に属する昆虫で、日本国内では、2015年に大阪府や兵庫県で発見されて以降、関東地方から中国地方まで急激に分布拡大していることが報告されています[注9)]。河川水辺の国勢調査における初めての確認は、令和2年度に調査した近畿地方の九頭竜川と中国地方の芦田川の2河川となります。今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）において、中部地方の豊川の1地区から合計1個体が確認されました。本種は、クスノキの葉を加害する害虫として問題となっていることが各地で報告されていることから[注9)]、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

ムシャクロツバメシジミは、中国や台湾に分布するチョウ目シジミチョウ科に属する昆虫で、日本国内では2013年に愛知県で初めて確認され、2018年には福岡県でも確認されています[注10)]。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成29年度に調査した中部地方の庄内川のみで、今回とりまとめを行った19河川（直轄管理区間）では確認されませんでした。在来の近縁種であるクロツバメシジミとの競合や交雑の心配はないとされていますが[注10,11)]、食草であるツルマンネングサをはじめとするベンケイソウ科植物は全国各地の河川敷に広くみられることから、今後分布を拡大させていく可能性があり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

ムネアカオオクロテントウは、中国、台湾、東南アジアなどに分布するコウチュウ目テントウムシ科に属する昆虫で、日本国内では2015年に大阪府で初めて確認され[注12)]、その後関東地方と近畿地方において分布を拡大しています[注13)]。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成30年度に調査した関東地方の鶴見川のみで、今回取りまとめを行った19河川（直轄管理区間）では確認されませんでした。本種は、クズにつくマルカメムシの幼虫を捕食していますが、クズもマルカメムシも全国各地に普遍的にみられるため、今後爆発的に個体数を増加させ、生態系に何らかの影響を与える可能性もあり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

注1）出典：苅部治紀・加賀玲子，2017．神奈川県西部における外来種ムネアカハラビロカマキリの拡散状況(おもに2016年度夏季-秋季の調査から)．神奈川県立博物館研究報告 自然科学，(46)：71-77.

注2）出典：中峰空，2016．カマキリ目．町田龍一郎(監修)・日本産直翅類学会(編)，日本産直翅類標準図鑑．学研プラス，東京．Pp．44-67，198-205.

注3）出典：松本和馬，2018．総論 ムネアカハラビロカマキリの侵入と拡散をめぐって．昆虫と自然，53（11)：2-3.

注4）出典：奥島雄一・水井颯麻，2019．岡山県におけるシタベニハゴロモの記録．月刊むし，(586)：19-20.

注5）出典：Dara, S. K., L. Barringer & S. P. Arthurs, 2015. Lycorma delicatula (Hemiptera: Fulgoridae): A New Invasive Pest in the United States. J. Integ. Pest Mugmt, 6(1): 1-6.

注6）出典：末長晴輝，2023．チュウゴクアミガサハゴロモの岡山県における初記録．月刊むし，(634)：12-13.

注7）出典：春澤圭太郎・宮武頼夫，2023.アミガサハゴロモに近似の外来種について（カメムシ目：ハゴロモ化） 月刊むし，(628)：38-40.

注8）出典：韓　昌道，2023．東京都小平市でチュウゴクアミガサハゴロモを記録．月刊むし，(634)：13-14.

注9）出典：山田量崇，2019．徳島県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況．徳島県立博物館研究報告，(29)：9-14.

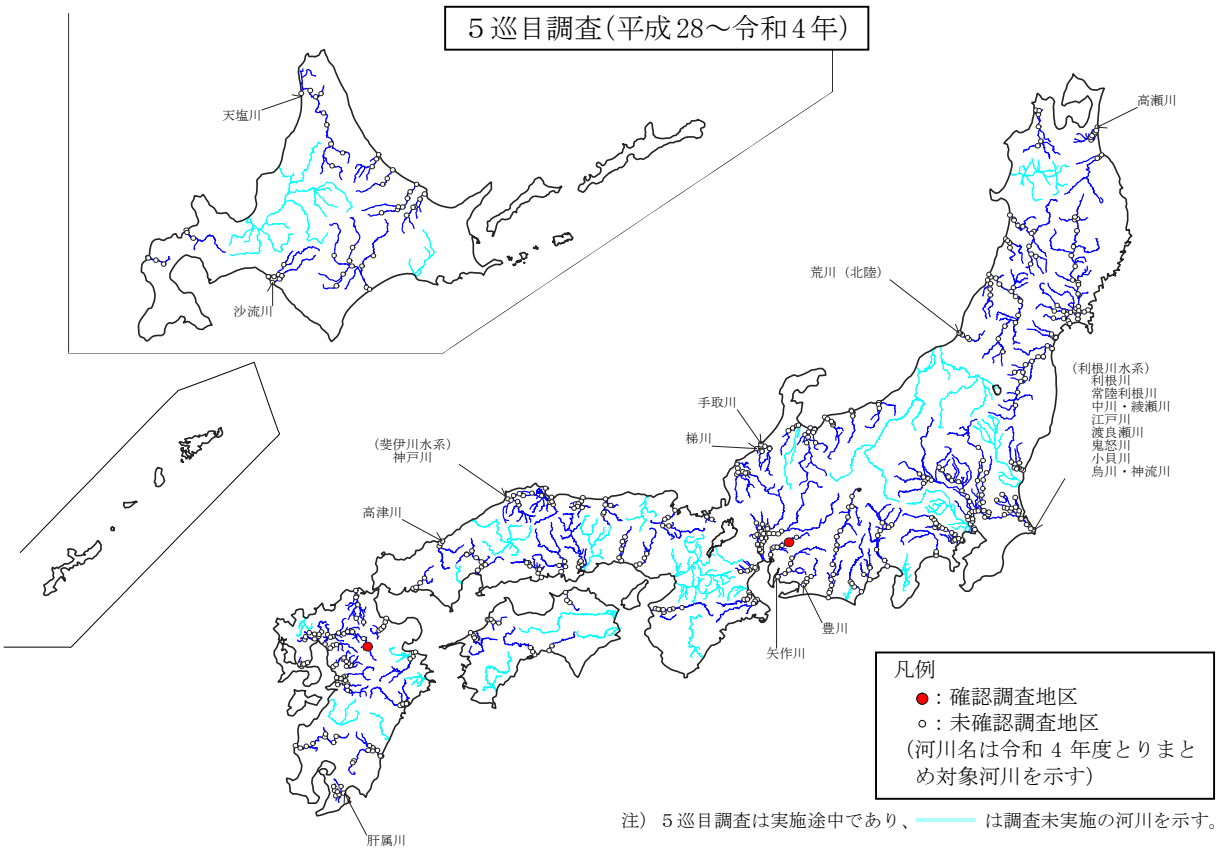
注10）出典：西日本新聞webサイト「外来種チョウを福岡で発見 ムシャクロツバメシジミ 園芸植物の輸入で侵入？」
https://www.nishinippon.co.jp/nnp/f_toshiken/article/442063/〕（最終閲覧日：2023年11月24日).

注11）出典：矢後勝也，2014．2013年の昆虫界をふりかえって 蝶界．月刊むし，(519)：2-21.

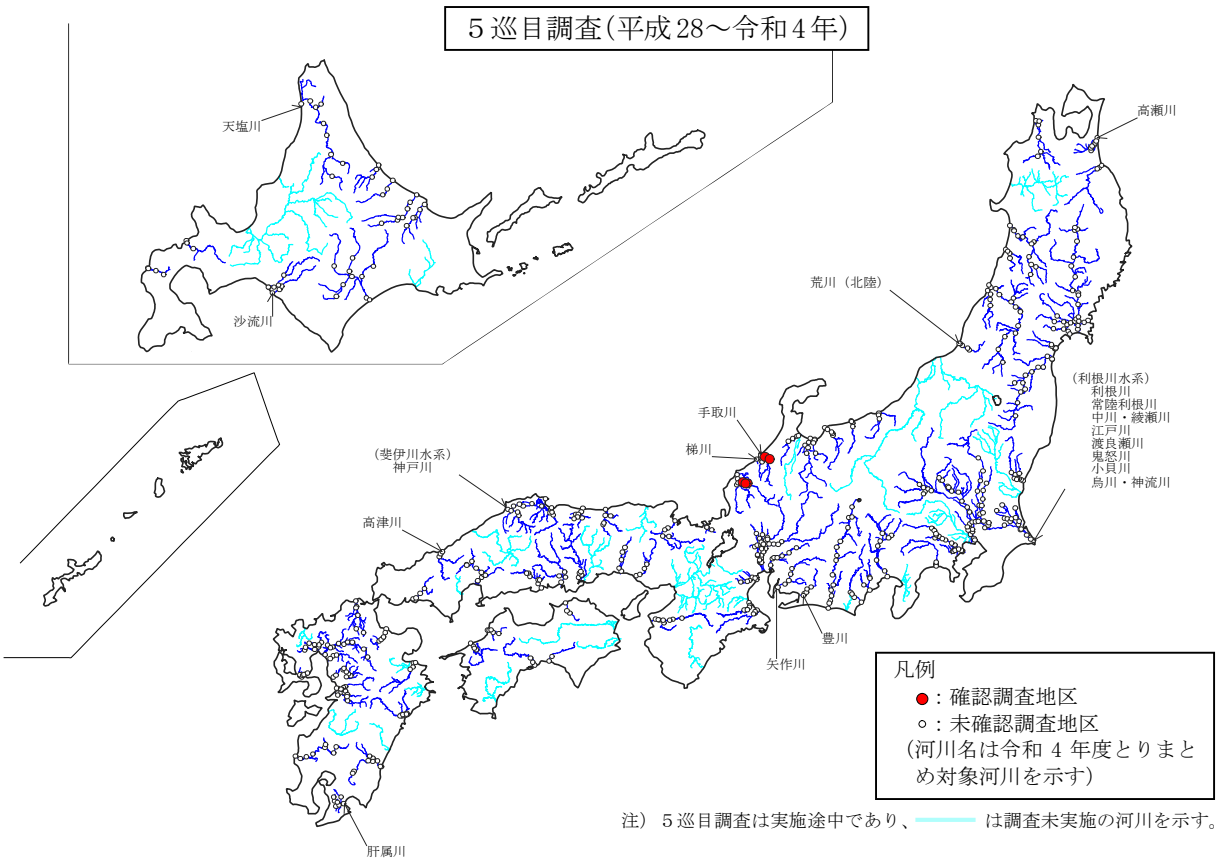
注12）出典：林太郎，2018．奈良県橿原市橿原神宮でのムネアカオオクロテントウ越冬記録．月刊むし，(567)：59.

注13）出典：初宿成彦（大阪市立自然史博物館）webサイト.
〔https://www.omnh.jp/shiyake/Synona-consanguinea.html〕(最終閲覧日：2023年11月24日).

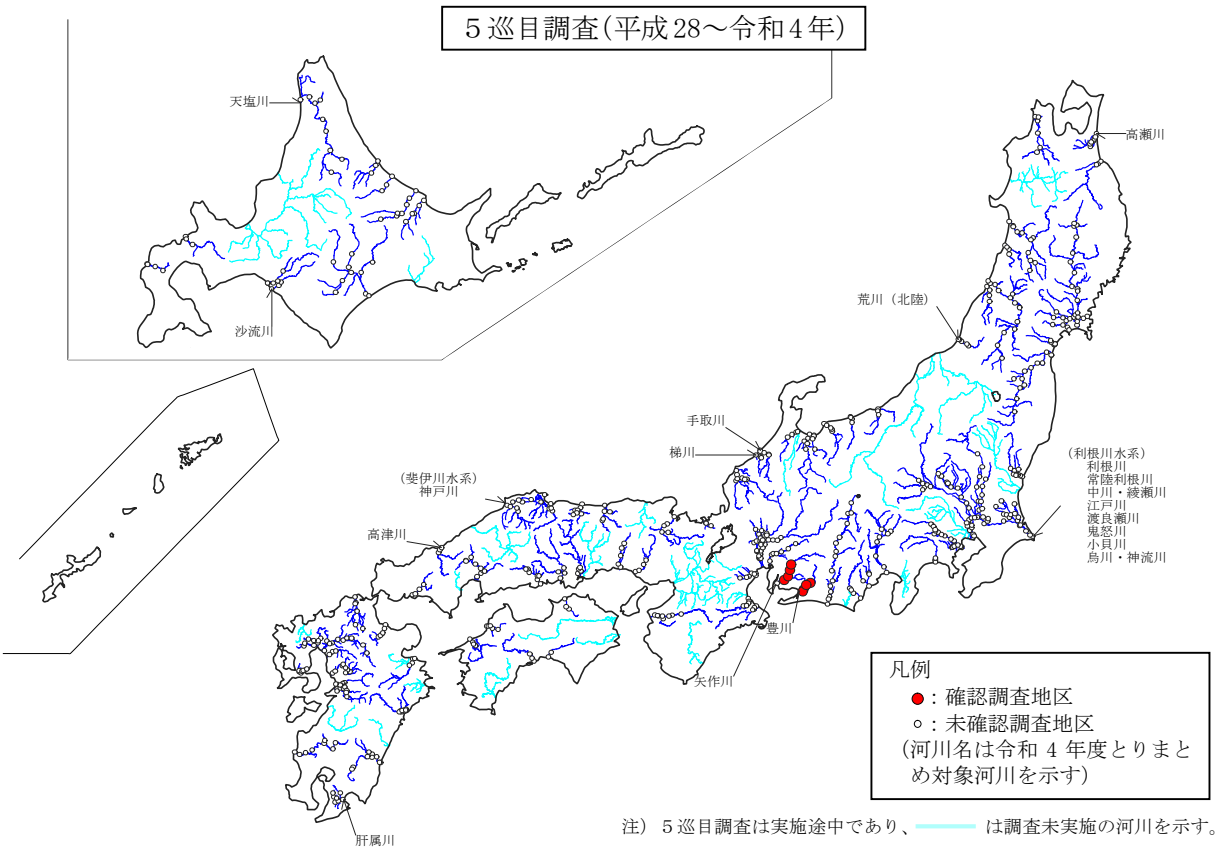
注）チュウゴクアミガサハゴロモ以外の画像は、過年度報告書から転用した。



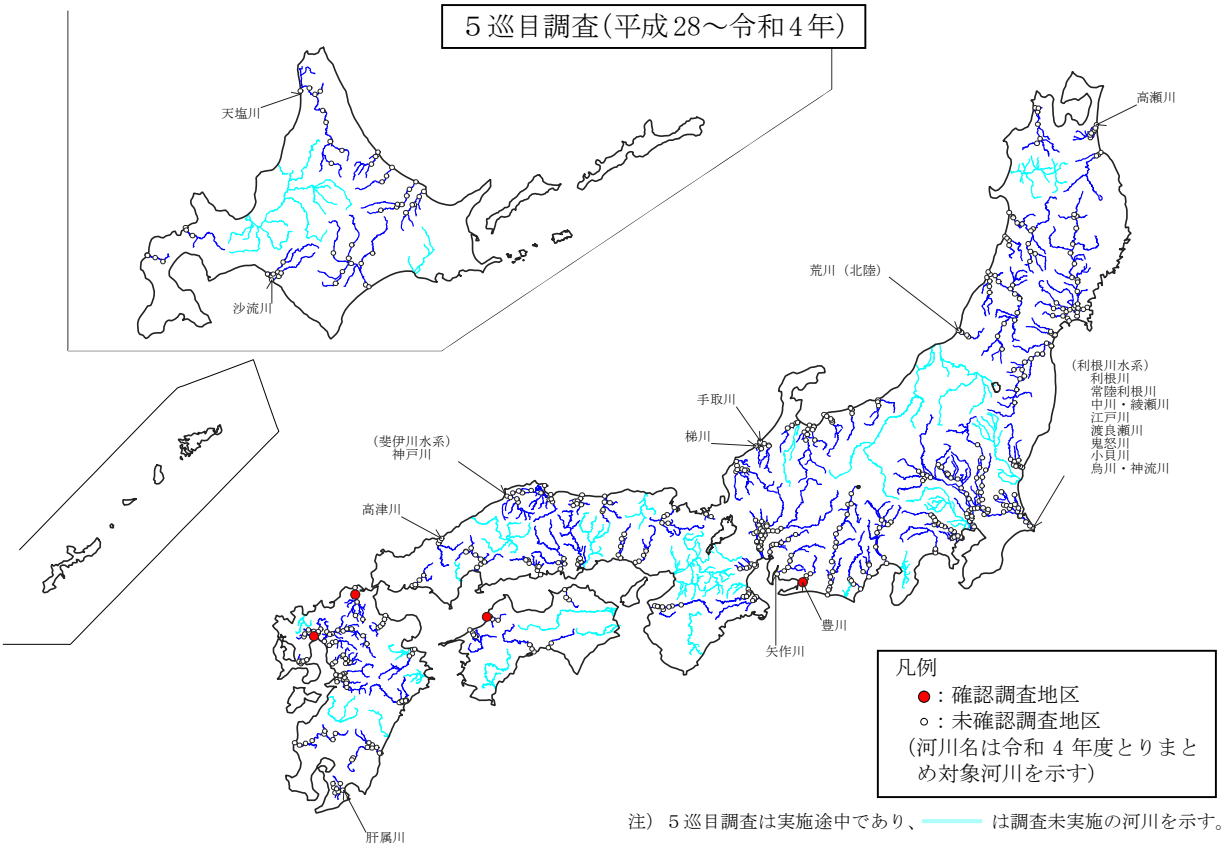
ムネアカハラビロカマキリの確認された調査地区（５巡目調査）



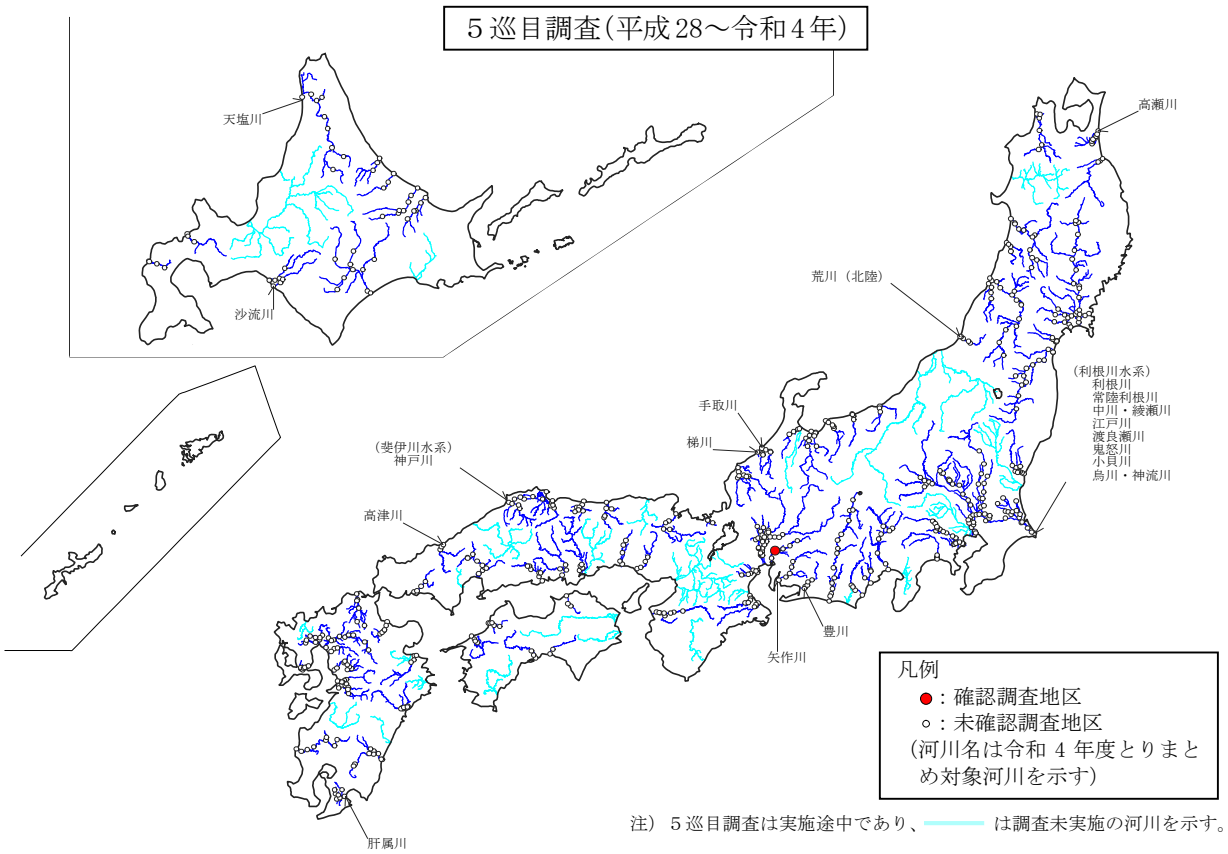
シタベニハゴロモの確認された調査地区（５巡目調査）



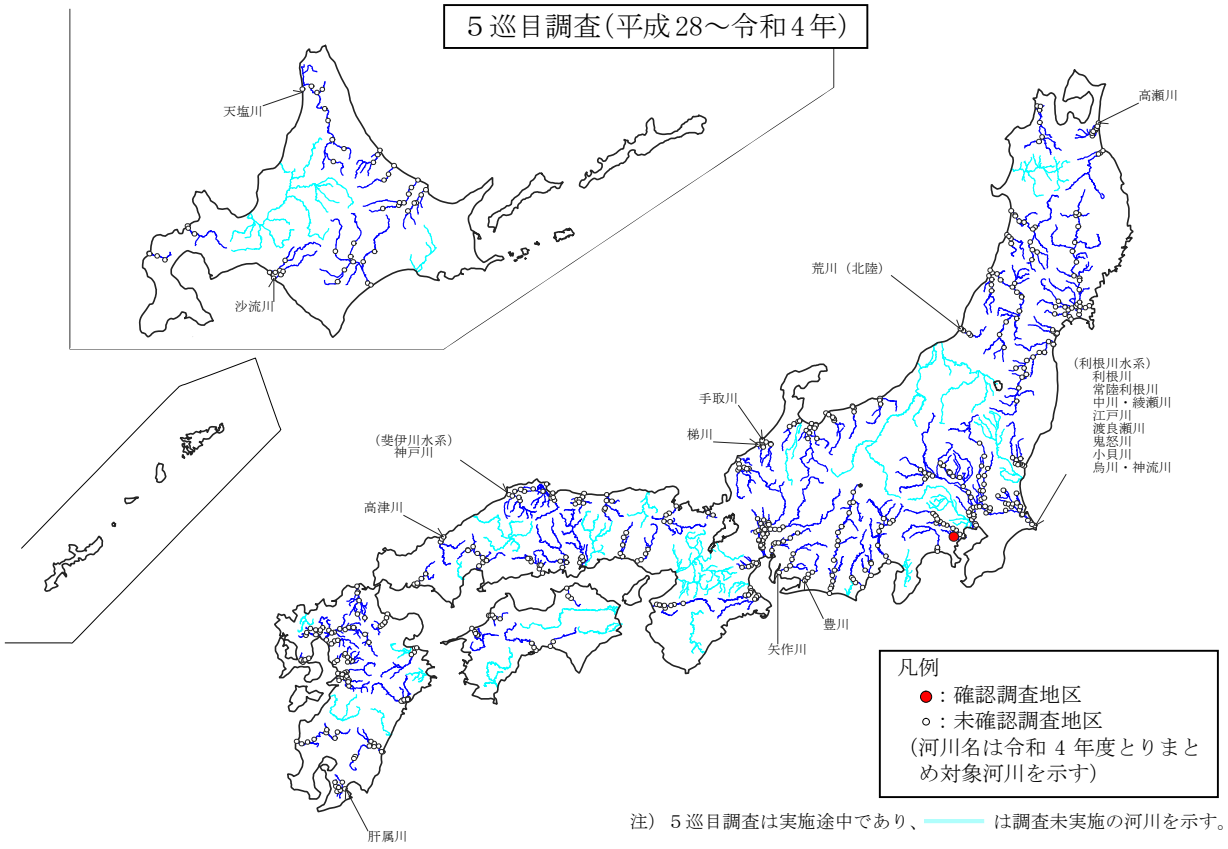
チュウゴクアミガサハゴロモの確認された調査地区（５巡目調査）



クスベニヒラタカスミカメの確認された調査地区（５巡目調査）



ムシャクロツバメシジミの確認された調査地区（５巡目調査）



ムネアカオオクロテントウの確認された調査地区（５巡目調査）

6.4 気候変動

地球温暖化による気候変動の影響として、生物の分布域の拡大や縮小などの影響が生じることが指摘されています。

ここでは、追跡確認の比較的容易な暖地性のチョウ類 6 種を選定し、それらの確認状況の動向を整理しました。

【ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、イシガケチョウ、クロコノマチョウの確認状況】 （陸上昆虫類等調査）

- **モンキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウを複数の河川から初確認**

チョウ類の確認状況をみるため、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、イシガケチョウ及びクロコノマチョウの 6 種の確認状況を整理しました。

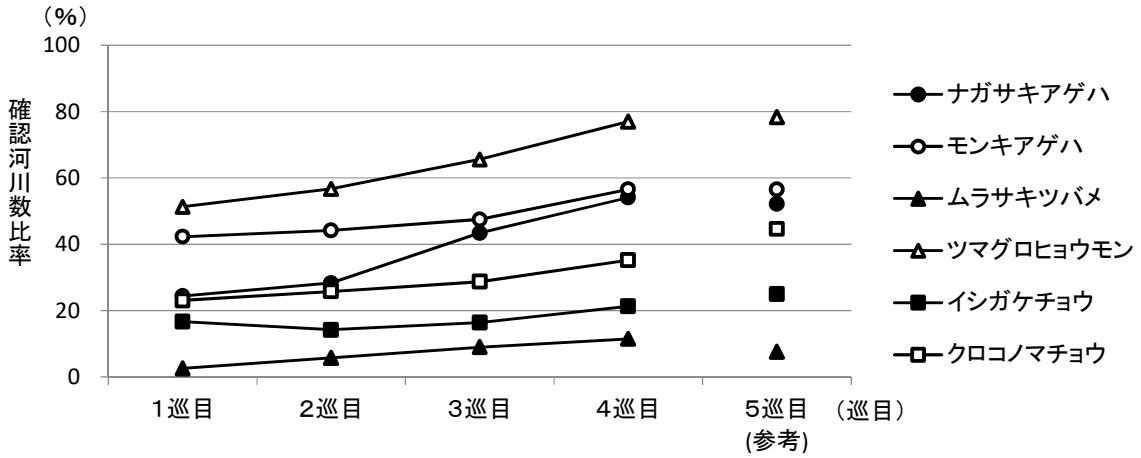
今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）のうち、モンキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウは関東地方の常陸利根川での、クロコノマチョウは関東地方の鬼怒川、小貝川、烏川・神流川、中部地方の矢作川での河川水辺の国勢調査では、それぞれ初めての確認となります。

（資料掲載：6-80～6-91 ページ、6-112～6-115 ページ）

注）画像は、すべて過年度報告書から転用した。

１～５巡目調査の確認河川数の比較

種 類	１巡目調査 (78 河川)	２巡目調査 (120 河川)	３巡目調査 (122 河川)	４巡目調査 (122 河川)	５巡目調査 (92 河川)
ナガサキアゲハ	19 河川 〔24.4〕	34 河川 〔28.3〕	53 河川 〔43.4〕	66 河川 〔54.1〕	48 河川 〔52.2〕
モンキアゲハ	33 河川 〔42.3〕	53 河川 〔44.2〕	58 河川 〔47.5〕	69 河川 〔56.6〕	52 河川 〔56.5〕
ムラサキツバメ	2 河川 〔2.6〕	7 河川 〔5.8〕	11 河川 〔9.0〕	14 河川 〔11.5〕	7 河川 〔7.6〕
ツマグロヒョウモン	40 河川 〔51.3〕	68 河川 〔56.7〕	80 河川 〔65.6〕	94 河川 〔77.0〕	72 河川 〔78.3〕
イシガケチョウ	13 河川 〔16.7〕	17 河川 〔14.2〕	20 河川 〔16.4〕	26 河川 〔21.3〕	23 河川 〔25.0〕
クロコノマチョウ	18 河川 〔23.1〕	31 河川 〔25.8〕	35 河川 〔28.7〕	43 河川 〔35.2〕	41 河川 〔44.6〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

追跡確認の比較的容易な暖地性のチョウ類 6 種について、分布状況を経年比較しました。これらのチョウ類の分布拡大は、自力で北上をしている種ばかりでなく、人為的な移入由来によるものもあると考えられます。また、特に都市周辺では、ヒートアイランド現象による温暖気候のために、これらの暖地性昆虫の定着を容易にしていることが推測されます。

ナガサキアゲハは、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある中国地方以西の 9 河川から確認されました。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、関東地方の久慈川が最北であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

モンキアゲハは、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、関東地方以西の 10 河川から確認され、このうち関東地方の常陸利根川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、太平洋側にあたる東北地方の名取川が分布の北限であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

ムラサキツバメは、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、関東地方の常陸利根川で確認され、同河川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。河川水辺の国勢調査での記録は、これまでのところ中国・四国地方以西に多く、近畿地方以東の記録は多くない状況です。

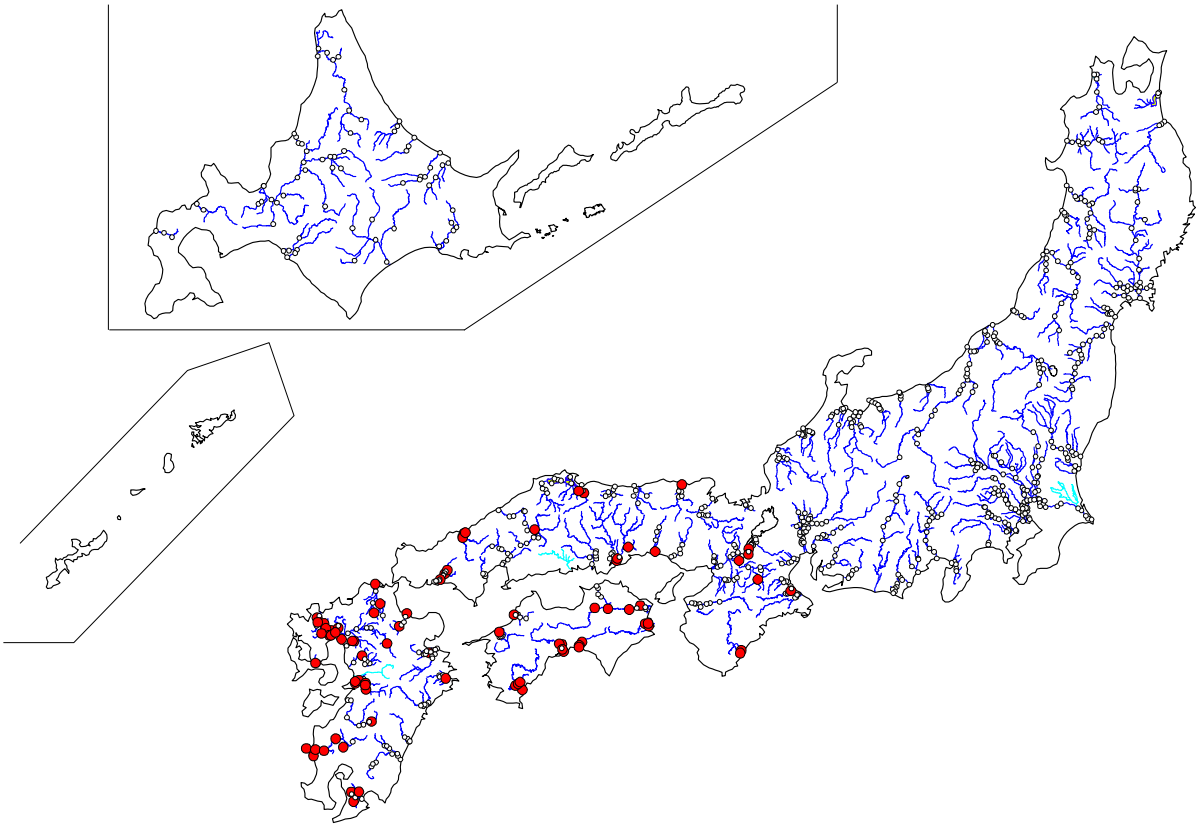
ツマグロヒョウモンは、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、関東地方以西の 15 河川から確認され、このうち関東地方の常陸利根川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、日本海側にあたる東北地方の鳴瀬川が最北であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

イシガケチョウは、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、中国地方以西の 2 河川から確認されました。これまでの河川水辺の国勢調査での確認は近畿地方以西の河川に限られていますが、今後も分布状況を注目していく必要があります。

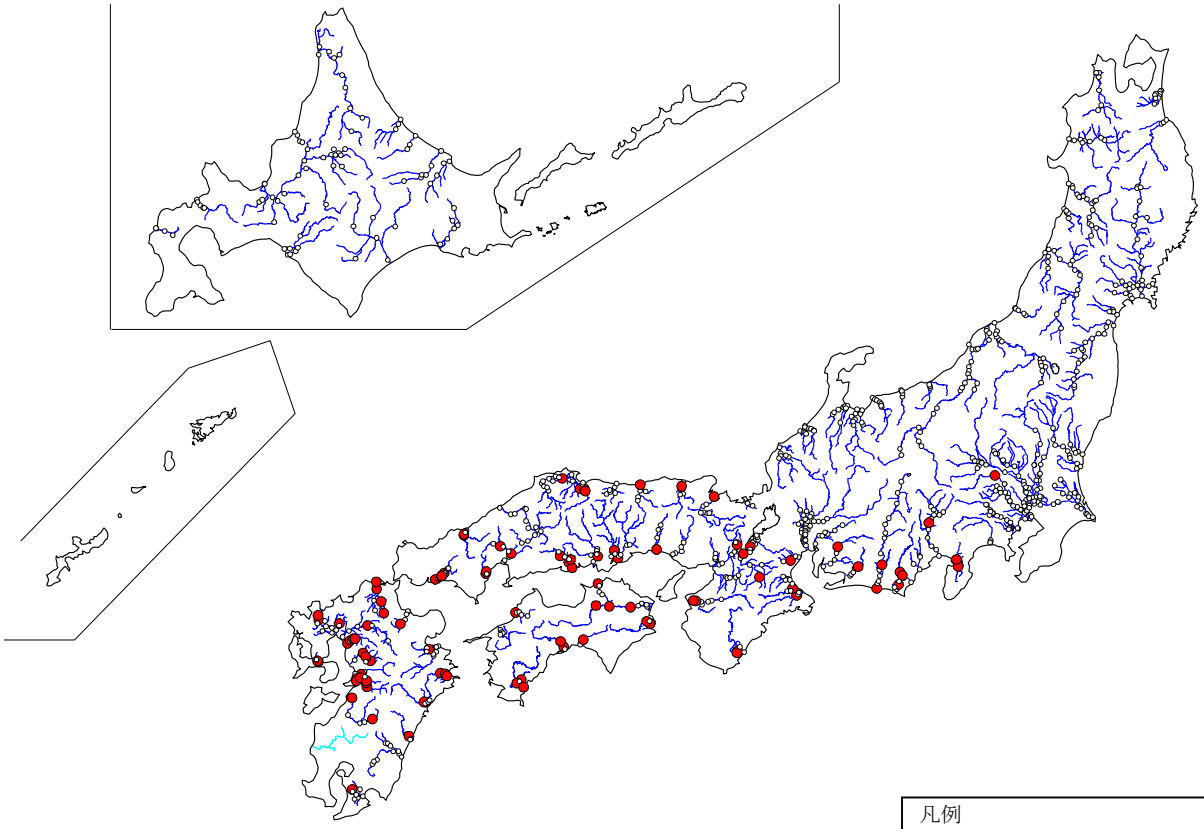
クロコノマチョウは、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、関東地方以西の 10 河川から確認され、このうち関東地方の鬼怒川、小貝川、烏川・神流川、中部地方の矢作川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、関東地方の久慈川が分布の北限であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

今回の調査からは、各種のチョウ類に北進の傾向は認められませんでした。今後もこのような情報の蓄積により、その定着や分布域の変化について検証する必要があります。

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

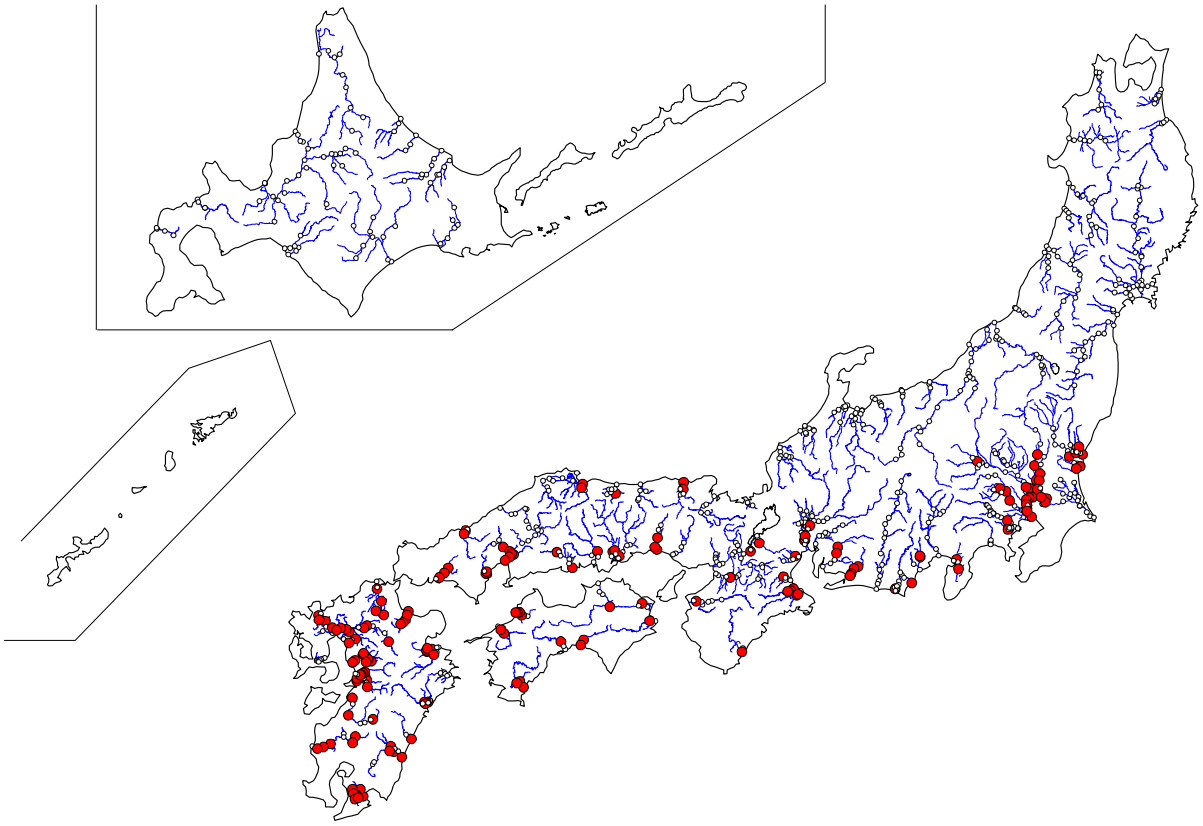


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

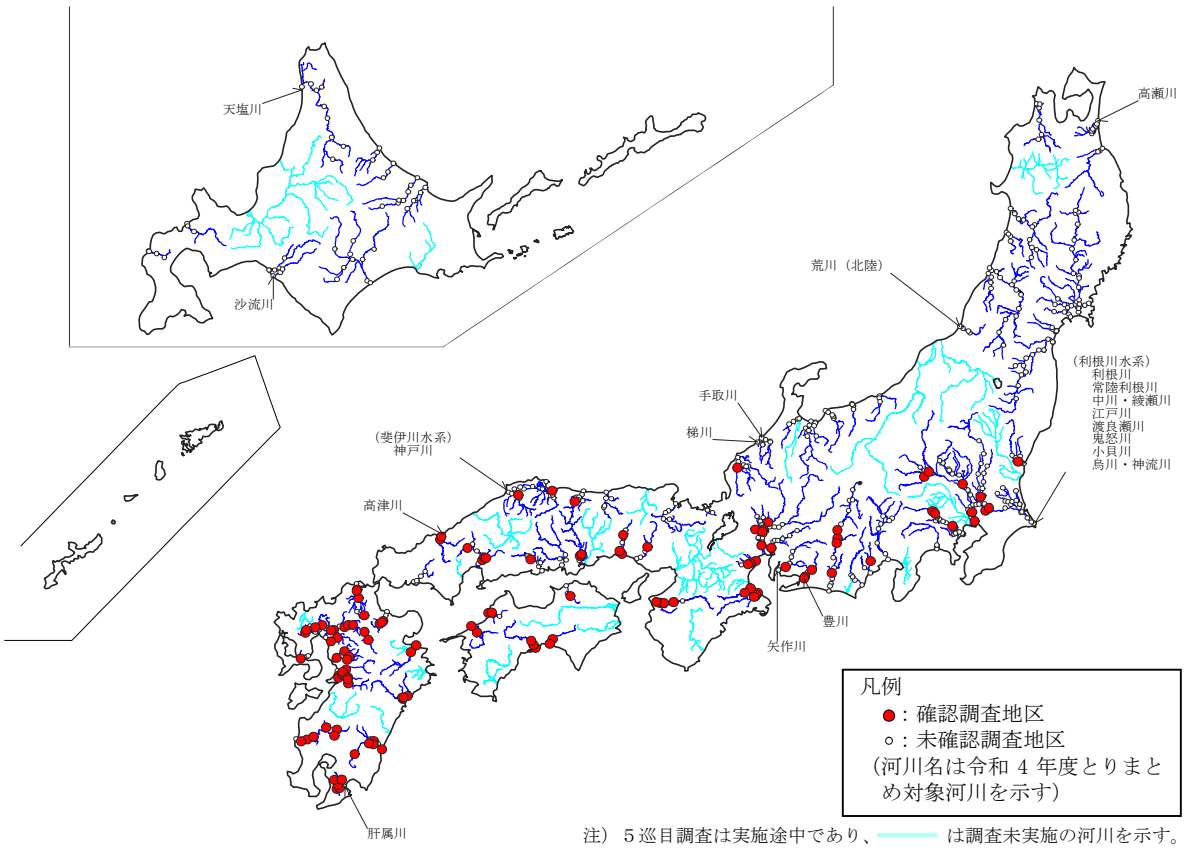
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ナガサキアゲハの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



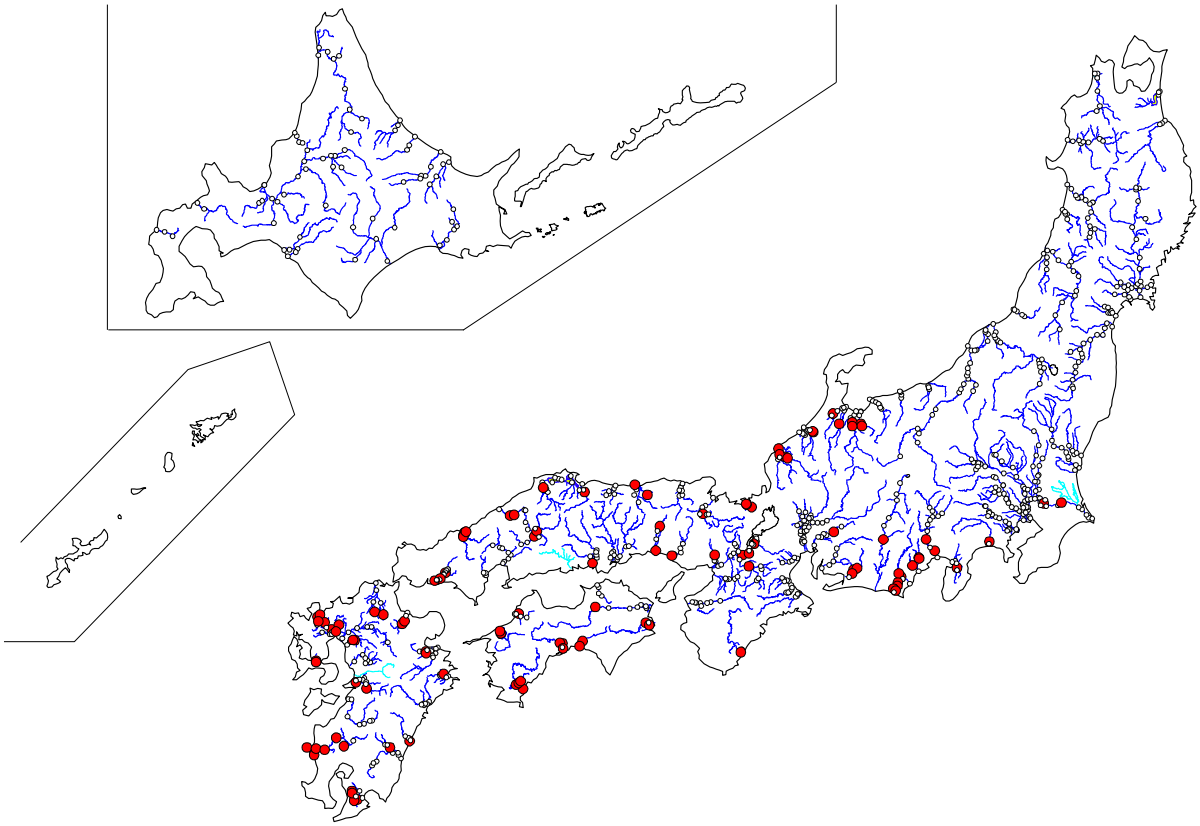
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



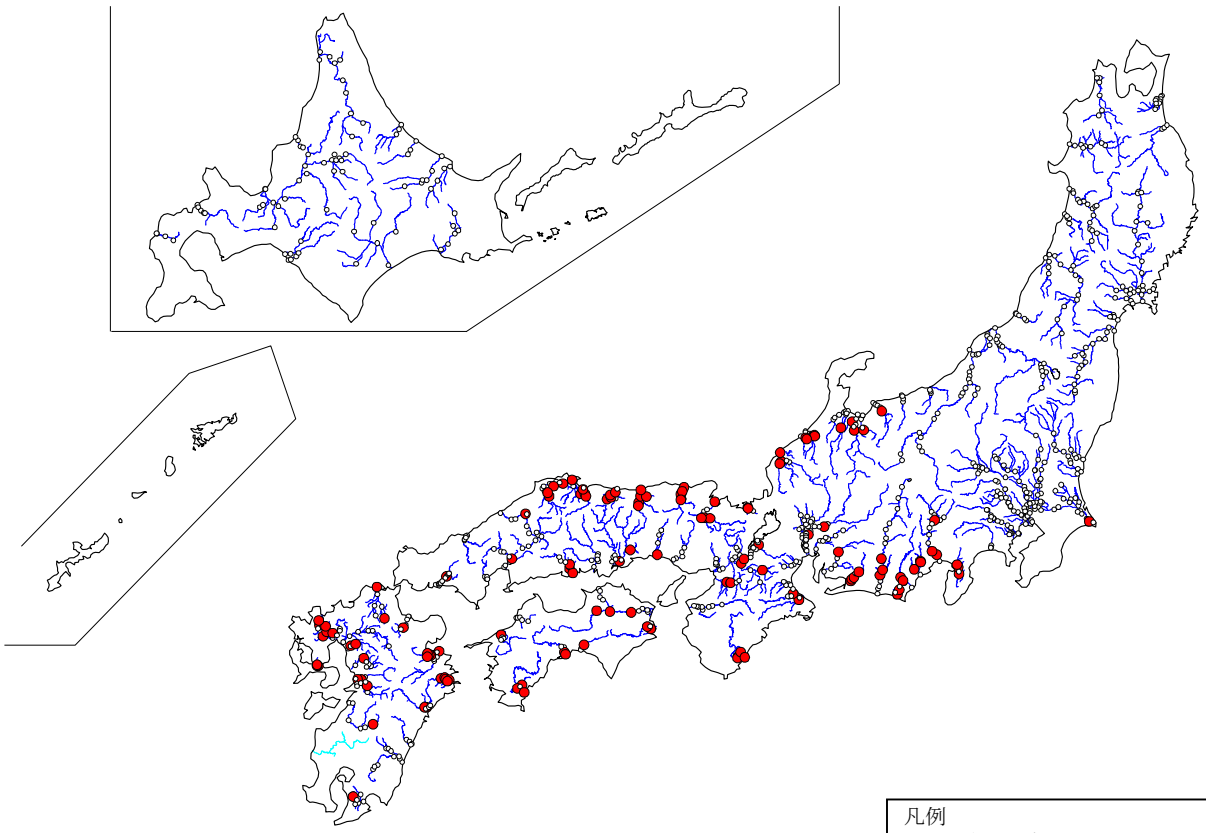
注）５巡目調査は実施途中であり、―――― は調査未実施の河川を示す。

ナガサキアゲハの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

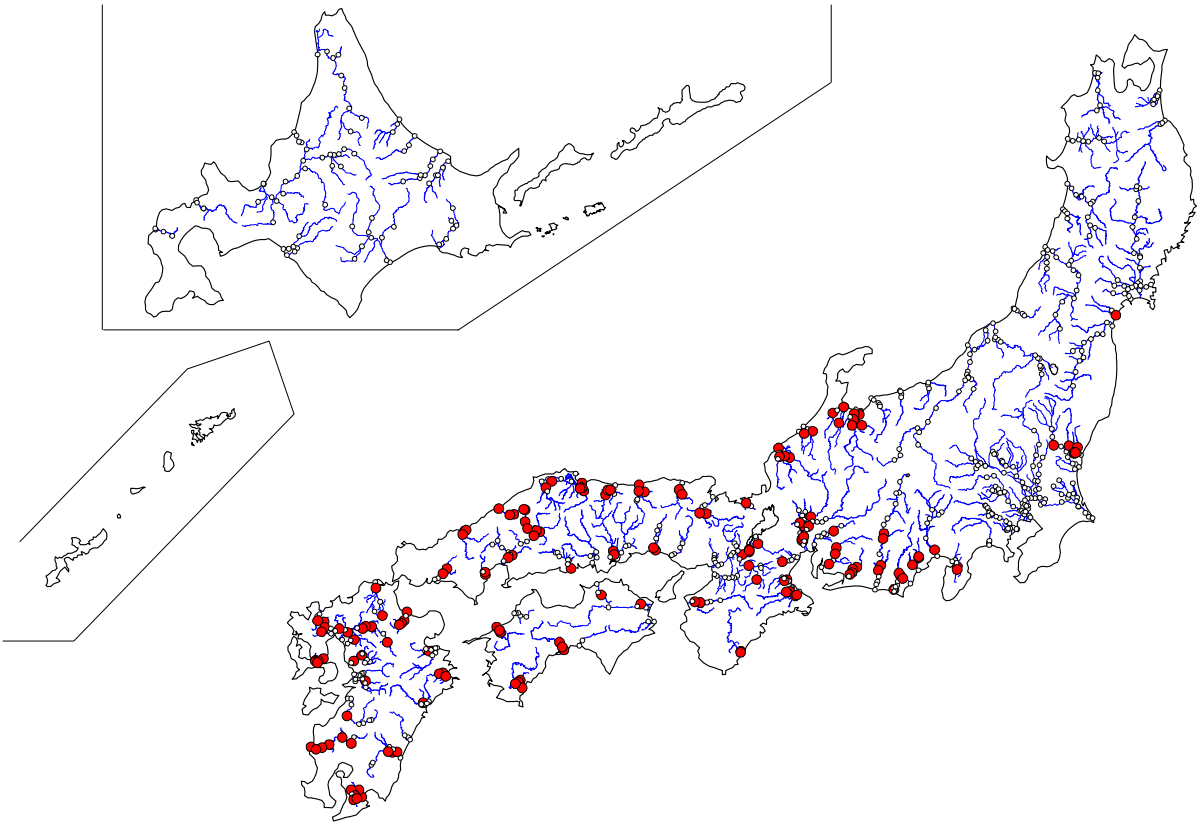


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

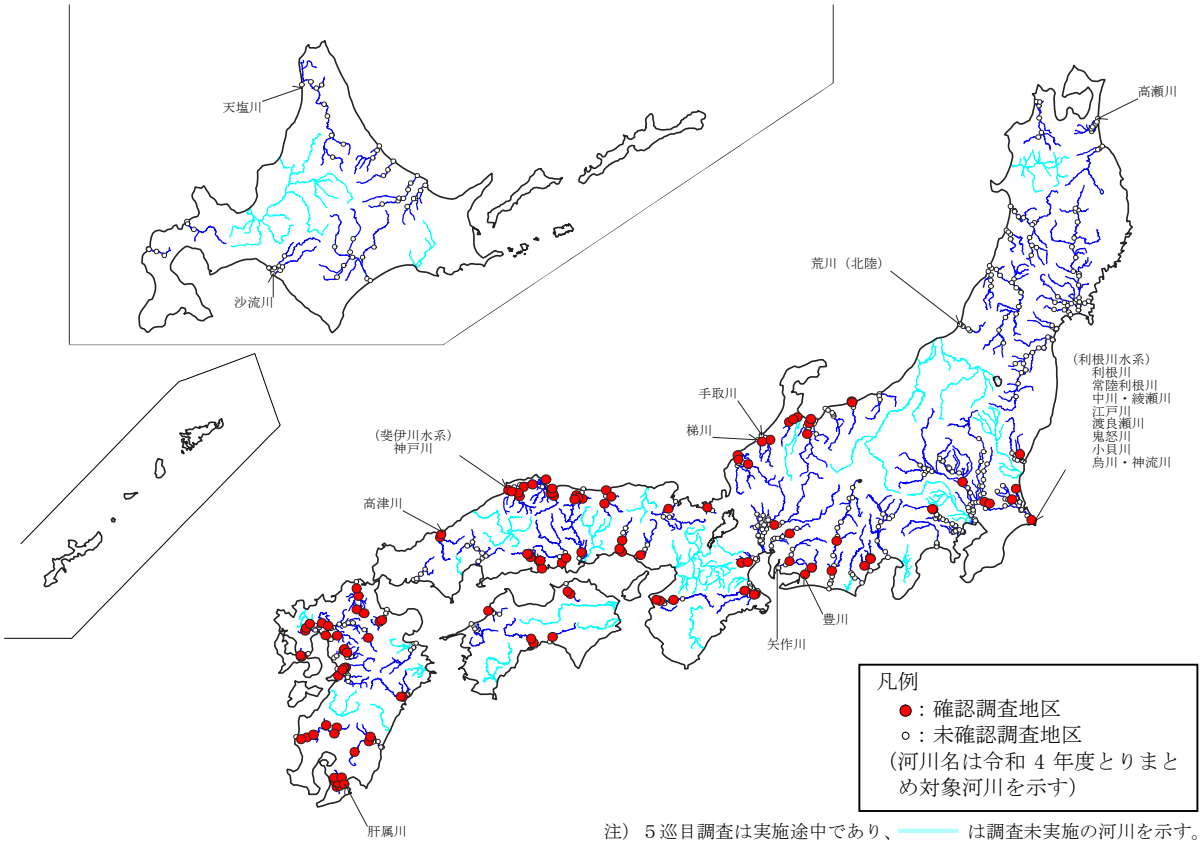
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

モンキアゲハの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



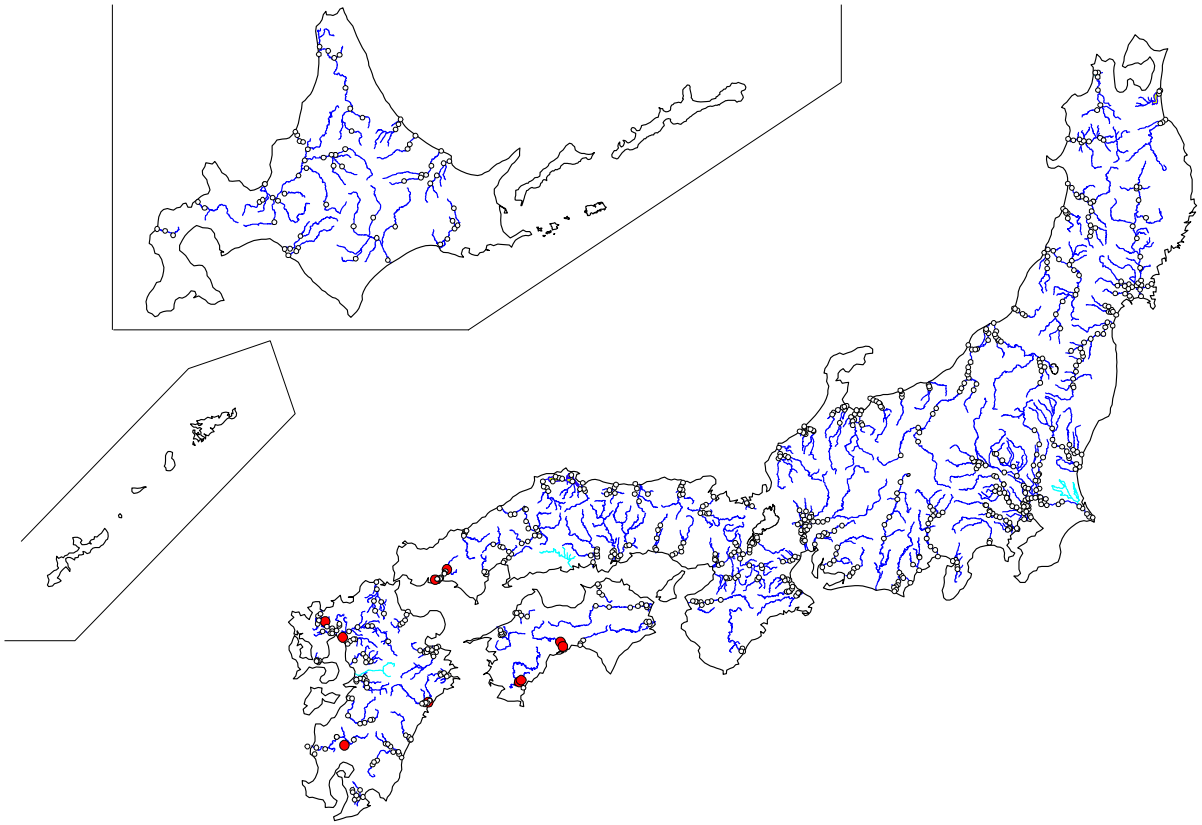
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



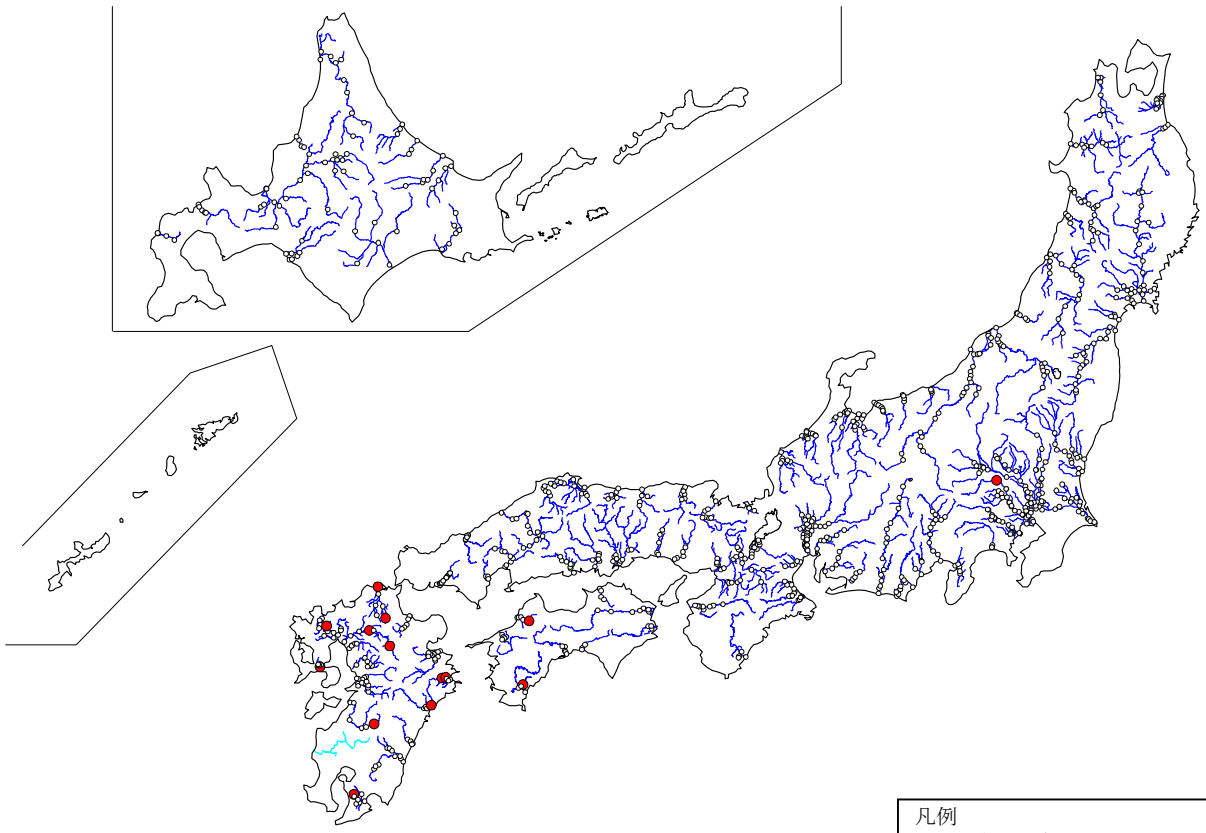
注）５巡目調査は実施途中であり、―――― は調査未実施の河川を示す。

モンキアゲハの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

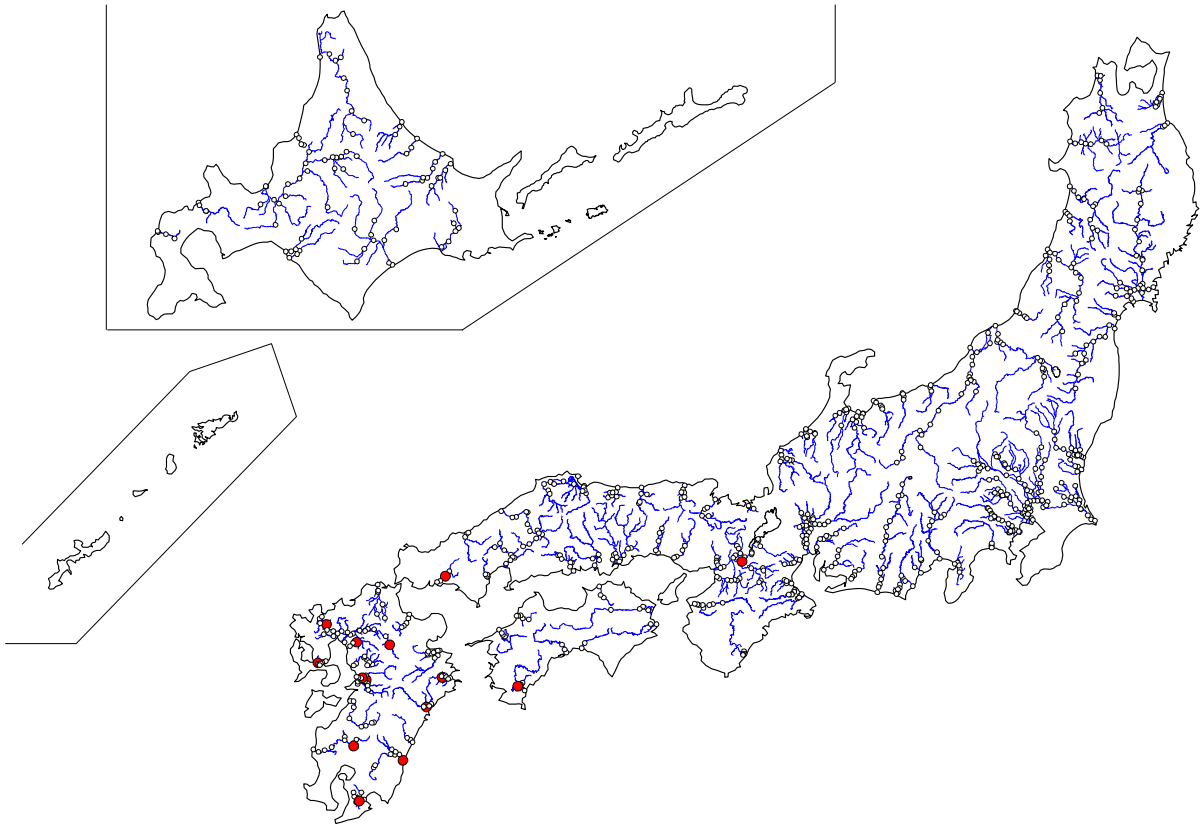


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

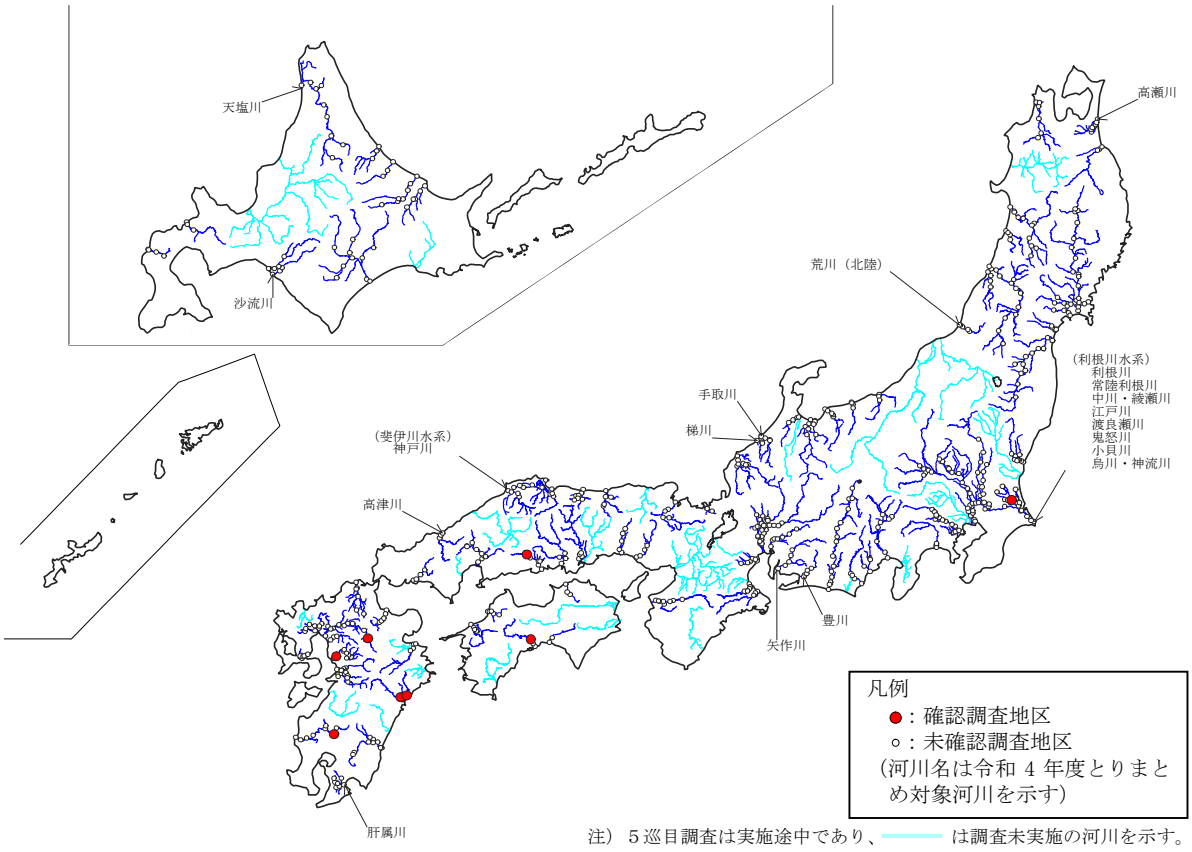
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ムラサキツバメの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



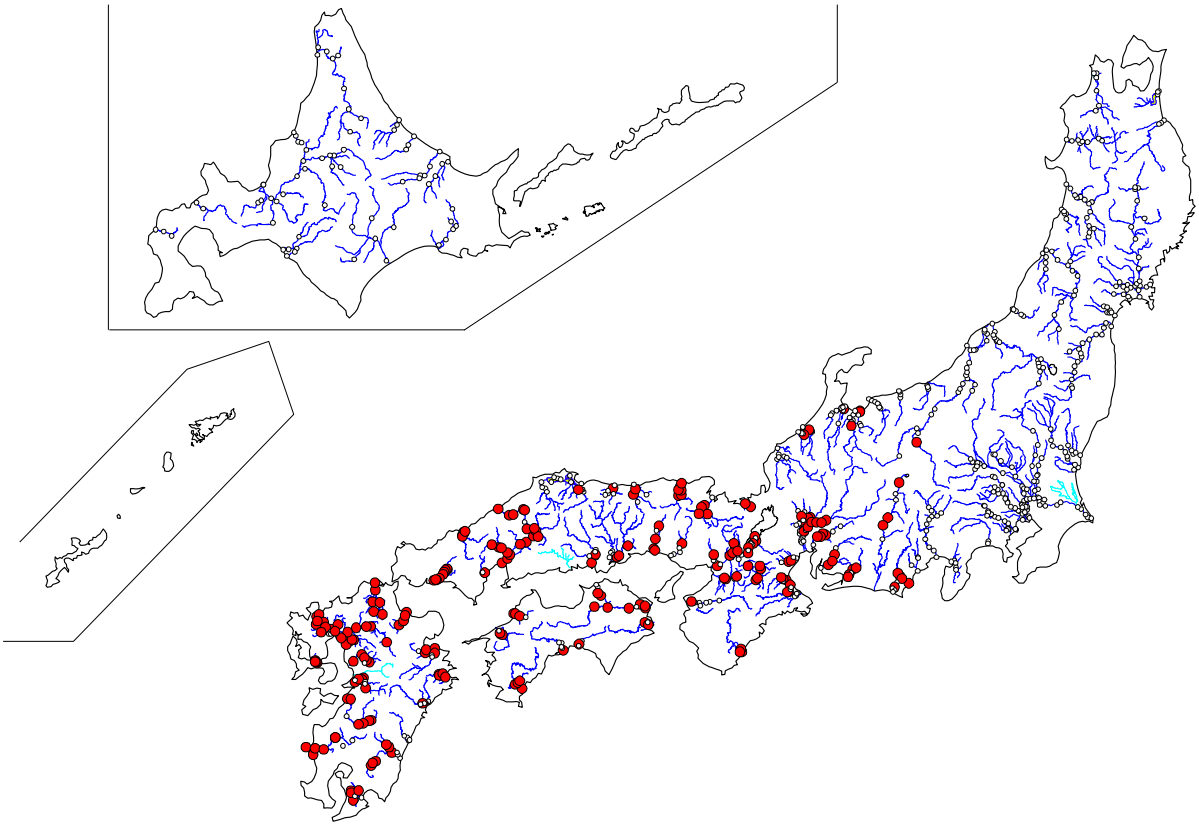
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



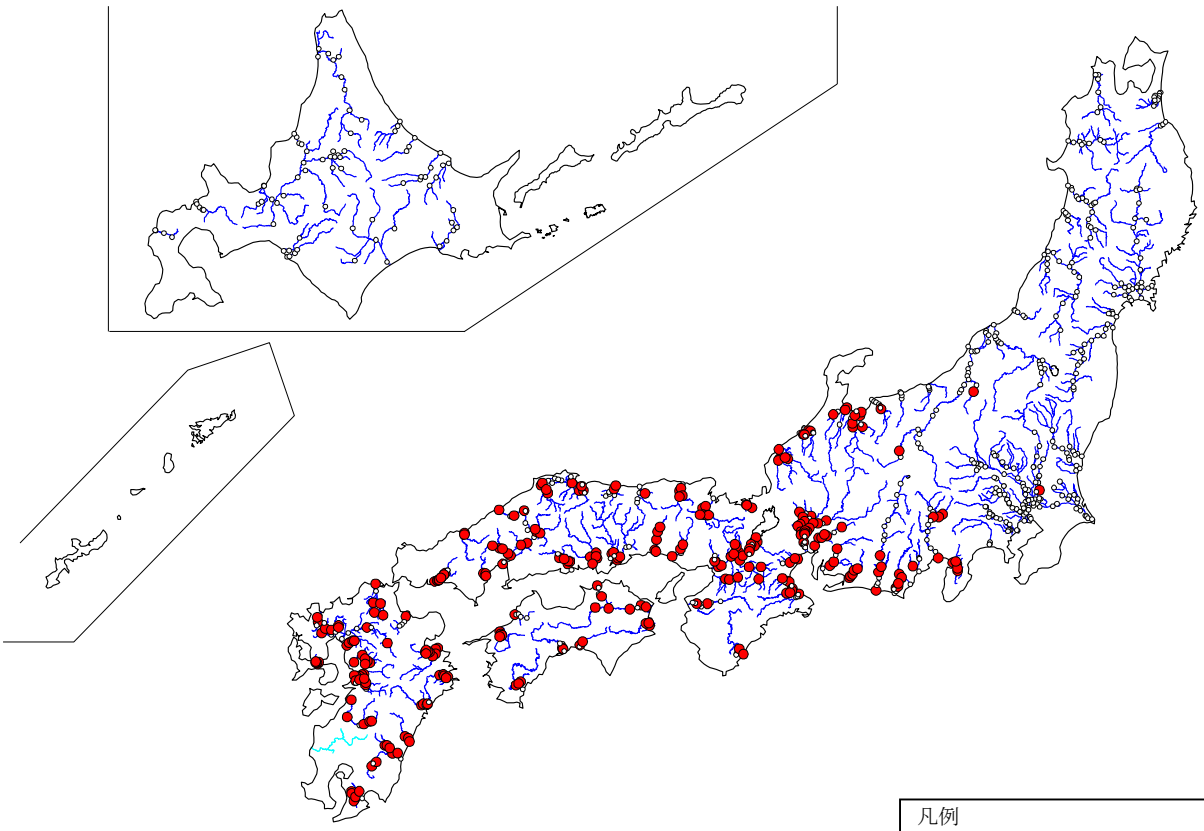
注）５巡目調査は実施途中であり、―――― は調査未実施の河川を示す。

ムラサキツバメの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



３巡目調査（平成 13～17 年度）

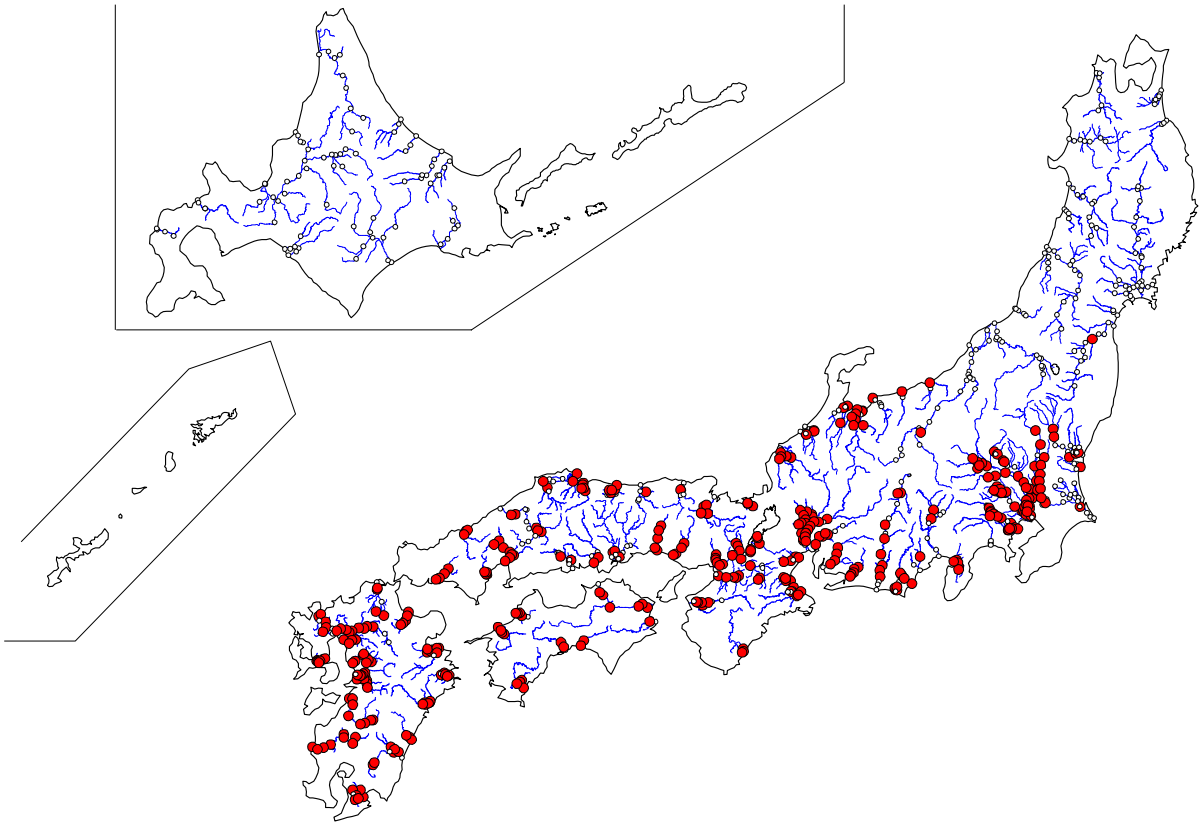


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

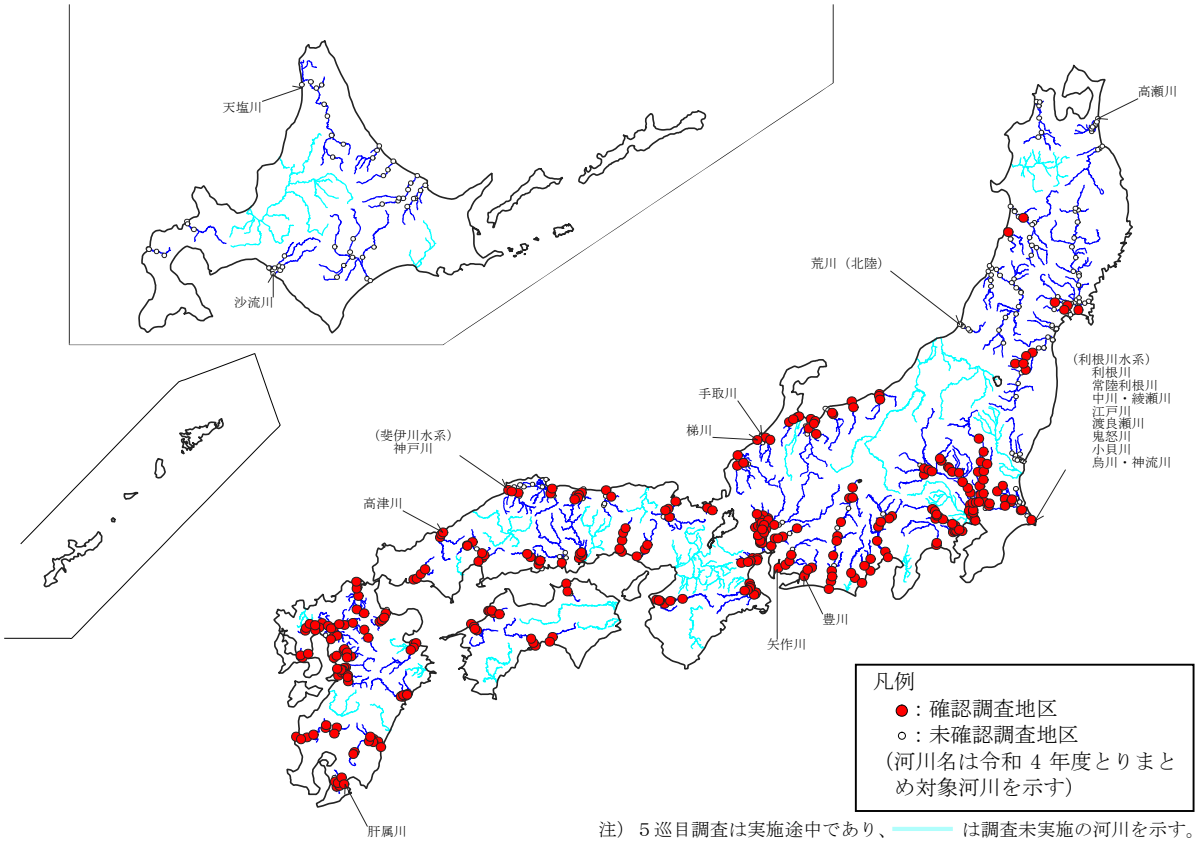
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ツマグロヒョウモンの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



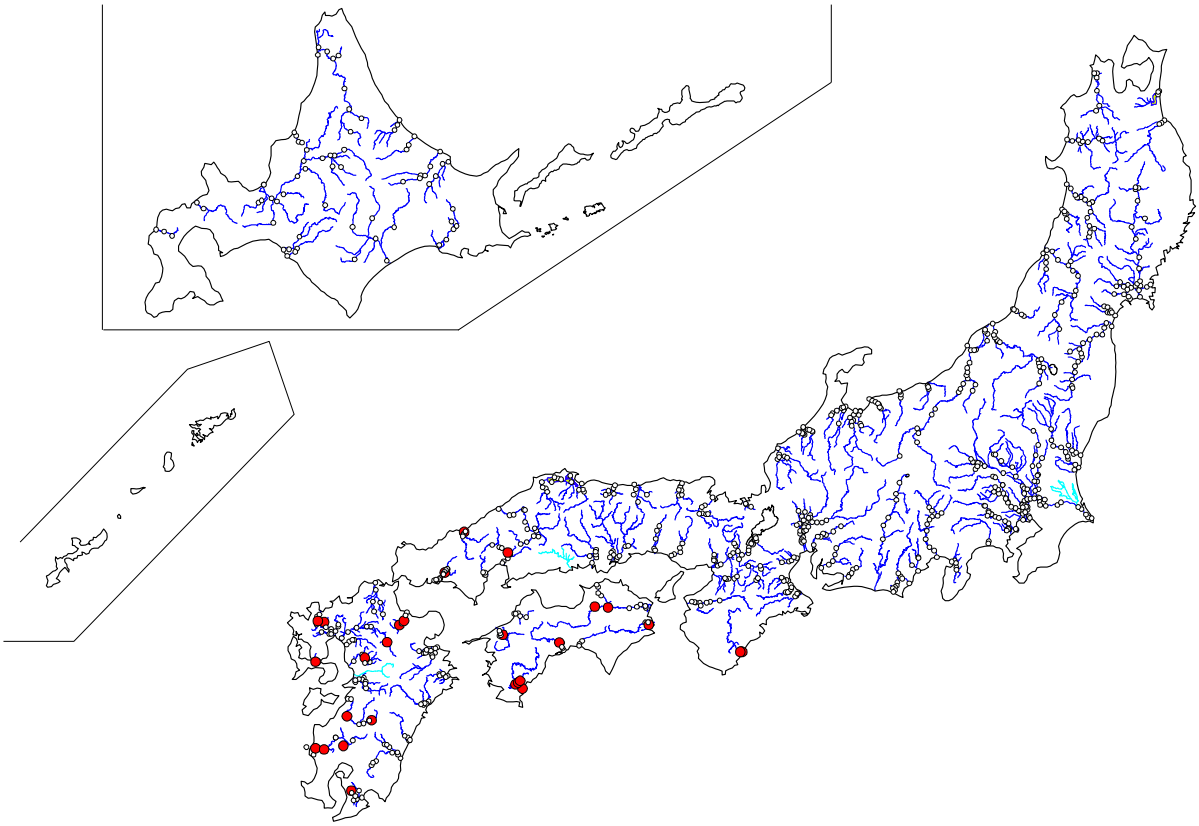
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



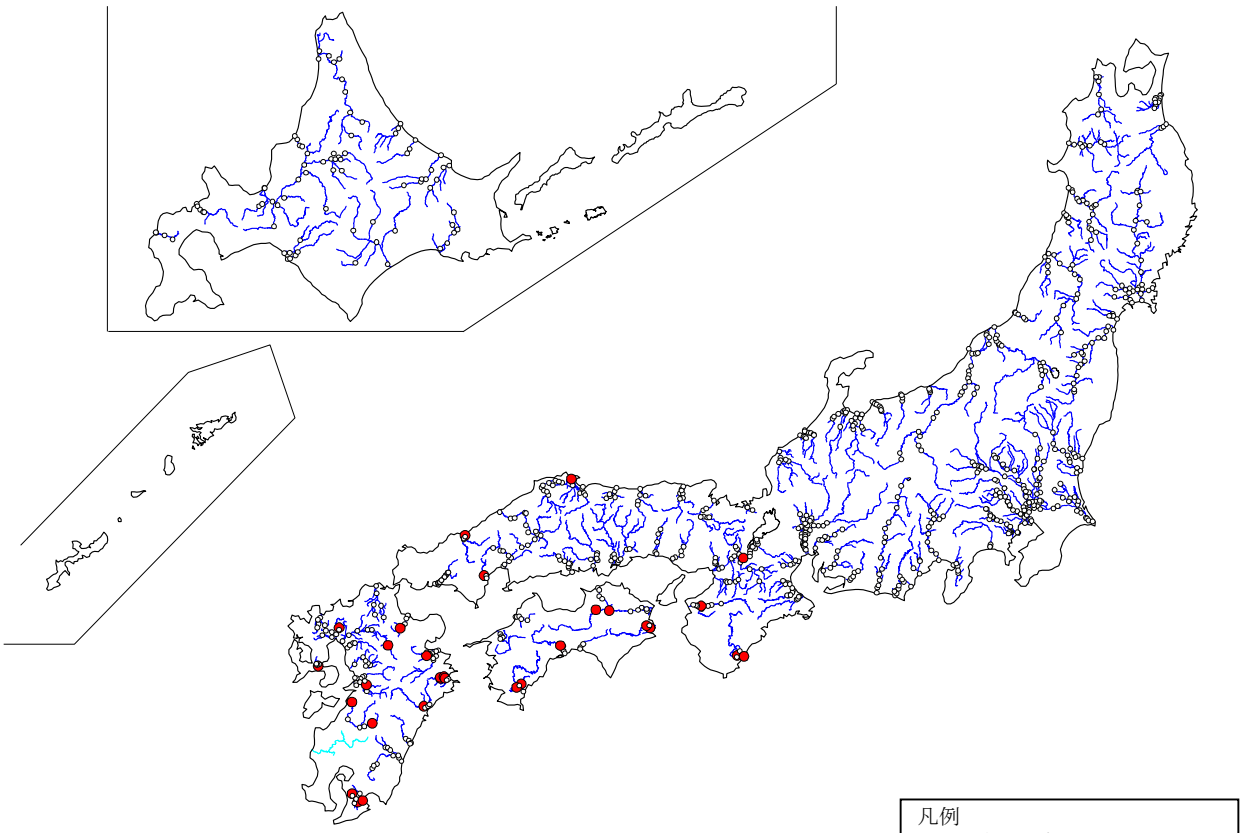
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ツマグロヒョウモンの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



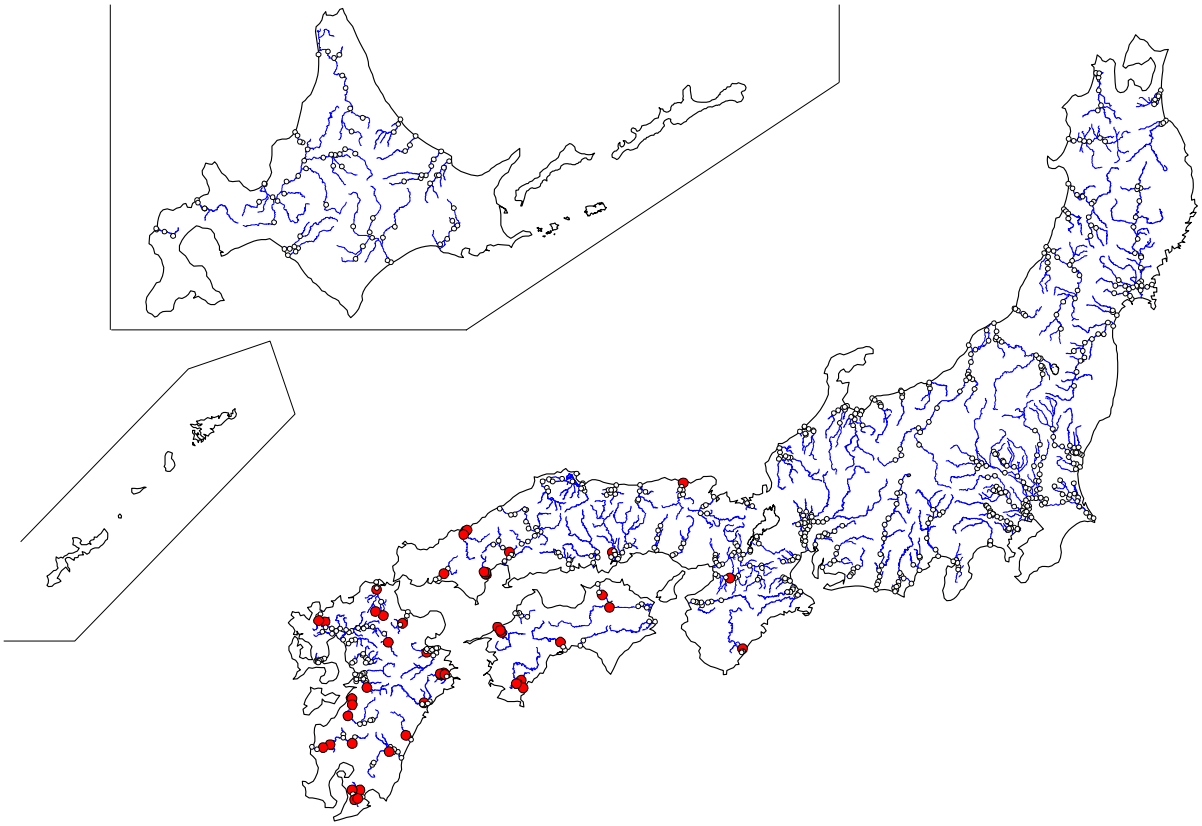
３巡目調査（平成 13～17 年度）



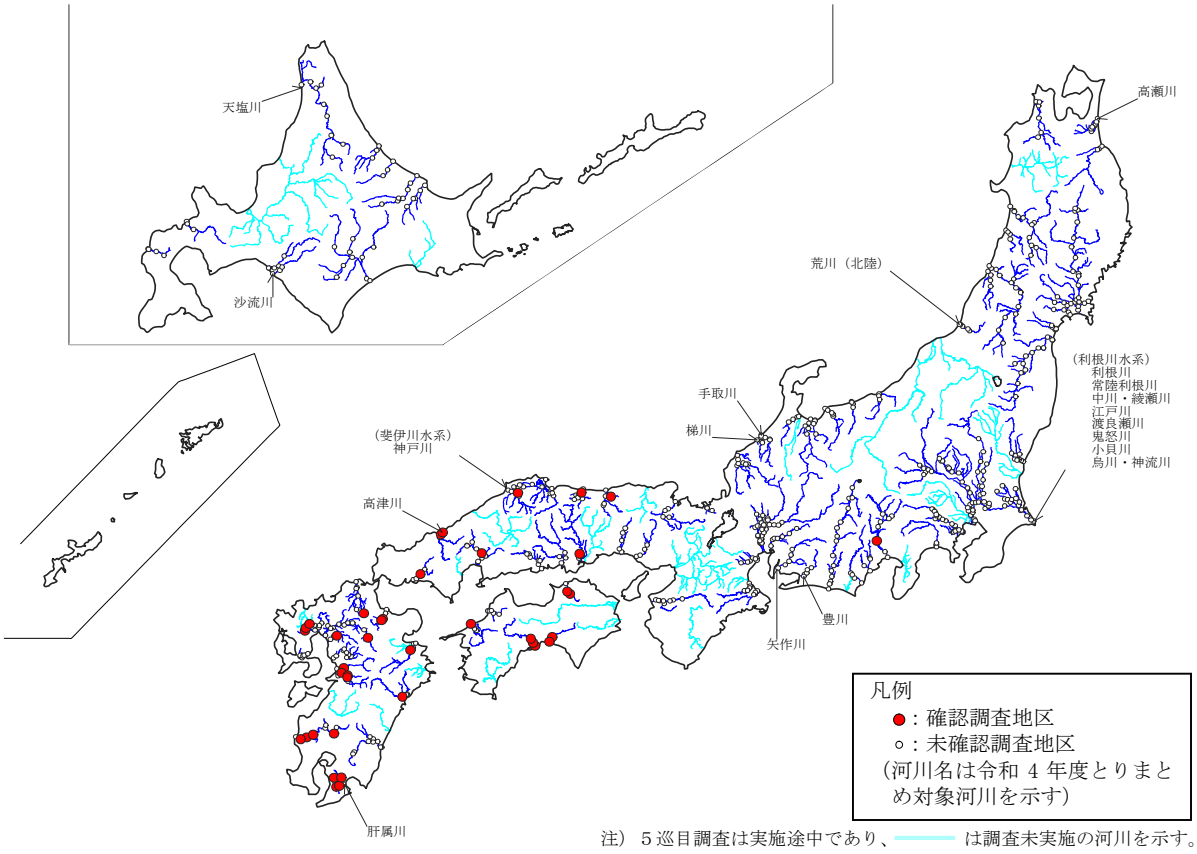
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

イシガケチョウの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



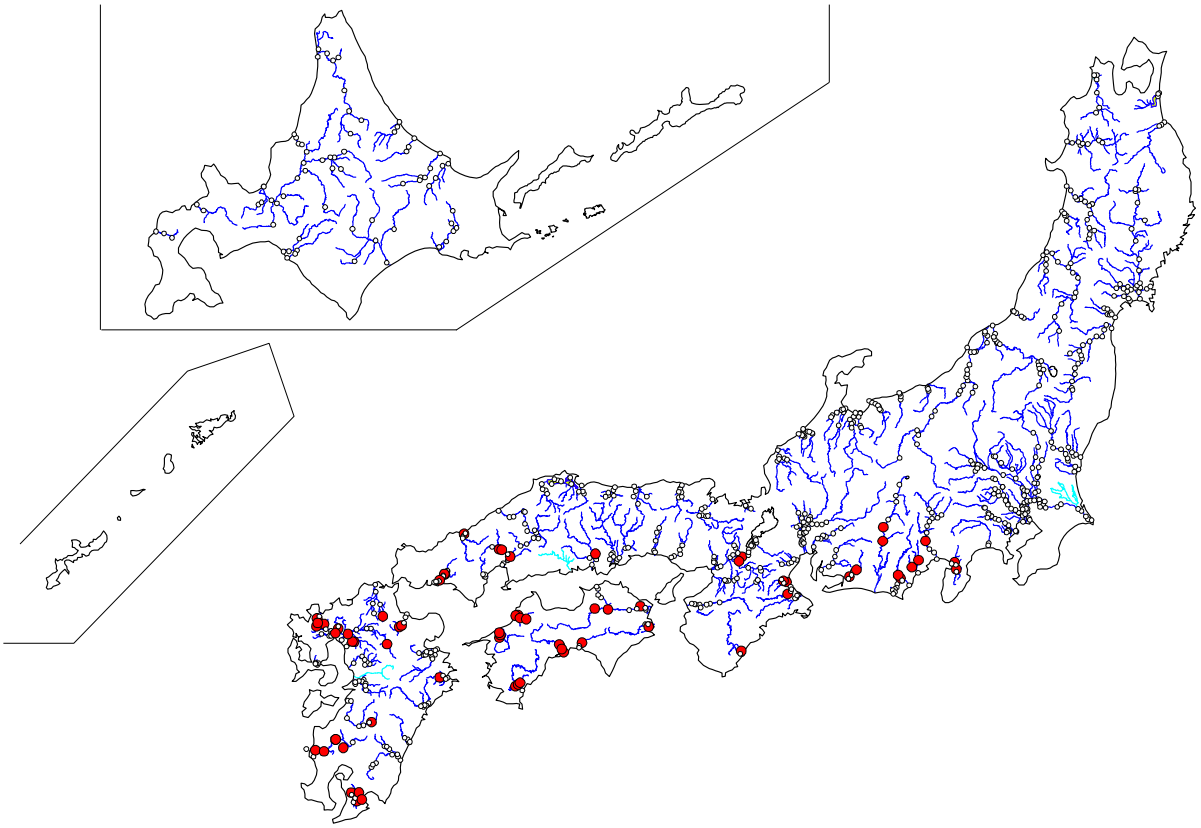
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



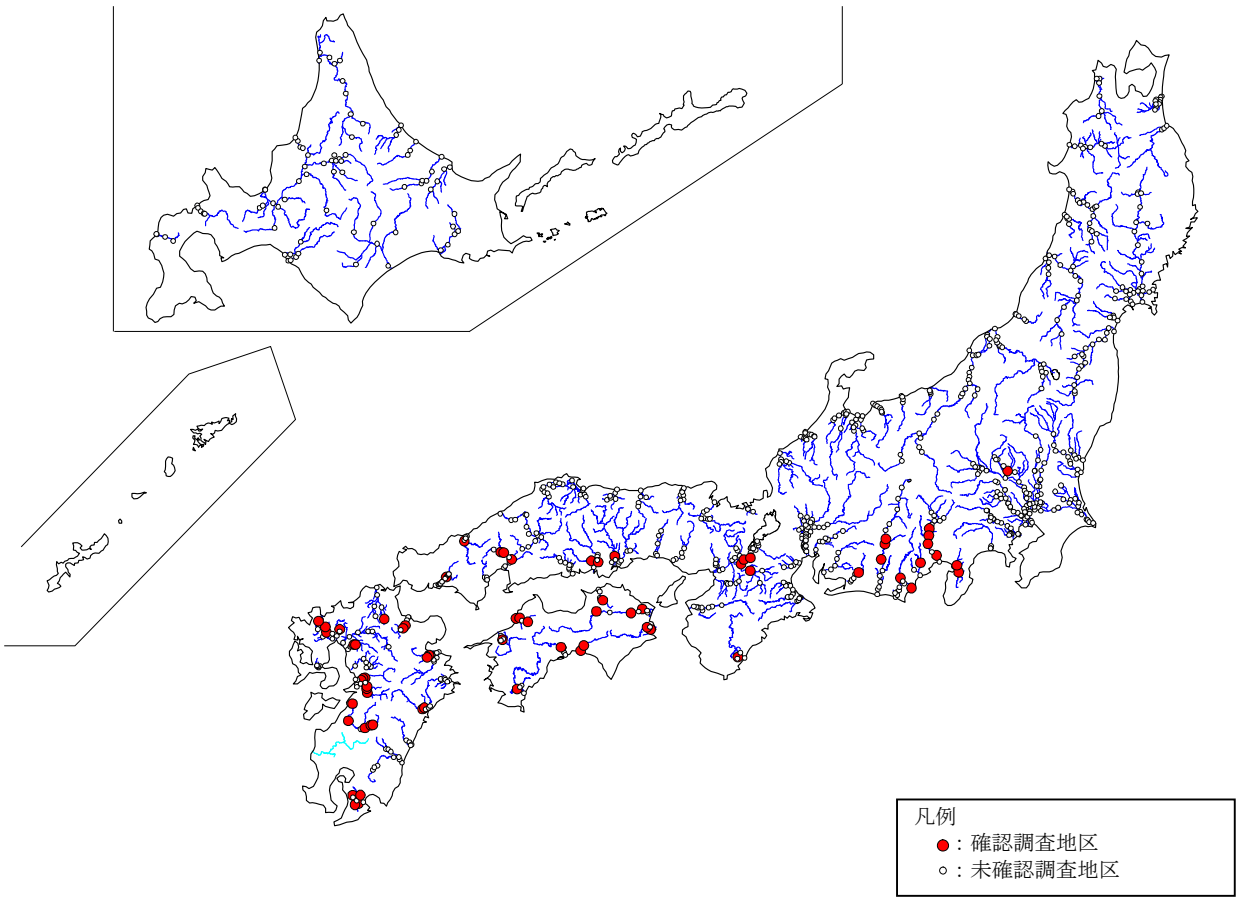
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

イシガケチョウの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



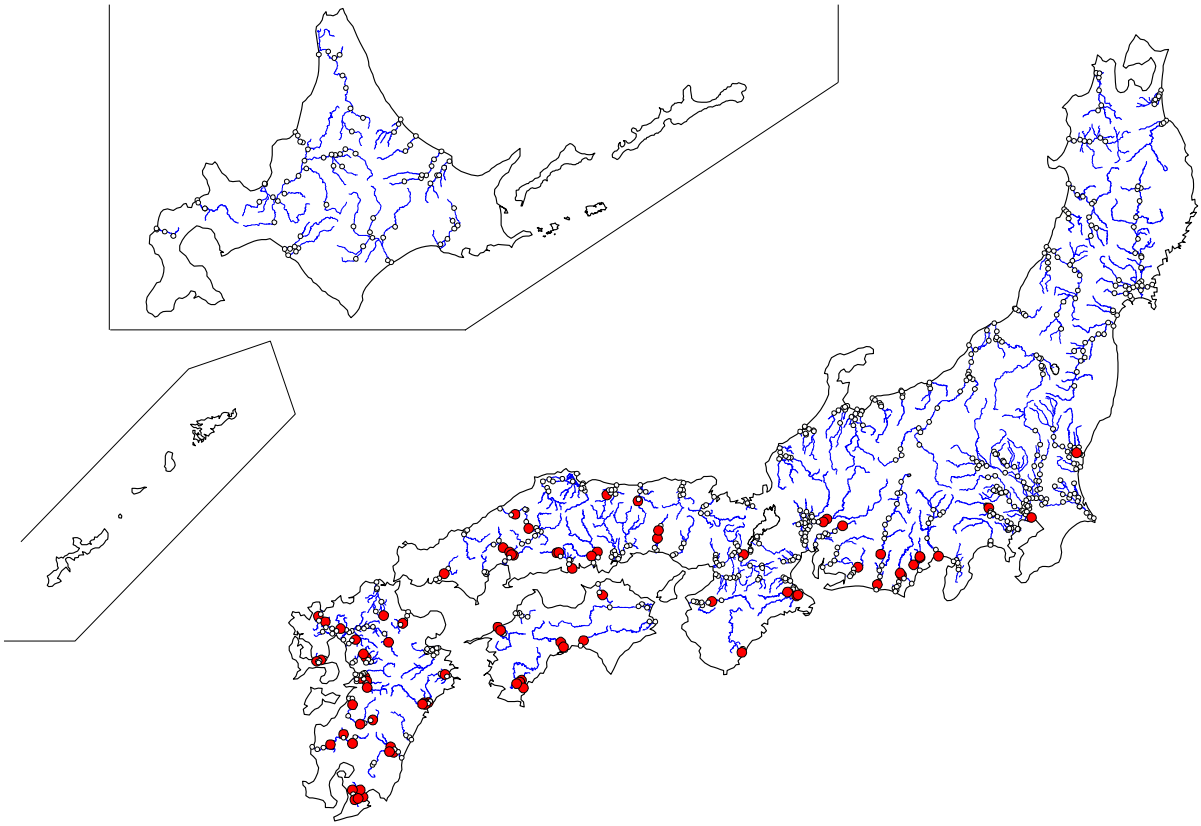
３巡目調査（平成 13～17 年度）



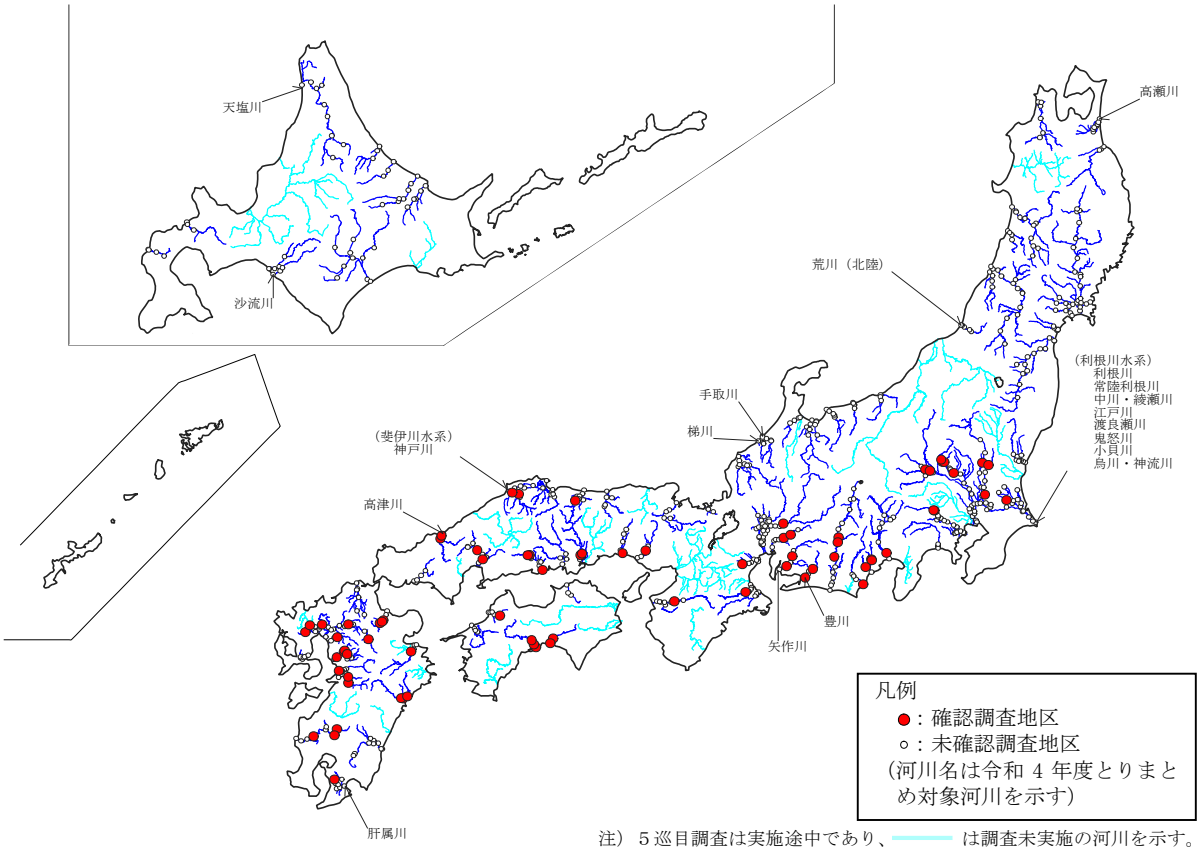
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

クロコノマチョウの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



５巡目調査（平成 28～令和４年度）



注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

クロコノマチョウの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

6.5 注目すべき種の分布状況

ここでは私たちにとって馴染み深い昆虫類の確認状況や、水域と陸域との接点である水際域に特徴的な種の確認状況を整理しました。

【ゲンジボタル及びヘイケボタルの確認状況】 （陸上昆虫類等調査）

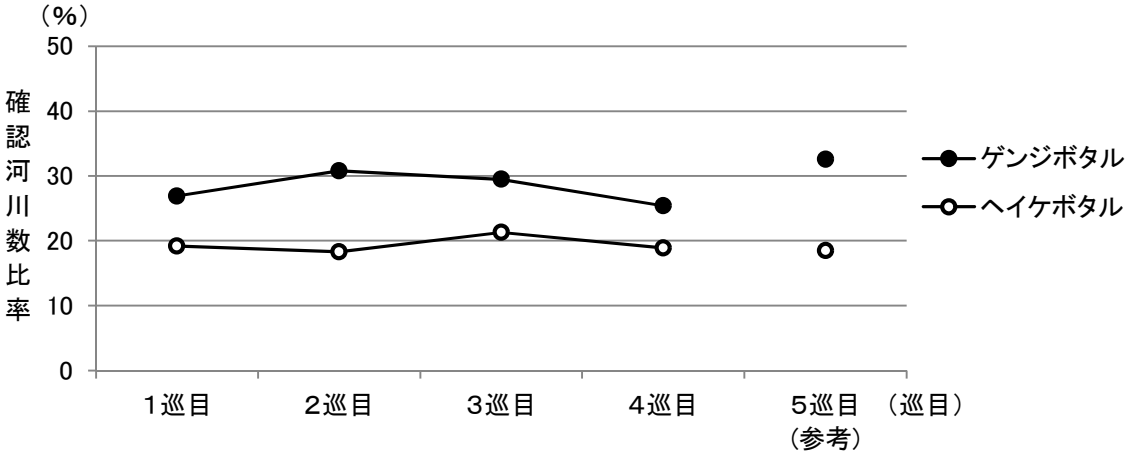
- **ゲンジボタルを 4 河川、ヘイケボタルを 2 河川で確認**

今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、ゲンジボタルは 4 河川、ヘイケボタルは 2 河川で確認されました。

（資料掲載：6-94～6-97 ページ、6-114～6-115 ページ）

１～５巡目調査の確認河川数の比較

種類	１巡目調査 (78 河川)	２巡目調査 (120 河川)	３巡目調査 (122 河川)	４巡目調査 (122 河川)	５巡目調査 (92 河川)
ゲンジボタル	21 河川 〔26.9〕	37 河川 〔30.8〕	36 河川 〔29.5〕	31 河川 〔25.4〕	30 河川 〔32.6〕
ヘイケボタル	15 河川 〔19.2〕	22 河川 〔18.3〕	26 河川 〔21.3〕	23 河川 〔18.9〕	17 河川 〔18.5〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

ゲンジボタルは、北海道地方を除く全国に、ヘイケボタルは全国に分布しています。ゲンジボタルが主に山地などの清流を生息場とするのに対し、ヘイケボタルはより流れの緩やかな小川や用水路など、平地や丘陵地を主な生息場とする傾向がみられます。

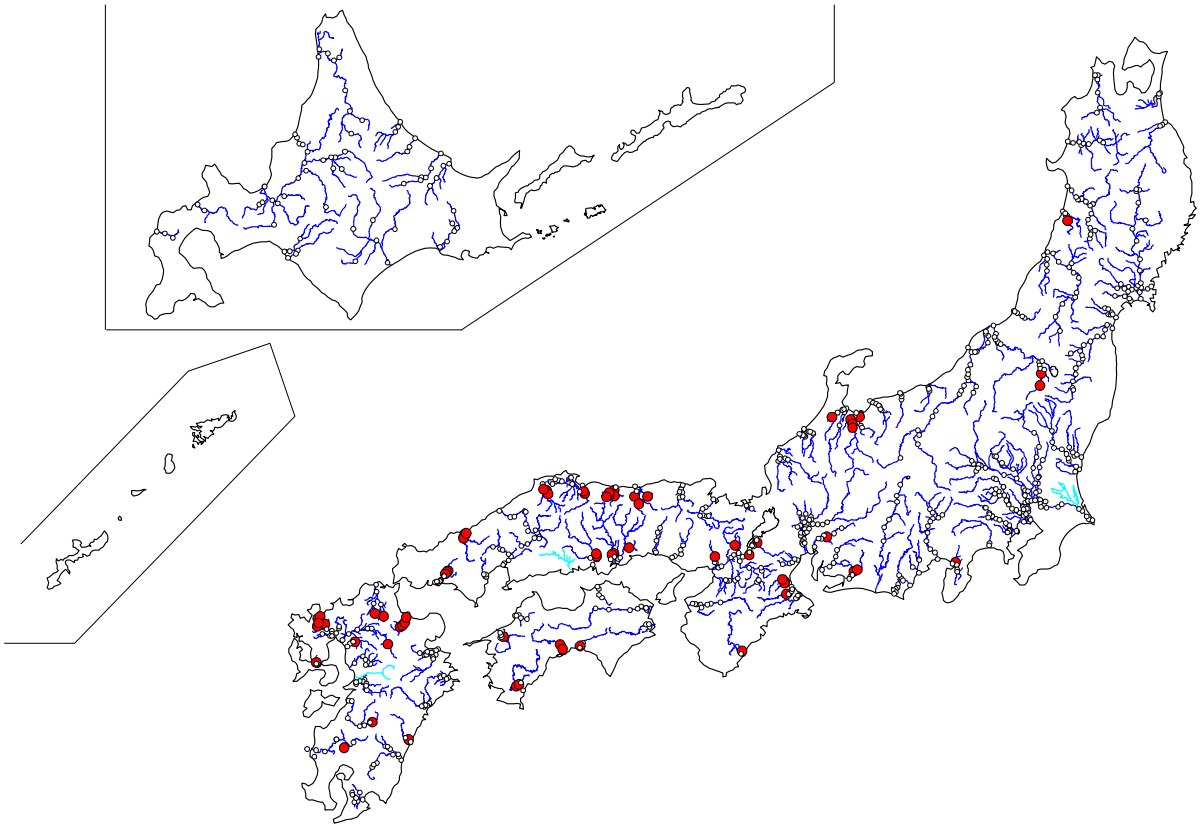
今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）おいて、ゲンジボタルは 4 河川、ヘイケボタルは 2 河川で確認されました。

ゲンジボタルは、発光のパターンや産卵習性のほか、遺伝子レベルでも顕著な地理的変異が認められています。本種は各地で飼育や放流が行われていますが、地域を越えた安易な放流は、本種の地域個体群の遺伝的特性などへの悪影響が懸念されています。

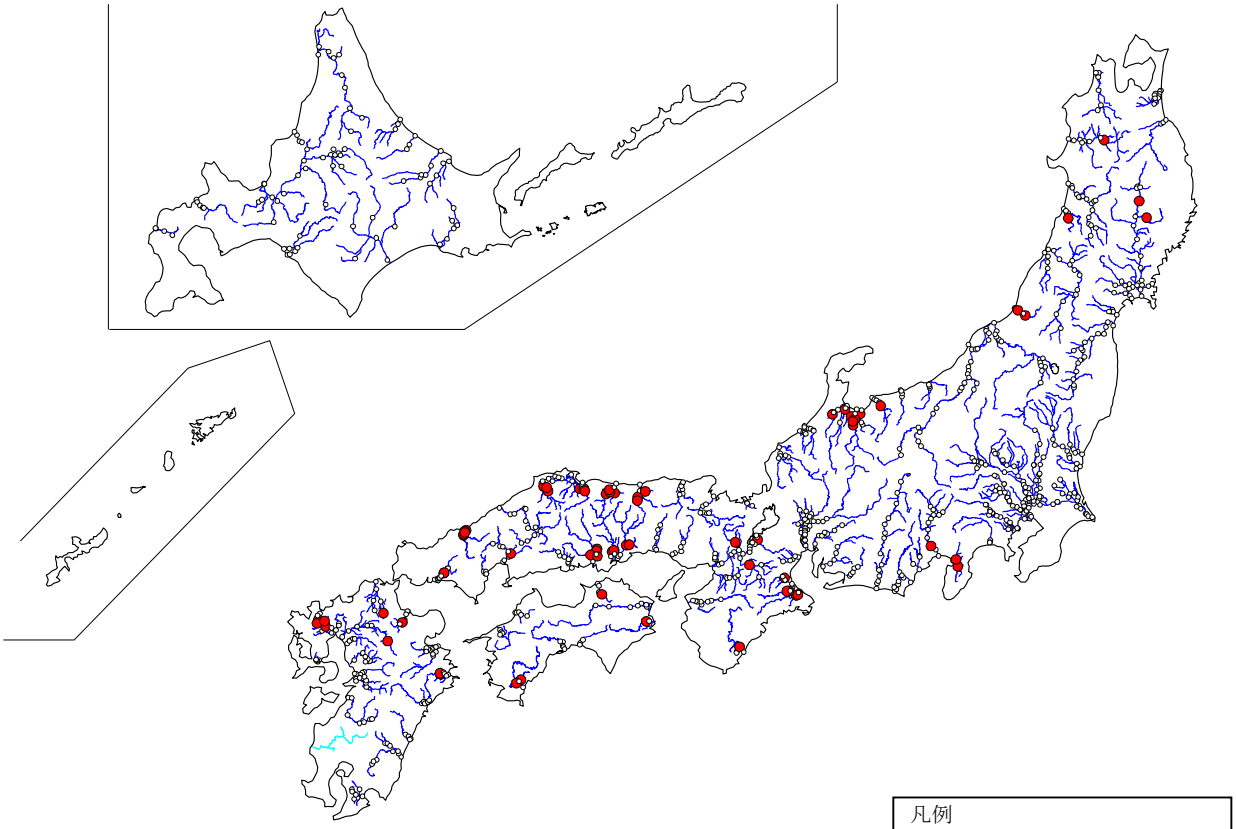
ゲンジボタル

注）画像は、すべて過年度報告書から転用した。

２巡目調査（平成 8～12 年度）



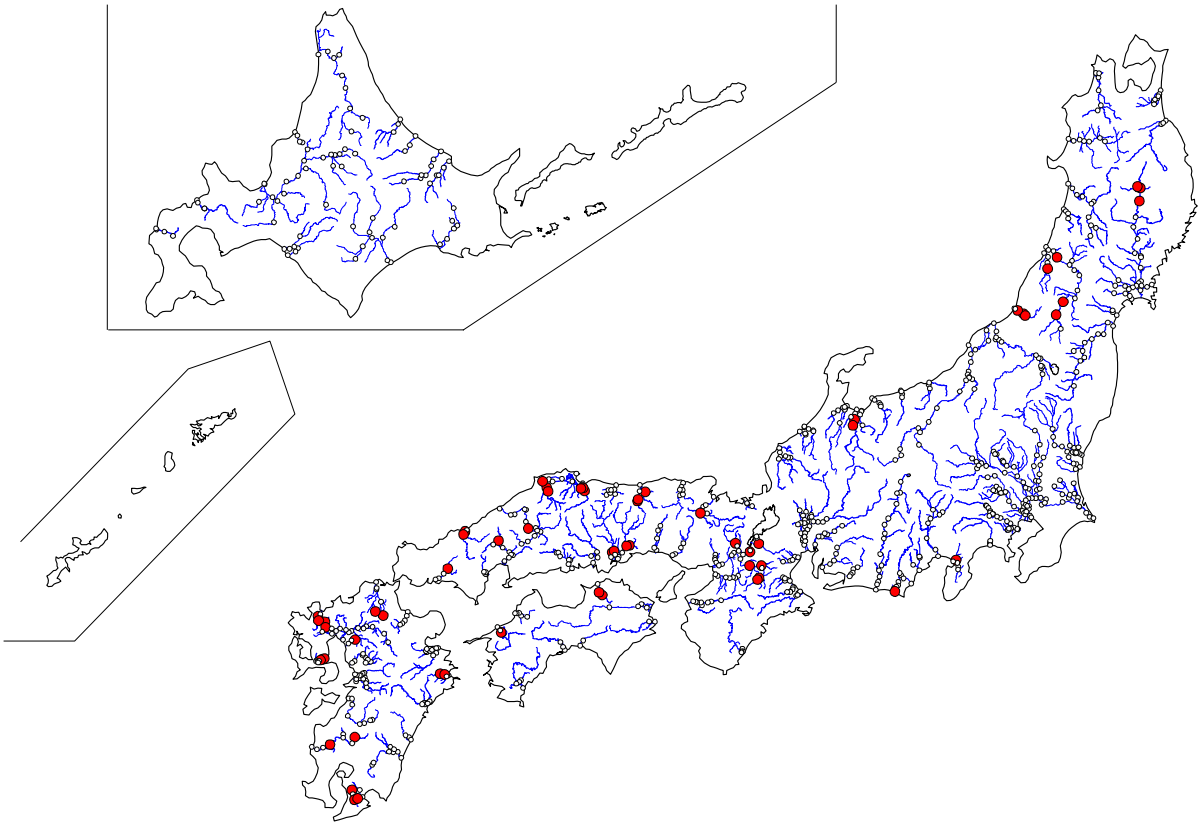
３巡目調査（平成 13～17 年度）



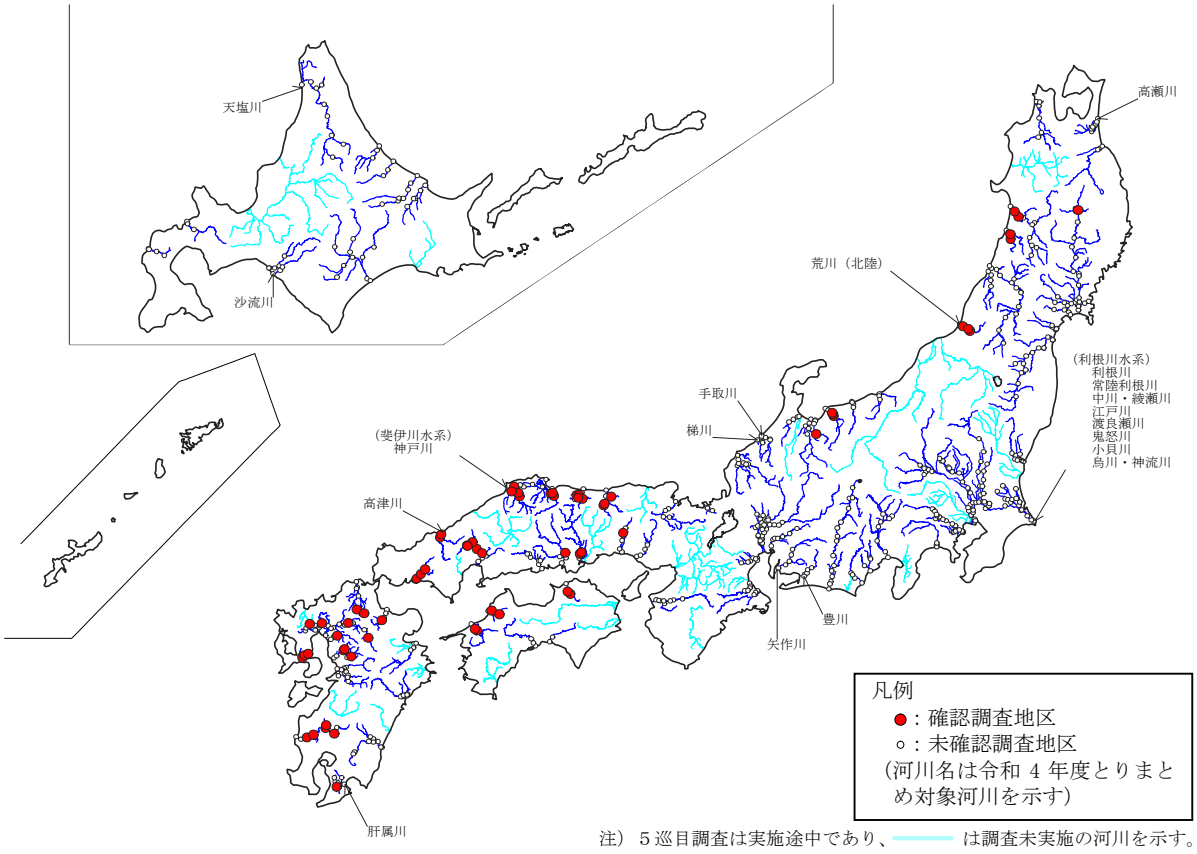
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ゲンジボタルの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



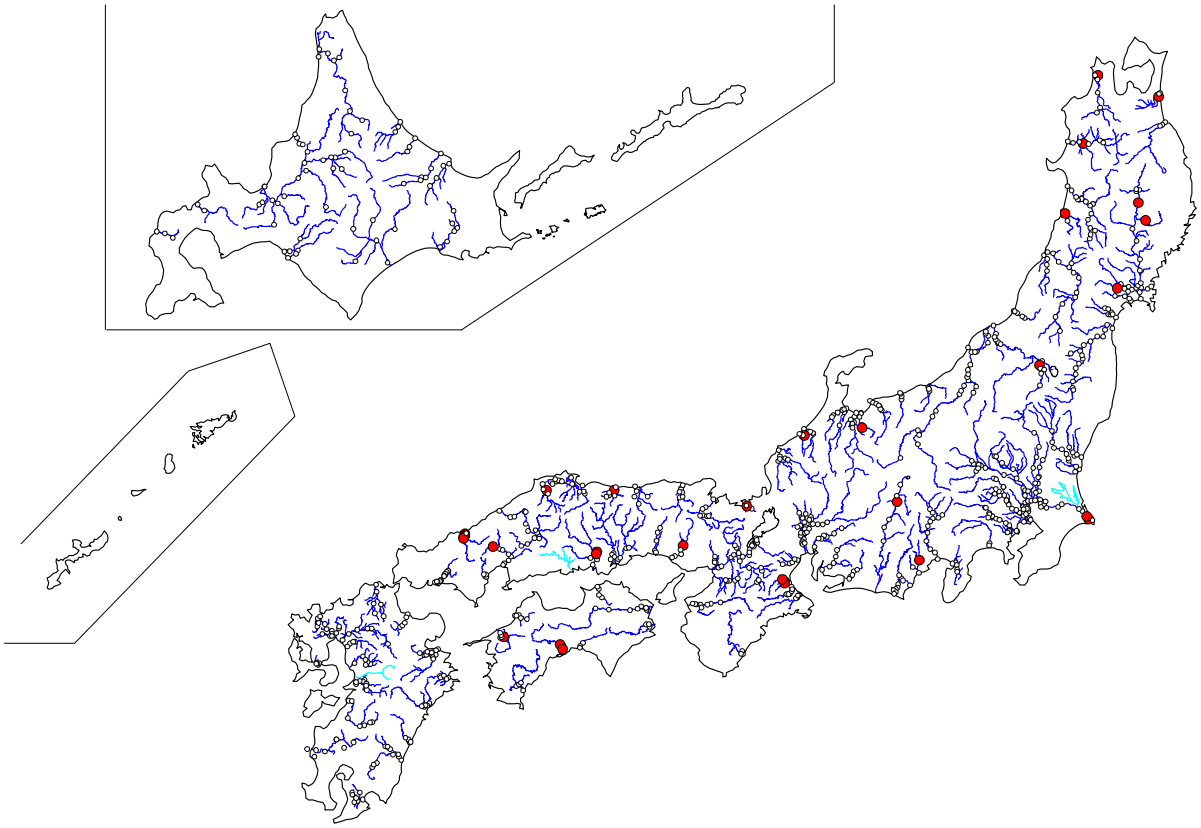
５巡目調査（平成 28～令和４年度）



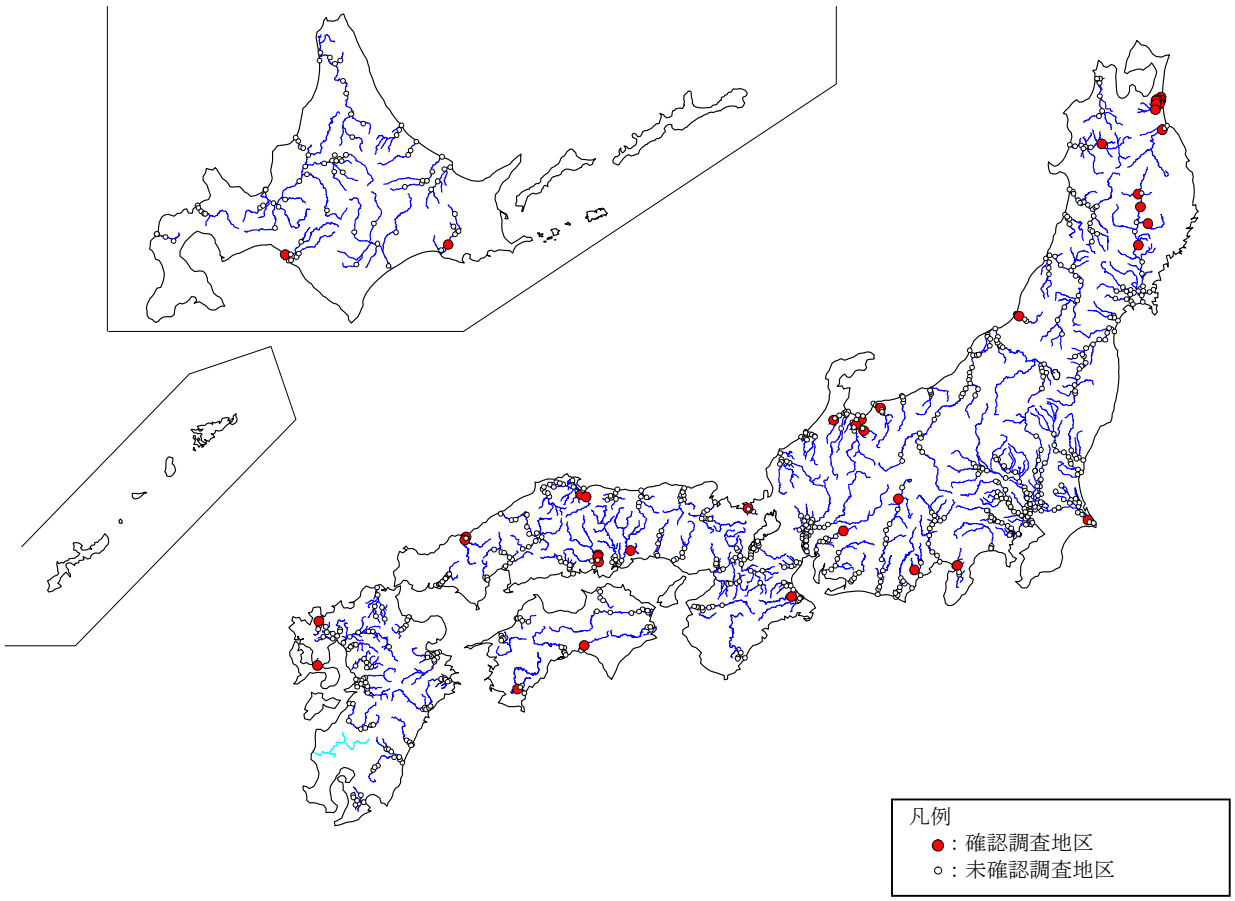
注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ゲンジボタルの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

２巡目調査（平成 8～12 年度）



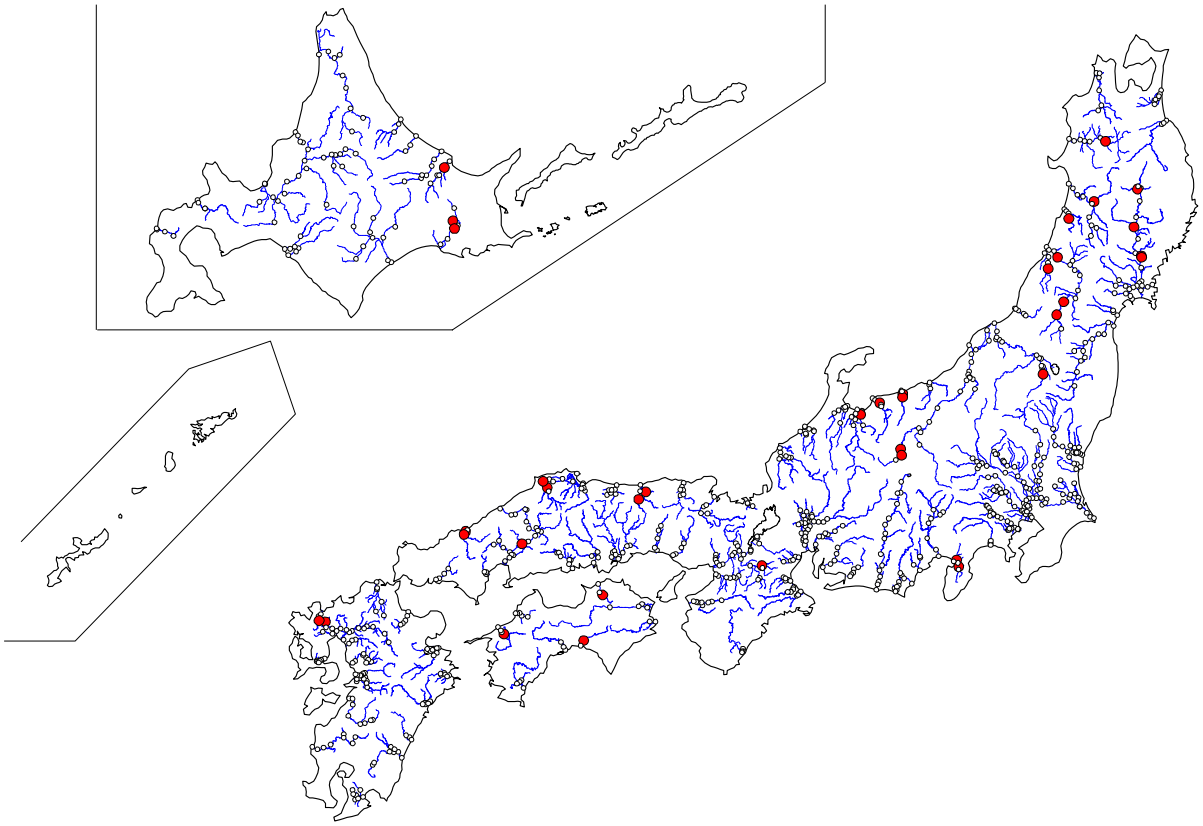
３巡目調査（平成 13～17 年度）



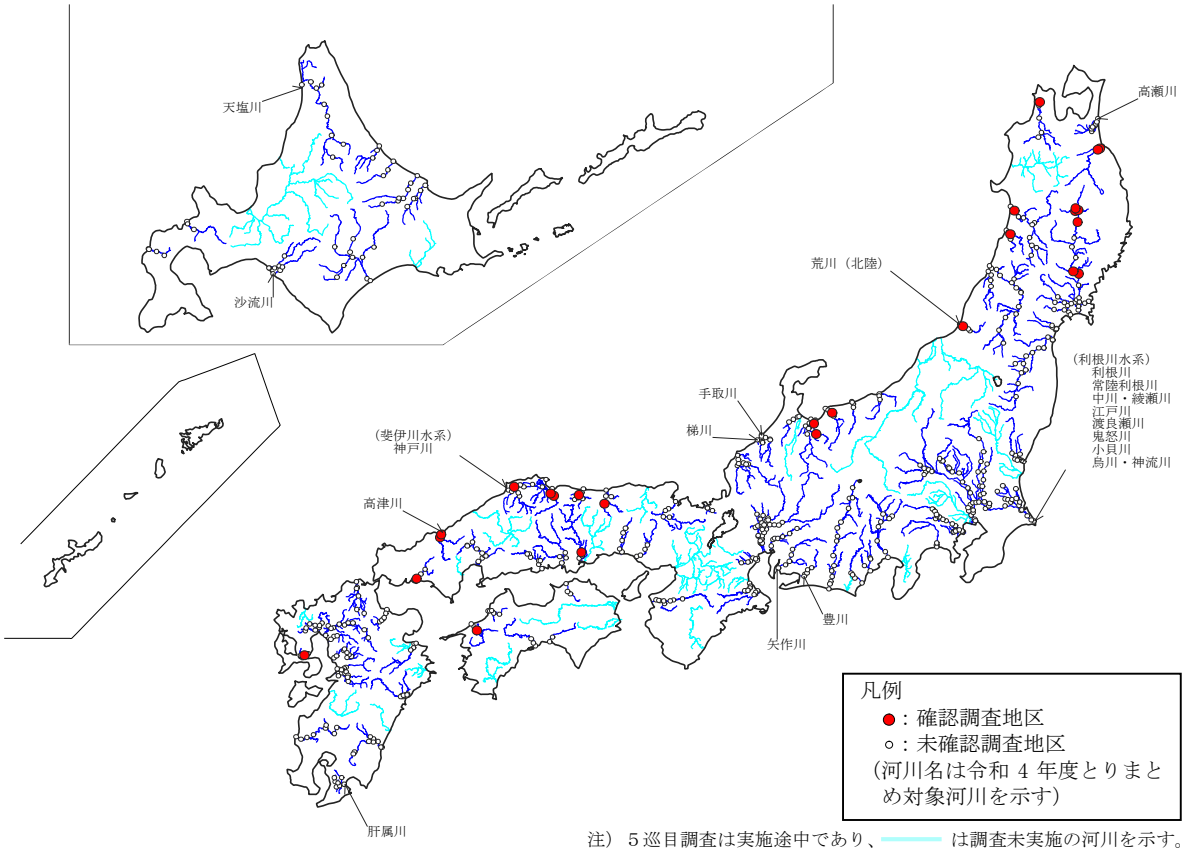
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ヘイケボタルの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



５巡目調査（平成 28～令和４年度）



注）５巡目調査は実施途中であり、―――― は調査未実施の河川を示す。

ヘイケボタルの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

【コオニヤンマの確認状況】　　（陸上昆虫類等調査）

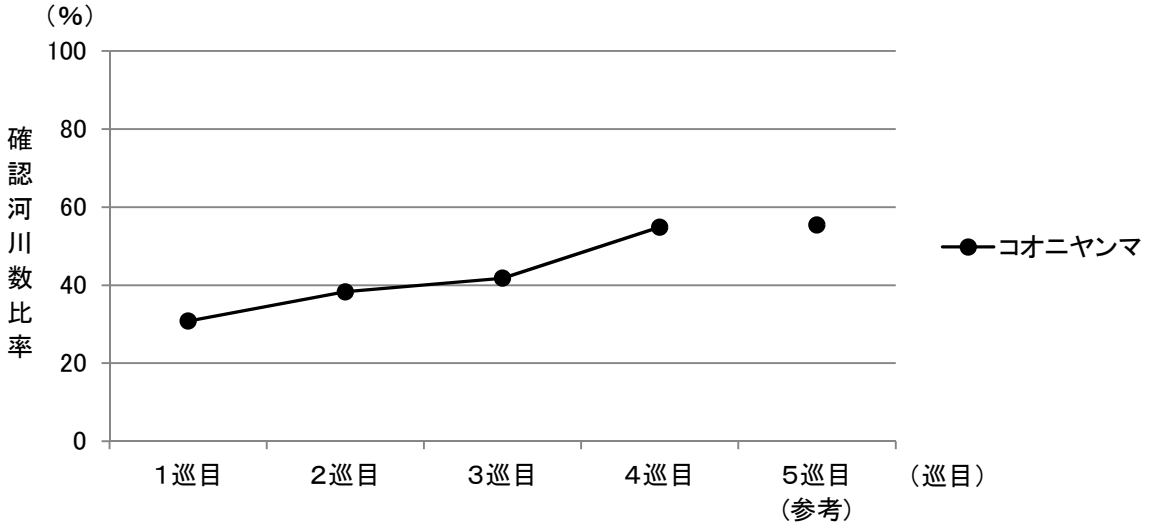
- **関東地方以西の 9 河川で確認**

今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）のうち、関東地方の渡良瀬川、鬼怒川、小貝川、烏川・神流川、中部地方の豊川、中国地方の神戸川、高津川、九州地方の肝属川で確認されました。

（資料掲載：6-100～6-101 ページ、6-114～6-115 ページ）

１～５巡目調査の確認河川数の比較

種類	１巡目調査 (78 河川)	２巡目調査 (120 河川)	３巡目調査 (122 河川)	４巡目調査 (122 河川)	５巡目調査 (92 河川)
コオニヤンマ	24 河川 〔30.8〕	46 河川 〔38.3〕	51 河川 〔41.8〕	67 河川 〔54.9〕	51 河川 〔55.4〕



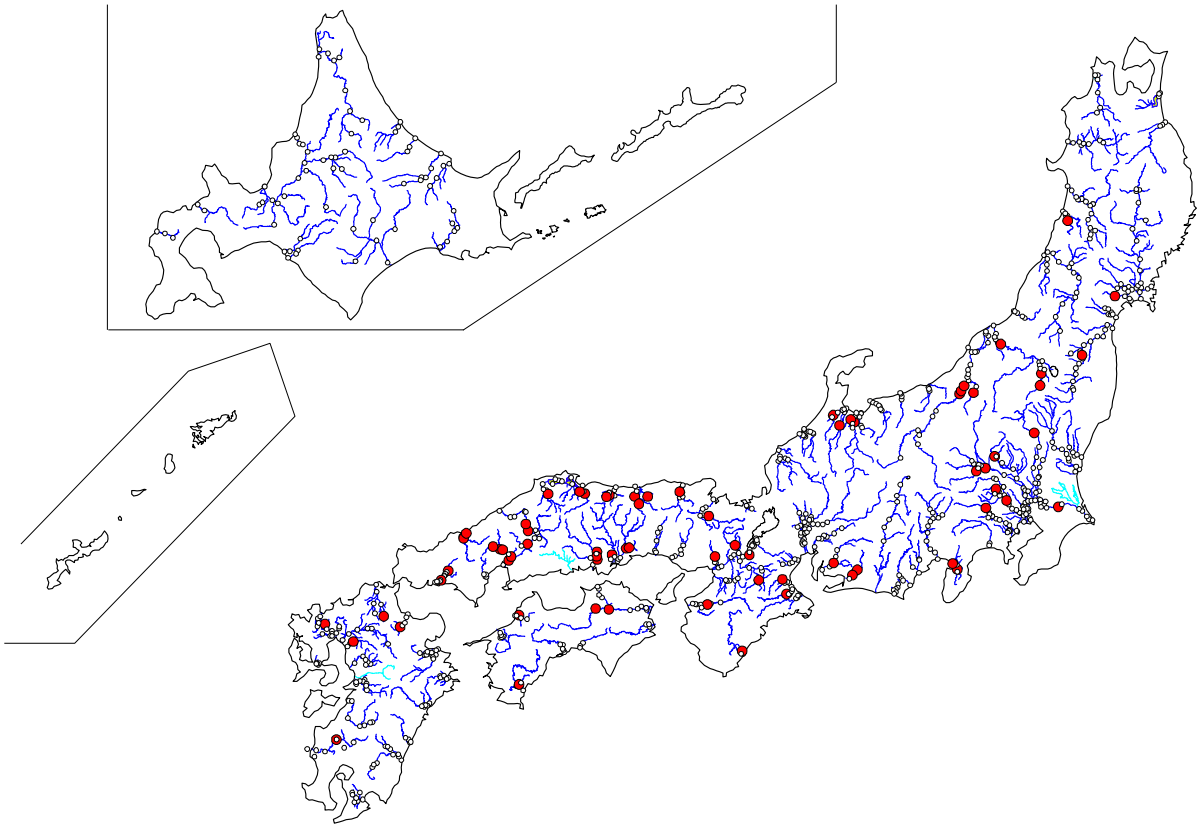
※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

コオニヤンマは、国内では最大のサナエトンボ類で、各地の平地から山地の河川に広く生息しています。大きな体長に比較して小さな頭部と長い後脚を持つ形態的な特徴があり、生息には浅瀬や流れの緩やかな砂泥底、水際の植物などの環境条件が必要です。

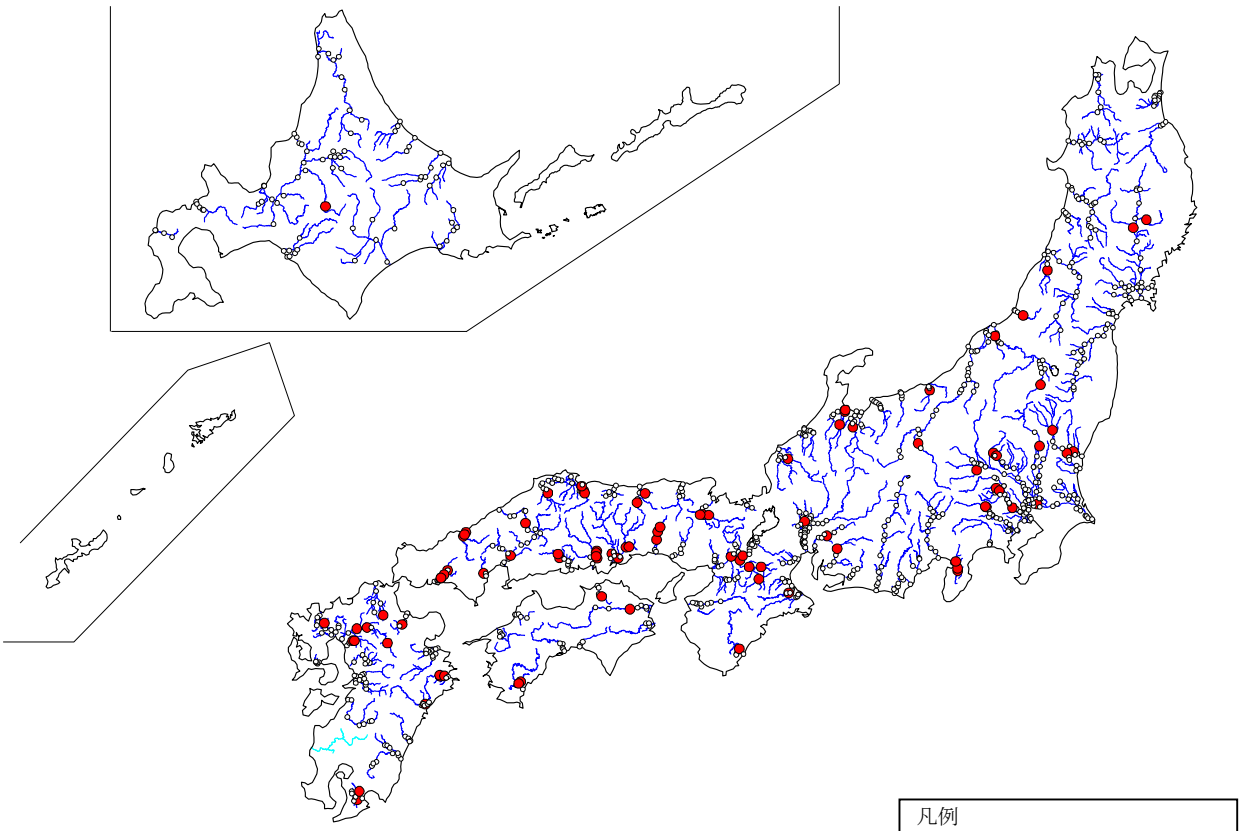
今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）において、関東地方以西の 9 河川で確認されました。２～４巡目調査でみられた分布の拡大傾向は、５巡目調査にかけても継続していくことが予想されるため、今後も本種の生息状況を注視していく必要があると考えられます。

注）画像は、過年度報告書から転用した。

２巡目調査（平成 8～12 年度）



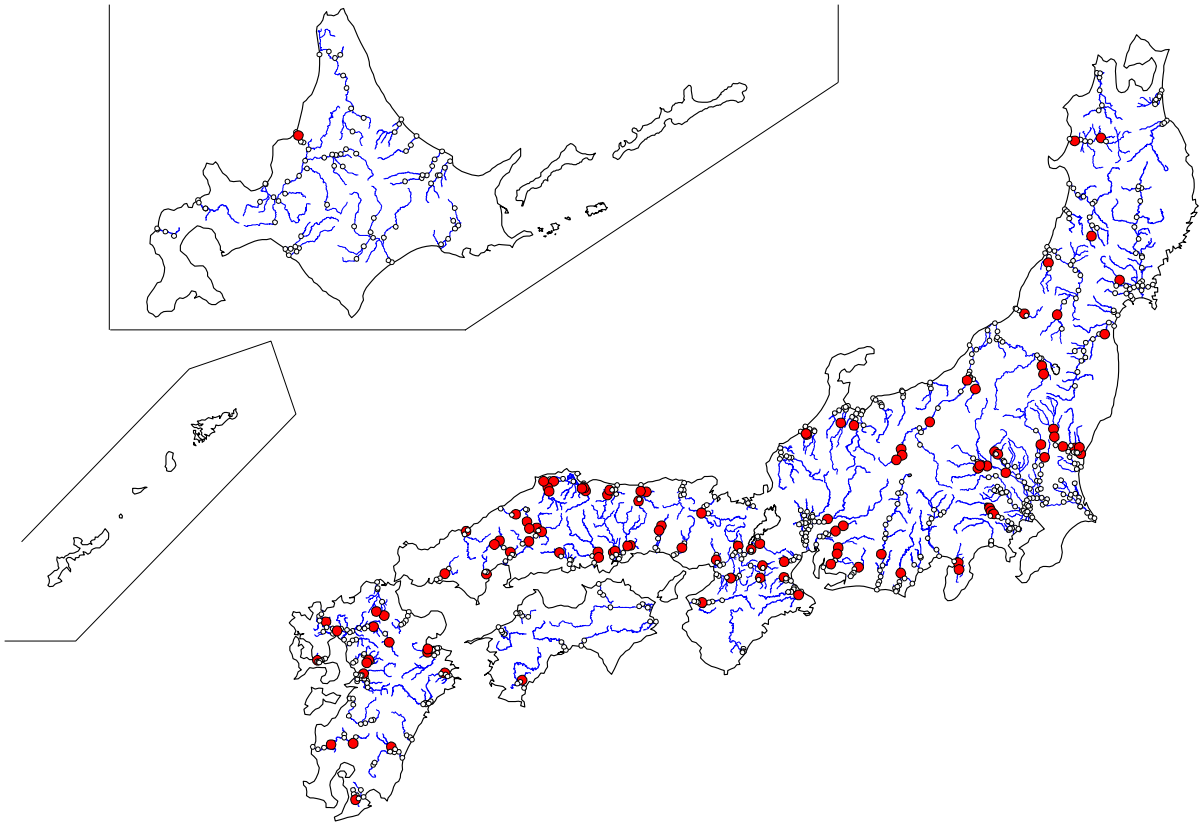
３巡目調査（平成 13～17 年度）



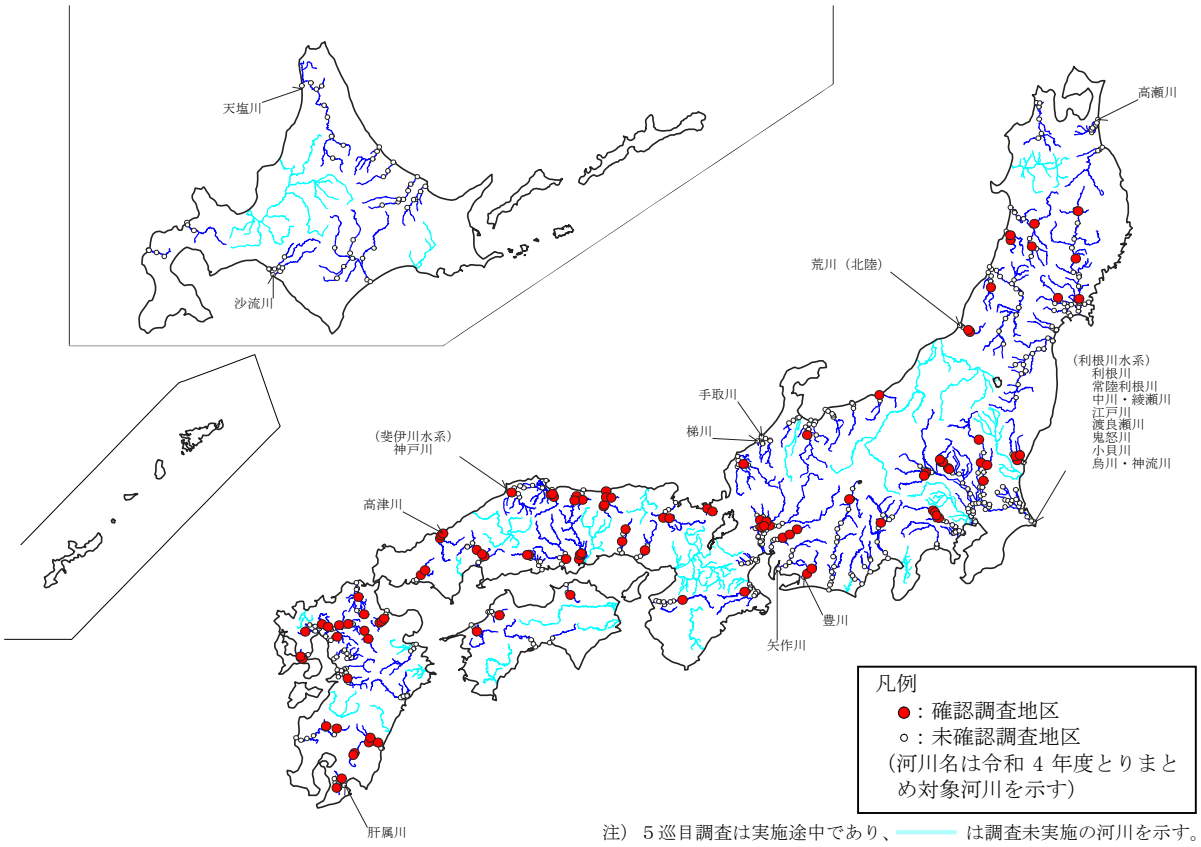
注1) ――は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) １巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

コオニヤンマの確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）

４巡目調査（平成 18～27 年度）



５巡目調査（平成 28～令和４年度）



注）５巡目調査は実施途中であり、―― は調査未実施の河川を示す。

コオニヤンマの確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

【ヒヌマイトトンボの確認状況】　　（陸上昆虫類等調査）

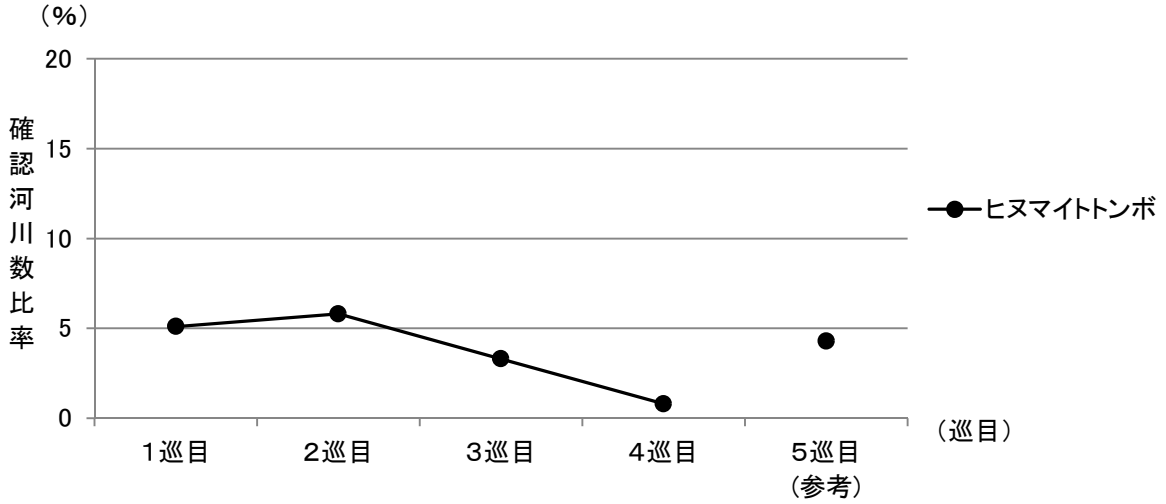
- **関東地方の 3 河川で確認**

ヒヌマイトトンボは、今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）のうち、関東地方の利根川本川、中川・綾瀬川、江戸川で確認されました。

（資料掲載：6-114～6-115 ページ）

１～５巡目調査の確認河川数の比較

種類	１巡目調査 (78 河川)	２巡目調査 (120 河川)	３巡目調査 (122 河川)	４巡目調査 (122 河川)	５巡目調査 (92 河川)
ヒヌマイトトンボ	4 河川 〔5.1〕	7 河川 〔5.8〕	4 河川 〔3.3〕	1 河川 〔0.8〕	4 河川 〔4.3〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ （）内は分析対象河川数を示す。
※ 〔〕内は確認河川数の分析対象河川数に対する％を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

ヒヌマイトトンボは、宮城県以南の本州と大分県、対馬に局所的に分布します。河口部周辺のヨシやマコモなどの抽水植物が繁茂する汽水域に生息域が限定されることから、わずかな環境の変化でも容易に絶滅するおそれがあり、環境省レッドリストで絶滅危惧 IB 類と評価されています[注 1)]。

今回とりまとめを行った 19 河川（直轄管理区間）においては、関東地方の利根川本川、中川・綾瀬川、江戸川で確認されました。これら 3 河川における河川水辺の国勢調査でのヒヌマイトトンボの経年確認状況は、利根川本川及び中川・綾瀬川では、２巡目調査で確認されましたが、３巡目及び４巡目調査では確認されませんでした。江戸川では、１巡目調査で確認され、４巡目調査では確認されませんでしたが、今回調査で確認されました。

本種は絶滅の恐れが高いことから、生息状況を正確に把握し、その動態を注視していくことが必要と考えられます。

注 1）出典：環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編），2015. レッドデータブック 2014. 日本の絶滅のおそれのある野生生物. 5 昆虫類. 509 pp. ぎょうせい.

【ミズスマシ類の確認状況】　　（陸上昆虫類等調査）

- **ミズスマシ類を 8 河川 8 ダムで 5 種確認**

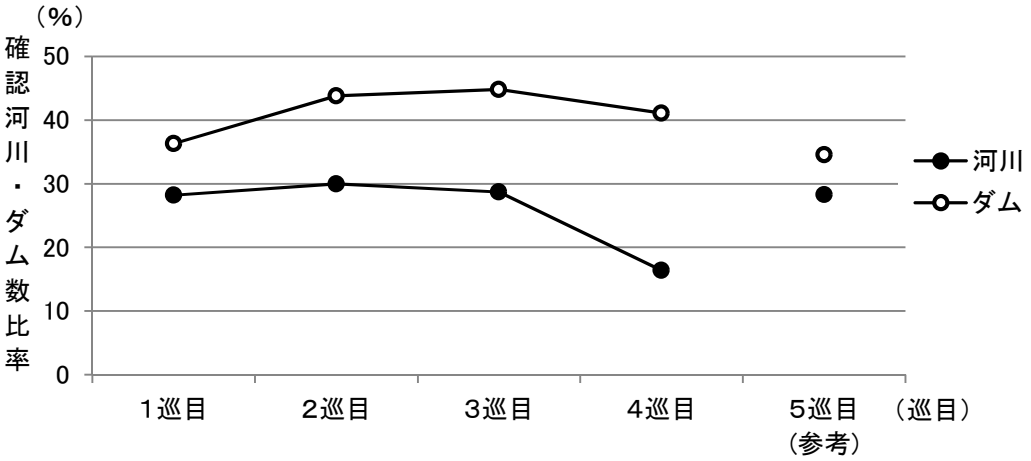
ミズスマシ類は、かつては身近でなじみ深い昆虫でしたが、近年は各地でその減少が危惧されています。

今回とりまとめを行った 19 河川 22 ダム（直轄管理区間）において、8 河川 8 ダムで計 5 種が確認されました。このうち、オオミズスマシは北海道地方の沙流川での、ミヤマミズスマシは北海道地方の沙流川での、コオナガミズスマシは関東地方の鬼怒川、烏川・神流川、品木ダム、中部地方の矢作川での、オナガミズスマシは関東地方の川俣ダム、北陸地方の手取川ダム、九州地方の肝属川での河川水辺の国勢調査では、それぞれ初めての確認となります。

（資料掲載：6-106～6-107 ページ、6-114～6-117 ページ）

１～５巡目調査の確認河川・ダム数の比較

種類	１巡目調査 (78 河川) (80 ダム)	２巡目調査 (120 河川) (80 ダム)	３巡目調査 (122 河川) (96 ダム)	４巡目調査 (122 河川) (112 ダム)	５巡目調査 (93 河川) (81 ダム)
ミズスマシ類	22 河川 〔28.2〕	36 河川 〔30.0〕	35 河川 〔28.7〕	20 河川 〔16.4〕	26 河川 〔28.3〕
	29 ダム 〔36.3〕	35 ダム 〔43.8〕	43 ダム 〔44.8〕	46 ダム 〔41.1〕	28 ダム 〔34.6〕



※ 確認河川(ダム)数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
※ １～４巡目調査のデータは調査実施全河川(ダム)のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
※ () 内は分析対象河川(ダム)数を示す。
※ 〔〕内は確認河川(ダム)数の分析対象河川(ダム)数に対する%を示す。
※ ５巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 4 年度の調査結果を示す。

ミズスマシ類の成虫は、体下面が平坦で、中・後脚は扁平、前脚は長く、複眼は水中と水上を同時にみられるように上下に分かれているなど、水面生活に適応した形態を有する甲虫類です。主に日中を活動時間とする種も多いのですが、昼間は水生植物の葉間や岸辺の石の下などに潜み、目に付きにくい夜行性の種もいます[注 1)]。

日本のミズスマシ科は分類学的に 3 つのグループ（亜科）に分けられ、オオミズスマシ亜科、ミズスマシ亜科の種は、主として小川、水田、池など止水域に近い環境に生息し、オナガミズスマシ亜科の種は主として渓流で、流れがやや緩やかな流水域に生息します。日本全土からは 3 属 18 種(亜種を含む)が知られており、そのうち 12 種が環境省版レッドリストで絶滅のおそれのある種として指定されています[注 1)]。

今回とりまとめを行った 19 河川 22 ダム（直轄管理区間）のうち、北海道地方の天塩川、沙流川、岩尾内ダム、サンルダム、東北地方の津軽ダム、関東地方の渡良瀬川、鬼怒川、烏川・神流川、相俣ダム、品木ダム、川俣ダム、北陸地方の荒川、手取川ダム、中部地方の矢作川、中国地方の島地川ダム、九州地方の肝属川から、合計 5 種のミズスマシ類が確認されました。

河川水辺の国勢調査におけるミズスマシ類の確認状況をみると、１～４巡目調査では、河川、ダムともに１～３巡目までの確認河川・ダム数の割合はほぼ横ばいで、４巡目では減少傾向がみられ、特に河川での減少が顕著でした。一方５巡目調査に入ってからは、河川では増加傾向に、ダムでは減少傾向がみられます。

ミズスマシ類は全国的な減少が多くの種で危惧されていることから、今後も生息状況を正確に把握することが必要であると考えられます。

注 1）出典：中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版.

オオミズスマシ

尻別川（R1. 9. 8）

ミヤマミズスマシ

品木ダム（R4. 5. 1-6. 1）

コオナガミズスマシ

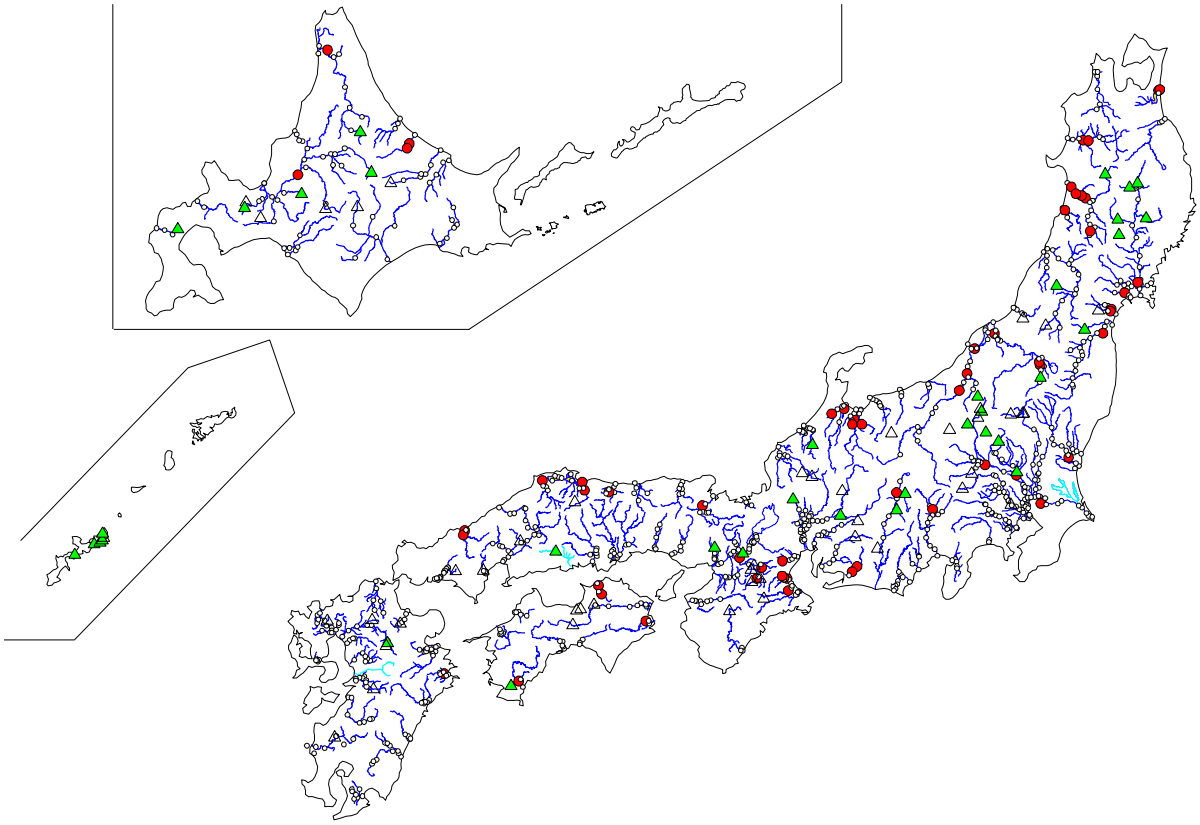
最上川（R3. 9. 28）

エゾコオナガミズスマシ

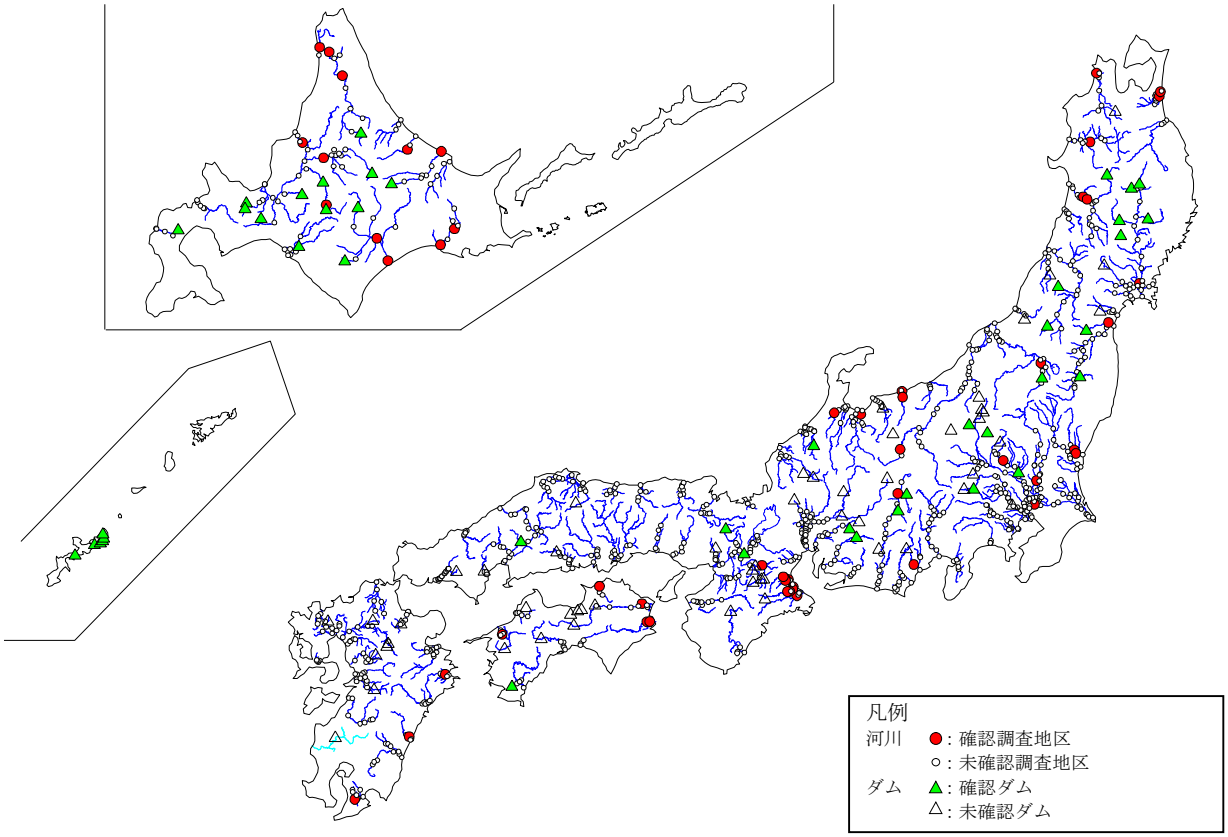
サンルダム（R4. 9. 15-16）

注）オオミズスマシ、コオナガミズスマシの画像は、過年度報告書から転用した。

２巡目調査（平成 8～12 年度）

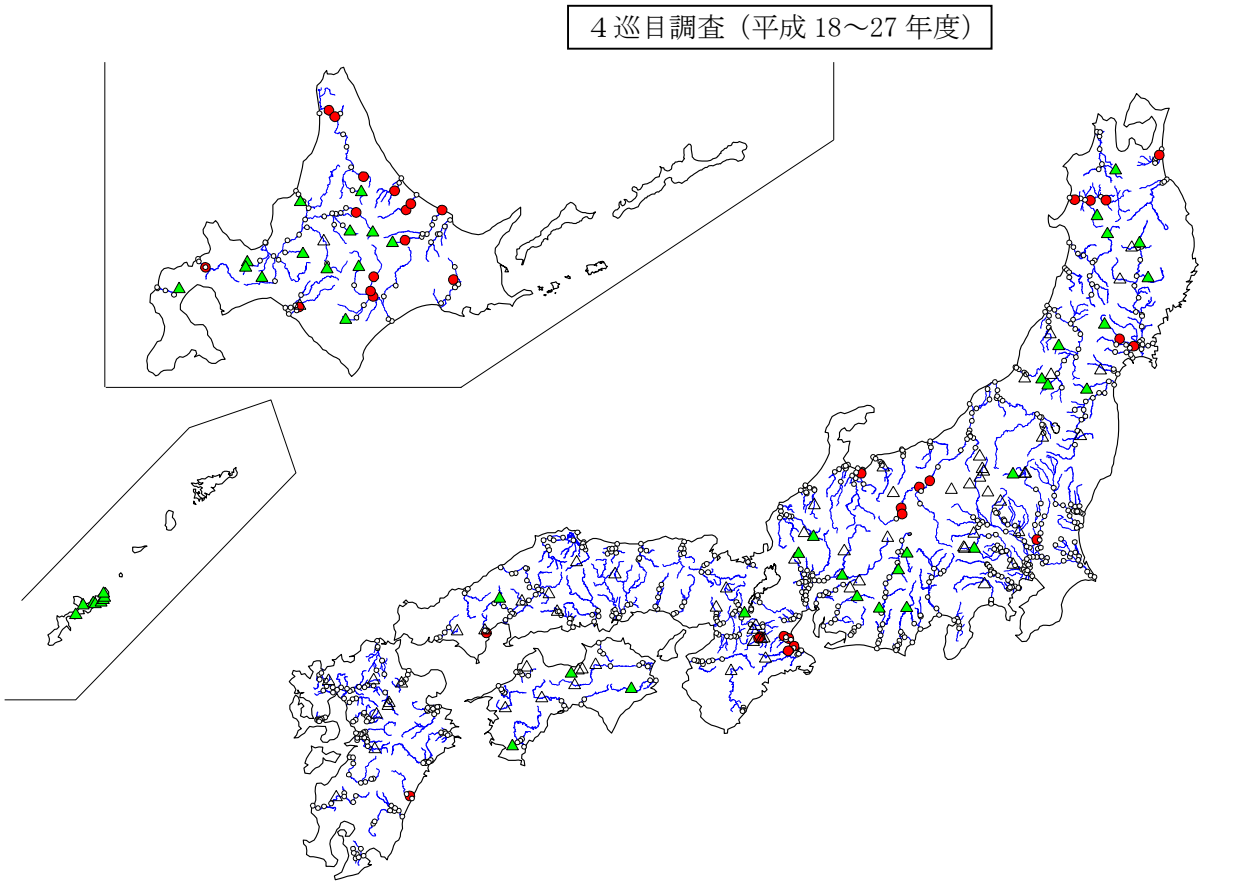


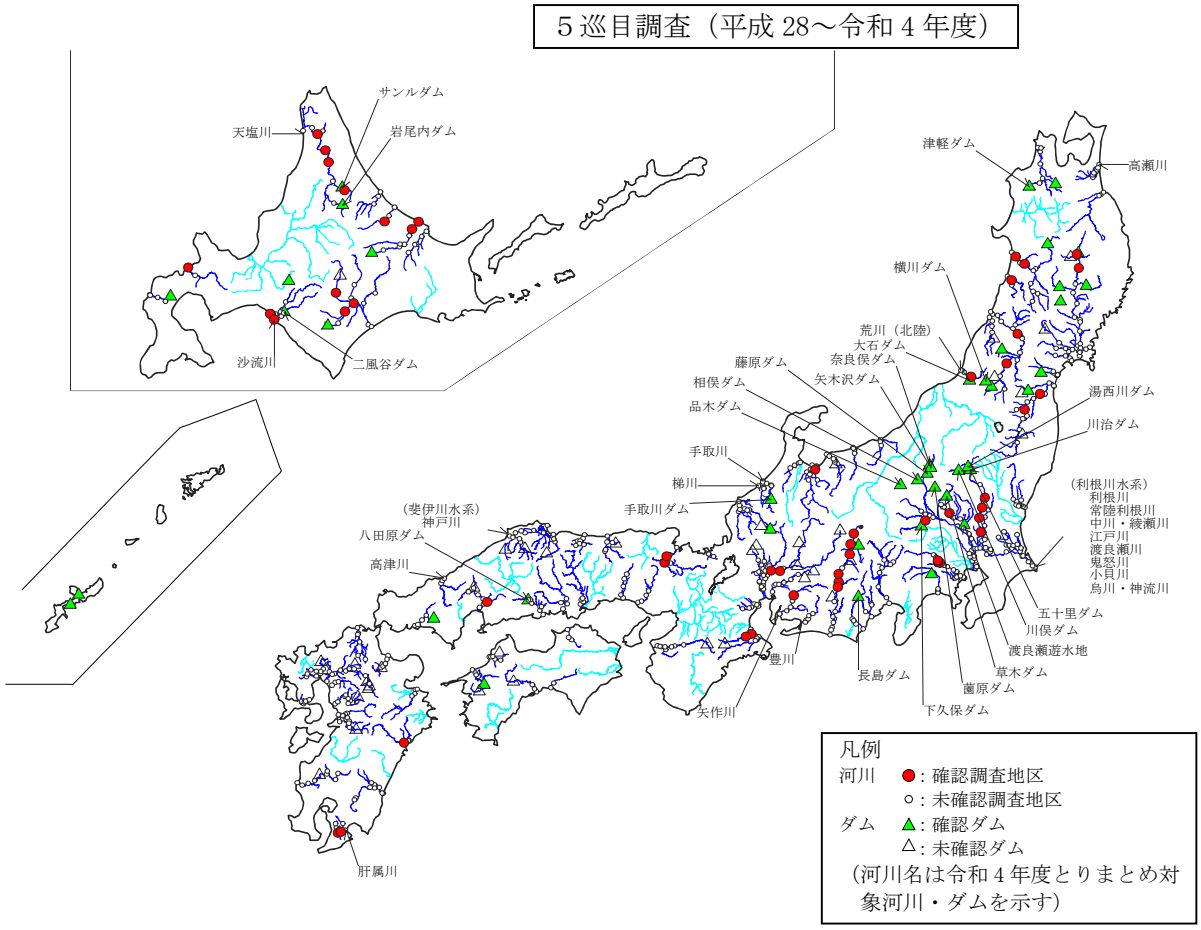
３巡目調査（平成 13～17 年度）



注1)　　は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2)　１巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ミズスマシ類の確認された調査地区（２巡目調査、３巡目調査）





注）５巡目調査は実施途中であり、 は調査未実施の河川を示す。

ミズスマシ類の確認された調査地区（４巡目調査、５巡目調査）

分析対象種の確認状況の経年比較（その-1）

| No. | 地整 | 項目 | 河鮮林に特徴的な種の分布状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 生物多様性の攪乱　国外外来種の分布状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

分析対象種の確認状況の経年比較（その0）

| No. | 地整 | 項目 | 河鮮林に特徴的な種の分布状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 生物多様性の攪乱　国外外来種の分布状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

6．6 分析対象種の確認状況の経年比較

分析対象種の確認状況の経年比較（その1）

| No. | 地整 | 項目 | 生物多様性の攪乱　国外外来種の分布状況 | | |

分析対象種の確認状況の経年比較（その2）

| No. | 地整 | 項目 | 生物多様性の攪乱　国外外来種の分布状況 | | |

分析対象種の確認状況の経年比較（その3）

| No. | 地整 | 項目 | 生物多様性の攪乱　国外外来種の分布状況 | | |

分析対象種の確認状況の経年比較（その4）

| No. | 地整 | 項目 | 生物多様性の攪乱　国外外来種の分布状況 | | |

分析対象種の確認状況の経年比較（その5）

| No. | 地整 | 項目 | 気候変動 | | |

分析対象種の確認状況の経年比較（その6）

| No. | 地整 | 項目 | 気候変動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 注目すべき種の分布状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

分析対象種の確認状況の経年比較（その7）

No.	地整	項目 / 種名 / 河川名 ＼ 巡目調査	注目すべき種の分布状況 コミズズマシ 1	2	3	4	5	ヒメミズズマシ 1	2	3	4	5	ミズズマシ 1	2	3	4	5	ミヤマミズズマシ 1	2	3	4	5	ツマキレオナガミズズマシ 1	2	3	4	5	コオナガミズズマシ 1	2	3	4	5	オナガミズズマシ 1	2	3	4	5	エゾコオナガミズズマシ 1	2	3	4	5	調査実施年度 1	2	3	4	5
1	北海道	天塩川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	●	◎	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	◎	－	H9	H14	H24	R4
2	北海道	渚滑川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H8	H13	H18	H28
3	北海道	湧別川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	●	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6･H7	H12	H17	R1
4	北海道	常呂川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H11	H16	H22	R2
5	北海道	網走川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20	H30
6	北海道	留萌川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	×	－	H5	H11	H16	H26	－
7	北海道	石狩川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6･H7	H12	H16	H27	－
8	北海道	尻別川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	×	－	H9	H15	H21	R1
9	北海道	後志利別川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H19	H29
10	北海道	鵡川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H13	H23	R3
11	北海道	沙流川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	◎	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	×	－	H10	H15	H24	R4
12	北海道	鵡路川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H27	－
13	北海道	十勝川	－	×	×	●	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	●	●	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H10	H15	H25	R3
14	東北	岩木川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H20	H30
15	東北	高瀬川	×	●	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H9	H14	H24	R4
16	東北	馬淵川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H21	R1
17	東北	北上川	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H11	H16	H22	R2
18	54.8	鳴瀬川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H19	H29
19	東北	名取川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20	H30
2540	東北	阿武隈川	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H20	H30
21	東北	米代川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H25	－
22	東北	雄物川	×	×	●	×	×	×	●	●	×	×	×	●	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20	H30
23	東北	子吉川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20	H30
24	東北	最上川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H7	H12	H17	H25	R3
25	東北	赤川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H7	H12	H17	H25	R3
26	関東	久慈川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H8	H15	H20	H30
27	関東	那珂川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H5	H12	H17	H27	－
28	関東	（利根川水系）利根川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H11	H16	H24	R4
29	関東	（利根川水系）常陸利根川	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	H15	H24	R4
30	関東	（利根川水系）中川・綾瀬川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H11	H16	H24	R4
31	関東	（利根川水系）江戸川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5･H6	H10	H17	H24	R4
32	関東	（利根川水系）渡良瀬川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	◎	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7･H8	H13	H24	R4
33	関東	（利根川水系）鬼怒川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	◎	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H10	H15	H24	R4
34	関東	（利根川水系）小貝川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H12	H17	H24	R4
35	関東	（利根川水系）烏川・神流川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H9	H15	H24	R4
36	関東	荒川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H4･H5	H11	H16	H25･H26	－
37	関東	多摩川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	●	－	×	×	×	●	－	×	×	×	×	－	H9	H15	H21	R1
38	関東	鶴見川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H10	H15	H20	H30
39	関東	相模川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7･H8	H13	H18	H28
40	関東	富士川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H20	H30
41	北陸	荒川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H25	R4
42	北陸	阿賀野川	×	●	●	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H26	－
43	北陸	信濃川	×	×	●	●	－	×	×	×	×	－	×	●	×	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H27	－
44	北陸	関川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H19	H29
45	北陸	姫川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28
46	北陸	黒部川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28
47	北陸	常願寺川	×	×	×	●	●	×	×	●	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H11	H16	H22	R2
48	北陸	神通川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20	H30
49	北陸	庄川	●	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H25	－
50	北陸	小矢部川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H19	H29
51	北陸	手取川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H11	H16	H26	R4
52	北陸	梯川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H15	H24	R4
53	中部	狩野川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H26	－
54	中部	安倍川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28
55	中部	大井川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H7	H12	H17	H22	R3
56	中部	菊川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H4･H5	H11	H16	H27	－
57	中部	天竜川	×	×	●	×	●	×	×	×	×	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H10	H15	H20･H21	H30
58	中部	豊川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H11	H16	H25	R4
59	中部	矢作川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H7	H12	H15	H25	R4
60	中部	庄内川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H14	H19	H29
61	中部	（木曽川水系）木曽川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H3･H5	H9	H13	H18･H19	H28
62	中部	（木曽川水系）長良川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H3･H5	H8	H13	H18･H19	H28
63	中部	（木曽川水系）揖斐川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H3･H5	H8	H13	H18･H19	H28
64	中部	鈴鹿川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H9	H14	H19	H29
65	中部	雲出川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H11	H16	H26	－
66	中部	櫛田川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	×	●	×	×	●	●	●	×	×	×	×	×	H7･H8	H12	H17	H22	R2
67	中部	宮川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28
68	近畿	由良川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20	H30
69	近畿	（淀川水系）瀬田川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H26	－
70	近畿	（淀川水系）草津川	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	H7	H12	H17	－	－
71	近畿	（淀川水系）猪名川	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	H9	H13･H14	H26	－
72	近畿	（淀川水系）木津川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	●	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	H5	H12	H17	H26	－
73	近畿	（淀川水系）野洲川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H26	－
74	近畿	（淀川水系）淀川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H26	－
75	近畿	大和川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H11	H16	H25	－
76	近畿	円山川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H26	－
77	近畿	加古川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28
78	近畿	揖保川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H13	H18	H28
79	近畿	紀の川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28
80	近畿	（新宮川水系）熊野川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H5･H6	H11	H16	H26	－
81	近畿	九頭竜川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H20	H30
82	近畿	北川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28

凡例　●●：確認、×：未確認、－：１～４巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、５巡目調査は調査未実施
（薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である。）

注1)　１～４巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2)　調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3)　１～５巡目調査の区分については、原則として１巡目調査：平成２・３～７年度、２巡目調査：平成８～12年度、３巡目調査：平成13～17年度、４巡目調査：平成18年度～平成27年度、５巡目調査：平成28年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その8）

No.	地整	項目 / 種名	注目すべき種の分布状況																																					調査実施年度				
			コミズスマシ					ヒメミズスマシ					ミズスマシ					ミヤマミズスマシ					ツマキレオナガミズスマシ					コオナガミズスマシ					オナガミズスマシ					エゾコオナガミズスマシ									
		河川名 ＼ 巡目調査	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
83	中国	千代川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5･H6	H10	H15･H16	H19	H29
84	中国	天神川	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13･H14	H18	H28
85	中国	日野川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H20	H30
86	中国	（斐伊川水系）斐伊川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H4･H5	H9	H14	H19	H29
87	**中国**	**（斐伊川水系）神戸川**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**×**	**－**	**－**	**－**	**－**	**R4**
88	中国	江の川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H24	－
89	**中国**	**高津川**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**●**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**●**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**H7**	**H12**	**H17**	**H23**	**R4**
90	中国	吉井川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H25	－
91	中国	旭川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H6	H10	H15	H23	R3
92	中国	高梁川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H7	H12	H17	H22	R2
93	中国	芦田川	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	H15	H22	R2
94	中国	太田川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H11	H15	H19	H29
95	中国	小瀬川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H3･H4	H8	H13	H27	－
96	中国	佐波川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H4･H5	H9	H14	H23	R3
97	四国	吉野川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H26	－
98	四国	那賀川	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	●	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H25	－
99	四国	土器川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H20	H30
100	四国	重信川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H23	R3
101	四国	肱川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H18	H28
102	四国	物部川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H20	H30
103	四国	仁淀川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H20	H30
104	四国	（渡川水系）四万十川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	●	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H12	H17	H27	－
105	九州	遠賀川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5･H6	H11	H16	H24	R3
106	九州	山国川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20	H30
107	九州	筑後川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H12･H13	H17	H22	R2
108	九州	矢部川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H4･H5	H11	H15･H16	H20	R1
109	九州	松浦川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	●	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H12･H13	H17	H25	－
110	九州	六角川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H4･H5	H9	H14	H24	R3
111	九州	嘉瀬川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H4･H5	H8	H13	H19	H30
112	九州	本明川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H20･H21	H28
113	九州	菊池川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H14	H20	R1
114	九州	白川	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	H13	H18	H29
115	九州	緑川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H5	H10	H15	H19	H29
116	九州	球磨川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H12	H17	H27	－
117	九州	大分川	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H6	H11	H16	H25	－
118	九州	大野川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H8	H13	H22	R2
119	九州	番匠川	●	×	×	×	－	×	●	●	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7	H11	H16	H26	－
120	九州	五ヶ瀬川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	●	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H9	H14	H20	H30
121	九州	小丸川	－	×	●	×	－	－	×	×	●	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	×	×	×	－	－	H9	H15	H25	－
122	九州	大淀川	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	H7･H8	H14	H22	R1
123	九州	川内川	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	●	×	－	×	×	×	×	－	×	×	×	×	－	×	×	H6	H11	－	H19	H29
124	**九州**	**肝属川**	**●**	**×**	**●**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**●**	**×**	**×**	**×**	**◎**	**×**	**×**	**×**	**×**	**◎**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**	**H5**	**H10**	**H16**	**H24**	**R4**
全実施河川		確認河川数	4	3	6	3	2	0	5	3	2	0	8	8	8	2	0	0	2	5	7	4	0	2	1	0	1	6	12	4	5	17	3	2	2	1	3	0	0	1	2	1					
		未確認河川数	74	117	116	119	90	78	115	119	120	92	70	112	114	120	92	78	118	117	115	88	78	118	121	122	91	72	108	118	117	75	75	118	120	121	89	78	120	121	120	91					
		確認率（%）	5.1	2.5	4.9	2.5	2.2	0.0	4.2	2.5	1.6	0.0	10.3	6.7	6.6	1.6	0.0	0.0	1.7	4.1	5.7	4.3	0.0	1.7	0.8	0.0	1.1	7.7	10.0	3.3	4.1	18.5	3.8	1.7	1.6	0.8	3.3	0.0	0.0	0.8	1.6	1.1					

凡例　●●：確認、×：未確認、－：１～４巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、５巡目調査は調査未実施
（薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である。）

注1)　１～４巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2)　調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3)　１～５巡目調査の区分については、原則として１巡目調査：平成２・３～７年度、２巡目調査：平成８～12年度、３巡目調査：平成13～17年度、４巡目調査：平成18年度～平成27年度、５巡目調査：平成28年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。